

平成28年度 文部科学省補助事業

学校・家庭・地域連携協力推進事業

実践事例集

地域全体で学びあい支えあう仕組みづくりの推進

- ◆ 学校支援地域本部（地域未来塾）
- ◆ 放課後子ども教室
- ◆ 家庭教育支援活動
- ◆ 土曜日の教育支援活動（体制構築型・「学ぶ力」学習支援型）



学校支援地域本部



放課後子ども教室



家庭教育支援活動



土曜日の教育支援活動

滋賀県教育委員会

－はじめに－

近年、都市化や過疎化の進行、家族形態の変容、価値観やライフスタイルの多様化を背景とした地域社会等のつながりや支えあいの希薄化などにより、地域や家庭における教育力が低下していることが、各所より指摘されています。

また、子どもたちを取り巻く環境が複雑に変化するなか、社会全体で子どもの育ちを支える持続可能な地域の教育基盤の形成を図るため、地域住民等がそれぞれの役割と責任を自覚し当事者意識をもって教育を担う仕組みをつくり、社会総掛かりでの教育の実現を図ることが求められています。

このような中、学校教育の土台となる家庭、地域が担うべき役割は何かを意識しつつ、幅広い地域住民の参画により子どもたちの成長を支える「地域と学校の連携協働活動」の推進や、地域で家庭を支える「家庭教育支援チーム」の普及促進など、学校、家庭、地域の教育力の充実に向けた取組の県全体での展開を目指してまいりました。

今年度は、従来の「学校支援地域本部」、「放課後子ども教室」、「家庭教育支援活動」、「土曜日の教育支援体制等構築事業」、「学ぶ力を育てる土曜学習支援事業」の拡充に加え、地域人材を生かした放課後等の学習の場づくりとして、「地域未来塾」の取組を新たに始めたところです。

本実践事例集は、地域全体で学びあい支えあう仕組みづくりの推進に資するものとして、各市町の工夫や努力によって取り組まれたこと（今年度は、掲載希望をされた市町独自の取組も含む）をまとめたものです。県内の実践を参考に、事業の更なる拡充に取り組んでいただければと思います。また、今後、地域と学校の連携協働活動の推進をお考えの市町におかれましては、本実践事例集を参考にお進めいただければ幸いです。

最後になりましたが、日頃より地域において本事業をはじめ、「社会全体で子どもの育ちを支える環境づくり」に献身的なお取組をいただいている関係の皆様にご心より感謝申し上げますとともに、今後も引き続き御支援をお願いいたします。

また、本事例集の編集に際し、貴重な情報の提供や原稿をお寄せいただきました関係の皆様にご厚く御礼申し上げます。

平成 29 年（2017 年） 3 月

滋賀県教育委員会事務局

生涯学習課長 大西 良子

〔目 次〕

◆ 事業の概要	1
---------	---

I 推進協議会の取組	8
------------	---

（Ⅰ）推進協議会の概要	8
-------------	---

（Ⅱ）各研修会の概要	10
------------	----

◇第1回合同研修会(四事業)	10
◇第2回合同研修会(連携・協働体制推進フォーラム)	10
◇第3回合同研修会(四事業)	12
◇第4回合同研修会(連携・協働体制推進フォーラム)	13
◇第5回合同研修会(四事業)	14

II 学校支援地域本部の実践事例	15
------------------	----

◆平成28年度学校支援地域本部一覧	15
◇彦根市	17
◇近江八幡市	42
◇草津市	68
◇栗東市	83
◇湖南市	85
◇東近江市	99
◇米原市	122
◇竜王町	128
◇多賀町	130
□大津市	132
□愛荘町	142

※大津市、愛荘町は、市町独自の取組

III 放課後子ども教室の実践事例	144
-------------------	-----

◆平成28年度放課後子ども教室一覧	144
◇栗東市	145
◇甲賀市	153
◇野洲市	155
◇湖南市	163
◇米原市	168
◆放課後児童クラブの現状調査	173

IV 家庭教育支援活動の実践事例 175

◆平成28年度家庭教育支援活動一覧 175
◇近江八幡市 176
◇草津市 178
◇甲賀市 180
◇湖南市 182
◇高島市 184
◇日野町 186
◇竜王町 188

V 土曜日の教育支援活動の実践事例 190

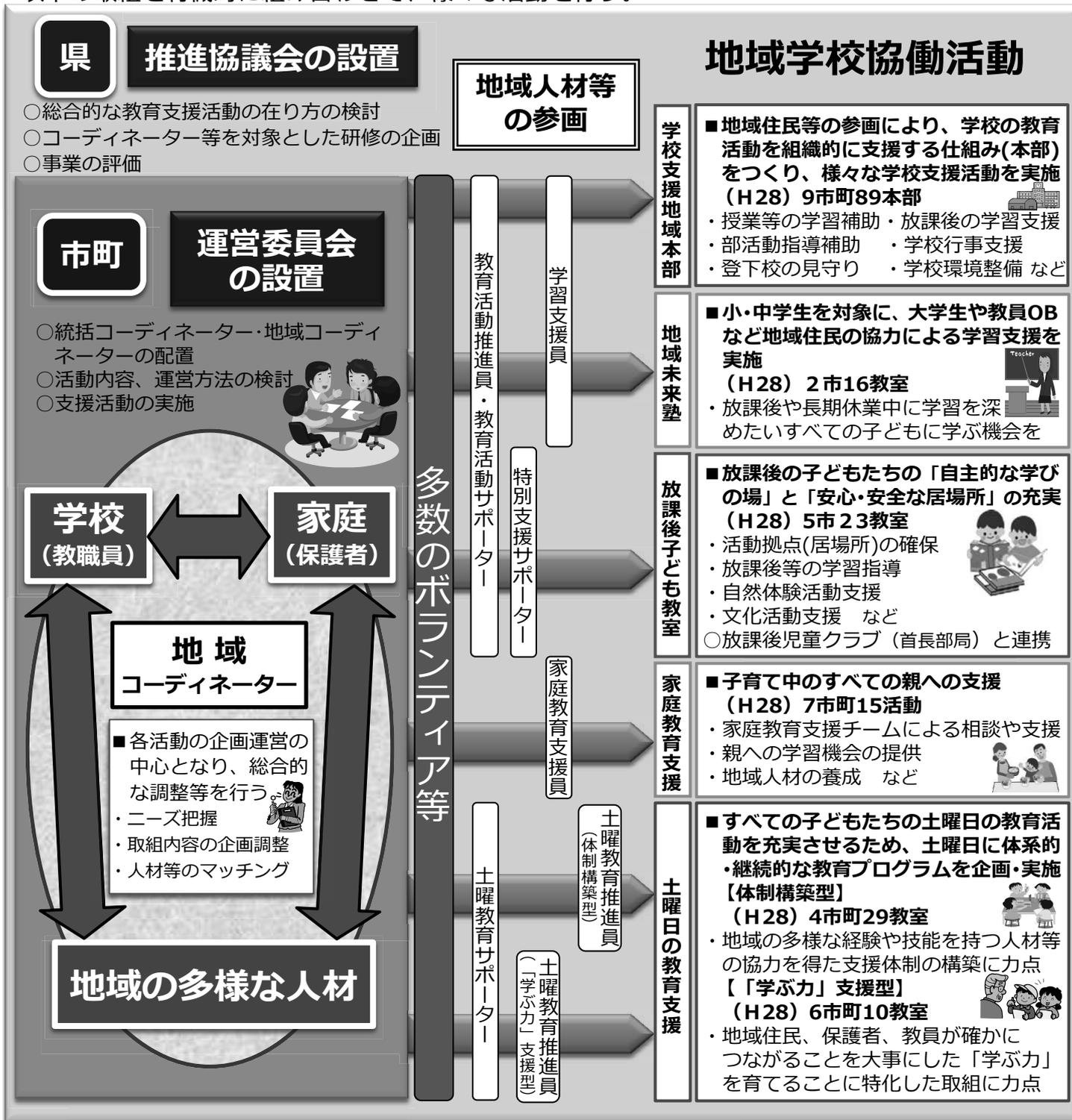
◆平成28年度土曜日の教育支援活動一覧 190
◇彦根市（「学ぶ力」学習支援型） 191
◇甲賀市（体制構築型） 193
◇野洲市（「学ぶ力」学習支援型） 204
◇湖南市（体制構築型・「学ぶ力」学習支援型） 206
◇東近江市（体制構築型・「学ぶ力」学習支援型） 216
◇竜王町（体制構築型・「学ぶ力」学習支援型） 226
◇多賀町（「学ぶ力」学習支援型） 235

滋賀県「学校・家庭・地域連携協力推進事業」

未来を担う子どもたちを健やかに育むためには、学校、家庭および地域住民等がそれぞれの役割と責任を自覚しつつ、地域全体で子どもたちを育む体制づくりを目指す必要がある。

そのため、幅広い地域住民等の参画により、地域と学校が連携・協働して、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域を創生する活動（以下「地域学校協働活動」という。）を推進する。

具体的には、学校・家庭・地域が連携・協働し、地域住民等の参画による地域の実情に応じた以下の取組を有機的に組み合わせて、様々な活動を行う。

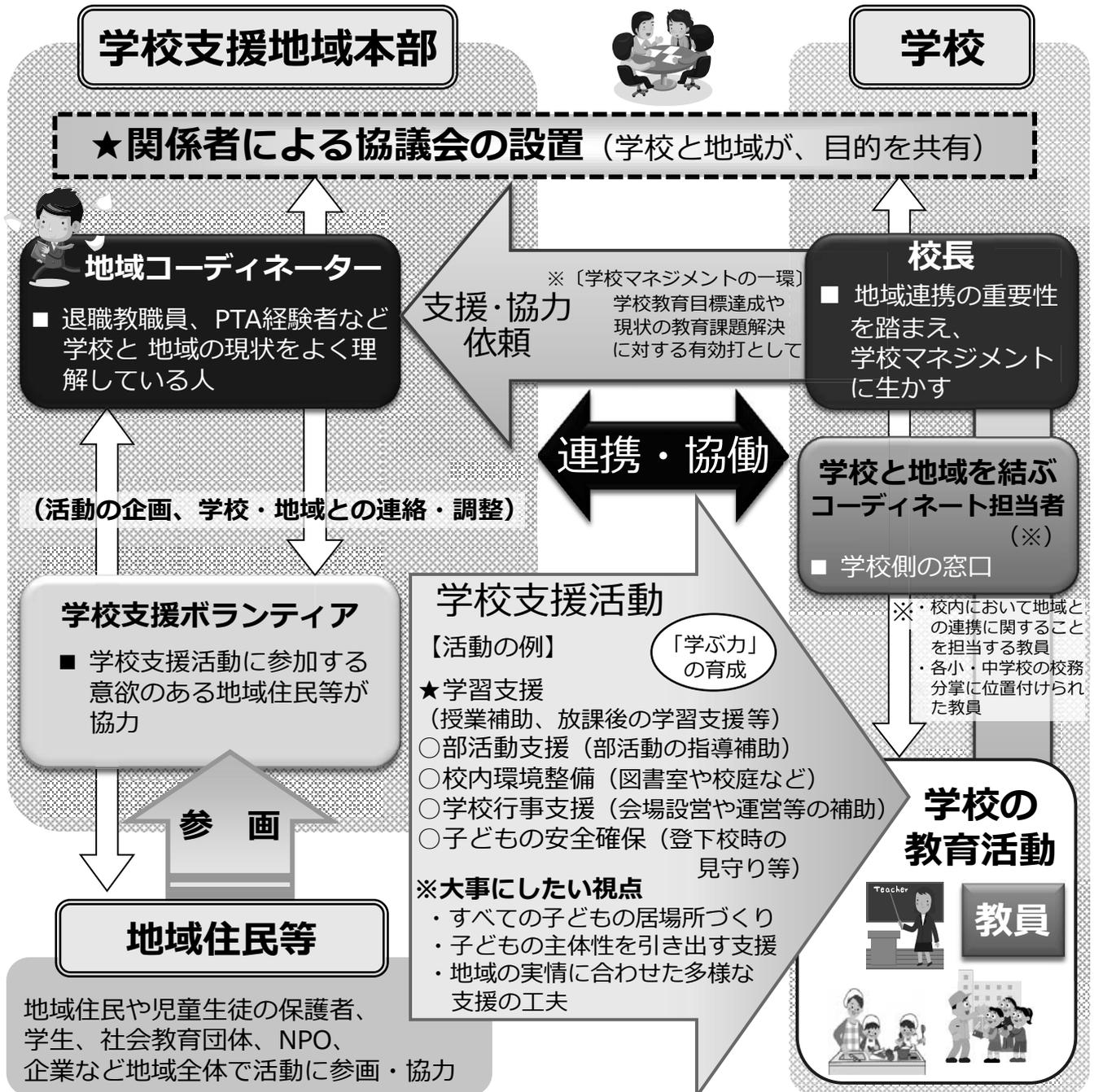


学校支援地域本部

【補助率】 国 1/3
都道府県 1/3
市町村 1/3

地域住民等の参画により、学校の教育活動を支援する仕組み（本部）づくりを推進

<H28年度実施状況> 9(10)市町 89(97)本部【小学校83(91)校 中学校26(30)校 幼稚園等21園〔全公立小・中学校の約34(38)%】
（ ）内は大津市学校・地域コーディネート本部事業（国庫補助事業）を加えた数字
【市町独自事業】大津市学校協力者会議（小学校29校 中学校14校） 草津市地域協働合校（中学校 6校）
野洲市学校応援団（小学校6校 中学校3校） 愛荘町学校支援地域本部（小学校4校 中学校 2校）
合計 小学校130校 中学校 55校（全公立小・中学校の約58%）



- ①地域社会 つながり・絆を深め、地域の教育力の向上につなげる。子どもの教育を地域全体で支え、役割と責任を分担。地域の教育基盤の形成。
- ②地域住民 一人ひとりの生涯学習・自己実現に資する。学校が、地域住民にとっても学びの場に。
- ③子ども 「学ぶ力」を育て「夢と生きる力」を育む体験活動等の充実。多様な人格・人柄にふれる機会の創出、見守られている安心感。

地域未来塾 – 地域の力による放課後等学習教室 –

【補助率】	国	1/3
	都道府県	1/3
	市町村	1/3

現状と課題

- ・児童・生徒が、家庭において、学習する時間、特に予習・復習を行う時間が短い。
- ・学校において、放課後に学習支援を行う時間が短い。
【平成27年度 全国学力・学習状況調査結果より】
- ・家庭で保護者に学習を見てもらう機会が減っている。
【平成25年度 全国PTA意識調査結果より】

『学ぶ力向上 滋賀プラン』 (H27.3策定)

一人ひとりの「学ぶ力」を高めるため、生活の中で「学ぶ力」をつけること、子どもが繰り返し努力したことを認め、能力や可能性を引き出すこと、放課後や土曜など家庭での時間の使い方を考えることを重視し、子どもの力を県全体で伸ばしていく。

国の動向

- ・予算の増額
H27 207百万円
→ H28 269百万円
- ・平成31年度までに5,000中学校区で実施を目標
H27 2,000中学校区
→ H28 3,500中学校区
- ・実施要件（学校支援地域本部設置）を外す

地域未来塾



小・中学生を対象に、大学生や教員OBなど地域住民の協力による学習支援を実施

- ◆幅広い地域の協力を得て、放課後や長期休業中に学習を深めたいすべての子どもに学ぶ機会を
- ◆経済的な理由や家庭の事情により、家庭での学習が困難であったり、学習習慣が十分に身に付いていない小・中学生への学習支援の場であり、多様な視点からの支援が可能

教室のモデル

【内容】

- ① 自学自習の支援など補習的学習
- ② 講義・授業など、教科に即した発展的学習

【対象】

学年や参加希望の有無などは、実施主体の実態に応じて柔軟に設定

【場所】

実施主体の実態に応じて柔軟に設定（学校の余裕教室や地域の公民館など）

【回数等】

回数、定期・不定期不問

○県内の取組事例 H27
〈中学校で実施・放課後の学習支援〉

- ・対象は、中1～3年生の希望者
- ・年間40日（毎週水曜日、1時間程度）
- ・国語、英語、数学の基礎学力を培う補充学習
- ・指導員は、教員OBや大学生

子どもたちの「学ぶ力」
を育て、
家庭における学習習慣の
定着を図る。

学校との連携

- ・活動スペースとなる余裕教室の提供
 - ・学習プリントの提供
 - ・児童生徒の情報交換
 - ・参加を促す広報チラシ等の配布
 - ・ボランティアへの助言・サポート など
- ※可能な限りの連携とする

■ 予算等

国庫補助事業を活用し、国・県・市町の1/3負担とする。

■ 平成28年度実施予定 2市16教室

彦根市（11 小⑤中⑥）
東近江市（5 小③中②）

学習が遅れがちな子どもに対して基礎学力の定着を図る。

学習機会の提供によって、
貧困の負の連鎖を断ち切る。

貧困対策

貧困の中にある子どもの安全を確認し、その中で学習も支援する。

- 生活困窮世帯の子どもに対する学習支援事業
市が国の補助事業を受け10市で実施
対象は生活困窮世帯等限定あり
- 地域で遊べる・学べる淡海子ども食堂
滋賀の縁創造実践センターによる実施
団体への助成事業 4市6か所で実施

福祉部局からのアプローチ

放課後子ども教室

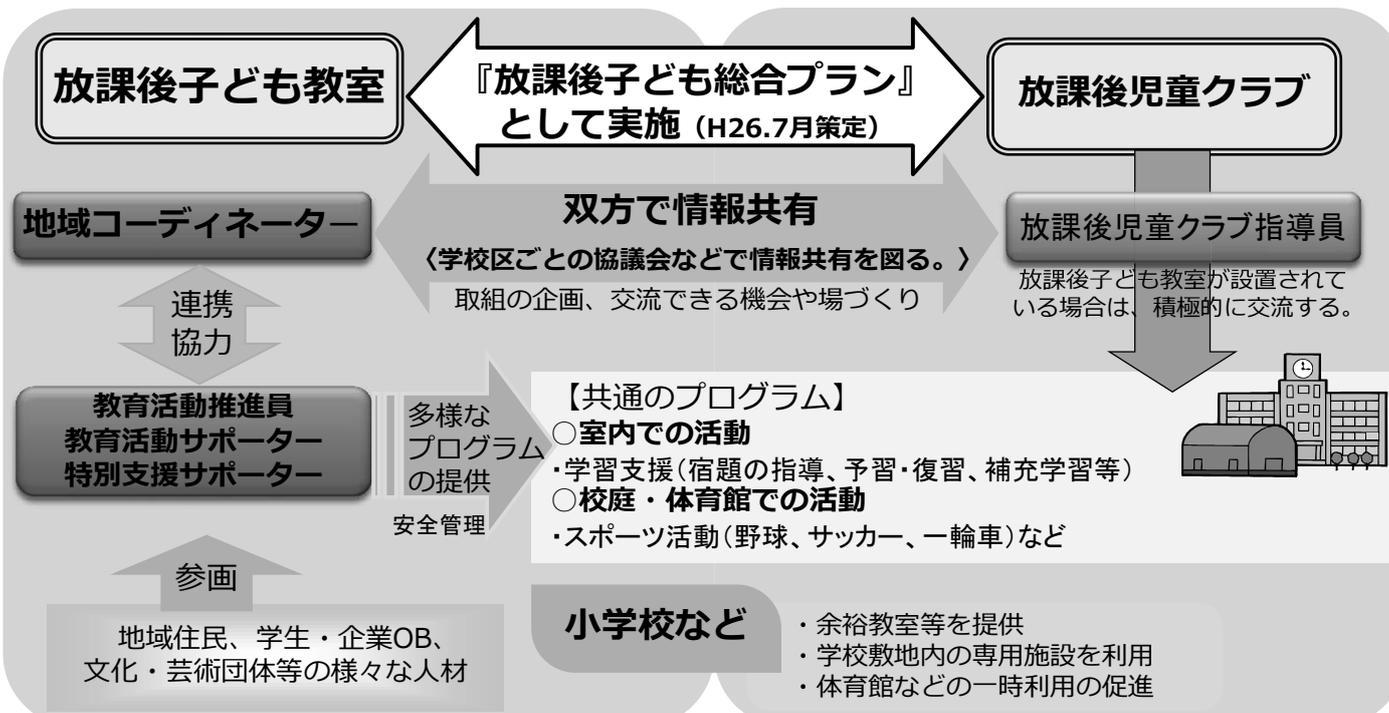
～放課後子ども総合プランの推進～

国	1/3
都道府県	1/3
市町	1/3

【補助率】

趣旨

「放課後子ども教室」は、放課後や週末等に小学校の余裕教室等を活用して、安全・安心な子どもの活動拠点(居場所)を設け、地域住民等の参画を得て、学習やスポーツ・文化芸術活動、地域住民との交流活動等の機会を提供する。



県の取組

放課後子ども総合プラン指導者等研修会（学校・家庭・地域連携協力推進事業研修会）
コーディネーター、運営委員会委員、教育活動推進員、教育活動サポーター、ボランティア、専任指導員、関係職員等が一堂に会し、情報交換、情報共有、資質の向上に努める。

市町の取組

放課後子ども総合プラン運営委員会
・事業計画の策定・安全管理方策・広報活動方策
・ボランティア等の人材確保・活動プログラムの企画・事業実施後の検証・評価

放課後子ども教室	連携	放課後児童クラブ（学童保育）
○すべての子ども	対象	○共働き家庭など留守家庭の小学校に就学している児童
○学び・体験・遊び・交流の場 地域の大人が、スポーツや学習、文化活動、地域住民や異年齢の子どもとの交流活動を行う。	内容	○生活の場 専任指導員が、保護者に代わり、健康管理、安全に対する配慮、活動状況の把握、児童の遊びの指導、活動の意欲や態度の形成、家庭との連絡などを行う。
○遊び、学習（宿題）、スポーツ、文化活動など 教育活動推進員：学習支援・体験・交流活動等のプログラムを中心的に実施する。 教育活動サポーター：様々なプログラムの実施のサポートや子どもたちの安全を管理する。	主な活動	○遊び、学習（宿題） 専任指導員 遊びや生活をととして、子どもたちの健全育成を図り、安全確保に努める。
○小学校の余裕教室、体育館、グラウンド、地域の公民館など	スタッフ	○小学校の余裕教室、小学校敷地内やその付近の専用施設など
○平日の放課後・週末（教室により異なる）	実施場所	○小学校の余裕教室、小学校敷地内やその付近の専用施設など
○無料（教室により保険、材料費などの徴収あり）	開催日	○平日の放課後、土曜（クラブにより異なる）
○5市23教室（平成28年度）	利用者負担	○月額5,000円～10000円程度（施設により異なる）
	県内数	○19市町288クラブ14,624人（平成28年5月1日現在）

家庭教育支援活動

背景

【補助率】 国 1/3 県 1/3 市町 1/3

○家庭の教育力の低下

都市化，核家族化および地域における地縁的なつながりの希薄化等により，家庭の教育力の低下が指摘されるなど，社会全体での家庭教育支援を行う必要性の高まり。また，育児に自信が持てない保護者が増加。

○教育基本法の改正（平成18年12月「家庭教育」に関する独立規定の新設）

第10条 父母その他の保護者は，子の教育について第一義的責任を有するものであって，生活のために必要な習慣を身に付けさせるとともに，自立心を育成し，心身の調和のとれた発達を図るよう努めものとする。

2 国及び地方公共団体は，家庭教育の自主性を尊重しつつ，保護者に対する学習の機会及び情報の提供その他の家庭教育を支援するために必要な施策を講ずるよう努めなければならない。

県の事業

- ・総合的な在り方の検討
- ・事業関係者の資質向上や情報交換等の研修会の実施

県推進協議会の開催

家庭教育に関する研修会の実施

市町の事業（市町運営委員会等）

7市町15活動
（平成28年度）



各地域における子育て経験者など多様な人材の参画

持続可能な支援のための地域人材の養成

- ◆子育てサポーター・リーダー等の養成

【養成講座例】
家庭教育の重要性と支援者の果たす役割、関係機関・地域との連携方法 等

平成28年度 4市町で実施

家庭教育支援チームの組織化

- ◆家庭教育支援チームによる相談対応や保護者支援

【チーム構成員例】
子育てサポーターリーダー、民生委員、児童委員、元教員、保健師、NPO関係者 等

平成28年度 4市町で実施

学習機会の効果的な提供

- ◆保護者への学習機会や親子参加行事の企画、提供

【講座例】
小学校入学時講座、思春期理解講座、父親講座、企業出前講座 等

平成28年度 7市町で実施



家庭教育や子育てに無関心、孤立化している親

子育て中のすべての親への支援

仕事などで学習会に参加できない親

身近な地域において、家庭教育に関する学習や相談ができる体制を整え、地域全体で家庭教育を支援する。

【補助率】

国	1/3
都道府県	1/3
市町	1/3

土曜日の教育支援体制等構築事業

すべての子どもたちの土曜日の教育活動を充実するため、地域の多様な経験や技能を持つ人材・企業等の協力を得て、体系的・継続的な教育プログラムを企画・実施する学校・市町等の取組を支援することにより、教育支援に取り組む体制を構築し、地域の活性化を図る。

地域の多様な経験や技能を持つ人材をコーディネートし、土曜日ならではの生きたプログラムを実現

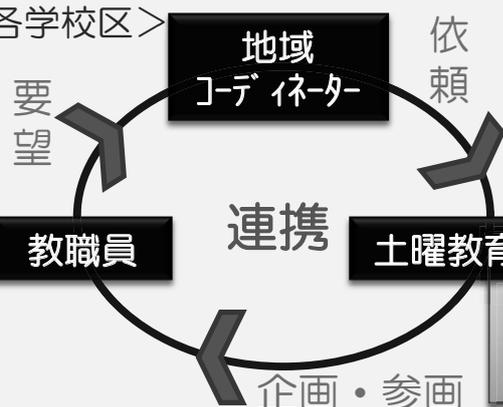


土曜日の教育支援体制の仕組み

市町

- 運営委員会を設置（学校・経済団体・商工会・PTA・社会教育団体等で構成）
- 土曜日の教育活動全体の方針を検討

〈各学校区〉



- ・体系的・継続的な教育プログラムの企画
- ・内容に応じた多様な支援人材の発掘・依頼
- ・具体的なプログラムの検討 等

：実際に支援を行う講師の例

企業人	大学・研究者	在外経験者	外国人	元スポーツ選手	農林・漁業者
-----	--------	-------	-----	---------	--------

教育支援活動の実施

社会を生き抜く力を培う土曜日ならではのプログラムの実践

～土曜学習例～

- 体験活動 … 自然体験、書道、茶道、囲碁、工作、料理、和太鼓、楽器演奏 等
- 学力補充 … 作文教室、科学実験教室、基礎学力の向上、中学生の学力向上、在外経験者による外国語教室 等

平成28年度 4市町29教室

土曜日の教育支援体制等の構築により
すべての子どもたちの教育活動の充実を図る

学ぶ力を育てる土曜学習支援事業

【補助率】

国	1/3
都道府県	1/3
市町	1/3

「地域の豊かな社会資源を活用した土曜日の教育支援体制等構築事業」活用

事業の背景

- 学校週5日制が完全実施され10年あまりが経過したが、土曜日に様々な経験を積んでいる子どもたちが存在する一方で、必ずしも有意義に過ごせていない子どもたちも少なからず存在するとの指摘がある。
(文部科学省「土曜日授業に関する検討チーム」最終まとめH25.9.30)
- 滋賀県の6年生児童の5人に1人は「土曜日に家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしったりして過ごしている」という状況がある。
(文部科学省「H25全国学力・学習状況調査」[児童質問用紙] 回答集計結果)

事業の趣旨

- 小学生等を対象として、地域の豊かな社会資源を活用した体系的・継続的な学習プログラムを実施することにより、「学ぶ力」を育むことをめざす。
→ 「学ぶ力」：子どもたちが自分の将来を真剣に考え、仲間とともに力を合わせ、自ら進んで学ぼうとする力
- 地域の子どもを中心に据え、地域（地域人材）・家庭（保護者）・学校（教員）が確かにつながり、それぞれの立場から教育の営みに関わることにより、子どもが安心して学べる場づくりを図る。

県内の現状・今後の方向性と重視したい視点

- 今後は、『学ぶ力向上 滋賀プラン』（H27.3策定）の視点を加えたモデルを示し、さらに事業を展開する。
〔視点①〕・一人ひとりの「学ぶ力」を高めるため、生活の中で「学ぶ力」をつけること、子どもが繰り返し努力したことを認め、能力や可能性を引き出すこと、放課後や土曜など家庭での時間の使い方を考えることを重視し、子どもの力を県全体で伸ばしていく。
- 〔視点②〕・学習への意欲づけや学習習慣の定着を図る観点から、子どもの学習状況を理解する教員等の参画を得ながら、子どもの学びが学校の授業に生かされ、授業につながる学習プログラムを構築していく。



学ぶ力を育てる土曜学習支援体制の仕組み

土曜日における学習活動のねらい

- 「学ぶ力」の向上
→ 学校や家庭では体験できない土曜日ならではの体験活動を創出
→ 子どもたちの主体的な学びを引き出し、技能や教養を高めることができるプログラムをとおして、「わかって」「できて」「楽しい」という子どもたちの喜びや満足感を積み上げ、子どもたちに自信をもたせる。
- 子どもたちが安心して学べる場づくり
→ 土曜日を活用して、保護者や地域の人も参加しやすいしくみを整え、子どもがより多くの大人に認められる機会を創出
→ 郷土への愛着心や自尊感情を育み、自ら学び、自ら考え、自ら行動できる、社会の一員としての「人」を育てる。

3モデルを提示（新規）

モデルⅠ 学習意欲や学習習慣形成につながるモデル ◆ 学力向上を図る 補充的・発展的 学習 等	モデルⅡ 地域の歴史や文化を学ぶモデル ◆ 地域の伝統行事や祭りなどについて学ぶ	モデルⅢ 体験活動を中心とした学習モデル ◆ 書道や絵画、音楽活動、親子で楽しむ朗読会等の体験学習
--	---	--

※複数のモデルを組み合わせることも可
※上記モデルにより取り組む事例を研修会等で紹介することで、県域での普及・啓発を図る。

6市町10教室で実施

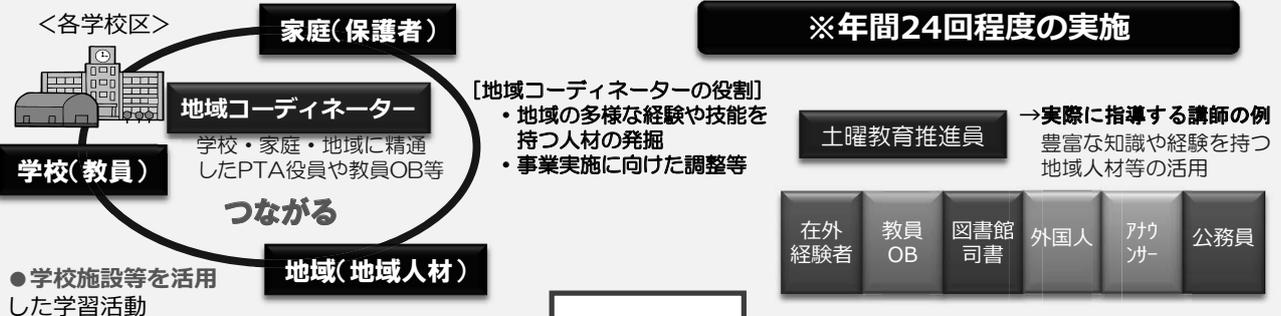
県

- 推進協議会を設置 → 土曜日における子どもたちの学習活動のあり方検討等
- 研修会の実施 → コーディネーターや推進員等の資質向上研修・県域での積極的な啓発活動の展開
- 市町の取組を支援 → 各市町や地域の実情に応じて「学ぶ力」を育むための視点や学習プログラムの編成に関する助言

市町

- 運営委員会を設置
・土曜日の教育活動全体の方針を検討

地域の資源や強みを生かし、モデル事業として実施



社会全体で「子どもの育ち」を支える地域づくりを推進し、10年・20年後の地域を担う「人」を「地域の力」で育てる。

◆ 推進協議会委員（敬称略）

No.	氏名	所属	No.	氏名	所属
1	池本 忠好	湖南省立日枝中学校 校長	5	谷口 久美子	NPO法人CASN 理事長
2	佐々木 保孝	天理大学 准教授	6	苗村 明夫	野洲市放課後子ども教室 しのっこジュニア オーケストラ代表
3	高木 和久	びわこ学院大学 准教授 文部科学省コミュニティ・スクール推進員	7	中村 俊英	滋賀県教育委員会事務局 幼小中教育課 参事
4	武井 哲郎	立命館大学 准教授			

(I) 推進協議会の概要

◆ 第1回推進協議会

1 協議会概要

期 日：平成28年5月24日（火） 会 場：県庁新館4階教育委員会室
出席者：高木座長、武井副座長、池本委員、佐々木委員、谷口委員、苗村委員、中村委員
事務局：県生涯学習課（7名）子ども・青少年局（1名）

- (1) 開 会 ・ 県生涯学習課長 挨拶
- (2) 座長、副座長選出
- (3) 協 議
 - ① 県内の教育支援活動の推進について
 - ② 地域と学校の連携・協働のあり方について



2 協議要旨

○県内の教育支援活動の推進について

- ・ 地域未来塾に関わって、ある市町では放課後学習塾に力を入れて取り組んでいる。このような既存の活動との関係をどう捉えるのか。他市町の活動では大学生が指導者になっていたりする。市町でコーディネーターを含め人材をプールし、コントロールし派遣できればきめ細やかな運用も可能ではないだろうか。
- ・ 小学校と中学校の違いは大きく、滋賀県は特に小学生は集団下校である。放課後子どもを学校に残しての学習補充は難しい。中学校も長期休業中の学習補充については取り組めるが、日常は部活との兼ね合いがあり難しい。勤務校では外国籍の子ども1割弱、日本語指導体制が大きな課題。学校で放課後指導や地域の国際協会のボランティアが学習支援を実施。低学力児童の学力保障についても独自事業実施。地域未来塾が有効に使えるのではないかと。まだ県域に周知が進んでいないが、今後活用ができる事業ではないだろうか。

○地域と学校の連携・協働のあり方について

- ・ 今後コミュニティ・スクールと学校支援地域本部は一体化していかなければいけないのではないかと、しかし行政の一つの特徴として縦割り意識があるので、なかなか隙間に入っていけない現状がある。滋賀県は所管課が、生涯学習課1本であるのは動きやすい。
- ・ 全国のコミュニティ・スクールを見て思うのは、事業ばかりが最優先されていて、そこに集まってくる子どもをどんなふう育てたいのかというあたりが議論されていない。

- ・生活困窮家庭をサポートする意味では、学校支援地域本部なり、土曜日の教育支援なり、放課後子ども教室なり、そういうところで救える部分はあるのではないかと思う。
- ・地域と学校の連携・協働の形として、それぞれの立場の方がチームをつくったり、自分でできることを通じて行うことも必要だが、システムをつくれるのは行政であり、人が変わればいろいろ内容が変わってくるのは確かである。人が変わってもなるべく柔軟にいろいろなことに対応できるような枠組みをつくり、様々な意味でのチームをつくって対応することが重要である。

◆第2回推進協議会

1 協議会概要

期 日：平成 29 年 1 月 20 日（金） 会 場：県庁北新館 5－E 会議室
 出席者：高木座長、武井副座長、池本委員、佐々木委員、谷口委員、苗村委員、中村委員
 事務局：県生涯学習課（8 名）子ども・青少年局（1 名）

- (1) 開 会 ・高木座長 挨拶
- (2) 協 議

- ①平成 28 年度「学校・家庭・地域連携協力推進事業」の成果と課題、今後の方向性について
 - ア 県実施事業について
 - イ 市町における実施事業の状況について
 - ・学校支援地域本部、地域未来塾、放課後子ども教室、家庭教育支援活動、土曜日の教育支援
- ②今後の学校と地域の連携・協働体制の推進のあり方について
 - ア 【情報提供 1】「地域と学校の連携体制」に関する取組状況
 - イ 【情報提供 2】（新校）長浜北高等学校コミュニティ・スクール
 - ウ 【情報提供 3】地域における家庭教育支援総合推進事業



2 協議要旨

○県実施事業について

- ・毎年行政担当者の入れ替わりもあるので、本年度行われた第 1 回研修会のように、早い時期に行政担当者を対象として、本事業の重要な柱について説明を行うことは大切である。
- ・研修形態として、例えば、研修会の前半で、ワールドカフェ方式などを使って、参加者が持つ課題意識を出し合い、講演や事例発表をしている間にそれを整理し、後半にその課題別で話し合いをするなど参加型に比重を置いた研修会も有効であろう。
- ・研修会で参加者の悩みなどを出し合い、それをカテゴリ一別にし、事例集にまとめることが出来ればより現場で生きる事例集になるのではないかと。

○今後の学校と地域の連携・協働体制の推進のあり方について

- ・学習指導が、教師本来の仕事であり、家庭に関することや生徒指導面等については、もっと地域の応援を得られるように、今困っていることや弱みを発信していくことが連携の第一歩ではないか。
- ・行政においては、課を超えて連携していくことが大切である。特に家庭教育については、福祉や S S W、チーム学校等における一丸となった対応が今後は求められる。
- ・若い教員も積極的に地域活動や本研修会に参加して、地域と学校がつながることの有効性を理解することは今後重要である。

(Ⅱ) 各研修会の概要

◆第1回合同研修会

- 1 **趣 旨** 県内で実施される「学校支援地域本部」「地域未来塾」「放課後子ども教室」「家庭教育支援活動」「土曜日の教育支援体制等構築」「学ぶ力を育てる土曜学習支援」に関わる市町の事業担当者を対象に、事業の趣旨や運営上の留意点などを説明することにより、事業の円滑な実施を図る。
- 2 **主 催** 滋賀県教育委員会
- 3 **参加対象** 「学校・家庭・地域連携協力推進事業」実施市町担当者、上記事業の未実施市町における参加希望者
- 4 **日 時** 平成28年5月18日（水）13:45～17:00
- 5 **日 程**
 - 行政説明
 - ・各事業の概要・趣旨
 - ・本年度のスケジュール
 - ・事業推進にあたっての留意点
 - 講演
 - 演題：「今後の学校・家庭・地域の連携について」
 - 講師：武井 哲郎 氏（滋賀県「学校・家庭・地域連携協力推進事業」推進協議会委員、立命館大学 准教授）
- 6 **場 所** 県庁本館2-B会議室
- 7 **参加者数** 23名
- 8 **概 要**

行政説明では、県担当者より、「学校・家庭・地域連携協力推進事業」の概要・趣旨等の説明後、補助金事務の流れや本年度年間研修計画等のスケジュール、コーディネーター等の謝金単価や補助対象外経費等の取扱い、事業実施にあたっての留意点等について、質疑応答も含めて説明を行った。

講演では、「なぜ、学校・家庭・地域の連携なのか?」「何が、学校・家庭・地域の連携なのか?」「どのように、連携するのがよいのか?」を柱として、お話しいただいた。学校を取り巻く現代の課題や現状を踏まえ、事例を取り上げながら、主に行政担当者の関わり方や心構えについてお話しいただいた。



○参加者のアンケートより

- ・コミュニティ・スクールの拡大、それに伴う議論の方向性についての課題と解決策など、事例を参考にとても分かりやすかった。
- ・コミュニティ・スクールと学校支援地域本部、学校運営協議会の関係が全く分かっていなかったのので、少し理解できた。連携・協働が、目的にならないよう、各事業を進める上で大変良かった。
- ・しんどい子どもを真ん中に置く視点、その仕掛けこそが、真にコミュニティ・スクールのこれからのあり方であると捉えることが改めてできた。

◆第2回合同研修会（「第1回学校と地域の連携・協働体制推進フォーラム」として開催）

- 1 **趣 旨** 学校支援地域本部やコミュニティ・スクールをはじめとした、学校と地域の連携・協働体制の構築を一層推進するため、具体の方策等について、関係者がともに考える機会として、フォーラムを開催する。

2 主催 滋賀県、滋賀県教育委員会

3 参加対象 各市町担当職員、公立小・中学校教職員、県立学校教職員、学校支援地域本部関係者、学校運営協議会関係者、学校と地域の連携・協働体制について関心のある地域住民 等

4 日時 平成 28 年 6 月 24 日（水） 13：15～16：45

5 日程

○講演（話題整理）

テーマ：「地域の子どもを育てる取組の現状と、連携・協働体制の今後のあり方について」

講師：高木 和久 氏（びわこ学院大学 准教授）

谷口久美子 氏（NPO法人CASN 理事長）

○講演

演題：「地域学校協働本部を見据えた、複数事業の総合化・ネットワーク化」

講師：高木 和久 氏（びわこ学院大学 准教授）

○情報交換会 「各市町における現状と課題について」

6 場所 県庁新館 7 階大会議室

7 参加者数 62 名

8 概要

NPO法人CASN 理事長 谷口久美子 氏より、「子ども食堂」「トワイライトステイ」等の実施の際、現場の課題や教育と福祉の連携の重要性など日頃感じておられる現場の様子をお話いただき、それを受け、びわこ学院大学 准教授 高木和久 氏がその内容を一般化しつつ、現場と行政、学校との連携の必要性についてお話しいただいた。実際に事業を展開する際の課題や、今後どのような連携、協働が必要かについて考えるよい機会となった。

話題整理の講演に続いて、「地域学校協働本部を見据えた、複数事業の総合化・ネットワーク化」というテーマで、高木和久先生より講演をしていただいた。「地域の子ども活動の弱点」やこれからの国の施策の動向、各事業間の連携の重要性、自主財源の確保の仕方などについて詳しくお話しいただいた。

講演の後、グループに分かれて、「各市町における現状と課題について」というテーマで講演の内容も含め、情報交換をしていただいた。参加者からは、日頃感じておられる課題や市町の現状について、活発な意見を出し合っていた。

○参加者のアンケートより

- ・ボランティアから、“協働”へ意識を高めておられる方は、子どもの変容を目の当たりにした経験を持っておられる方々であることが分かった。
- ・ボランティアの取組→学校支援→コミュニティ・スクールへと発展していくイメージを持つことができた。
- ・コーディネートの仕方には様々な形があることが分かりとても参考になった。
- ・小中高生が、夏休みの絵画や冬休みの書道でつながっている地域の取組の話聞いて素晴らしいと思った。
- ・本音で話し合える場となった。懇親も深まり、お互い明日から更に活動に専念していこうという気持ちになった。



◆第3回合同研修会

1 趣 旨 県内で実施されている「学校・家庭・地域連携協力推進事業」に関わるコーディネーターや教育活動推進員、教育活動サポーター等の事業関係者が一堂に会し、具体の事例を通じて子ども理解ならびに保護者の思いに寄り添う接し方のスキルアップ等の資質向上を図るとともに、県内における各事業の効果的な取組を推進する。

2 主 催 滋賀県、滋賀県教育委員会

3 参加対象 学校支援地域本部事業関係者、地域未来塾事業関係者、放課後子ども教室関係者、放課後児童クラブ関係者、家庭教育支援関係者、子育て支援機関関係者、土曜日の教育支援活動関係者、各市町行政関係者 等

4 日 時 平成28年8月26日（金）13：30～16：45

5 日 程

○実践紹介

SMAP（Shiga Mental Adventure Program〈しが「心の冒険」プログラム〉アクティビティプログラム）による人間関係づくり

○講演・演習

演題：「子どもや保護者に寄り添う対応について」～子どもの言動の背景を理解する～

講師：滋賀文教短期大学 准教授・滋賀県スクールソーシャルワーカー 小林 美保子 氏

○情報交換

「子ども・保護者との関わり方について」をテーマに、小グループに分かれて情報交換

6 場 所 県庁東館7階大会議室

7 参加者数 16名

8 概 要

まず、SMAPによる人間関係づくりのプログラムを体験いただいた。いくつかのアクティビティを行うにしたがい、始めは緊張していた参加者の心がほぐれ、自然と会話や笑顔が増えていった。

講演・演習では、日々の活動の中で接する子どもや保護者に寄り添う対応について、コミュニケーションのとり方や気を付けなければいけないこと等、「福祉的な視点」から、具体の事例を挙げて分かりやすく御説明いただいた。

情報交換では、小グループに分かれて、日々の取組の中で思っておられることや相談したいこと、うまくいった事例等について、話し合いを行った。

○参加者のアンケートより

- ・講師のお二人がとても素晴らしい方で、参考にできる内容をたくさん教えていただいた。
- ・小林先生の話はわかりやすく、他にも聞きたいことがいろいろ出てきた。子ども、親を含めてその言動から背景を見ていかなければならないと思った。
- ・子どもの言動には何か理由がある。それが何であるかに気付き、適切な対応ができるよう、今日教えていただいたことを実践していきたい。



◆第4回合同研修会（「第2回学校と地域の連携・協働体制推進フォーラム」として開催）

1 趣 旨 「学校支援地域本部とCSが連携した『地域とともにある学校』のあり方に関する研究」（文部科学省委託事業）等に取り組みされている講師による、先進的な全国の事例などを踏まえた講演をとおして、保護者や地域住民等との協働による学校づくりの推進に資する現行の制度や地域と学校の連携・協働体制による効果などについて、関係者がともに考え理解を深めることで、地域と学校の連携・協働体制の構築を一層推進する。

2 主 催 滋賀県教育委員会

3 参加対象 各市町担当職員、公立小・中学校教職員、県立学校教職員、学校支援地域本部関係者、学校運営協議会関係者、学校と地域の連携・協働体制について関心のある地域住民 等

4 日 時 平成28年10月28日（金） 13:00～16:45

5 日 程

○事例発表

演 題：「湖南市立石部小学校におけるコミュニティ・スクールの取組について」

発表者：湖南市立石部小学校 校長 柘植幸隆 氏

（H27年度優れた「地域による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣表彰受賞）

○講 演

演題：「地域学校協働活動を生かしたコミュニティ・スクールの進め方について」

講師：広島経済大学 教授 志々田まなみ 氏

○グループワーク：熟議「地域と学校の連携・協働について」

6 場 所 県庁東館7階大会議室

7 参加者数 96名

8 概 要

事例発表では、石部小学校におけるコミュニティ・スクールの組織と運営や学習支援委員会など特徴的な取組について、御説明いただきました。

講演では、これからの学校と地域の連携・協働の在り方や全国における効果的なコミュニティ・スクールの事例などを交え、学校を核とした地域づくりの有効性、コミュニティ・スクール導入の実際の流れなどを、わかりやすく説明いただきました。

○参加者のアンケートより

- ・コミュニティ・スクールとしてしっかり組織がつけられていて、ボランティアや地域の各団体との連携もされており素晴らしい。
- ・コミュニティ・スクールや学校支援地域本部のことについてそれぞれのメリットが分かった。社会総がかりでの教育の実現は難しいが、チーム学校という共通理解をもち、緩やかなネットワークを形成していくことの大切さがわかった。
- ・小中学校長OB、高校教諭、すでにコミュニティ・スクールを始められている市の方など様々な立場の話が聞けた。一つの課題について、一緒に考える時間を持つことが大切だと感じた。



◆第5回合同研修会

1 趣 旨 「学校支援地域本部」等に関わる関係者、学校教職員、行政職員等が一堂に会し、本年度の各市町における取組や「地域とともにある学校づくり」の取組を通じて、地域の将来を担う人の育成を社会全体で支える体制づくりや今後の推進方策について、ともに学ぶ機会とする。

2 主 催 滋賀県教育委員会

3 参加対象 各市町担当職員、各幼・小・中・高校学校教職員、学校支援地域本部関係者、放課後子ども教室関係者・放課後児童クラブ関係者、家庭教育支援活動関係者・子育て支援機関関係者、土曜日の教育支援活動関係者、学校運営協議会関係者など

4 日 時 平成29年 1月27日（金） 13:20～16:40

5 日 程

○事例発表

「学校支援地域本部」の報告 草津市教育委員会事務局生涯学習課 高橋 正樹 氏
草津市立渋川小学校地域協働合校コーディネーター 澤村 忍 氏

「放課後子ども教室」の報告 米原市こども未来部子育て支援課 横田 勝也 氏

「家庭教育支援活動」の報告 湖南市教育研究所 伊藤 照男 氏

「土曜日の教育支援」の報告 東近江市教育委員会事務局生涯学習課 斎藤 研治 氏
東近江市蒲生地区地域教育協議会 綾 康典 氏

○講 演

演題：「地域とともにある学校づくりの充実」

講師：福岡教育大学教職大学院 教授 森 保之 氏

6 場 所 県庁東館7階大会議室

7 参加者数 112名

8 概 要

「地域とともにある学校づくり」の充実において、①なぜ、学校と地域の連携・協働なのか ②学校・家庭・地域の連携・協働推進事業等の現状と課題、今後の方向性 ③コミュニティ・スクールの推進 ④地域とともにある学校づくりの充実ーコミュニティ・スクールと地域学校協働本部等との一体的・効果的な推進ー ⑤コミュニティ・スクールを核とした地域とともにある学校づくりの推進上の留意点について説明いただき、「次世代の学校・地域」創生プランの実現に向けての視点を認識することができた。また、各事業の事例発表から、取組の成果や課題について講評いただき、今後の方向性を学んだ。



○参加者のアンケートより

- ・事例発表では、それぞれの地域で特徴のある取組をされていて、非常に参考になった。今日聞いたことをこれからの教室運営に生かしていきたい。
- ・地域コーディネーターとして、自分の地域をよく見て何が必要なのかを把握し、スムーズな連携がとれるようアンテナを張っていききたいと思う。
- ・コミュニティ・スクールと学校支援地域本部の関係やあり方がよく理解できた。
- ・講演からたくさんの示唆を得ることができ、市のビジョン、校区のビジョンづくりに生かしていけると思った。

平成28年度 学校支援地域本部一覽

9市町89本部

No.	市町名	本部名	学校名	幼稚園等	小学校	中学校
1	彦根市	東中学校区支援地域本部	東中学校 城東小学校 佐和山小学校 旭森小学校	6	17	7
		西中学校区支援地域本部	西中学校 城西小学校 城北小学校			
		中央中学校区支援地域本部 (中央中学校区支援地域協議会)	中央中学校 平田小学校 金城小学校 平田幼稚園 金城幼稚園			
		南中学校区支援地域本部 (彦根南サポートオフィス)	南中学校 城南小学校 城陽小学校 若葉小学校 亀山小学校			
		彦根中学校区支援地域本部 (彦根中学校区支援地域協議会)	彦根中学校 高宮小学校 河瀬小学校			
		鳥居本中学校区支援地域本部 (鳥居本中学校区支援地域協議会)	鳥居本中学校 鳥居本小学校			
		稲枝中学校区支援地域本部 (稲枝中学校区学校支援地域協議会)	稲枝中学校 稲枝東小学校 稲枝西小学校 稲枝北小学校 稲枝東幼稚園 みづほ保育園 ふたば保育園 ことぶき保育園			
2	近江八幡市	八幡小学校支援地域本部	八幡小学校	9	12	4
		島小学校支援地域本部	島小学校			
		沖島小学校支援地域本部	沖島小学校			
		岡山小学校支援地域本部	岡山小学校			
		金田小学校支援地域本部	金田小学校			
		桐原小学校支援地域本部	桐原小学校			
		桐原東小学校支援地域本部	桐原東小学校			
		馬淵小学校支援地域本部	馬淵小学校			
		北里小学校支援地域本部	北里小学校			
		武佐小学校支援地域本部	武佐小学校			
		安土小学校支援地域本部	安土小学校			
		老蘇小学校支援地域本部	老蘇小学校			
		八幡中学校支援地域本部	八幡中学校			
		八幡東中学校支援地域本部	八幡東中学校			
		八幡西中学校支援地域本部	八幡西中学校			
		安土中学校支援地域本部	安土中学校			
		武佐こども園支援地域本部	武佐こども園			
		八幡幼稚園支援地域本部	八幡幼稚園			
		岡山幼稚園支援地域本部	岡山幼稚園			
		金田幼稚園支援地域本部	金田幼稚園			
桐原幼稚園支援地域本部	桐原幼稚園					
馬淵幼稚園支援地域本部	馬淵幼稚園					
北里幼稚園支援地域本部	北里幼稚園					
安土幼稚園支援地域本部	安土幼稚園					
老蘇幼稚園支援地域本部	老蘇幼稚園					
3	草津市	志津小学校地域協働合校	志津小学校	0	14	0
		志津南小学校地域協働合校	志津南小学校			
		草津小学校地域協働合校	草津小学校			
		草津第二小学校地域協働合校	草津第二小学校			
		渋川小学校地域協働合校	渋川小学校			
		矢倉小学校地域協働合校	矢倉小学校			
		老上小学校地域協働合校	老上小学校			
		老上西小学校地域協働合校	老上西小学校			
		玉川小学校地域協働合校	玉川小学校			
		南笠東小学校地域協働合校	南笠東小学校			
		山田小学校地域協働合校	山田小学校			
		笠縫小学校地域協働合校	笠縫小学校			
		笠縫東小学校地域協働合校	笠縫東小学校			
		常盤小学校地域協働合校	常盤小学校			
4	栗東市	栗東中学校支援地域本部 「栗中サポーターズクラブ」	栗東中学校	0	0	1

II 学校支援地域本部の実践事例

No.	市町名	本部名	学校名	幼稚園等	小学校	中学校
5	湖南省	いしべっこ応援団	石部小学校	0	9	4
		みなみっこ応援団	石部南小学校			
		みくもっこ支援	三雲小学校			
		東っ子応援団	三雲東小学校			
		根っ子学校支援	岩根小学校			
		菩っこを育てる会	菩提寺小学校			
		あすなろ応援団	菩提寺北小学校			
		下田っ子応援隊なすびいず	下田小学校			
		みとっ子応援団	水戸小学校			
		石部中学校支援地域本部	石部中学校			
		甲西中学校支援地域本部	甲西中学校			
		甲西北中学校支援地域本部	甲西北中学校			
		日枝中学校支援地域本部	日枝中学校			
		6	東近江市			
蒲生西小学校支援地域本部	蒲生西小学校					
蒲生北小学校支援地域本部	蒲生北小学校					
八日市西小学校支援地域本部	八日市西小学校					
玉緒小学校支援地域本部	玉緒小学校					
八日市南小学校支援地域本部	八日市南小学校					
湖東第一小学校支援地域本部	湖東第一小学校					
湖東第二小学校支援地域本部	湖東第二小学校					
湖東第三小学校支援地域本部	湖東第三小学校					
箕作小学校支援地域本部	箕作小学校					
市原小学校支援地域本部	市原小学校					
五個荘小学校支援地域本部	五個荘小学校					
愛東北小学校支援地域本部	愛東北小学校					
愛東南小学校支援地域本部	愛東南小学校					
能登川東小学校支援地域本部	能登川東小学校					
能登川南小学校支援地域本部	能登川南小学校					
御園小学校区学校支援地域本部	御園小学校					
八日市北小学校区学校支援地域本部	八日市北小学校					
朝桜中学校区学校支援地域本部	朝桜中学校					
船岡中学校区学校支援地域本部	船岡中学校					
五個荘中学校区学校支援地域本部	五個荘中学校					
永源寺中学校区学校支援地域本部	永源寺中学校					
7	米原市	米原市読書活動学校支援地域本部	伊吹小学校 春照小学校 大原小学校 山東小学校 息長小学校 坂田小学校 柏原小学校 河南小学校 米原小学校	0	9	4
		柏原学区学校支援地域本部	柏原中学校 柏原小学校			
		河南学区学校支援地域本部	河南中学校 河南小学校			
		伊吹山学区学校支援地域本部	伊吹山中学校 伊吹小学校 春照小学校			
		米原学区学校支援地域本部	米原中学校 米原小学校			
8	竜王町	竜王町学校支援地域本部	竜王中学校 竜王小学校 竜王西小学校 竜王幼稚園 竜王西幼稚園	2	2	1
9	多賀町	多賀町学校支援地域本部	多賀中学校 多賀小学校 大滝小学校 多賀幼稚園 大滝幼稚園 多賀ささゆり保育園 たきのみや保育園	4	2	1
	大津市	葛川小・中学校・地域コーディネート本部	葛川中学校 葛川小学校	3	11	5
		仰木の里小学校・地域コーディネート本部	仰木の里小学校			
		日吉台小学校・地域コーディネート本部	日吉台小学校			
		唐崎小学校・地域コーディネート本部	唐崎小学校			
		青山小学校・地域コーディネート本部	青山中学校 青山小学校			
		仰木中学校・地域コーディネート本部	仰木中学校 仰木の里東小学校			
		打出中学校・地域コーディネート本部	打出中学校 逢坂小学校 中央小学校 平野小学校 逢坂幼稚園 大津幼稚園 平野幼稚園			
田上中学校・地域コーディネート本部	田上中学校 田上小学校 上田上小学校					
愛荘町	愛荘町学校支援地域本部	愛知中学校 秦荘中学校 愛知川幼稚園 愛知川小学校 愛知川東小学校 秦荘東小学校 秦荘西小学校	1	4	2	

彦根市における学校支援地域本部の取組

持続発展教育(E S D)持続可能な社会・次代を担う彦根の子どもを地域のみinnで守り育てます。

■めざす姿

○教員が子どもと向き合う時間の確保など、多様な形態の教員支援を可能とするため、地域全体での学校教育の支援、および学校と地域との連携体制の構築を推進する。さらに、地域住民が自らの経験や知識を活かす場として自己実現や生きがいつくり、地域の人材活用・活性化と地域づくりにつなく。

■本年度の活動

○学校支援地域本部：市内7中学校区地域教育協議会（東・西・中央・南・彦根・鳥居本・稲枝）全小中学校24校（17小学校・7中学校）保育園幼稚園6園（3保育園3幼稚園）で実施する。

○平成28年度の取組重点（継続） 地域協議会の活性化 学習支援活動を全ての小中学校で実施

○実行委員会の開催（年2回） 構成委員：16名（各中学校管理職、地域コーディネーター、土曜学習コーディネーター、彦根PTA連絡協議会会長）事務局（生涯学習課長、主幹、学校教育課長、副主幹）

7月12日(火)事業説明・実践交流 2月9日(木)実践交流・次年度の計画

○学校訪問10・11月 7中学校訪問 事業の進捗状況の把握、今後の取組の確認

○地域コーディネーター連絡会の開催

12月22日(木)コーディネーターの情報交流、資質向上

○特色ある活動内容

- ・小学校での登下校見守り、安全指導
- ・小中学校での読み聞かせと図書室環境の整備
- ・学校行事の支援
- ・校外学習の補助
- ・授業補助
- ・栽培活動、環境学習の支援
- ・放課後の学習支援
- ・土曜日の学習支援（中央中学校）
- ・課題のある児童生徒や別室(登校)児童生徒に対する授業の補助
- ・中学校の部活動支援
- ・地域へ広報紙を発行、学校支援の啓発
- ・その他学校のニーズに応じた支援活動

■本年度の成果

○全小中学校で取組むことで、地域住民が学校内外で子どもと接する機会、会話が多くなり、豊かなかかわりができた。

○地域コーディネーターが中心になり、子どもの様子、学校支援の取組内容が、地域へ発信できた。周知を図ることで、「地域の子は地域で守り育てる」機運が高まった。

○地域協議会、実行委員会での交流により、取組体制や支援内容、方法について情報共有できた。

○土曜学習について、個別指導を中心に、学習支援活動が継続できた。

■今後の課題

○地域コーディネーターと学校関係者が連携を図り、地域支援者をさらに巻き込む取組の開発

○事業を支える支援ボランティアの確保（学習支援に係る学生ボランティア等）

○地域学校協働活動の推進を図るために研修を重ねる



【放課後の学習支援】

子どもたちの笑顔のために～できる人が できるときに できることを～（東中学校）

■ 彦根市
■ 活動名
東中学校支援地域本部・東中学校
■ 関係する学校
城東小学校・佐和山小学校・旭森小学校・東中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	54 人
開始年度	平成20年度

■ 活動の概要

平成20年9月より彦根市で初めて学校支援地域本部事業の指定を受け、その後継続して事業を推進している。今年度は1名のコーディネーターによりこれまで積み上げてきたことを生かして活動を進めている。本校では「生徒に寄り添う学習支援」に重点を置きながら、特徴的な活動として「学習支援活動」「読み聞かせ活動」「図書整備活動」「部活動の指導」「土曜学習支援・AKB(英語検定バッチリ)」「校内緑化活動」さらに「地域と学校の安心安全推進運動」にと幅広く支援を行っていただいている。

■ 特徴的な活動内容

○放課後学習支援活動

これまで3年生を対象として、11月から3月まで週2回放課後学習支援を行ってきたが、今年度よりこれに加えて1年生・2年生にも枠を広げて放課後週1回放課後学習支援を行っている。学習支援として地域の方に募集をしたところ、継続して来ていただいている方に加えて新しく支援して下さる方もあり、合計7～8名の方が経験や専門性を生かしてくださっている。

3年生はこれまで実施してきたように火曜日と木曜日に、個別に学習指導の補助を行い、今年度は12名の生徒が自分の進路の実現に向けて学校で準備した国語、数学、英語、社会、理科の問題集を活用して、学習に取り組んでいる。

1年生・2年生については基礎学力を定着させる事を目的とし将来の進路保障につないでいきたいと考えている。部活動のない水曜日に実施し、今年度1年生は10名、2年生は7名の生徒が参加し、特に数学と英語を中心として基礎基本の定着に努めている。

学力だけではなく共に学ぶ中で、生徒同士のつながりと地域の方とのふれあいにより社会性を身に付けられることも願っている。

○読み聞かせ・図書整備活動

朝読書の時間に地域のボランティアの方に読み聞かせをしていただいている。今年度で13年目を迎える。クラスで学期に最低1回の計画を立て、学年をA団、B団の2つに分け実施している。これまでの作品と重ならないように幅広い作品を準備していただいている。また、図書室の図書の登録作業や図書の整備などの支援も行っていた。今年度より毎日昼休みに図書室を開き、生徒の貸し出し等の利用を可能にしている。そのため図書ボランティアを募集し、地域コーディネーターが当番を決め、貸し出し作業に協力していただいている。

○ゲストティーチャーによる授業

2年生の職場体験では、「職業講話」として、ビートル能登川店の美容師の方より働く意義や生きがいについて講話をいただいた。「マナー講座」では、琵琶湖ホテルの方に来ていただき、挨拶や作法について学ぶことができた。

○部活動の指導補助

部活動では、卓球部、サッカー部、水泳部、吹奏楽部において、活動補助として放課後や休日に専門的な指導をしていただいている。運動部では技術面の向上支援が功を奏し、各種の大会で好成績を収めている。

■ 実施に当たっての工夫

4月初めの職員会議で、地域コーディネーターの方からこれまでの事業活動や今年度の事業計画を説明していただき、この活動のねらいを全職員が理解した上で取り組んでいる。また、教師からの意見をアンケートで聞き取り、それぞれの要望に対して協議しながら活動に生かしている。また、「放課後の学習支援」では学習ボランティアの方と人数の調整や当日の時間変更などにメールを利用して連絡を取り合い、運営をスムーズに行うことができた。

本部では地域コーディネーターとボランティアの方々が情報交換や相談のできる環境が用意されているため連携を図るのに有意義な場となっている。

■ 事業の成果

ゲストティーチャーによる授業では、「職業講話」や「マナー講座」をもつことで、学校では教えられない専門的な内容をわかりやすく教えてもらい、生徒の学習意欲の向上と関心を高める機会となった。放課後の学習支援では、基礎学力を伸ばしたい1年生から3年生の生徒たちが進路の実現に向けて意欲的に問題に取り組んでいる。また、心を込めて関わって下さる地域の方々のつながりを深められている。

毎日昼休みに図書室を開館することにより、図書室の利用が進み読書習慣が身につく生徒が増えている。

■ 事業実施上の課題

本事業の取組を地域コーディネーターによる広報活動で地域の方に知ってもらえ、ボランティアの登録者数の増加につながった。しかし、今年度より全学年の学習支援活動を週3回実施することになったため、曜日によってはボランティアの人数が少ない日もあり、人数調整をしなければならない点で課題がみられる。



【学習支援活動】

■ 伝統を引き継ごう ～マーチングバンド活動の充実に向けて～ (城東小学校)

■ 彦根市
■ 活動名
東中学校支援地域本部・城東小学校
■ 関係する学校
城東小学校・佐和山小学校・旭森小学校・東中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	3 人
開始年度	平成20年度

■ 活動の概要

○活動のねらい

- ・マーチングバンドの演奏を通して豊かな情操を養うとともに、5・6年生が交流することを通して学校の伝統を大切にしていこうとする気持ちをはぐくむ。
- ・マーチングバンドの演奏を通して、演奏技能の上達を図りながら、みんなでよい音楽発表を創り出そうという課題をもち、音の出し方や演奏の仕方などを工夫して活動することができる。
- ・日々の練習や学校行事、地域行事への参加などの活動を通して、学校の伝統を誇りにする気持ちをはぐくみ、学校への愛着を深める。

○編成と指導体制

- ・マーチングバンドは、6年生（後期は5年生）児童で編成し、管楽器・打楽器・カラーガードに分かれて毎週金曜日の6校時に練習を行っている。
- ・教職員が分担して指導（前期9名、後期9名）にあたり、年間30時間程度活動している。
- ・外部から、ボランティア3名の方に演奏指導に来ていただいている。

■ 特徴的な活動内容

- ・各パートの練習（毎週金曜日6校時）
- ・運動会、卒業式歓送などの校内行事への参加
- ・市民運動会、城まつりパレードなどの地域行事への参加
- ・東中学校吹奏楽部との連携



【指導ボランティアによる指導】

■ 実施に当たっての工夫

- ・指導者確保のため、ボランティアとしてトランペットの指導をしていただいていた方に専門指導ボランティアという形でお願ひし、毎年来ていただけるようにした。また、学校支援地域本部が発行する「学校支援ボランティアだより」に、指導ボランティアの募集をお願いしたところ、2名の方がトロンボーンや打楽器の指導をしていただけることになり、指導体制が充実した。
- ・12月上旬から1月下旬にかけて、6年生から5年生への引き継ぎ期間を設定している。指導ボランティアの指導と子ども同士の交流をうまく融合させ、演奏（演技）技能を引き継ぐとともに、本校の伝統を大切に守っていこうとする心も受け継げるようにしている。
- ・毎年5月下旬頃（中体連の期間中）に東中学校吹奏楽部の演奏による音楽鑑賞会を開催している。後半には、吹奏楽部員にマーチングバンドの演奏指導をお願いしている。

■ 事業の成果

- ・学校支援地域本部との連携と小中連携をうまく重ね合わせることで、指導体制を充実させることができた。
- ・指導ボランティアの方の熱心な指導により、子どもたちの演奏技能が著しく向上した。

■ 事業実施上の課題

- ・学校支援地域本部を通じて学校が支援してほしいことを地域に発信し続けていくとともに、地域コーディネーターとの連携を深め、人材の発掘と情報交換に努めることが大切である。



【城まつりパレードへの参加】

■ その他

マーチング活動に関する児童の感想

城まつりパレードで自信をもって演奏することができました。指導ボランティアの先生に、バジングや音の出し方、曲の演奏の仕方などをたくさん教えていただいたからだと思います。練習が大変で苦しい時もあったけれど、いろいろな思い出をつくることができて今は感謝の気持ちでいっぱいです。

運動会や城まつりパレードでは、地域の人に応援していただいたり、たくさんの温かい拍手をいただいたりしてうれしかったです。1年間熱心にご指導いただいた指導ボランティアの先生や城東小学校の先生、家族、地域のみなさんなど、たくさんの方に支えられているマーチング活動。しっかり5年生に引き継いでいきたいです。

■ 地域に開き、地域に応える学校の創造（佐和山小学校）

■ 彦根市
■ 活動名
東中学校支援地域本部・佐和山小学校
■ 関係する学校
佐和山小学校・城東小学校・旭森小学校・東中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	160 人
開始年度	平成20年度

■ 活動の概要

本校教育の推進にあたっては、多くのボランティアの方の協力を得ている。そのほとんどが地域の方である。主な内容としては、地域学習の安全見守り・夏季休業中の算数学力補充教室・読み聞かせと図書館整備・サツマイモの苗植え指導・家庭科実習支援・学校行事支援・ふれあいルームの日（お年寄りと遊ぶ日）、登下校の安全見守り指導等がある。こういった地域の方の温かい支えに応えるべく、本校では、本校教育の公開とともに地域の方との呼応のある教育活動・地域人材の持ち味を生かした教育活動の展開を推進している。



【5年 家庭科調理実習】

■ 特徴的な活動内容

＜支援者の持ち味を生かす＞

本校では、これまで実習を伴う学習にも、保護者や地域の方の支援を依頼してきた。主に子どもたちの技術面や安全面での補助である。しかしながら、学習内容によっては、支援者の持ち味を生かすことができると考えた。

本年度は、例えば図画工作科の学習でのこぎりの使い方を支援していただくときは、日曜大工の経験や子どもの頃の木工作の逸話を話していただくことで、物づくりの楽しさを子ども達に伝えてもらうことを推進した。

第5学年の家庭科「ご飯とみそ汁」の調理実習では、保護者の実習補助ともに、下のような食事の栄養バランスやみそ汁の逸話を話していただいた。



【5年 家庭科ミシン縫製実習】

- ・食べるということは、命をつなぐために命をいただいているということだ、と子どもに話している。皆さんも感謝して食べてほしい。
- ・母親として、栄養のバランスを考えて食事を作っている。
- ・みそ汁はいろいろな食品が取れて栄養価も高いので、毎朝、必ずみそ汁を作っている。忙しいので粉末の出汁やパックの出汁を活用している。手軽で味の良いものがたくさん売られている。時間のある時は、かつお節でとるのが多い。
- ・みそ汁は、どこの家庭でも作られたことがあると思う。みそ汁の匂いは、その家庭の匂いで、我が家では家族との絆だと思う。

この話で、子ども達は今まで何気なく食べていたみそ汁に、家族の愛情を深めたものと考えた。また、粉末やパックの出汁の話は、子ども達の実践意欲を高めた。ミシン縫製の実習補助でも、保護者が子どもの入学時に給食袋等を作った思い出を話していただいた。

■ 実施に当たっての工夫

彦根市立東中学校区学校支援本部のボランティアリストを職員に配布し、依頼時の参考資料としている。本校職員の独自のルートで開発された人材は、全職員が共有できるようにしている。また同本部発行の「学校支援ボランティアだより」で東中学校ブロック内の他校の実践を知ることで、地域人材の生かし方の視点や取組に、広がりがもたれている。ボランティアとして協力依頼した後は、さらに担当者が詳細な打ち合わせをすることで、教育活動のねらいやボランティアとしてお願いしたいことを明確に知らせる。このことは、地域と学校がともに手を取り佐和山っ子を健全に育成するペースである。

■ 事業の成果

地域の方から、子どもたちや学校への声かけが増えてきた。また、以前お世話になった方が来校されることに子どもたちは親しみを感じ、挨拶や会話を進んでしている。学校外の所で出会っても挨拶をしている。さらには、保護者や地域の方からの話で、「今まで見えにくかった家族の思いを知った。」と話したり日記等に記したりする子ども達も、増えてきた。

■ 事業実施上の課題

年間を通して、効果的なボランティア活用の時期や活動は大まかに見通せているが、実際に時期が確定するのは一ヶ月程度前で、授業や学校行事・天候等で、当初の計画を変更・延期することがある。こういった時期や時間帯等、学校のニーズと一致しにくいことがあり、今後は、柔軟性をもつ新たな仕組みを開発していくことが必要になってくるものと考えられる。

■ 地域の人材を活かした旭森教育をつくる（旭森小学校）

■ 彦根市
■ 活動名
東中学校支援地域本部・旭森小学校
■ 関係する学校
旭森小学校・城東小学校・佐和山小学校・東中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	40 人
開始年度	平成20年度

■ 活動の概要

○子どもたちの教育活動に地域の教育力を活かす

本校では、低学年の生活科、中高学年の総合的な学習の時間の学習に、ゲストティーチャーや学習支援者として多くの地域の方々の協力を得ている。また、全校に関わる読書活動や、本校の伝統的な活動であるマーチングバンドの楽器指導にも、多くの支援をいただいている。夏季休業中に実施している学力補充教室には、地域におられる教員OBのみなさんの力を借り、少しでも勉強がわかるようになりたいと願う子どもたちの学習支援を実施している。

■ 特徴的な活動内容

○図書ボランティア「すまいる」さんの活動

本校の図書ボランティアは、「すまいる」さんの愛称で活動していただいている。毎週火曜日の朝の読書タイムに全学級で読み聞かせを実施し、それぞれの学年相応の本や、季節に合わせて選んでいただいた本を読んでもらっている。また、休み時間を利用して「お話し会」を計画し、低中高学年別に本の読み聞かせをしていただいているのも、子どもたちが本に親しむいい機会となっている。

また、図書室の環境整備にもご協力をいただいている。火曜日と木曜日に「すまいる」さんが来校して、本の整理や修理、新しい本の登録作業など、様々なお手伝いをしていただき、いつも子どもたちが気持ちよく本に触れることができるよう環境整備に協力していただいている。

○家庭科の「ミシン」学習支援

毎年地域の方にお手伝いいただいているのが、家庭科でのミシンの学習支援である。指導する教師は一人であることがほとんどのため、子どもたちへの細かな指導にはなかなか手が回らないのが現実である。子どもにとっては糸が絡まってしまった場合の直し方やその後の糸の付け方など、すぐそばで実際にやって見せてもらえることが何よりもわかりやすい。家庭科でミシンを使う場合は、事前に連絡を取り、家庭科の学習時間に合わせて来校いただいている。今年度は保護者の方3人にも協力をいただくことができた。

○マーチングバンドの演奏指導ボランティア

本校では5・6年生でマーチングバンドを実施している。伝統的な活動であり、子どもたちもこれまで先輩から順に託され、旭森のマーチングバンドを受け継いできている。全教員が指導に当たっているが、楽器演奏という専門的な領域の指導であるため、教員だけでは難しい部分もあり、地域に居住されているボランティアの方に楽器指導のご協力をいただいている。

○ゲストティーチャーとしての協力

各学年で実施する様々なESD教育の一つである地域学習に、ゲストティーチャーとして地域の方々にご協力をいただいている。1年生では、生活科「むかしからのあそび」に地域のお年寄りに来校していただき、子どもたちにお手玉やコマ回し、剣玉など、昔からの遊びを覚えてもらい、いっしょに遊ぶ楽しい時間をつくっている。また、3年生や6年生では、地域の歴史や文化など様々な疑問に答える講師として、地域のみなさんにご協力をいただいている。

■ 実施に当たっての工夫

- ・4月当初の職員会議等の場に、地域コーディネーターと支援地域本部事務局の方に来ていただき、事業内容について説明をしていただいた。どんな協力ができるのか、また人材を探す場合の窓口はどこであるかなど、実務的な話をしてもらい、各教員が本事業を知り、活用しやすいようにした。
- ・ゲストティーチャーや講師として来校いただく場合には、授業時間の中でねらいとするところや1時間の授業の流れ、支援していただくポイントなどをそれぞれの学年の教師と打合せをして実施している。

■ 事業の成果

- ・図書館教育部が、一人年間50冊を目標にした読書推進の取組を始めて3年目になるが、図書室がいつも本に触れやすく、親しみやすい環境になっているおかげで、達成していく子どもがどんどん増えている。
- ・本事業の内容を教員が理解することで、必要とする人材の確保のため、どこに相談したらよいかなど、基本的な情報を共有することができた。



【ミシンの学習支援】

■ 事業実施上の課題

- ・学校が必要とする支援ボランティアのニーズは広がる一方だが、協力いただける方がなかなか増えていかないのが現状である。学校が支援してほしい内容をいろいろな広報を通じて発信していき、継続して協力を呼びかけたい。
- ・図書ボランティアについては、地域のみなさんを中心に運営が進められるように、地域人材の募集を続けていきたい。
- ・学生チューターの協力を得るため、大学との連携を模索していきたい。

■ 教職員とのコミュニケーションを図り、生徒・学校・地域の関係が見える活動（西中学校）

■ 彦根市
■ 活動名
西中学校支援地域本部・西中学校
■ 関係する学校
西中学校 城西小学校 城北小学校

コーディネーター数	2 人
ボランティア登録数	30 人
開始年度	平成21年度

■ 活動の概要

コーディネーター1名は、週1回半日出勤し、管理職をはじめ担当教諭との連携や他の教職員との交流を重ね、当事業への理解や協力を要請している。地域への情報発信としては「支援だより」で当事業の活動内容を発信している。さらに、生徒が主体的に活動する「地域貢献活動」の支援、「公民館や自治会館との文化祭」での交流、地域が学校を応援する「環境整備」への支援、地域と学校が連携して作る「危機管理マニュアル」作成等々が主な活動である。

■ 特徴的な活動内容（以下の項目でも、この数字番号に合わせて説明する）

- (1) 教職員への当事業への理解や協力を願って、「先生方への支援だより」を年間3～4回発行。
- (2) 生徒の「地域貢献活動」に地域も協力や支援。
- (3) 公民館や自治会館の文化祭へ生徒の作品を展示し、地域との交流を図る一方で、学校に地域の方々の絵画を展示。
- (4) 生徒・PTA・教職員・地域が一体となった学校の「環境整備」。
- (5) 奉仕活動を主な活動とする部活動部員とPTA・教職員・地域がともに「門松作り」に挑戦。



【地域文化祭の生徒作品展示】

■ 実施に当たっての工夫

- (1) 「支援だより」だけでなく、より多くの先生方との交流を図り、当事業への理解や協力を願った。
- (2) 生徒の地域貢献の場へ行き、地域が生徒を気持ち良く受け入れ、生徒も安心して活動できるよう、事前に双方へ働きかけたり、事後にも双方の成果や課題を出し合った。
- (3) 「地域の文化祭に生徒の美術作品を展示」することによって、「地域の絵画作品を学校に展示」し、生徒の美的情操を育むとともに、校内の美化環境を高め、地域の活動や人材が見える事業を目指した。
- (4) 校地も非常に広く、夏になると草木も生い茂り、生徒や教職員では追いつかず、地域の樹木剪定の力をお借りすることによって、共同作業による互いに見える関係の中で、地域と学校・生徒の交流を図ることを目指した。
- (5) 地域のもっている技術を生徒やPTA・教職員にも伝え、「門松作り」を通して相互交流を図ろうとした。

■ 事業の成果

- (1) 管理職や担当教諭はもちろんのこと、教科・特別活動・部活動などの担当者と日常的に会話することによって、大半の教職員との人間関係ができ、当事業への理解や協力を得ることができてきた。
- (2) 生徒の「地域貢献」は、ただ単に生徒だけの活動ではなく、地域も生徒や学校を理解する機会であり、生徒にとっても地域に安心して入れる時でもある。そのために地域で受け入れ態勢をつくっていただくなど、コーディネーターとしても地域と学校が共通理解して受け入れていただく役割をすることができた。
- (3) 学校からも地域へアピールしようと、公民館や自治会館に生徒の作品を展示している。地域の方々に中学生に関心をもってもらい、地域の作品も学校に展示することによって、地域との関係を深める一歩となった。
- (4) 大人の手伝いをすることによって中学生が作業の方法を学んだり交流もできた。さらに地域の方々が母校である学校にきていただくことは、PTAのスローガンでもある「西中へ行こう」の実践にもなり、地域の方々にしても「地域の学校」としての愛着に繋がると考える。

また昨年から、作業終了後の閉会時に、生徒会長がお礼の言葉を言ってくれ、地域の方々からも大変好評であった。生徒自ら地域の方々に語りかける場面などはほとんどないので、今年も感動を呼んだひとこまであった。

- (5) この活動も4年目になり、生徒だけで学校正門に大きな門松を設置できるようになった。こうした活動を通して、生徒・PTA・学校・地域が繋がっていきける機会になってきたように思われる。

■ 事業実施上の課題



【環境整備での剪定作業】

- (1) 当事業への教職員の理解はほぼ浸透してきたので、もっと教職員のニーズを確認して事業を進めたい。特に学習支援の面に手をいれていかねばならない。
- (2) 特定の地域貢献では地域との連携が取れたが、各町での活動や生徒が一人で地域に入る場合などでは、地域の理解が少なく、きめ細かな連携が必要である。
- (3) 地域の文化祭や生徒の作品展示などについては、一部の生徒や保護者が参加するだけで、生徒や保護者・地域にさらに広く発信していかなければならない。
- (4) 地域の支援者がご高齢であったり、毎年同じ方々であったり、ある地域の方々の参加が全くなかったりと課題も多い。
- (5) 学校と地域の繋がりをどのようにつくっていくかが課題であり、こうした取組の回数を重ねることが大切であるので、今後も継続して取り組んでいきたい。

■ 地域の人たちと共に、豊かな学びをめざして（城西小学校）

■ 彦根市
■ 活動名
西中学校区支援地域協議会 城西小学校
■ 関係する学校
城西小学校・城北小学校・西中学校

コーディネーター数	2 人
ボランティア登録数	60 人
開始年度	平成21年度

■ 活動の概要

本校では、以前から地域とのつながりを大切に、地域を学習の場にしたたり、地域の方々にボランティアとして学習支援をお願いしたりして、子どもたちと地域の人・ものとの関わりをもてるようにしてきている。今年度は、とくに子どもたちの学びを豊かなものにする学習支援・豊かな情操を育む読書支援・安全な登下校のための見守り活動の3つを柱として、地域コーディネーターと連携を図りながら活動を進めてきた。

■ 特徴的な活動内容

(1) 世代間交流の充実

本校では、1・2年生児童を中心に、地域のお年寄りで作られている「子どもらと楽しもう会」の会員の方々との交流を進めている。新入児童の交通安全を意識させるための「キュービット人形渡し」や「七夕集会」などにゲストティーチャーとして快く来てくださり、子どもたちへ昔からの行事や伝承遊びにかかわる話をいただいている。



【5年生 植物のお話を聞く】

(2) 地域学習の充実

本校の総合的な学習の時間では、地域に出かけ、地域の人とともに学ぶ活動を推進している。

3年生では、地域にある昔ながらの町並みを再現した「夢京橋キャッスルロード商店街」を題材に、その歴史やよさ、さらには地域の人々の思いを調査し、自分たちにはできないことはないかと学習を進めている。その際には、実際に商店街に出かけ、それぞれのお店にインタビューをさせていただいたり、商店街の役員さんにゲストティーチャーとして来ていただき、お話を聞いたりして、地域の方とともにこれからの町づくりについて考えを深めている。

4年生では、校区にある彦根城を題材に、彦根城のよさを観光客に伝えるガイドをしたり、城下町である校区のよさを追究したりする活動を行っている。

5年生では地域の環境学習に視点をおき、琵琶湖の環境学習や、校区にある彦根城の城山の植物調べ、芹川の環境調べなどに取り組んでいる。学習のなかでは、植物に詳しい方にゲストティーチャーとして来ていただき、実際の植物を見ながらその特徴やよさについて学びを深め、学んだことをもとに、さらに地域の方々に発信している。

6年生では、文化・伝統に視点をおき、地域の偉人である「井伊直弼公」を取り上げ、湖東焼き体験・茶道体験・華道体験・狂言体験等に取り組んでいる。地域にはこのような昔ながらの伝統文化に精通しておられる方々がたくさんおられ、様々な方にゲストティーチャーとしてお世話になっている。

(3) 国際理解教育の推進

本校はユネスコスクールとして、国際理解教育の充実を図る取組を進めている。今年度は、一昨年度姉妹校提携を結んだオーストラリア・アデレードにあるローズパーク・プライマリースクールの児童との交流会を行った。25名の児童が3日間本校に来校し、子どもたちと共に各学級で生活を送った。その際にはよりよい意思疎通が図れるように、コーディネーターの方に依頼をして、地域におられる英語に精通した方を探していただき、通訳をお願いした。



【ローズパーク・プライマリースクールをお出迎え（通訳ボランティア）】

■ 実施に当たっての工夫

昨年度からの学校行事等については昨年度から地域コーディネーターに紹介していただいているゲストティーチャーや通訳者の方に引き続きご協力いただき、直接学校担当と打ち合わせを図るなど円滑な運用を目指した。

■ 事業の成果

いろいろな活動で、地域の方をはじめ、保護者の方にも支援をいただいている。このことは、本校が重視している地域のなかで、地域の人々と共に学ぶ活動の推進には、とても重要である。特に地域について専門的な知識や、地域に対する愛情・誇りといった面は、やはり地域の方々本人から聞くことが効果的である。今後も、この地域との関係を継続できるようにしていきたい。

■ 事業実施上の課題

本校は、今までの積み重ねの関係で、各学年が支援していただく方と連絡をとり、打合せを行っている。そのため学校全体として、年間を通してどのような内容で、どのような人材が必要になるのか、また担任する学年が変わると、前担任に確認をしないとうまく分からない面が見られる。今までの地域のつながりがよく分かるように、年間を通しての支援計画表を作成する必要がある。

■ 縦割り班で地域から学ぼうとする郷土への愛着心を育てる『ふるさと探訪オリエンテーリング』（城北小学校）

■ 彦根市
■ 活動名
西中学校支援地域本部・城北小学校
■ 関係する学校
城北小学校・西中学校・城西小学校

コーディネーター数	2 人
ボランティア登録数	25 人
開始年度	平成21年度

■ 活動の概要

8：42～8：55 出発式

9：00～ オリエンテーリング（各班並んで5分ごとに出発）

（埋木舎→馬屋→天秤櫓→天守閣広場→黒門） ※半分のグループは逆コース

12：10～終わりの式

子どもたちは、児童会の縦割りグループ毎に、彦根城を訪ね、6年児童から説明を受けて学習する。そのオリエンテーリング中の交通見守りや安全のサポートを行う。

■ 特徴的な活動内容

今年度は彦根城天守閣や埋木舎、馬屋などを縦割り班ごとにオリエンテーリングをしながら巡り歩き、総合的な学習の時間で学んできたことをもとに、6年生が下級生に説明する。全校を24グループに分け、それぞれのグループにボランティアがついて活動をサポートする。

6年生は、事前に歴史ボランティアさんのお話を聞きながら、グループ毎に課題をもって調べ、下級生に対してどのように伝えるかを考え、準備を進めた。

当日は、縦割り班のリーダーとしてだけでなく、歴史学習のガイドとしての役割を担っており、歴史ボランティアさんのアドバイスをもとに、各班が工夫した資料や説明で、班のメンバー（1年生～5年生）に説明を行った。



【説明をする6年生】

■ 実施に当たっての工夫

事前に職員で下見を行い、危険箇所の点検やチェックポイントの確認を行った。その内容を、学校支援地域本部のコーディネーターに伝えた。当日は、学校支援地域本部のリーダーから、児童の活動内容と注意事項をスタート前にボランティアに説明していただき、教師とボランティアと連携して安全確保ができるようにした。

また、ボランティアには安全ベストと安全キャップを渡し、子どもたちから見ても視覚的にわかるようにした。

■ 事業の成果

保護者を含めて30名以上の方々がボランティアとして参加していただき、子どもたちの安全への目配りが大変よくできた。ポイント毎での児童の説明にボランティアの方も頷いたりメモをとったり、子どもに寄り添っていただいた。また、休憩場所では子どもと会話したり一緒に景色を眺めたりする中で自然と交流する姿が見られた。

学校から、見学場所までの安全配慮が十分行えた。ボランティアさんの人数がしっかりと確保できているため、子どもたちへの目配りや気配りが十分に行き届き、活動そのものがスムーズにいく大きな要因となった。



【ボランティアさんと天守閣広場で】

■ 事業実施上の課題

グループ数も多く、時間差をつけて活動を行うため、活動時間や待ち時間等に大きな幅が生じてしまう。前回の反省から、コースを反対からまわるグループを設定することで、かかる時間を半分にすることができた。しかし、ガイド場所での班の回転がゆっくりしていたために、待ち時間が発生し、さらに時間の幅ができてしまった。ガイドポイントの時間の目安はあるが、遅れた場合次のガイドポイントへの移動を早めたり、ガイドの時間を少し短くしたり、終わりの時間をはっきりさせることで、次の活動にスムーズに移行できるような配慮が必要であった。

また、ボランティアには、各班についてサポートをしていただいたが、道路横断時の安全確保などの役割ややり方を明確に伝えておくことも必要である。

■ その他

子どもたちは、話を聴く姿勢や、ルールを守ることなど、よく頑張っていた。天守閣へ上るので、階段の上り下りの注意事項を事前に徹底したり、集合したり整列したりする場面でのリーダーの指示の的確さもよかった。当日は天候がよかったので水分補給を小まめにすることも大切であったし、1年生から6年生まで体力的な差があるので、上るペース配分や休憩のとり方を学ぶよい機会となった。また、同行したボランティアも、子どもたちと一緒に6年生の説明を聞くことで、改めて彦根城のよさや工夫などを知る機会となった。

■ 学校と地域を結ぶSCHOOL SUPPORT (中央中学校)

■ 彦根市
■ 活動名 中央中学校支援地域本部 中央中学校
■ 関係する学校 中央中学校・金城小学校・平田小学校・金城幼稚園・平田幼稚園

コーディネーター数	3 人
ボランティア登録数	約40人
開始年度	平成23年度

■ 活動の概要

本校は現在、上級生になるほど落ち着いた学校生活が送れており、学習や部活動にも意欲的に取り組める生徒が多い。一方、SNSの普及や生活スタイルの変化など多様な要因により、人間関係構築力の脆弱化が問題になっており、本校でも、低学力やいじめ、虐待など多様な問題がある。そのような中、子どもたちを健やかに育むためには、学校と地域、家庭が連携を図り、地域ぐるみで子育ての体制を整えることが大切である。

本事業は、今年度7年目を迎え、地域の多彩な人材を学校教育に活用することで、児童・生徒の学力向上や体験的な学習で成果をあげてきている。また環境整備作業等を行い教育環境の充実を目指している。

■ 特徴的な活動内容

- * 幼小中連携で取り組んでおり、地域コーディネーターと各校の担当者会を年4回設定し各校地域の実態把握、事業計画、予算配分などを話し合い、進捗状態や予算の執行状態、問題点などを話し合っている。
- * 事業の充実を図るため、地域の公民館便りや学校通信などによる広報活動を行っている。

【学校】

- * 体験的な学習を支援するためのボランティアによる授業の補助やゲストティーチャー
中学校では、総合的な学習の時間の職業講話の講師・茶道体験、美術科の作陶体験、家庭科の浴衣体験・沖縄料理教室、社会科の租税教室、体育科の性教育講座などを実施している。
- * 生徒会活動、部活動の支援
花壇整備や美術部の額縁制作などの活動を通して地域のボランティアの方々との触れ合いを行っている。
- * 開かれた学校づくり
毎月20日を参観日に設定し、1日中自由に地域の方にも中学校に来てもらいやすい環境をつくっている。また、PTAでは全保護者が交代で校内の清掃活動を行いながら巡回する見守り活動を行っている。
- * 「ドリームルーム」
平成26年10月スタート。外国籍生徒の希望者に対する学力補充を目的に、理科室で水曜日の放課後に実施している。運営は彦根ユネスコ協会。

【地域】

- * 「登下校時の見守り活動」:
小学生下校時の交通指導の際、中学生に対する同様の声かけや挨拶をして頂き、安心安全を確保している。
- * 「学び育ち教室 (Learning Links (学びの絆) 教室)」
平成25年3月スタート。学びたい気持ちはあるが機会に恵まれない生徒を対象に、中地区公民館で月曜日19:00~21:00に開催している。運営は柴田氏を中心に滋賀大学などの学生や社会人。
- * 「中央中博覧会」
中学生が、各教科や総合の授業で作成した作品を、地域の中地区公民館で一週間展示し、保護者や地域の方に見ていただく。また小学6年生の書写作品も合わせて展示することで、連携を図っている。

■ 実施に当たっての工夫

- * 学校から地域へ、生徒が夏祭りや文化祭などの地域活動へボランティア参加することによる連携
- * 幼・小・中の連携
- * 学校側のニーズの掘り起こし
- * ねらいに適したボランティアの確保のため本事業の認知度を高める広報活動

■ 事業の成果

- 担当者会の設定による連携
幼稚園庭内の古くなった看板を、地域コーディネーターからの依頼で、中学校美術部員が修繕し直し、再設置することができた。
- 体験的な学習の支援の充実
小学校では、稲作体験学習の支援、ふれあい遠足の交通指導、ウォークラリーの支援などが実施された。
- 安心・安全パトロール
登下校時に子どもへの声かけおよび見守りをし、挨拶を交わせる児童・生徒が増えてきた。
- 環境整備
グリーンカーテンの設置・片付け・次年度準備、ペンキ塗り、残土処理、除草作業、体験農園の手入れ、ウサギ小屋の修理、樹木の手入れ・剪定などを実施した。

■ 事業実施上の課題

- 今後、さらに本事業に対する教職員に対する意識を向上させ、授業や行事への計画的な導入を図っていく。
- 地域の協力者を増やし、放課後学習や図書室の常時開館など支援の輪を広げ、活性化を図っていく。



【ペンキ塗りの様子】

■ 心豊かな子を育み、地域とつながる学校づくり（平田小学校）

■ 彦根市
■ 活動名 中央中学校支援地域本部・平田小学校
■ 関係する学校 平田小学校・金城小学校・中央中学校・平田幼稚園・金城幼稚園

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	42 人
開始年度	平成23年度

■ 活動の概要

本事業も6年目を迎え、例年の活動に加え、新しい活動を加えていくことを総会時に話し合い、活動内容を決めてきた。朝の読み聞かせ、環境整備、社会科や総合的な学習の時間の講師や引率、全校遠足の引率、ピアノ伴奏等に加え、新たな活動として今年度から「にこにこ農園」の運営が加わった。コーディネーターをはじめ、ボランティアの皆さんが、学校のことをまず第一に考え活動してくださっている状況である。

■ 特徴的な活動内容

①朝の読み聞かせ

昨年度3名、今年度1名の方が新たに読み聞かせボランティアに登録いただき、合計8名で活動していただいている。本校は11学級あるため、読書活動支援員、教員2名が水曜日の読書の時間にボランティアさんと一緒に読み聞かせを行っている。毎週、いろいろなお話を聞くことができ、子どもたちは興味深く聞いている。

②全校遠足の引率

11月2日（水）にふれあい遠足を実施した。たてわり班の各班に1名ずつボランティアさんについていただくとともに、ペア学年で並んで彦根城まで歩くときに、危険箇所ボランティアさんに立哨していただいている。今年度も17名の方にご協力いただき、安全に彦根城まで往復することができた。

③にこにこ農園

本校には何力所か畑があり、学年で使用する畑を決め教材園として運営している。しかし、児童数の減少に伴い、使用する畑も限られ、使用しない状態のままになっている畑もある。そこで、今年度は空いた畑を利用し、ボランティアさんと一緒に作物を育て、野菜作りを教えてもらう場、一緒に畑仕事をする場として活用することにした。特別支援学級の子もたちと6月初旬にサツマイモの苗を植えた。事前に畑の除草作業、耕すこと、畝を作ることをしていただいた。その後、活動日には除草や周りの畑の整備をしていただき、11月16日にサツマイモの収穫を行った。収穫したサツマイモは特別支援学級の子もたちが袋詰めし、フリー参観の時に保護者に販売した。収益は、3学期のボランティアさんへの「感謝の会」で一緒に食べる給食費用に充てる予定である。



【いもほり】

■ 実施に当たっての工夫

5月の総会で、年間の計画を立て、学期はじめには予定を書いたプリントを、児童を介して配布している。今年度は、「にこにこ農園」の運営をするということで、毎月第2水曜日の活動日以外にも、除草作業や畑の世話に来てくださる方があった。連絡等はできるだけ児童に直接手渡してもらうという形をとっている。

■ 事業の成果

月1回の活動日には、絶えず10名以上参加してくださっている。各自仕事を分担していただき、2時間の活動時間いっぱい、子どもたちを取り巻く環境が少しでも良くなるように仕事を見つけ環境整備に努めてくださっている。子どもたちの中にも、自分たちのために来てくださっているということが分かってきて、自然と挨拶を交わす子も増えてきている。

「にこにこ農園」は、サツマイモの苗を植えることから、草取りや、いもほりを一緒にすることで、ボランティアさんたちとふれあうよい機会となった。収穫したサツマイモを学習参観の日に、保護者に向けて販売した。特別支援学級の子もたちがポスターをかいたり、値札を付けたりと生活単元学習として取り組んだ。サツマイモに付けたお手紙にボランティアさんと一緒に植えたことを書いたことで、学校支援ボランティアとの活動を保護者に知ってもらう機会にもなった。

■ 事業実施上の課題

今年度、学校だよりを通してボランティア募集を行った。毎年少しずつではあるが、登録者数は増えている。しかし、登録を辞退される方も徐々に増えてきている状態でもある。ボランティアさんの人数確保が大きな課題である。また、活動日に来ていただける方も固定化されているため、再度どのような内容なら支援していただけるのか確認する必要がある。来年度に向けて、整備していかなければならないと考えている。

■ 学校と地域の「豊かなつながり」(金城小学校)

■ 彦根市
■ 活動名 中央中学校支援地域本部・金城小学校
■ 関係する学校 金城幼稚園・平田幼稚園・平田小学校・平田幼稚園・中央中学校

コーディネーター数	1人
ボランティア登録数	113人
開始年度	平成23年度

■ 活動の概要

子どもと地域、学校と家庭や地域との「豊かなつながり」をつくり、金城学区全体として子どもたちの教育活動の充実と人権が守られ安全で安心な学校づくりをめざして本事業に取り組んできている。

本事業が開始される以前より、金城学区では、「健やか金城の会」が結成され、子どもたちの健全育成や防犯見廻りなどで、地域の方々に学校を支援していただいていた経緯がある。その活動を本事業につなげて、継続発展して、今日まで取り組んできている。

■ 特徴的な活動内容

① 登下校の安全パトロールと挨拶

金城見廻り隊の方々が、毎日通学路の要所に立ち、登下校の安全を見守り、「おはよう」「おかえり」と声をかけてくださっている。ボランティアの方々と関わる中で、挨拶ができる子どもの育成にもつなげている。

② 学習支援

例年、特別支援学級の大藪かぶらの栽培、3年生の昔のあそびとくらしの学習に、ゲストティーチャーとして支援をいただいている。

5年生の米作りでは、田植えから稲刈りまで田んぼの管理をしていただき、収穫したお米を使った、おにぎりパーティーに招待している。また、校区探検や野外活動時の安全確保の支援もいただいている。

③ 読み聞かせ・影絵

年間を通して、読み聞かせボランティアの方に、水～金曜日に絵本の読み聞かせを、10月の全校集会では影絵を行っていただき、豊かな情操の育成につなげている。また、11月には人権週間にちなんだ講演を企画していただき、子どもたちの人権意識の向上といじめ防止に役立てた。

④ 学習環境の整備

校庭の樹木の剪定を毎年実施していただいている。また、本年度は、掲示板の張り替えや教材園の囲み補修を行っていただくなど、学習しやすい環境整備に取り組んでもらっている。



【おにぎりパーティー】

■ 実施に当たっての工夫

毎月、第3水曜日に定例会を開催し、活動内容の計画と確認を行っている。

また、活動内容を学校通信「金城小だより」やボランティアの活動の様子写真掲示を通して、子どもたちや保護者に伝えるようにしている。ボランティアの方々へは、6年生児童が暑中見舞いのはがきを出したり、PTA行事とタイアップして5、6年生児童が感謝の気持ちをメッセージカードで伝えたりしている。また、PTAとしても音楽会やもちつき大会にボランティアの方を招待し、日頃の活動に対する感謝の意を表すようにしている。



【もちつき大会への招待】

■ 事業の成果

安全で安心な学校づくりの一助になるとともに、生活しやすい学校環境の整備や授業の充実を図る上でも大きな力となっている。

また、子どもの様子を適宜伝えていただいていることから、学校だけでは気付けない実態を知ることができ、子どもの理解と指導に役立っている。

さらには、地域のさまざまな人々によって守り育てられていることを子どもたちが感じ取り、人の温かさや親切に対して感謝する心を育てることもつなげられている。

■ 事業実施上の課題

本事業の取組が、子どもをはじめ、保護者や地域住民に十分に周知されていないことが課題であるため、充実した広報活動に取り組んでいきたい。その取組により、ボランティアの方々のやりがいを高めるとともに、子どもたちに多くの人々に支えられ大切にされていることを気付かせていきたいと考えている。

また、子どもたちが、ボランティアの方々と共に活動したり気軽に話したりする機会を充実させ、互いのつながりをより豊か(互恵的な)ものにしていきたい。

■ 彦根南サポートオフィス6年目の取り組み ～継続は力～（南中学校）

■ 彦根市
■ 活動名
彦根南サポートオフィス・南中学校
■ 関係する学校
南中学校・城南小学校・城陽小学校・若葉小学校・亀山小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	11 人
開始年度	平成23年度

■ 活動の概要

校区内の中学校と4小学校の各地域支援コーディネーターとご担当の先生方で定期的に会議を持ち、活動報告・情報交換と運営について話し合っている。また地域への啓発とボランティアの人材確保を目的とした「ボランティア便り」を発行し、保護者への配布と地域回覧を行っている。

中学校においては放課後学習支援と環境整備を中心に活動をしている。

■ 特徴的な活動内容

放課後学習支援：毎週水曜日の放課後一時間、「水曜ゼミ」の名で受験を控えた3年生を対象に、数学・英語・漢字の基礎プリントの学習をしている。今年度は再び県立大学の学生の方にお手伝いをお願いできるようになり毎週熱心にご指導いただいている。



【放課後学習支援】

環境整備：昨年度より始めたグリーンカーテン作りとグラウンド周りの植木の剪定・除草作業を行った。

■ 実施に当たっての工夫

- ・大学の行事の為にテントを借りて来られた学生の方に学習支援への協力をお願いしたところ、お手伝いいただけることになった。
- ・学校評価委員会に来ていただいた県立大学の先生が教育のご専門だったので、専攻されている学生の方へボランティア募集のチラシの配布をお願いすることができた。
- ・「ボランティア便り」発行に関して、ご担当の先生方と連絡を取り合い、出来る限り各小学校へ出掛けて、活動の様子を直接取材させていただくようにしている。
- ・校区内の事務職員研修会において、2年続けて学校支援事業の説明をさせていただく機会があり、各学校の学校通信を送っていただくようお願いした。校内の様子などがよくわかり、取材のお願いなどしやすくなった。
- ・中学校の先生方に、支援して欲しい事のアンケートを記入していただいた。今年度から次年度へ向けて、ボランティアの確保など準備を進めている。

■ 事業の成果

- ・学習支援ボランティアの学生は、ゼミの後に活動記録を記入し、その日の振り返りをしている。皆さん大変熱心に真面目に取り組んで下さっていて、教師を目指す学生の方に学習指導や生徒と関わる良い経験をしていただいている。
- ・グリーンカーテン作りは、昨年は全面的に彦根中学校でグリーンカーテンプロジェクトを指導されているボランティアの方々のご協力をいただいたが、今年度は保護者や南中OBのボランティアの方に加え、特別支援学級の生徒やサッカー部1年の協力で、植え付けからパイプ作りまで自力で活動することができた。
- ・環境整備については中学生の地域貢献活動に合わせて行っているため、親子で参加して下さる方も多く、3年間続けて協力していただくなど活動の継続に繋がっている。



【環境整備】

■ 事業実施上の課題

- ・校区が広く全戸数も多いため、お便りは回覧のみとなり地域への事業の浸透はまだまだという状態。更に広げていくための工夫が必要である。また小学校へは行きやすいが、中学校に対しては地域の意識が薄いように感じられる。
- ・協議会は各学校のコーディネーターとご担当の先生のみで運営しているため、地域の団体の方との繋がりが薄く、連携を図ることが出来ていない。
- ・保護者が中心のボランティアのため、お子さんの卒業と同時に活動を終了されることが多く、人数が増えない・あるいは減少してしまい、事業開始当初から継続してきた活動が止まってしまうこともある。保護者の立場から地域住民になられてもボランティアの継続をお願いしていかねばいけない。
- ・各小学校でのボランティアの登録数も増え、活動が活発になってきているが、中学校区全体での連携が図れていない。同じ活動をされている方同志の情報交換の場や勉強会などを企画して、中学校区全体でボランティア活動の意識が高まるようにしていく必要がある。

■ 地域が支える教育活動 ～学校と地域で作る子どもの学び～ (城南小学校)

■ 彦根市
■ 活動名
彦根南サポートオフィス・城南小学校
■ 関係する学校
城南小学校・若葉小学校・城陽小学校・亀山小学校・南中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	86 人
開始年度	平成23年度

■ 活動の概要

本校では、主に読書ボランティア、スクールガード（子ども見守り）、学習支援を中心に地域から支援を受けて学習活動の充実を図っている。

■ 特徴的な活動内容

○読書ボランティア

- ・朝のさわやかタイムの読み語り
- ・図書室の本の整理・環境づくり

○スクールガード活動

- ・登下校時の通学路の見回り（安全指導）
- ・下校時の公園等の見回り（不審者対応）



【地域の野菜名人から話を聞く】



【地域の伝統文化・幌踊りを教わる】

○学習支援

・特別支援学級

- 「絆を深めよう」「花を育てよう」「地域に方とふれ合おう」
- ・1年 生活科 「つながりあおう園児と仲良く」「おじいちゃん、おばあちゃんとなかよく」
- ・2年 生活科 「生き物とふれ合おう、育てよう」【写真左】 「町の人と仲よしになろう」
- ・3年 社会科 「もっと知りたい！大好きな私の町」【写真右】 「地域の伝統文化を未来に伝えよう」
- ・4年 社会科・総合的な学習の時間 「地域の住みよい町かんきょう」「やさしい町づくり」「夢に向かって～1/2成人式」
- ・5年 社会科・理科・総合的な学習の時間
「琵琶湖調査隊」「環境博士になろう Kid's ISO 14000」「安全な町づくりプロジェクト」
- ・6年 社会科・総合的な学習の時間 「南中学区の歴史を探ろう」「平和な世界をめざして」「12才の私、未来のわたし」
- ・全校 行事 創立記念集会「ふるさとのよさ再発見 城南学区の今と昔」
- ・委員会 「花いっぱい住みよい町づくり」

■ 実施に当たっての工夫

教育活動への理解をもとに、持続的に協力してくれる中核となる地域の人々と円滑な関係づくりを行うことで、ネットワークをつくり、教育活動が単年で終わることのないように維持していくことを重視した。

■ 事業の成果

○読書ボランティア

朝のさわやかタイムでは、週2回割当ての学級へ読み語りに来ていただいた。紙芝居や絵本など、発達段階に合わせた内容のものを選んでいただいている。また、環境づくりとして、本の整理や掲示物の工夫などを心がけ、子どもたちが少しでも本に親しめるように心がけられている。とりわけ掲示物は、季節に合わせた内容のものを作成いただき、子どもたちも毎回楽しみにしている。今年の生活アンケートからも、読書を好む子の数がさらに増えていることがわかった。

○スクールガード活動

毎日登下校時に見守り活動をしていただいております、子どもたちは安心して学校生活を送ることができています。

○学習支援

学校と学校支援コーディネーターが連絡をとりあい、学習内容に合わせて支援者を探していただいたり進め方を相談したりして活動を進めている。地域の方にさつまいもや花の育て方を教わり、一緒に苗植えをしてもらったり、地域の施設や遺跡、伝統行事について丁寧に教わったり、戦争時の地域や学校の様子を説明してもらったりと、地域の方とふれあい、地域への愛着の心を育む大切な活動になっている。体験的な活動が、子どもたちの実感を伴った学びにつながっている。

■ 事業実施上の課題

学校支援地域本部の活動は、学校にも地域にも定着しつつあり、学習の時期が近づく地域の方から声をかけていただくこともある。学習内容や活動は年間計画にも位置づけている。ただ、現在のコーディネーターの方に中心的な役割を果たしていただいているが、学校が頼りすぎている部分もあり、新しい内容や活動を取り入れるなどの活性化が図りにくい面がある。

■ つなげよう 子どもを育む 地域の力 ～地域の力で学びを深める～ (城陽小学校)

■ 彦根市
■ 活動名
彦根南サポートオフィス・城陽小学校
■ 関係する学校
城陽小学校・南中学校・城南小学校・若葉小学校・亀山小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	75 人
開始年度	平成23年度

■ 活動の概要

地域のよさや歴史、文化に精通されている地域の方々や、専門的な技術をもった方々から、ご指導していただく機会を積極的に設け、地域の方とのふれあいを深めるとともに、本事業による活動を本校の教育活動の特色の一つとして位置づけている。ゲストティーチャーとして子どもの学習に携わっていただいたり、図書ボランティア、水泳の指導、夏休みの算数教室、スキー教室、校外学習の引率補助などにもご協力いただいている。

■ 特徴的な活動内容

第3学年 総合的な学習の時間

「めざせ！城陽はかせ」～わたしたちの町じまん～

自分たちの住む町を紹介するため地域の様子を調べることを通して、子どもたちは自分の家の近所でも意外に知らないことが多いことに気が付いた。そこで、地域の方にゲストティーチャーとして来ていただき、地域について抱いた疑問を解決することとした。

3年生児童の祖父母を中心に、民生委員さんやその他地域のことをよくご存じの方にご来校いただき、各地域毎に質問をしたり、お話を聞いたりして学習を進めた。自分たちが住んでいる町のよさや、住みよい町づくりのための行事について詳しく知ることができた。

また、城陽子どもまつりでは、地域の方を招いて自分たちの学習の成果を発表し、さらに学びを深めることができた。



【地域の方からお話を聞く様子】

全学年 読書活動

地域の方に図書ボランティアをお願いし、図書室の本の整理や、新刊図書が入ったときの本の登録、年中行事に合わせた図書室のデコレーションなどをお願いしている。

また、毎週火曜日8：30～8：40、各学級毎に読み聞かせをお願いしている。子どもたちは読み聞かせを楽しみにしており、読書意欲の高揚につながっている。さらに、春と秋にお話し会を行い、地域の図書サークルの方に読み聞かせをしていただいた。ロウソクを使って部屋のムードを整えたり、大きなパネルを使ったりして読み聞かせをしてくださったので、お話の世界に浸ることができ、想像力を掻き立て豊かな心の育成につながった。



【図書室のデコレーション】

全学年 夏休み算数科補充学習

毎年夏休みには、希望者を対象に、3日間算数科の補充学習を行っている。この時に地域の方にゲストティーチャーとして採点や、個別指導に当たっていただき、効果的に学習できるようにしている。また、近くの県立大学の学生にもボランティアでゲストティーチャーをお願いし、補充学習の成果を高めている。

■ 実施に当たっての工夫

効果的な学習が行えるように、事前に綿密な打ち合わせを行った。また、事後の学習の様子を知らせ、全体を通しての学習のまとめを発表する場として「城陽子どもまつり」を行い、地域の方を招待して成果を見ていただく機会を設けている。

また、「学校だより」を通じて、保護者や地域の方へ発信をしている。

■ 事業の成果

本やインターネット等で調べるよりも、身近な方から直接お話いただくことで、子どもたちは実感を伴った学習をすることができた。また、地域の方々が生徒の指導のために何度か学校を訪問していただくことで、学校とのつながりをより深めることができた。

■ 事業実施上の課題

できるだけ毎年継続して活動が進められるように、ボランティアの確保に努めたい。また、新たな活動を計画するために、様々な教科や領域の地域ボランティアを発掘していきたい。

■ 共に手を取り 共に高まり合う学校支援をめざして (若葉小学校)

■ 彦根市
■ 活動名
彦根南サポートオフィス・若葉小学校
■ 関係する学校
若葉小学校・南中学校・城陽小学校・亀山小学校・城南小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	61 人
開始年度	平成23年度

■ 活動の概要

本校では、主に以下のような学校支援の活動をしていただいている。

- ① 子どもたちが読書に対して興味関心をもつための読み聞かせ活動やオープンスペースにある図書室の環境整理。
- ② 学年栽培活動等の支援を行う花壇・畑の整備活動。
- ③ 昔の遊び(生活科)やミシン・調理実習補助(家庭科)、町探検(社会科)等の支援を行う学習支援活動。
- ④ 校地内の除草作業、枝打ち等の環境整備。子どもたちの登下校を見守るための、スクールガードの皆さんによる安全指導。

■ 特徴的な活動内容

- ・今年度は、県立図書館の方の協力のもと、「図書室のリニューアル化」に取り組んだ。本日をむかえるまでに、学校支援の方にラベルの張り替えや古い本の廃棄の作業をお願いした。毎週火曜日にたくさんの方に集まっていた。当日は、図書室の全ての本を取り出し、本棚を掃除し、見出し箱を並べ図書番号にそって整頓配列するという作業を行った。4年生以上の児童とともに30人近くの学校支援の方に協力をいただいた。図書館の環境を整えることで、より本に親しむ機会を広げている。
- ・また、命の尊さを味わってほしいということで、今年度は全校が畑作業に取り組んだ。耕地を広げるために、学校支援の方に畑作りをお願いした。各学年でマクワやスイカ、キュウリ等植える苗を決め、学校支援の方に植え方等も指導をいただいた。子どもたちは、水やりや草ぬき等の世話を続け、多くの収穫物が得られた。学校支援の方を感謝祭に招いたり、お手紙を渡したりすることで感謝の気持ちを伝えることができた。



【図書室の本の運び出し】

■ 実施に当たっての工夫

- ・今年度は、コミュニティ・スクールの指定を受けたことを契機として、話し合いの機会を多くもつようにした。学校としてのねらいや地域の思いを互いに協議し合うことで、活動内容や子どもへの対応のあり方等話し合いを深められた。また、学期ごとの振り返りも行ったが、課題や成果を出し合う中で、新しい取組を計画し推進するなど活性化につながっている。
- ・さらに、今年度は、コミュニティ・スクールに向けた組織づくりを行った。委員長を頂点に「学習支援」「図書支援」「環境支援」「見守り支援」の4つ組織を置き、それぞれ責任者を置くことで役割が明確となり、学校と地域との連携がスムーズになった。

■ 事業の成果

- ・学校に学校支援の方が入ってくることが自然なことになってきた。主体的に学習に取り組む子どもを育てるという学校の思いと、学校を盛り上げ、子どもたちのために活動したいという地域の思いが相乗効果となり高まり合っている。教職員も、地域人材を活用するという意識が高まるとともに、その教育的効果も認識するようになってきている。
- 子どもたちにとっても、地域の人々の存在を身近に感じるようになり、感謝の気持ちを抱く子どもが増えてきている。



【学校支援の方を招いての感謝祭】

■ 事業実施上の課題

- ・実際に教育活動を進める上では、担任と学校支援との事前の話し合いが重要である。たとえば、家庭科のミシンの単元では、どこまで子どもの支援をするかについては、事前に話し合いの機会をもち共通理解をしておかないと、子どもに学ばせたい力や身につけさせたい力が付けられないことにつながる。学校支援の方からも、どこまで教えてよいのか戸惑うことがあったという声が聞かれた。

■ その他

- ・学校支援のメンバーは年配者が多く、今後何年間も継続して本事業を進めるという点では大きな課題である。特に、在籍児童の保護者の参加が少なく、保護者への積極的な啓発と、保護者を巻き込んだ取組を推進していく必要がある。

■ 地域が支える教育活動の充実（亀山小学校）

■ 彦根市
■ 活動名
彦根南サポートオフィス・亀山小学校
■ 関係する学校
亀山小学校・城南小学校・城陽小学校・若葉小学校・南中学校

コーディネーター数	1人
ボランティア登録数	30人
開始年度	平成23年度

■ 活動の概要

学校地域支援本部地域コーディネーターに、様々な地域学習や教育活動の支援に必要なボランティアを見つけ依頼していただいている。教員のニーズに応じた人材を見つけていただき、教育活動の充実につながっている。

■ 特徴的な活動内容

①栽培活動支援

毎年サツマイモの苗植え・収穫にコーディネーターとボランティアに支援をしていただいている。植え方を丁寧に指導いただいたおかげで、今年も豊作となった。また、学校花壇の花の育苗も手伝っていただいた。育った苗を近隣の施設や地域の独居老人に届ける活動は、本校の伝統となっている。配達は子どもたちが行うが、配達先の多い町はその町のボランティアにお手伝いをお願いした。



【サツマイモ植え】

②家庭科学習への支援

家庭科のミシン学習や調理実習に、ボランティアをお願いした。子ども一人一人への支援が充実し、満足のいく活動となっている。

③学力向上への支援

夏休みに、3年生以上の希望者を対象に学力補充教室（算数教室）を開催している。今年度は、地域の教員OB5名に入っていただき、個別指導に当たっていただいた。



【造り酒屋さんにて】

④ふるさと学習への支援

3年の地域学習や2年の生活科などでも、地域のことをボランティアの方々から詳しくお話をお聞きし、ふるさとへの思いを深めることができています。年度末には、亀山っこ発表会を学校で開催し、お世話になったボランティアの方々を招き、1年間のふるさと学習の成果を披露している。

■ 実施に当たっての工夫

- ・地域コーディネーターを退職教員をお願いしている。学校の事情に精通し、ニーズについてもよく理解していただいている。
- ・担当教職員とコーディネーター打合せを綿密に行っている。どんな人が必要か、どんな内容で支援してもらうかなどについてコーディネーターと十分話し合い、交渉に当たってもらえるようにしている。
- ・毎週金曜日の放課後に定期的にコーディネーターに來校していただき、学校との連絡がスムーズに行えるようにしている。
- ・校内掲示や学校だよりにより、ボランティアの支援を受けている様子を子どもや保護者、地域に発信している。

■ 事業の成果

- ・コーディネーターに学校のニーズにあった人材を発掘していただき、教育活動の充実につながった。
- ・小規模校であるため、教職員の数も限られているが、ボランティアのおかげで安全に行事を実施することができている。
- ・ボランティアから様々な支援を受ける中で、子どもたちは、教職員だけでなく地域の様々な方から支えられていることを実感し進んで挨拶をしたり話しかけたりするなど、自分からかかわりを深めることができています。
- ・支援の必要な行事や学習内容の時期になると、コーディネーターの方から声を掛け、助言をしてくださっている。ゲストティーチャーやボランティアとの連絡役になっていただいていることが、担任の負担軽減につながっている。
- ・お世話になっているコーディネーターは、今年度をもって任務を退かれるが、後任の方を早くから当たり、スムーズに交替できるように引継ぎをしていく。

■ 事業実施上の課題

- ・地域がかかえる問題点として、ボランティアに来ていただいている方々の高齢化があげられる。ボランティアの輪の広がりを目指したいところであるが、難しい面もある。
- ・さまざまな活動場面でボランティアの支援がほしいところであるが、限られた補助金の中、多くの方にきていただくことは難しいのが現状である。
- ・ボランティアの方との事前打合せは担任を中心に行っているが、話の視点が少しずれたり、内容が難しくなったりすることがある。指導してもらう内容についての綿密な打合せが必要である。

■ 地域と学校・生徒で創る地域活動・・・地域のお役に立てる彦中生！（彦根中学校）

■ 彦根市
■ 活動名
彦根中学校区支援地域協議会・彦根中学校
■ 関係する学校
高宮小学校・河瀬小学校・彦根中学校

コーディネーター数	4 人
ボランティア登録数	32人
開始年度	平成23年度

■ 活動の概要

①緑のカーテンプロジェクト

取り組み、3年目。
3教室分のゴーヤのカーテンに取り組む。

②学校行事などに参加・協力

地域コーディネーターに依頼し、各種団体に声をかけていただき、ボランティアを募集。
・長距離遠足の交通指導・給水活動など
・合唱コンクール・体育大会など行事時の駐車場案内
・校地内の環境整備・・・葉刈り、除草作業など

③地域貢献活動への参加協力

自治会長さんに中学生が参加できる行事を報告依頼。
全校生徒に活動を案内し、ボランティアを募る。

④ゲストティーチャーによる特別講義

・助産師による性教育（1年）
・職場体験前のマナー講座（2年）
・放課後の学習支援（3年）
・蘭の栽培講習（特別支援学級）

■ 特徴的な活動内容

☆緑のカーテンプロジェクト

取り組み3年目。なるべく多くの生徒にかかわらせ自分たちの緑のカーテンと意識づける努力をした。

5月上旬：3年生の学年集会で取り組み説明

近隣のビニールハウスで種まき・ポットに移植

中旬：支柱立て・ネット張り・プランターに移植

中旬～ 生徒会環境委員による水やり

休日は、活動中の部活動による水やり

6月以降：地域コーディネーターによる追肥

夏休み：部活動で水やりを分担

10月中旬：ゴーヤの撤去作業

昨年同様に地域・学校・生徒が協力でき、この活動が定着してきた。しかし、今年度はゴーヤの生育があまりよくなく、残念だった。

☆地域貢献活動への参加

「地域にお役に立てる彦中生！」を目指して、地域貢献活動に積極的に参加できる生徒の育成に力を注いだ。

- （1）年度初めに自治会長さんに年間行事やボランティア活動で中学生が参加できるものを報告依頼する。
- （2）報告された活動・行事を生徒に知らせ、ボランティアを募る。
- （3）参加希望の生徒は申込用紙を提出する。
- （4）希望者をまとめて活動団体に参加者名簿を報告する。
- （5）参加要項を作成し、希望生徒に配布する。
- （6）参加生徒は、活動後に報告書を提出する。
- （7）年度末に活動参加の多い生徒を表彰する。

☆放課後の学習支援

週2回学生チューター（2名）と教師が、放課後毎回10数名の生徒と学習をしている。

■ 事業の成果

- ・緑のカーテンプロジェクトについては3年目でもあり、地域や生徒の中で定着してきた。移植や水やり、撤去作業など委員会や部活動、ボランティアなど多くの生徒の参加が得られている。また、今年はゴーヤだけでなく、プランターの花なども地域の人と生徒たちと一緒に移植をしたりし、自分たちの学校を自分たちできれいにする意識が出てきていると思われる。
- ・学校行事である長距離遠足については、地域の理解もあり、給水・交通指導・歩行など積極的に支援して下さる方々も多い。また、生徒たちも地域に守られていることを実感できている。
- ・生徒の地域行事への積極的な参加により地域の中学生の見方が変わり、がんばる中学生の姿を肯定的に見ていただけようになった。一部の地域行事においては、中学生の協力が不可欠となっているものもあり、地域の一員として活動の場が広がってきている。中学生自身も成就感や自己存在感を感じることに繋がっていると思われる。



【花火大会のゴミ箱作製と設置】

- ・ゲストティーチャーについては、小学校・中学校ともに来ていただいている人もあり、生徒や小中でのつながりを知った上での講座をしていただけたのでよかった。

■ 事業実施上の課題

- ・まだまだ、担当者とコーディネーター中心の活動になっており、全職員の意識を高めることが課題である。
- ・今年度2名のチューターを確保して「学習支援」を行っているが、なかなか地域の方で協力していただける人が見つからない。交通の便が悪いこともあり、人の確保が難しい。
- ・地域にはさまざまな技術や職種の支援者がおられることがわかり、今後、さらなる事業の充実が図れるような取り組みを進めていきたい。
- ・本校の地域コーディネーターは、開始当初からずっと引き受けていただいております。高齢化が進んでいる。後任の人選など困難を極めている。

■ 大好き！高宮かぼちゃ踊り ～ 地域のよさを味わう 伝統を受け継ぐ ～ （高宮小学校）

■ 彦根市
■ 活動名
彦根中学校区支援地域協議会・高宮小学校
■ 関係する学校
高宮小学校・河瀬小学校・彦根中学校

コーディネーター数	2 人
ボランティア登録数	80 人
開始年度	平成23年度

■ 活動の概要

高宮地域の伝統である「かぼちゃ踊り」の特徴や雰囲気を感じながら、学級や学年部で楽しく踊る。「かぼちゃ踊り」を通して、地域のよさに気づき、伝統を受け継いでいこうとする態度を育てることをねらいとしてこの活動に取り組んでいる。



【かぼちゃ踊り 運動会にて】

■ 特徴的な活動内容

- ・地域の高宮かぼちゃ踊り保存会の方に来校していただき、かぼちゃ踊りの振り付けを教えていただいたり、実際のかぼちゃ踊りを見せていただいたりして、踊り方を学ぶ。
- ・週末や夏季休業中に地域で行われているかぼちゃ踊りの練習に子どもたちが自主的に参加し、保存会の方や地域の皆さんと一緒に楽しむ。
- ・教えていただいた踊りを運動会で保存会の皆さんとともに披露し、全校、保護者、地域への発表の場とする。
- ・地域の文化祭に進んで参加する子ども多数おり、「かぼちゃ踊り」の発表の場をいただいている。

■ 実施に当たっての工夫

- ・事前の打ち合わせの中で指導者の願いや「地域のよさを学ばせたい」という学習のねらいを明確にすることで、活動がいっそう充実したものになるように努力する。
- ・身内以外の地域の方とのふれあいを通して、子どもたちに、多くの人に支え、見守られ、大切にされているという意識を十分に感じさせる。
- ・地域の方に子どもたちの生き生きとした活動の様子や喜びの感想を伝えることで、より積極的に伝統を受け継いでいくことができるようにする。

■ 事業の成果

- ・1、2年生は、「次は、自分たちが踊るんだ。」という意欲をもって、3、4年生の姿を見ている。また、中学年に兄弟がいる子たちは、自主的に夏季休業中の練習にも参加していた。
- ・3年生では、「いよいよ自分たちの出番。」という気持ちで練習に参加した。休み時間、自分たちで歌を口ずさみながら練習する姿が見られた。
- ・4年生は、昨年の学びを生かし、自信をもって練習に、発表に取り組むことができた。3年生に教える姿も見られ、先輩として立派な態度で学習に臨むことができた。
- ・高学年は、昨年（一昨年）のことを思い出しながら、中学年の演技を懐かしそうにまなざしで見守っていた。また、自然に歌を口ずさんだり、その場で小さく振り付けをしたりする児童が多く見られた。
- ・子どもたちの間に十分浸透している「かぼちゃ踊り」である。緊張感を持った運動会の演技ではあるが、この「かぼちゃ踊り」のときだけは、演技をする子も見ると笑顔いっぱい、グラウンドは和やかな空気に包まれた。
- ・保護者や地域には『「かぼちゃ踊り」は、はじめて…。』という方も数多くおられるが、地域文化に親しみ、伝統を受け継いでいこうとする子どもたちの姿をほほえましいものと受け取り、とても喜んでくださっている。「家で何回も練習するので、わたしまでおぼえてしまいました。」「孫に『教えて！』と言われ、一緒に踊って、楽しい時間を過ごすことができました。」等の声も耳にしている。

■ 事業実施上の課題

- ・子どもたちは、来校していただいたり、練習の場で「先生」として、かかわってくださったりしている方に対しては、感謝や尊敬の気持ちを十分に持ち、表出することができる。反面、学校以外の場や地域では、声をかけていただいてもあいさつや返事ができなかつたり、注意して下さったことを素直に聞いたり反省したりできない子が見られる。今後も自分たちは地域に見守られ支えられているという認識をいっそう育て、地域のどこにあっても自然な態度で感謝や尊敬の気持ちを表せるような子どもに育てたい。



【かぼちゃ踊り 学区文化祭にて】

・直接担当している学年だけでなく、全職員がこの取組の意義を理解し、自らコーディネートできる力を持つ必要がある。そのためには、教師が自ら進んで地域に Outreach、地域のよさに触れ、その情報を広げたり教材化したりすることが大切であると考えている。

■ 地域の力を学校に ～ 地域に根ざす豊かな体験 ～ (河瀬小学校)

■ 彦根市
■ 活動名
彦根中学校区支援地域協議会・河瀬小学校
■ 関係する学校
河瀬小学校・高宮小学校・彦根中学校

コーディネーター数	2 人
ボランティア登録数	70 人
開始年度	平成23年度

■ 活動の概要

本校では、地域の力を学校に～地域に根ざす豊かな体験～を合い言葉に、数年来、学校支援地域本部事業を展開している。毎日の交通指導には、本年度も多くのボランティアさんに児童が安全に登下校できるよう支援いただいている。また、「米作り」「緑のカーテン」「味噌作り」「まちたんけん」「人権のお話」などは毎年少しずつ変化させながら、数年続けての取組となっている。

■ 特徴的な活動内容

「緑のカーテン」「野菜や花の栽培」

4年生では、理科の学習で「緑のカーテン作り」に取り組んでいる。また、1年生から3年生は学年にあわせて生活科や理科で野菜や花の栽培に取り組んでいる。土作りや肥料のこと、植え方、世話の仕方など、よく知っておられる地域の方からお話を聞き、一緒に植え付け等、手伝ってもらった。どの活動においても、知識や技能をもっておられる方から実際に話を聞き、活動することで児童の興味関心も高まり、栽培活動にも力が入った。時折、成長の様子や肥料のやり方、水やりなどの世話の仕方を見ていただき、アドバイスいただけたのも大きな支援となっている。本年度は緑のカーテンの場所を増やし、自分たちが育てたゴーヤの収穫を多くの児童が楽しむことができた。



【緑のカーテン ゴーヤの植え付け】

1、2年生は収穫したサツマイモを使って収穫祭として調理して食べる活動に取り組んだ。調理の際には、地域の方に指導に来ていただいた。保護者の方のボランティアも合わせ、グループに1人ずつ支援していただくことで低学年でも、包丁やホットプレート、コンロを安全に使用して調理に取り組むことができた。自分たちが育て、収穫したものを調理し食べる活動は児童の心に残るものであった。

「食育の指導」

3年生の総合的な学習の時間には、年間を通して食育の指導を行っている。その中で大切にしているのが地産地消である。1学期には近くの店に出かけ地域の野菜についての学習をし、買い物を行った。買い物はグループごとの活動になるため、店内の各所に分かれて支援をしていただいた。2学期には、国語の学習「すがたをかえる大豆」とも関連させ「大豆のひみつ」を調べ、まとめる学習に取り組んだ。本年度は地域の大豆畑を見学させていただき、大豆の育ち方や育てる上での苦労、地域で育てられた大豆がどのように流通し、自分たちの口に入るのかなどを話していただいた。実際に地域に広がる大豆畑でお話を聞き、収穫した大豆を観察させていただいたことで、自分たちの地域のこととして身近に感じる事ができた。



【大豆畑の見学】

■ 実施に当たっての工夫

中学校ブロックで、年度の初めに、コーディネーターの方と担当者で昨年度の反省をもとに今年度の取組について話し合う機会をもった。年度途中にも話し合う機会をもち、後半の活動を確かめた。学校から、今年度の取組として、「まち探検」等の校外での学習における安全指導や「花や野菜の栽培」についての支援のお願いをさせていただき、コーディネーターさんを中心に声をかけてもらい、活動していただいた。また、話し合いは、他校の取組を知る機会になり、活動の参考にできている。

■ 事業の成果

それぞれの活動で地域の方から教えてもらったり、手伝ってもらったりすることで、普段交流することの少ない地域の方とのふれあいが出てきている。ふれあい顔見知りになることで、地域の方から、様々な場面で見守ってもらっているという思いをもつことができてきている。また、地産地消の学習等は地域の新たな発見につながり、自分たちの住む地域の良さに気づき、大切に思う気持ちにつながっている。また、地域に本校の取組を発信する機会にもなっている。

■ 事業実施上の課題

ボランティアさんの固定化、高齢化により、人材の確保が年々難しくなっている。地域には、様々な知識や技能を持った方がおられ、声をかけさせていただくと、喜んでボランティアとして活動していただけることがある。毎年、河瀬学区全戸に「各種学校支援ボランティア」の募集をかけているが、そこで応募いただく方は限られている。活動にあわせて再度保護者の方や、コーディネーターさんを通じて地域の方に声をかけさせていただいたり、毎年の実績から人材バンクとして地域の人材を整理し、学習等に支援いただける機会を増やしていければと考えている。

鳥居本学校サポートオフィスの取り組み（鳥居本中学校）

■ 彦根市
■ 活動名
鳥居本中学校区支援地域協議会・鳥居本中学校
■ 関係する学校
鳥居本小学校・鳥居本中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	200 人
開始年度	平成21年度

■ 活動の概要

○学習支援

実施においては、各教科の学習内容でさらに専門的な知識や作業をゲストティーチャーとして来校していただき授業支援を行った。今年度は、技術・家庭科(家庭)、美術科、総合的な学習の時間、道徳、朝読書、夏・冬休みの補充学習の支援で実施した。

☆2年家庭科(和菓子づくり、郷土料理について：3学期実施予定) ☆3年人権学習(部落問題学習)

☆各学年絵本の読み聞かせ ☆総合的な学習の時間(3年卒業研究、全学年マナー講座)

☆2・3年美術(作陶、茶道体験) ☆夏・冬休みの補充学習

○環境支援

☆グラウンドの芝生の草刈り作業や水やり

■ 特徴的な活動内容

○男鬼森林学習

学区有林(財産区共有山林)の森林整備作業について学習し、植林や間伐作業などを実際に体験することで、森林の保全と有効な活用との調和について理解する。

☆1年…植樹 2年…間伐 3年…活用する

○地域との連携

地域の行事に生徒が参加し、地域活性化の一翼を担っている。

☆宿場祭り ……鳥中ソーランの披露、木材加工品の販売、さんあか巾着の販売

☆学区の運動会…吹奏楽部の入場行進、開会式での演奏 ……中学生が役員として活動

☆学区の文化祭…鳥中ソーラン発表、吹奏楽の演奏、合唱の発表

○さんあかレンジャー

鳥居本中学校のキャラクターとして4年前に生徒より考案された、さんあかレンジャーが、宿場まつりで鳥居本中学校のアピールに歩いたり、あいさつ運動で小学校に行き活躍している。



【男鬼森林学習】



【鳥居本中キャラクターさんあかレンジャーの活躍】

■ 実施に当たっての工夫

鳥居本地区域教育協議会を年3回持つことにし、1学期に地域支援の趣旨・目的を小中で共有し、今年度の活動・役割について確認をした。2学期には中間総括を行い、後半の活動に生かすようにしている。また、3学期には年度末総括を行い、次年度につないでいく。

■ 事業の成果

- ・地域の行事に中学生が参加していく活動があることは、地域と中学生(中学校)がお互いに支え、支えられるという関係づくりにおいて効果があると考えられる。特に、中学生の活動を実際に発信して、地域の方に見てもらおうということが、彼らの励みになっている。また、地域の方も中学生の活動を見て、頼もしく思ったり、身近に感じたり、これからの地域の担い手としての期待感を持たれている。さんあかレンジャーの活躍や地区運動会、宿場まつり、学区文化祭での活動に特に表れている。
- ・学校支援地域本部事業に、鳥居本学区自治連合会や老社会等が積極的に関わってくださり、地域と中学生を結ぶ活動が多く実践できている。特に、地域の高齢者の方に手紙を書き、体育祭への招待も兼ねた取り組みや、3学期には、1年生のお年寄り交流活動を行う予定である。
- ・男鬼森林学習において、3年生がみざらづくりをし、地域の大工さんに支援してもらえた。また、男鬼の木材を加工して宿場まつりで販売できたことが、男鬼の木材の活用という点で成果としてあげられる。
- ・3年前より、補充学習に学習支援として地域の方が教えに来てくださっている。今年度は一人来てくださる方が増えた。地域の人材を活用できたということ、地域の方と生徒とのつながりができたということなどの観点からもよかったと考えている。

■ 事業実施上の課題

- ・学校・家庭・地域の交流が深まることにより、相互の信頼関係が強化され地域ぐるみで子育てをし、地域の活性化を目指し、今後の活動にもつながるよう、改善に努めていきたい。
- ・男鬼森林学習の継続・発展的な運営や、さんあかレンジャーのさらなる活躍の場を考えていくことが大切だと考えている。

「ふるさとに生きる喜びを」地域とつながる体験活動の支援（鳥居本小学校）

■ 彦根市
■ 活動名
鳥居本中学校支援地域本部 鳥居本小学校
■ 関係する学校
鳥居本小学校・鳥居本中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	100 人
開始年度	平成21年度

■ 活動の概要

本校では、教育活動を四つの「喜び」を軸に進めている。その中の一つに「ふるさとに生きる喜び」があり、地域の人・もの・自然を教材にした学習活動を行っている。

1・2年生の生活科のまち探検、自然や生き物との触れ合い、3年生社会科の地域探検、地場産業、3年生以上の総合的な学習の時間の活動、5年生のたんぼのこ体験事業、全校縦割り活動で行うウォークラリー、読書ボランティアによる読み聞かせ（通年）など様々な場面で地域とつながる活動を展開した。

■ 特徴的な活動内容

○1・2年 生活科 「川遊び」

例年5月に1・2年児童が仏生寺町の矢倉川に入ってマスやカニなどをつかむ体験を行っており、本年度も実施した。青少年育成協議会や仏生寺町老壮クラブの方々が、周辺の除草、川へ降りる階段整備など安全な学習の場づくりや、当日の児童の活動支援の他、網や児童がつかんだ魚の運搬まで配慮して下さる。多年度に渡り地域の協力を得て実施している学習であり、児童が鳥居本の豊かな自然や人々の温かな思いに触れる機会として定着している。今年度新たな取組として、中学2年生が活動に参加し、地域の方とともに、小学生の活動をサポートした。



【1・2年 川遊び】

○3年 総合 「鳥居本お仕事名人」

10月・11月、3年生児童が、もの作りをしておられる工場や工房に見学に行く活動を実施した。醤油を製造・販売されている仕事、消火栓を製造・販売されている仕事、また地域の森林生産組合の組合長さんから話を伺う活動を通して、この道一筋でがんばっておられる地域の方の生き方に触れ、その素晴らしさに気づくことができた。

○4年 総合 「矢倉川調査隊」

6月、鳥居本在住の彦根市環境保全員さん3名の協力を得て、学校近くの矢倉川で水生生物による水質調査を行った。きれいな川に棲む水生生物が多く見つかり、身近な川に対する見方を新たに児童もいた。学校の理科室では彦根港湾の水と矢倉川の水、水道水の水質をパックテストで確かめ、矢倉川の水質は、水道水に近く、きれいでいることが分かり、児童はよりその思いを強くした。



【佐和山城跡に立つ】

○5年 総合 「米づくり」

小野町在住の方の支援を得て、5年生は米づくりを行った。支援者の計らいで環境こだわり米「みずかがみ」を育てることとなり、児童は地域の産業である稲作を体験するとともに、環境への配慮についても考える機会となった。また、自然の恵みや地域の方々の尽力に感謝する気持ちをもつことができた。

○6年 総合 「ふるさと鳥居本」

5月、6年生は地域の方から鳥居本の歴史について話を聞いた。中山道を中心に歴史的建造物がたくさんあることを改めて知る児童も多く、地域に対する新たな見方ができるようになった。また、鳥居本お宝発見隊の皆様のご協力の下、11月に佐和山城跡を訪ね、ふるさと鳥居本の歴史について学ぶ機会をもつことができた。

■ 実施に当たっての工夫

活動の事前に担任が協力して下さる地域の方を訪ね、綿密に打合せを行っている。地域の方の思いを大切にしながら、学習のねらいを担任から明確に伝えることが大切である。

■ 事業の成果

地域の人々の協力や支援を受け、全学年で地域の人・もの・自然に触れる体験活動を実施することができた。活動の中で、児童は地域の人々の温かさ、自然の豊かさに触れ、自分のすむ町への親しみや誇りを深めることができた。

■ 事業実施上の課題

地域の豊かな教育力を学校教育に生かせるよう、今後も地域の教材開発を行っていききたい。また、児童から地域への発信を充実し、より児童の主体的な学びを推進したい。

■ 地域に根を下ろした地域協働活動（稲枝中学校）

■ 彦根市
■ 活動名
稲枝中学校区学校支援地域協議会・稲枝中学校
■ 関係する学校
稲枝中学校・稲枝東小学校・稲枝西小学校・稲枝北小学校 稲枝東幼稚園・みづほ保育園・ふたば保育園・ことぶき保育園

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	15 人
開始年度	平成20年度

■ 活動の概要

稲枝中学校支援地域本部事業は、9年目になり各校園の支援活動は充実深化してきているところです。「稲枝はひとつ」の考えのもと、連合自治会をはじめ各種団体を組織する「学校支援協議会」が中心となり地域を挙げて支援を行い、ボランティア活動を展開しています。現在、**中学校区で102名のボランティアの皆さんが「読み聞かせ」をはじめ、登下校の安全、環境の整備、地域学習支援、野菜づくり、学習支援**などに、学校や園の要望に沿いながら、さまざまな活動を展開しています。

■ 特徴的な活動内容

《地域協働活動》

これまで稲枝中学校支援地域本部事業として、上記の6項目について、それぞれの校園で支援活動を行ってきました。そして、6項目以外に地域のいろいろな団体と一緒に下記のような地域協働活動を実施しています。

(1) 中学生による地域貢献活動（稲枝中学校）

毎年、稲枝駅前の環境整備活動の一環として、プランターの花植えを剣道部やソフトテニス部の生徒が行い、その水やりを生徒会の有志が行っています。駅周辺の住民の方だけでなく、稲枝駅を利用する方からも喜ばれ、活動の励みにもなっています。また、稲枝地区全体の夏祭りである「サマーフェスタ in 稲枝」におけるイルミネーションの飾り付けを、美術部、卓球部、バドミントン部、バレーボール部、バスケット部（男子）が、地域のいろいろな団体の方と一緒に、炎天下の中、頑張って作成しました。稲中生を抜きにしては、「サマーフェスタ in 稲枝」は成り立たない現状で大変感謝されています。そして、青少年育成協議会主催の「稲枝地区子どもまつり」は、進路が決まった3年生がぬいぐるみを着て幼児の相手をしたり、お餅つきの手返しを老人から教わったりして楽しいひとときを過ごしています。



【プランターの花植え】

(2) 交流のつどい（稲枝北小学校区）

「地域住民の交流の場・世代間交流の場として、みんなで楽しく遊び・学び・体験交流するとともに、地域のつながり・絆を深める。」を目的に、稲枝北小学校にかかわる各種団体が実行委員会を立ち上げ、園児、小学生・保護者、地域住民が集う「交流のつどい」を実施して5年目となります。ゲームをしたり、紙飛行機などつくったり、幼児向けの遊びコーナーを設けて、参加者全員が楽しむ交流を図ってきました。今年は、稲枝北小学校版ポケモンゴールのウォークラリーや空気砲ボウリングなどを実施しました。

(3) はえみっ子活動

稲枝西小学区では、年5回土曜日に、地域の様々な分野の先達から地域の自然、行事、スポーツなどを親子で学んだり体験する活動を毎年行っています。この活動は、はえみっ子を育てる会（老人会、PTAなど）が主体となって実施しています。毎年、グラウンドゴルフ、もちつき体験は定番であるが、今年度は、生き物教室や木工教室など特別企画も実施しました。



【はえみっ子活動】

■ 実施に当たっての工夫

- ・中学生の地域貢献活動では、事前に生徒会担当の先生や部活顧問の先生との綿密な打ち合わせを実施しています。そして、達成感が感じられるように、その活動の様子を広報で紹介したり、青少年育成町民会議において表彰していただいています。
- ・交流のつどいや、はえみっ子活動では、事前に数回実行委員会を開催し、内容について検討したり、安全面で配慮する事項を共通理解しています。

■ 事業の成果

- ・地域のいろいろな団体と連携しながら事業を実施することによって、地域全体で子どもたちを育もうとする雰囲気広がってきています。また、子どもたちは、地域の人と一緒に活動したり、地域の人から学ぶことによって、地域への愛着感やアイデンティティが育つと期待されます。

■ 事業実施上の課題

- ・子どもたちは習い事やスポーツ少年団活動で、土曜日や日曜日は超多忙化の生活を送っている。しかも、児童生徒は減少しており、事業に参加する子どもや保護者たちを集めるのに工夫がいる。
- ・事業を毎年魅力あるものにして継続していくためには、どんな内容にしていくのかが大きなポイントでもあり、課題でもあります。

子どもたちの学びを豊かにする地域支援活動（稲枝東小学校）

■ 彦根市
■ 活動名 稲枝中学校区学校支援地域協議会・稲枝東小学校
■ 関係する学校 稲枝東小学校・稲枝北小学校・稲枝西小学校・稲枝中学校 稲枝東幼稚園・みづほ保育園・ことぶき保育園・ふたば保育園

コーディネーター数	1人
ボランティア登録数	24人
開始年度	平成20年度

■ 活動の概要

生活科や社会科、総合的な学習の時間を通して、地域の豊かな自然や生活環境、そこに生きる人々について学ぶとともに、地域の方々とのふれあいを通して、子どもたちの学びが豊かになることを目指している。また、特別支援学級における学習支援や、清掃、クラブ活動時の支援活動等、学校生活全般にわたってボランティアの方々の支援を得ている。登下校時の安全指導では、学校との連携を図り、気になる児童に対して声をかけてくださる姿も見られている。

■ 特徴的な活動内容



【ボランティアさんの話を聞く子どもたち】

今年度は、2年生が生活科の学習でボランティアさんの支援を受けることとなった。学級園で栽培していたサツマイモの収穫祭では、石焼き芋作りを行ったが、その際、4名のボランティアに協力していただいた。子どもたちは、これまでに、一人ひとりが植え付けたピーマンやきゅうりなどの夏野菜を収穫しているので、サツマイモの収穫でも喜んで取り組む姿が見られた。

ボランティアの方々は、2年生の子どもたちにわかるように、火起こしの大事な点や、アルミホイルで包んだサツマイモの並べ方などを話して下さり、子どもとともに活動に入ってくさった。子どもたちは、ボランティアの方々とのふれあいを通して、人との関わり方を学ぶことができた。また、地域の方の温かいまなざしに触れることで「わたしたちのために来てくださっている」という感謝の気持ちや「楽しく過ごせる学校を大切にしたい」という愛校心を育てることに繋がっている。

■ 実施にあたっての工夫

隣接する稲枝東幼稚園での焼き芋のボランティアを終えて、2・3日後にまた、小学校へ来ていただくことになった。中学校区としての地域支援が整っていること、また、継続的に支援活動をお願いしていることが、協力体制の確立につながっている。また、活動後は、感想とともにボランティアの方への感謝の思いを綴った手紙を渡すなど、気持ちを伝える工夫をしている。

■ 事業の成果

○ボランティアとして活躍いただいている方が、新たな方を紹介して下さることも多く、学校支援への熱い思いがボランティアの方々の中で受け継がれている。

○従来の学校にありがちだった「垣根」が低くなっており、地域の方々が気軽に学校へ立ち寄って下さっている。

○年間を通して関わって下さる活動が多く、子どもたちの人間関係にまで留意いただくことも多い。子どもたちの気になる言動については学校へ情報を伝えて下さるので指導に生かすことができている。

■ 事業実施上の課題

栽培・環境美化・交通安全・生徒指導等でお世話になっている本事業であるが、まだまだ活動の広がりが期待される。地域コーディネーターの方を介して、1年間の活動や、学期ごとの活動の見通しを関係の方々にできるだけお知らせしていくとともに、活動の場が広がるよう、さらに、連携を図っていきたい。

『ALLはえみ』地域とともに 学びの充実をめざして (稲枝西小学校)

■ 彦根市
■ 活動名
稲枝中学校区学校支援地域協議会・稲枝西小学校
■ 関係する学校
稲枝西小学校・稲枝北小学校・稲枝東小学校・稲枝中学校 稲枝東幼稚園・みづほ保育園・ふたば保育園・ことぶき保育園

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	35 人
開始年度	平成20年度

■ 活動の概要

本校は、田園地域の小規模校であり、周囲には、公共交通機関や公共施設、商店等も少ない。児童の経験、体験も他校に比べると限られている。また、児童数が減少傾向にあることで一つの活動に時間を要したり、授業時間確保のために活動に制限が出たりしている。そんな中でも、様々な体験をさせて、様々な人生観を感じさせることにより、未来を担う人材を育成するのが私たちの役目であると考えている。しかし、子どもたちや職員の人数が少ない分、活動に制限が生じてきた。

そこで、稲枝地区学校支援協議会の協力のもと、地元地域住民の協力を得た教育活動を「ALLはえみ」を合い言葉に、地域と学校が一体となって、子どもたちに様々な体験をさせることにより、人生観を広め、心豊かな子どもを育成したいと考えている。さらには、地域のよさや地域の人の温かさを感じることで、ふるさと「はえみ」を愛する心情を養いたいと願い、本活動に取り組んでいる。

■ 特徴的な活動内容

○地域とともに育てる学校花壇

本校の伝統的な活動であるFBC花壇コンクール。春と秋の学校花壇のための種まき、花の植え替え、草刈り等、主に児童の活動時間に合わせて、地域の支援者に協力を得ている。そして、高学年やフラワー委員会が中心となって育てた花を、子どもたちの自宅や地域の支援者の自宅、地域の施設等に届け、地域が学校で育てた花でいっぱいになるように活動をしている。

○クラブ活動

子どもたちに新たな活動との出会いをさせたいと考え、3年前から地域の支援者に活動協力をお願いしている。近隣にある聖泉大学の学生によるホッケークラブとダンスクラブ、地域の方による工作クラブと茶道クラブを継続して実施した。新たに、室内ゲームクラブにおいて将棋の指導も支援していただいた。活動の内容が前年度に比べ深まったうえ、運動会などでその成果を披露することで、保護者や地域にも発信することができた。

○学習

生活科や総合的な学習の時間では、各学年で地域学習「はえみ学習」を組み込んでいる。2年の生活科「町たんけん」、3年の総合的な学習の時間「地域のお宝探し」「地域の名人・達人」「昔のくらし」、4年の「地域に残るわき水」、5年の「米作り」、6年の「未来の自分を見つめよう」「平和学習」である。それぞれの活動において、地域の支援者に協力をいただき、学習を進めている。子どもたちは地域のことを新たに発見する機会となり、地域の方やふるさとを愛する心情が高まる活動である。

■ 実施に当たっての工夫

学校と地域を結ぶコーディネーターとしては、常に、先生方のニーズに応えられるよう、学年の活動を把握し、共に学習活動を創り上げていくことを意識している。また、子どもたちが、支援をいただく方の顔と名前、支援いただく活動を把握していることを大切に考えている。そこで、1学期には、全校児童と地域ボランティアさんとの顔合わせ会を行っている。さらに、校内掲示板に地域ボランティアの皆さんの写真を掲出し、活動の様子を紹介している。

■ 事業の成果

学校へ来ていただき活動を支援いただく際に、支援者から子どもたちへ話しかけていただいたり、子どもたちから支援者へ話しかけたり、相互の交流が見られる。その中で、地域の話題が出され、今度は、地域で学校の話題が出されるようになり、学校と地域が子どもだけでなく、地域住民を通してつながることになる。そして、また、新たな支援者が増えることにつながり、活動の幅が広がり、これまで知らなかったことやできなかった活動が可能になり、子どもたちの視野が広がった。新たな活動を始めた児童、将来の夢を抱くことができた児童、それぞれにその活動だけで終わらずに、次につながっている。

■ 事業実施上の課題

本校では、支援者をお願いする場合は、稲枝地区学校支援協議会の地域支援コーディネーターを通してお願いしている。地域支援コーディネーターの関わりのある限られた人材の確保しかできないことも多い。本校では、以前からつながりのある近隣の大学や施設、保護者に職員が連絡をして支援者を募っている。しかし、今後、保護者、職員、地域支援コーディネーター等、各窓口となる者が入れ替わっていくことで、本事業の継続的な取組が危惧される。そこで、しが学校支援センターのように支援者バンクの確立をしていくことが必要であるとする。また、年度当初の顔合わせ会は実施しているが、年度終わりに感謝の気持ちを伝える場が設定できていない。子どもたちが、直接、感謝の気持ちを伝える場を設定していきたい。



【秋花の種まき】



【ホッケークラブ】

ふるさとに誇りをもち未来をひらく「いなむらっ子」の育成をめざして（稲枝北小学校）

■ 彦根市
■ 活動名
稲枝中学校区学校支援地域協議会・稲枝北小学校
■ 関係する学校
稲枝北小学校・稲枝東小学校・稲枝西小学校・稲枝中学校 稲枝東幼稚園・みづほ保育園・ことぶき保育園・ふたば保育園

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	45 人
開始年度	平成20年度

■ 活動の概要

本校は、年々児童数が減少の傾向にあり、地域でも、少子高齢化が進み、地域の活性化という点が課題となっている。この地域には、古くからの歴史ある文化や伝統が残っており、それらを何とか後世に伝えたいと考えておられる方がたくさんおられる。そこで、1年生から6年生まで生活科、総合的な学習の時間、音楽科など様々な学習で地域の方に来ていただき、学習を進めている。また、本校の特徴的な行事である「稲村かるたオリエンテーリング」を始め、運動会やマラソン大会等でも、多くの地域に協力していただいている。

■ 特徴的な活動内容

- ①お話タイム（隔週木曜朝8：15～8：30 各教室で読み聞かせ）
 - ・お話ボランティア7名でスタートしたが、さらに途中から一人増え、計8名の方に来ていただいている。
 - ・各学期末には、ボランティアの交流会をもち、本の選び方などを交流している。
- ②環境整備活動
 - ・ひょうたん栽培、米作り、農園づくり、等の支援
 - ・まちづくり協議会の方々による校内環境整備・・・池の清掃、運動場などの草刈り、植え込みの刈り込み、芝生の整備など
- ③各教科学習活動（ゲストティーチャー）
 - ・焼きいも体験（1・2年）、もちたんけん（2年）、米作り（3年）、曾根沼干拓について学ぶ（4年）、琵琶湖の昔と今・フナ寿司体験（5年）地域学習（6年）、詩吟体験、書き初め、百人一首（5・6年）など多くの学習で支援していただいている。
- ④登下校見守り（スクールガードボランティア）
 - ・下学年、上学年の下校時とともに歩いてくださる。スクールガード講習会にも多数参加して下さり、子どもの安全を守る活動に多くの方が協力して下さる。
- ⑤「稲村かるたオリエンテーリング」（平成28年5月20日実施）
 - ・今年で27回目の行事である。稲村かるたに詠まれている自然や文化財などを巡りながら、郷土のよさを知り、自然や文化を愛し、郷土を愛する心をはぐくむことをねらいとしている。今年は甲崎・薩摩・柳川方面を巡った。ポイントでお話をしてくださる方や、子どもたちと一緒に歩いてくださる方が総勢20名ほど来てくださった。



【スクールガード感謝の集い】

■ 実施に当たっての工夫

- ・毎年、ボランティアに来てくださった方を一覧に残し、必要なときすぐに連絡が取れるようにしておく。
- ・オリエンテーリングでは、次年度回るコースでお話していただく方に、前年度の夏休みに教師が研修として話を聞き、来年度に向けて学ぶとともに、ボランティアの方には、次年度のことをお願いしておく。
- ・学区担当のコーディネーターと校内のコーディネーターや教頭が連絡を取り合い、ボランティアが必要なときは、お願いしている。
- ・全校集会や11月のふれあい給食、1月の招待給食などの機会に、児童からの感謝の気持ちを手紙で伝えたり、年賀状を送ったりして児童とのつながりをもつようにしている。

■ 事業の成果

- ・行事や集会などでボランティアさんの紹介をしたり、感謝の気持ちを伝えたりすることで、児童も顔を覚えて、地域で会ったときも挨拶したり地域の行事に参加したりするなど、つながりができてきている。
- ・教科の学習では、お話しして下さる方が、事前に資料を準備して下さり、深い学びにつながり、郷土に愛着を持てるようになってきている。



【稲村かるたオリエンテーリング】

■ 事業実施上の課題

- ・ボランティアの高齢化が進み、次の人にうまくバトンタッチできる時と、なかなか次の人が見つかりにくいときがある。
- ・お話ししていただきたい事柄が、十分伝わっていなかったり、進め方などの打ち合わせがうまくいっていないときがあるので、事前の打ち合わせをしっかりとっていくようにしたい。

■ 近江八幡市における学校支援地域本部の取組

■ 目指す姿

各校園に学校支援地域コーディネーターを配属し、地域住民がボランティアとして学校の教育活動を支援する「学校支援地域本部」を設置して、地域全体で学校教育を支援する体制づくりを確立し、次の3点を柱に事業を展開する。

- ①学校・家庭・地域の教育力の向上
- ②地域の人が社会教育で学んだ成果を活かす場づくり
- ③教員が子どもと向き合う時間の拡充

■ 本年度の活動

- 4月26日（火）事務局会議（学校担当者対象）〔市役所〕
- 4月28日（木）事務局会議（コーディネーター対象）及び委嘱式、情報交換会〔桐原コミセン〕
- 7月27日（水）学校支援メニューフェア in 近江八幡〔桐原小学校〕
- 8月30日（火）コーディネーター研修会（通信の作り方講座・実践編）〔金田コミセン〕
- 10月31日（月）コーディネーター情報交換会（こども園・幼稚園対象）〔市役所〕
- 1月19日（木）コーディネーター情報交換会（小学校対象）〔市役所〕
- 2月17日（金）成果発表会〔桐原コミセン〕

■ 本年度の成果

市内の全ての公立のこども園・幼稚園・小学校・中学校に学校支援地域本部を設置することができた。また、本事業を継続して進めてきた結果、地域の中での理解者が増え、コーディネーター間の連携や情報交換によってボランティアとして協力して下さる方々の活動の範囲が広がりを見せている。

夏休みに開催している「学校支援メニューフェア in 近江八幡」においても、継続して取組んでいることから、より多くの人に認知されることとなった。出展いただいた様々な団体や企業の模擬授業や展示ブースは具体的でイメージしやすいことから、出前授業として活用されている。

■ 今後の課題

本事業の一層の充実を図るため、実施校園に保育所を加えていきたい。また、それぞれが必要としているボランティアの情報交換を行いながら、各校園の状況に合わせた活動の広がりや深まりを探っていききたい。

学校支援メニューフェアについては、様々な情報提供の場と捉え、出展者も参加者もともに納得と満足ができ、生き生きとした子ども達の姿に結びつくようなものにしていきたい。

■ その他

平成23年度から学校・園にゲスト講師を派遣できる「近江八幡人生伝承塾」を組織している。これは、様々な技術や知恵をお持ちの方を講師リストとして登録したもので、各校園で幅広く活用されている。



【メニューフェアでの模擬授業の様子】



【コーディネーター研修会の様子】

■ 地域の宝を学校に！（八幡小学校）

■ 近江八幡市
■ 活動名
八幡小学校支援地域本部
■ 関係する学校
八幡小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	133 人
開始年度	平成24年度

■ 活動の概要

「地域の宝を学校に！」をテーマに本事業を展開して5年目になる。コーディネーターをつなぎ役として、豊かな体験活動や地域資源を生かした特色のある学習の創造を実現するため、ボランティアの方々の協力を得て実践を深めている。その中で、学校と地域、家庭の連携が一層強まり、地域ぐるみで子どもを育てる風土をつくることを目指している。

■ 特徴的な活動内容

今年度、新たにボランティア登録をしていただいた方が13名あり、5年目は133名となった。活動は大きく分けて次の6分野にわたっている。

- ①環境整備…花壇整備、花の植え替え、樹木剪定、生け花、図書事務、テント設営・撤収
- ②絵本の読み語り…1、2年は毎週、3年は隔週、4年は1ヶ月に1回、朝10分間
- ③学習支援…水泳補助、合唱伴奏、ミシン補助、ソーイング補助、ヨモギ団子作り、ピザ作り補助、さつまいも調理補助、おでん作り補助、八幡堀学習、デイキャンプ指導補助、組体操補助、九九聞き取りなど
- ④児童引率補助…校区たんけん、町巡り、八幡山、校外学習引率など
- ⑤クラブ活動支援…家庭科クラブ、日本伝統文化クラブ、卓球クラブなど
- ⑥栽培活動支援…さつまいも栽培、夏野菜作り、へちまの棚作り、大根作り、北之庄菜作りなど



【よもぎ団子づくり（2年）】

■ 実施に当たっての工夫

昨年度から、1階ホール横にボランティアルームを設置し、ボランティアの方と打ち合わせをしたり、活動前後にボランティアの方々に休憩をしたりしていただいている。これにより、ボランティア活動を通して地域の方々自身がお互いにつながりを深めたり、ボランティアの方同士で情報交換・調整をしたりしていただいている。また、活動内容を幅広く知ってもらうため、校内の掲示板を活用して実施内容を紹介したり、地域の方にはコミュニティセンターの掲示板を使って活動の様子を発信したりした。

ボランティアの方々と教職員には「ボランティア通信」を発行することで、他学年の実施内容を互いに知ったり、ボランティアの輪が広がったりすることを目指した。自治会へは、年度の終わりに本事業の活動の報告とお礼を兼ねて文書回覧をしている。年度末にボランティア交流会をもち、6年生を送る会を参観するとともに1年を振り返って成果や課題を確認し合っている。

■ 事業の成果

- ・コーディネーターがきめ細かく動いてくださることで、教員が打ち合わせにかかる時間を短縮できた。九九の聞き取りなど学習支援活動もますますひろがりが出てきた。
- ・ボランティアの方々は支援して下さる中で、子どもと関わる楽しさを味わったり、得意なことが発揮できた達成感を感じたりすることで充実した時間を持つことができた。
- ・ボランティアの方々に学習支援をしていただく中で、教員が豊かな体験活動や地域資源を生かした特色のある学習を創り出すことが比較的容易になった。
- ・子どもたちは、地域のボランティアの方々から学んだり、支えていただいたりすることで様々な人とのふれあいやつながりができ、地域に生活する一人としての自覚が芽生え、地域への愛着が深まった。



【ソーイング補助（5年）】

■ 事業実施上の課題

- ・数年間継続している学習の場合、担任が十分ねらいを把握できずにコーディネーターやボランティアの方に頼ってしまうことがあり、体験後の学習の深まりが見られない場面もうかがえる。本来担任がすべき仕事をコーディネーターにいただいていることがある。
- ・毎年、ボランティアの数や活動時間数が増加しているが、活動の幅を広げるための呼びかけ、継続して取り組むための働きかけを行う必要がある。

■ その他

- ・子どもたち自身が地域の一員としてボランティア活動を行う体験を模索していくことで、さらに地域との一体化が期待できる。

■ 地域とともに豊かな学びをめざして（島小学校）

■ 近江八幡市
■ 活動名
島小学校支援地域本部
■ 関係する学校
島小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	356 人
開始年度	平成23年度

■ 活動の概要

本校区は「重要文化的景観」の第一号に選ばれた水郷など、豊かな自然や史跡に恵まれた地域であるとともに、「ほんがら松明」やヨシ原の保存に地域を挙げて努めるなど、伝統の継承にも熱心な地域である。また、昔ながらのコミュニティの特徴を色濃く残し、学校に対する期待も大きく、学校への支援にも非常に協力的である。そこで、本校教育目標である「ふるさとに誇りをもち、瞳輝く島の子」のもと、地域コーディネーターを中心に、コミュニティセンターとも連携を図りながら本事業を展開してきた。子どもたちの学びをより豊かなものにするための学習活動の支援、学習を効果的に進めるための環境整備、安全な下校のための見守り活動の3つの柱で実施している。

■ 特徴的な活動内容

校区内には、琵琶湖、西の湖、ヨシ原、里山、水田、大規模干拓地等や、由緒・歴史のある寺社仏閣があり、自然環境と人々の生活が深く結びついた地域である。そこで、校区内の恵まれた自然・歴史・文化等の環境を大いに生かし学習活動を進めてきた。

特に「菜の花エコプロジェクト」は、3年生の9月から5年生の4月まで、学年を越えて1年半以上の長いスパンで取り組んでいる。地域の祭で松明を作るときに菜種ガラが必要なため、学校周辺の田畑では菜の花が栽培されており、春には黄色のじゅうたんが広がる。そのように慣れ親しんだ菜種を題材に地域学習と環境学習を兼ねて取り組んでいる。



【4年生 松明づくり】

学 年	実施時期	学習内容
3年生	9月	菜種の種まき 菜種の話
	10月	菜種の植え替え 栽培 → 6月
4年生	4月	菜種の観察（理科） 菜種の風景スケッチ（図工）
	6月	菜種の刈り取り 菜種の種落とし体験
	10月	菜種の搾油体験
	11月	バイオ燃料実験 バイオ燃料でカートを走らせる。 エネルギー・資源の循環学習（他学年へ発表）
5年生	2月	絞った油を使った調理 廃油を利用したキャンドル作り 松明作り
	4月	地域の春祭で松明を燃やしていただく。

■ 実施に当たっての工夫

地域学習（刈り取り、種落とし、菜の花植え、松明作りなど）において、地域のボランティアの方々に年間を通して指導や支援をいただいている。また、環境学習においては、搾油やキャンドル作りは専門的な機関の方に、バイオ燃料作りやカートの試乗は地元の八幡工業高等学校の先生や生徒の方々と連携し実施してきた。また、校舎内の花壇にも菜種を栽培し、理科等の学習とも関連させながら菜種を栽培できるよう工夫している。



【3年生 ヨシまきづくり】

また、学習支援においては、授業者（担任）が学習のねらいや計画をコーディネーターや地域のボランティアにしっかりと伝えることを心がけ、担任自らも積極的に地域に関わっていくように心がけた。

上記の「菜の花エコプロジェクト」の他にも、2年生の「権座（内湖に浮かぶ島）での野菜の栽培と収穫」、3年「ヨシと私たちの暮らし」、5年「ゆりかご水田」など地域の暮らしや自然環境と深く結びついた学習を年間を通して実施している。その際、できるだけ年間を通し同じ方々に支援いただくことで、担任と意思疎通を図りながら学習のねらいに沿った活動が展開できるよう工夫している。

■ 事業の成果

ゲストティーチャーによる実体験をもとにしたお話や、いろいろな道具を使っての体験活動は子どもたちを夢中にさせ、学びを深めることができた。また、人との出会いを通しての地域学習は理解のみだけでなく、人々の生き方や思いにふれ、地域で大切にされてきた伝統や風習を感じ取ることができ、故郷への愛着を育む子どもの豊かな学びにつながっていると感じている。

■ 事業実施上の課題

本事業におけるコーディネーターの支援体制も定着し、お世話になるゲストティーチャーの方々の支援内容も年々充実している。その充実した支援体制の中、いかに子どもたち自身が課題を設定し、協働して主体的な学習を展開していけるかは、授業者の指導力に大きく左右されている。さらに授業者が子どもにつけたい力を明確にし、主体的に授業作りに取り組むことが重要である。

ふるさとの魅力を発信できる子どもの育成をめざし、地域の自然や人材を活かす（沖島小学校）

■ 近江八幡市
■ 沖島のひとと自然から学ぶ 沖島小学校支援地域本部
■ 関係する学校 沖島小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	約 10 人
開始年度	平成 25 年度

■ 活動の概要

本校では、めざす子ども像として、「おもしろいのある子」「きたえあう子」「しまを愛する子」「まなび合う子」を掲げている。沖島の自然や伝統にふれたり地域の人々とふれあったりすることで、郷土を愛する心情を育み、また、交流やたてわり活動を通して、学び合いの経験を積み重ねていきたいと考えている。

その活動の一つとして、地域の方々の指導を受けながら、沖島の自然や特産品を生かした活動を行い、それを実際に食べる取組を行っている。地域の方々から児童へ、高学年から次の学年へと、伝統的な食べ物のよさやその製法、作る喜びなどが受け継がれている。

また、沖島の主な産業である漁業（島民の7割の方が漁業組合に関わっている）も教材として取り入れ、地域の方に協力していただいて、計画的に学習している。他にも、年間を通して野菜作りの指導にも関わっていただいている。沖島小学校においては、地域の方々の協力は必要不可欠であり、地域と家庭、教職員ならびに児童が密接に関わりながら、学習活動を進めている。

■ 特徴的な活動内容

【ふるさと学習】

①沖島の自然から学ぶ

○イバラの葉団子作り・・・学校の裏手のケンケン山に自生するサルトリイバラの葉を採集し、柏餅の葉の代わりに活用している。これは、柏が自生していない沖島で、代用品としてサルトリイバラの葉を用いたことに始まる。他にも、冬イチゴを使ったジャム作りや、校地内の桜の花を使った塩漬けなども行っている。

○お米作り……………昨年度に引き続き、米作りをした。簡易型プールをデイサービスセンター「老喜の里」の敷地内に置かせていただき、お年寄りに田植えや稲刈りなどの方法やコツを教えていただきながら行った。子どもたちは、お年寄りとの交流を喜び、お年寄りも自分の経験を子どもたちに伝えることができ、喜んでくださった。

②地元の産業や伝統文化から学ぶ

○沖島の漁調べ……………今年度取り組んでいる「うみやまかわ新聞」の記事作りのため、沖島の祭りや漁法などについて、地元の漁師の方にインタビューをして、沖島独特の文化や人々の思いについての学習を深めている。

○フナ寿司作り……………総合的な学習の時間に、沖島の漁や漁師について学習したことをきっかけに、その発展として5年前から始めた。地元の漁師の方にニゴロブナを調達していただき、4月にうるこをふくなどして塩切りをし、2月に出荷している。漬けたフナ寿司は学校で保管し、児童が交代で水替えを行っている。

③感謝の気持ちを伝える

○なかよし会……………自分たちで育てた野菜を使って、全校児童が協力をしてカレーなどの料理を作り、お世話になった方々にふるまい、交流を深め、感謝の気持ちを表している。

低学年の児童も、野菜を洗ったり食器を拭いたりするなど、学年に応じた作業を分担して行っている。

○ふるさと集会……………地域の方をお招きして、学習発表会を行う。その際に、地域のお年寄りの方と一緒に、おやつを作って食べるなどして、交流を深めている。

■ 実施に当たっての工夫

- ・地域の方や島内の保護者との連絡調整が難しいことがあった。日頃から地域の方々との交流や連絡を密にすることで、学校の意図することや活動内容について理解していただきやすくなった。また、継続して、通信やHPを活用した情報発信に努めた。

■ 事業の成果

- ・全校児童で取り組む活動が多いことで、異学年交流や教え合いなどが自然に生まれ、児童のつながりが強くなった。
- ・島外から通う児童が年々増加する中、沖島の自然や産業について学び、沖島の特長やよさについて学ぶことは有意義であった。

■ 事業実施上の課題

- ・指導いただく地域の方々の高齢化が進んでいるため、次の世代の人材発掘が求められている。
- ・今後、島内児童が減少するが、地域の方々との連絡調整の面で、島内の保護者の果たす役割は大きい。今後、コーディネーターの役割がさらに重要になる。



【桜の花の塩漬け作業】



【お世話になった方を招いての「なかよし会」】

■ 『学校と地域の両輪で』～地域と協働した学びの充実をめざす～（岡山小学校）

■ 近江八幡市
■ 活動名
岡山小学校支援地域本部
■ 関係する学校
岡山小学校

コーディネーター数	1人
ボランティア登録数	約180名（※登録制ではない）
開始年度	平成22年度

■ 活動の概要

岡山小学校区は、本事業開始以前より地域が学校に対して大変熱心で協力的であり、ボランティアや外部講師の方が、多くの学習に関わっていただいている。このような地域の特性から、ボランティアの登録制はとらず、学校が要望する人材等を地域コーディネーターに依頼し、環境整備や学習支援など学校と地域が協働したさまざまな学習を展開している。

■ 特徴的な活動内容

(1) 出前授業としての学びの協働

「田んぼの学校」、野菜づくりや理科の植物栽培への支援

2年生と5年生の異年齢交流として、営農組合や農業委員やJAの方の支援・協力を得ながら田植え、稲刈りの体験活動をする。また、2年生では、畑や個人の鉢で野菜づくりにも取り組む。地域の「野菜づくり名人」に、土作りや苗の植え方・世話の仕方等のコツを教えてもらい、夏野菜・冬野菜を育て収穫する。2年生の校区探検では、地域コーディネーターの声かけで、畑で作業のようすを見学し、地域の方に質問をしたり説明を聞いたりできるように仕組みをいただき、コーディネーターを介し学校と地域が協働して学びを充実させる。



【2年 野菜名人から教えてもらう】

(2) ふるさと教育としてのフィールドワークを通した学びの協働

4年生が社会科「地域の発展に尽くした人々」の学習を進めるにあたり、総合的な学習の時間として地域に出かけフィールドワークをすることにより、先人の偉業についてより深い学びが進められるようにする。「干拓」が行われた地域で、先人の活躍について語り継いでおられる方から説明を聞き、自分の生活を振り返る。将来にむけて今の自分にできることは何かを考えさせる体験型の学習とする。



【4年 元水茎の干拓の現地で学習】

(3) 安心・安全を学びの基本においた校外学習等の引率・活動補助

6年生の安土歴史学習や2・3年生の校区探検、4年生の元水茎フィールドワーク等の移動の際、交通量が多い場所や交差点などに立ち、安全確保に協力していただく。3学期に、4年生が「琵琶湖一周鉄道の旅」を実施する。班ごとに湖西・湖北の地域から調べたい場所や見学場所等を決め、見学依頼の交渉も子どもたちがして班別に活動するため、地域のボランティアさんの協力を得て実施する。

■ 実施に当たっての工夫

- ・学校支援の実施にあたり、学校と地域コーディネーターの役割を概ね分けている。地域コーディネーターは、主に地域のボランティアの方との調整をしていただき、学校は、外部講師の依頼をしている。
- ・図書ボランティアの方とは、年度当初に打合せ会議や学期ごとに計画の作成をしている。
- ・各学年と地域コーディネーターとの日程調整や学習内容などの打合せをしている。
- ・本校は、学校だよりを学区全戸配布して、支援活動等を適時掲載して地域に発信している。

■ 事業の成果

- ・ボランティアの方が来校されたり、子どもたちが地域に出かけたりした時に、多くの方が教育活動に支援してくださり、子どもたちとのつながりが広がってきた。また、礼状を渡したり、収穫祭などに招待したりして、感謝の気持ちをあらわす取組などを通して、社会性や感謝心が徐々に育ってきた。とりわけ、いろいろな教育活動の中で、地域の同じ方が何度も支援に来ていただくことで、子どもたちも親しみがわき、安心感が生まれてきている。
- ・教員や子どもたちが多くの地域の方々に支えられていることを実感して豊かな教育活動を推進している。

■ 事業実施上の課題

①実施時期の課題について

年度当初に年間計画を立てているが、学習の展開上2学期後半に実施されることが多いために、複数学年が同じ日に実施することが多かった。これは、昨年度からの課題であり、日程調整についてしっかりと共通理解をしなければいけないと痛感した。取り組みやすい時期や曜日があるので、全校的な活動計画を見直し、こまめに日程調整を行う必要がある。

②異年齢交流の取組における人数の限界について

田んぼの学校は、2年生と5年生が取り組む活動として例年行ってきたが、下学年の人数が百名近くになり、指導面で支障が出たため、来年度から5年生のみの活動とする。

■ ふるさと金田のいいところ、みつけた！地域の笑顔がつくり出す学校づくり（金田小学校）

■ 近江八幡市
■ 活動名 金田小学校支援地域本部
■ 関係する学校 金田小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	70 人
開始年度	平成25年度

■ 活動の概要

本校での事業は4年目を迎え、活動内容や時期、実施学年などが定着してきつつある。どの学年がいつ頃体験活動をするかということや、地域のどなたに依頼してどのような内容で実施するかなど、開始当初から変わらず務めてくださる地域コーディネーターのおかげで、打合せ等も比較的円滑に行えるようになっている。

■ 特徴的な活動内容

- ・ 1年「昔遊び・お正月遊び」「音楽鑑賞」
- ・ 2年「おでんを作ろう」
- ・ 3年「金田学区のいいところ」「昔のくらし」「畑ではたらく人々」
- ・ 4年「地域を守る消防団」「蛇砂川の話と現地見学」「紙すき体験～はがきづくり」「福祉体験」
- ・ 5年「田植え・稲刈り」「環境学習」「手縫い補助」
- ・ 6年「国際理解～青年海外協力隊」「ナップザックづくり」「落語に親しもう」「平和学習」



【3年「金田のいいところ」朝恋トマト講義風景】

■ 実施に当たっての工夫

- ・ 講話だけでなく本物を見る、本物に触れる、児童自身が体験できる場づくりに努める。
- ・ 担当学年の主任と地域コーディネーターとの連絡や相談等の時間づくりに努める。
- ・ 地域コーディネーターの人脈を最大限にいかして、新たな講師やボランティアの募集に努める。

■ 事業の成果

その道のプロとして、実際に仕事をされている講師ボランティアの方々の指導を受けることにより、児童は、通常授業では決してできない体験や疑似体験をすることができる。実際に金田学区にお住まいの講師ボランティアにきていただくことで、「人」「技術」「地域」がより身近に感じられるようになった。

本校での事業も4年目を迎え、講師ボランティアの方々も、子どもたちへの指導に慣れてきていただいたように思う。年々講話の内容が「子どもたち向け」にわかりやすく工夫をされ、そのおかげで学習内容はとても充実したものになってきている。

■ 事業実施上の課題

大規模校であるがゆえ、学年単位での事業になったとしても、講師やボランティアには多数の方をお願いする必要があり、その人数を確保し、日程調整をすることが難しい。どの学年も150名を超えるので、より近いところでの講話や、きめ細やかな体験等をしてしまうと、最低2～3回、クラス単位でお願いしようとすると5回、同じ内容でお話していただくことになり、講師ボランティアの方々のご負担が大きくなってしまいます。また、講師やボランティアの方々の高齢化がすすんでおり、昨年に続いてお願いしようとしたときに、体調不良を理由に断られることがある。同様の内容での体験ができるよう、地域コーディネーターとも協力しながら人材確保に奔走することもある。



【5年「田植え」説明を受ける児童】

子どもたちにとって居心地の良い学校環境作りのために（桐原小学校）

■ 近江八幡市
■ 活動名
桐原小学校支援地域本部
■ 関係する学校
桐原小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	113 人
開始年度	平成24年度

■ 活動の概要

- 1 登下校時・昼休み・掃除時間を中心とし「見守り活動」の継続
- 2 桐原っ子メディアセンター、桐原っ子ふれあい街道等を活用した「子どもの居場所づくり活動」、子どもたちにとって「居心地のよい空間づくり活動」
- 3 学習に関する技術支援や講話、資料提供

■ 特徴的な活動内容

- ・ 掃除時間や昼休みなどに子どもたちに声をかけながら校舎を巡回していただいたり気軽に話したりしながら、子どもたちの居場所づくりに関わって下さっていること。



【学習支援 5年家庭科】

■ 実施に当たっての工夫

- 1 「いつ、誰が、どんな支援で来られ、準備物は何か、事前の打ち合わせ方法はどうか」などをボードに示すことで計画的に進められるよう配慮した。
- 2 地域全体に浸透するように、学校だよりやコミュニティセンター便りに地域による学校支援の様子の紹介や支援募集を行った。
- 3 学期ごとに学校支援地域本部事業の様子を紹介する壁新聞を作成し、学校支援の輪を広げる取組を進めてきた。

■ 事業の成果

- 1 桐原っ子メディアセンター、学習テラスを活用した「子どもの居場所づくり」「居心地のよい空間づくり」活動
毎朝、地域の方々が子どもたちと気軽にふれあい、一人になりがちな子どもの相談相手・遊び相手として校舎のいろいろな場所を有効に活用しながら、子どもたちにとって居心地のよい空間づくりに努めていただいている。
図書館教育主任(司書教諭)と連携しながら、図書ボランティアの皆さんが、桐原っ子メディアセンターの環境を整えたり、修理や廃棄手続きの支援をしていただいたりしている。
学習テラスでは、毎月1~2回昼休みに、地域の方が自作の木工パズルやゲームを用意していただき、子どもたちにワクワクした楽しい時間を提供していただいている。さらに、毎学期昼休みに、ザ・ミッションの皆様によるすてきな演奏会を開催し、歌と演奏が桐原っ子ホールに響き、心地よい時間をプレゼントしていただいている。
- 2 昼休み・掃除時間の見守り活動
毎日昼休み、居場所づくりとして地域ボランティアの皆様、学校内や校庭を見守っていただきながら子どもたちへの声かけ活動を継続・展開していただいている。また、掃除の時間も校舎内を巡回し、声かけをしていただいている。見ていただいた子どもたちの様子を職員室にたすきを返却するとともに職員に伝えてくださっている。
- 3 登下校時の見守り活動と交通量の調査
子どもたちの安全・安心の登下校のため、スクールガードの皆様、毎日活動を展開していただいている。また、校舎移転による通学路の変更に伴い、状況に合わせて立ち位置を考え、新通学路の危険箇所などを学校に連絡したりしてくださっている。
- 4 校外学習での見守り・支援活動
6年生の安土・奈良への歴史学習、4年生の日野川フィールドワーク、3年生のまち探検、2年生の駅探検と校外学習などの際に、子どもたちの安全と見学の様子を見守っていただいた。
- 5 家庭科やクラブ活動など様々な学習に関わった支援活動
5年生では、家庭科の裁縫やミシンを使う活動にミシンボランティアとして支援していただいている。また、コンピュータクラブでは、毎回技術指導のため、操作に堪能な方が指導のため補助をしていただいている。他にも子どもたちの活動には多くのボランティアの支援をいただき、ふれあいの中で子どもたちの健やかな成長を支えていただいている。

■ 事業実施上の課題

職員とボランティアの方々との子どもへの指導の線引きが難しいところであると感じている。また、昼休み・掃除時間等の見守り活動の中で、子どもたちのちょっとしたトラブルなどでの指導の場面で、その場での対応が求められるときがあるからである。

今後、コミセン・地域との連携がより深まるよう、組織面を考える必要がある。



【学習テラス 昼休み 木工パズル】

■ 地域の人に支えられ、価値ある体験を継続する（桐原東小学校）

■ 近江八幡市
■ 活動名 桐原東小学校支援地域本部
■ 関係する学校 桐原東小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	152 人
開始年度	平成24年度

■ 活動の概要

5年目を迎え、「教科等への学習支援」「朝の時間や休み時間の充実のための支援」「学校環境を整える支援」を中心に活動を行ってきた。「教科等への学習支援」では、生活科、総合的な学習の時間、家庭科等において学習ボランティアを招き、授業の支援をしてきた。また、「朝の時間や休み時間の充実のための支援」では、月に2～4回、朝読書の時間における読み聞かせや昼休みの手作りおもちゃ広場等を実施した。「学校環境を整える支援」としては、継続的にボランティアの方に来ていただき、図書室の飾りつけや生け花の飾りつけや前庭の花の世話、剪定等行っていただいた。

■ 特徴的な活動内容

5年生では、「白鳥川の景観を良くする会（略称 景観隊）」の方々の支援をいただき、総合的な学習の時間において以下の日程で環境学習を実施した。

- 9月26日（月）白鳥川事前学習（景観隊の方々とお会う。白鳥川の様子や特徴について知る。）
- 10月19日（水）現地学習（白鳥川に行き、景観隊の方々に説明を聞きながら、川に入り、自然や生き物などを観察する。白鳥川の様子や特徴をつかむ。）
- 20日（木）～11月8日（火）
体験したことをもとに白鳥川環境についてまとめる。
- 11月9日（水）発表会（景観隊の方々に招き、自分たちがまとめたことを発表する。）
- 11月10日（木）～16日（水）
景観隊が4月に実施する「白鳥川桜まつり」の桜ボンボリの絵を各自が描く。



【白鳥川の生き物観察と水質調査】

■ 実施に当たっての工夫

- ・現地学習の日と景観隊の方々が集まる日を重ねることにより、より多くのボランティアの方々と触れ合えるようにした。
- ・ボランティアの方々と事前に目標や内容について詳細に打ち合わせを行い、支援のポイントを明らかにした。
- ・実施したことの啓発のため、地域コーディネーターが校長室前のコーナーに掲示物を貼ったり、広報紙を発行したりしてきた。



【景観隊のみなさんによる活動概要説明】

■ 事業の成果

- ・地元のすばらしい自然環境とそれを守り続けている人々の思いに触れることができた。
- ・現地学習を行うことにより、白鳥川を体で感じる事ができた。
- ・ボランティアの方々と学習やふれあいを通して、人との関わりの大切さやすばらしさを子どもたちが感じる事ができた。
- ・子どもたちの中にふるさとの自然を守りたいという意識が生まれてきた。

■ 事業実施上の課題

- ・取組内容が限られてきているので、ふるさとに関わる新しい題材の開発が必要である。
- ・ネットワークをさらに拡大し、ゲストティーチャー等の人材を発掘する。
- ・各学年が価値ある体験活動を行い、学習を深めているので、取組内容を他学年や全校に向けて発表する機会を増やす必要がある。
- ・取組内容を学校外にも積極的に発信するよう努める。
- ・取組に継続性を持たせ、より将来へと繋がるものにすべきである。

■ その他

- ・学校ホームページのブログ集で、学校支援の様子を紹介しています。(URL <http://www.city.omihachiman.shiga.jp/~kirihiiga/>)

■ 地域でともに育てる馬淵っ子（馬淵小学校）

■ 近江八幡市
■ 活動名
馬淵小学校支援地域本部
■ 関係する学校
馬淵小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	50 人
開始年度	平成24年度

■ 活動の概要

本校では、「まごころのある子、ふかく考える子、ちからいっぱいがんばる子」をめざす子ども像として、地域と協働で取り組んで5年目となる。以前から地域の方々の力を借りて教育活動の充実に努めてきたこともあり、今年度は2年目の地域コーディネーターのもと、さらにボランティア活動の充実と新しい支援の方法を考えていくことを中心に取り組んだ。新しい支援の方法をさぐり、新しい人材を発掘し、支援内容の充実が広がることをめざした。

■ 特徴的な活動内容

(1) 年間を通した図書支援とクラブ活動支援

図書支援では、学校司書と協力して「居心地の良い図書室作り」をめざして、本を読む・調べる・ほっとする場という3点を基本にボランティアが、月2回、読み聞かせ・工作教室・整理・廃棄作業などに取り組んだ。

読み聞かせの活動日には、図書委員の子どもたちと一緒にカードにハンコを押して取り組んだ。また、工作教室では、簡単な楽しい工作を本の中から選んで教えた。さらに、廃棄作業では教師と協力して本を選別し、ボランティアが廃棄作業を行うという連携で取り組んだ。また、学校司書の指導のもと図書室が整理・整頓され、あたたかい図書室に生まれ変わった。

クラブ活動支援の「家庭科クラブ」では、夏休みにボランティアが教師と一緒に作品の試作をして、子どもたちが取り組みやすい作品を決め、手順を検討する時間を作った。「昔遊びクラブ」では、米袋エコバック、けん玉、コマ回し等の指導を受けた。また、「囲碁クラブ」では、年間をとおして囲碁の楽しさを教えてもらった。

(2) 各種団体や個人など幅広い人たちの連携による植物栽培支援

4年生の植物を育てる学習では、へちまを育てるための土作りから、支柱立て、ネット張り、収穫、たわし作りなどの一連の作業を実施した。この支援には、老人会、民生委員や地域の様々な方々の支援を受けて連携して取り組んだ。地域の方の熟練した技術を見せていただきながら、力を借りて学習への支援を続けている。

(3) 地域と連携した体験活動支援

1学期に6年生で地域のボランティアの方4名に来ていただき茶道体験を馬淵コミュニティセンターの和室を借りて実施した。室町時代から続く伝統的な日本の文化に触れ、茶道の奥深さから児童は大きな感動を得た。

また、田んぼの学校では、地域の農業委員の方や地主の方からお米作りの工夫と苦労を教えていただき、2年生と5年生で協力して、田植えと稲刈り体験を経験した。さらに、田んぼの日常の管理を教えてもらい2年生ではおにぎりパーティをひびきあい活動で実施し、5年生は家庭科の学習でお米を炊く調理実習を実施した。地域の方から直接教えていただき、学んだことを実践することで子どもたちは自信を持ち、感謝する気持ちを学ぶ大変良い機会となった。

(4) その他の支援

水泳、書道、家庭科学習、ハザードマップ作り、障害のある方の学習（福祉学習）、ビニールハウス見学、干し柿作り、しめ縄作り、獣医師会、京セラ出前授業などの学習支援活動を実施した。

■ 実施に当たっての工夫

ボランティアの活動日には掲示ボードでお知らせをすることで、来校される方や先生方にも認識してもらえるように配慮した。

■ 事業の成果

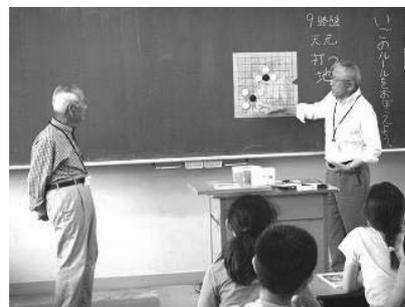
本事業も5年目が経ち、校内でも地域でも周知されてきたのでスムーズに取り組みが進められるようになった。その結果、自宅で教室を開いておられる方が支援してくださったり、退職後の時間をボランティア活動に充ててくださったりする方があり、専門的な内容での支援が可能となった。また、教師自身も専門的な内容に自ら知識を深めることができ、子どもたちは顔馴染みのボランティアの来校を楽しみにするようになってきている。さらに、ボランティア自身は、継続することにやりがいと楽しみを感じてもらえるようになってきて、それぞれが充実した取組となってきた。

■ 事業実施上の課題

- ・高齢化を理由に活動を辞退されるボランティアの方がおられる。そこで、新しいボランティアの発掘のために横の繋がりを広めながら事業を実施する必要がある。
- ・本校は、ほぼ単級なので新年度に担任が変わると前年度の引継ぎが十分なされない場合がある。
- ・顔馴染みのボランティアが支援をしすぎると、子どもたちが頼りすぎる場面が出てきて、子ども自身の力にならないことがある。
- ・専門知識のあるボランティアが増えすぎると、一般の方が遠慮される場合がある。



【読み聞かせ（工作）】



【クラブ活動】

■ 学校と地域が一体となった『地域循環型』の活動に（北里小学校）

■ 近江八幡市
■ 活動名 北里小学校支援地域本部
■ 関係する学校 北里小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	400 人
開始年度	平成21年度

■ 活動の概要

(1) 地域ぐるみのボランティア活動

これまで同様、本年度も北里商業協同組合のご協力を得て、小学校・保育園・幼稚園などへボランティアに来てくださった方々に、北里商店街の買い物補助券（ボランティアポイント）をお渡ししている。学校へ来ていただいた方へのお礼と共に地域商店街の活性化につながる取組としてかなり定着してきたように感じている。

(2) コーディネーターを核として広がるボランティアの輪

北里小学校区を基盤としながら、ボランティア登録はしていないが、本年度も300名を超える方にお世話になった。

本校一部児童の自転車通学支援として地域の自転車屋さんを中心に自転車の無料点検を実施して下さったり、昼休みに手作りおもちゃを運び込んでのおもちゃランドを開いたりして子どもたちのために活動して下さっている。

また、地域探検では、故郷の歴史や史跡の説明など、たくさんの方にガイドしていただいている。

教科の学習支援としても、家庭科のミシン補助や調理実習補助、福祉体験教育のための講師など、これもまた多くの方に来校いただいている。



【3年 地域探検】

■ 特徴的な活動内容

○ 毎週木曜日の読み語り

落ち着いた朝のスタートと学力向上を目指して、全校で朝10分間読書に取り組んでいる。また、木曜日には読書ボランティアグループ[ほんわか]と他に個人で参加していただいている方も一緒に「読み語り」を継続している。12月の人権週間には学校からの要望で、人権に関する内容の読み語りを、学年に応じた本の選定も含めて実施していただいた。読書ボランティアは在校生・卒業生の保護者が中心となって活動してもらっている。また、図書館に勤務されていた専門家が、多いときには週3回図書館の整備をしてくださっている。新刊本の登録作業や、データの定期的なバックアップも担当して下さり、図書館主任と連携しながら、子どもたちを温かく支えてくださっている。その方の姿を見てか、読み語り終了後、図書室の整備をしてくださる方もおられ、徐々にその輪が広がってきている。

■ 実施に当たっての工夫

- 地域商店街（商業協同組合）との連携をはかるなかで、ボランティアポイントを発行し、地域商店街の活性化につながる事業展開を実施していること。
- 地域を基盤とした豊富で多方面にわたる人材を確保することができたこと。
- 人材バンク的なものにとらわれず、適宜必要なボランティアさんに依頼していること。
- 保護者のみならず、学区全体に情報発信していること。

■ 事業の成果

(1) 地域との連携

教育活動に協力いただいた方々に、お礼の手紙や成果物、ボランティアポイントを渡した。昨年度は、6年生が卒業前に「感謝状」を直接届けに行くなどした。ボランティアポイントは北里商店街のみに有効ではあるが、大変好評であった。地域の活性化にも貢献している。

(2) まちづくり協議会との連携

まちづくり協議会の組織の中に、学区の子どもたちに多様な体験活動を仕組んでくださる方々がおられる。もちろん、ここにもたくさんの地域の方々関わってくださっている。この「子ども体験活動部」と学校の支援事業が連携を始めている。

■ 事業実施上の課題

- ・ まちづくり協議会とよりよい連携をとるために、できるだけ多くの教員が「子ども体験活動」に参加し、子どもたちを支援したり活動の様子を見守ったりする必要があると考える。
- ・ 定着してきている活動は教員が直接ボランティアに連絡を取るなどして、コーディネーターの負担を軽減する必要がある。

■ 地域と一緒に、ふるさとのよさを武佐っ子たちに伝えよう！（武佐小学校）

■ 近江八幡市
■ 活動名
武佐小学校支援地域本部
■ 関係する学校
武佐小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	69 人
開始年度	平成21年度

■ 活動の概要

- 地域の方にボランティア登録をお願いし、学校の授業や行事に必要な時に来ていただく。
- ボランティアの特徴は登録時に確認し、学校のニーズに合わせてコーディネーターがつないでいく。

■ 特徴的な活動内容

- 「武佐小学校ふるさと教育」として、地域の文化遺産の紹介や歴史等について、校内や現地で話をしてもらう。
- プールやクラブ活動、家庭科等、少数の教員だけでは一人ひとりに十分に支援できない授業に定期的に参加してもらう。
- 体験的学習で、華道や茶道等文化的で専門的な指導を行ってもらう。
- 警察や郵便局等、官公庁や企業で学校に協力をしていただける所を探し学習に活用する。

■ 実施に当たっての工夫

- 学校支援地域本部事業の年間スケジュール帳を用いて、計画はもちろんのこと、実施後は参加者の名前や人数、反省点なども対応した職員が書き込み、次年度に活かせるようにした。
- 学年や学級の実態に合った支援になるように、先生の思いをじっくりと聞き取る。
- ボランティアの思いや意欲を理解するために、できるだけ直接出会うようにし、自宅を訪問して打合せを行ったり、学校に来られたときには顔を合わせたりするようにしている。
- ボランティアどうしもお互いに話ができるように、ボランティア室を設けて打合せや休憩に使ってもらっている。
- ボランティア便りを作成し、活動の様子を伝え理解が得られるように、ボランティアの方に送っている。

■ 事業の成果

- 「ふるさと教育」を意識して、今年度は地域ならではの事業を多く実施することができた。
- 地域のボランティアの方に学校に来て、児童の支援を行っていただくことで、学校や児童の様子をよく知っていただくことにつながった。
- 地域のボランティアの方と児童が顔見知りや仲良くなることで、地域であいさつしたり声を掛け合ったり、また、地域行事に参加しやすくなるなど関わりが増えた。
- 授業や行事で教員の力だけではできない専門的な支援を行ってもらえる。また、担任以外にボランティアの方が支援に入っただけなので、児童一人ひとりによりきめ細やかな支援ができた。
- 教室内の教科書を中心とした授業だけでなく、実際に見たり触れたりできる体験的な学習を多く取り入れられた。

■ 事業実施上の課題

- 事業の継続した取組によって内容はとても充実してきているが、一度始めた取組を止めることができず、どんどん内容が増えているという現状がある。年度末に事業の見直しを行い、次年度も継続した方がいい取組、改善が必要な取組などと精査し、次年度に引き継ぐことが必要だと感じる。
- 本事業の取組には、地域コーディネーターの果たす役割が大きく、地域コーディネーターと連携して取組を進めていく必要性を感じるが、地域コーディネーターと教員との打合せの時間がなかなか取れない現状がある。



【3年：むしやりんどう保存会のみなさんと】



【6年：中山道 武佐宿フィールドワーク】

■ 学校・保護者・地域ぐるみで子どもを見守り、育てる支援活動（安土小学校）

■ 近江八幡市
■ 活動名 安土小学校支援地域本部
■ 関係する学校 安土小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	135 人
開始年度	平成25年度

■ 活動の概要

教職員が地域コーディネーターと意思疎通を図りつつ、保護者や地域住民と連携を深めながら、地域の人材を学校に招いたり、児童が地域に出向いたりして効果的な学習をしている。地域ボランティアの協力を得ながら、地域のよさを学ぶふるさと学習や体験学習に多く取り組んでいる。

■ 特徴的な活動内容

- ・3年「ふるさと体験」…地域の特産物である、信長ねぎの収穫、ちまき作り、野菜せんべい作りの各体験をする地域学習を行った。
- ・4年「西の湖学習」…地域の方々の協力を得て、和船に乗って身近な西の湖巡りをを行い、環境について学習した。
- ・5年「米作り体験」…田植え、除草、稲刈り、調理という米作りの一連の活動を、ボランティアの方々の協力を得て行った。
- ・6年「茶道体験」…地域の施設の和室で、茶道教室の先生の指導により本格的な茶道体験をさせてもらった。
- ・全校「見守り、あいさつ運動」…日常的に登下校時、学校周辺の交差点で、ボランティアの方々による子ども見守り活動をしてもらった。特に月の初めと中旬の朝には、地域の役員さんとともに6年や児童会の子どもたちも参加して、校門であいさつ運動が行われた。
- ・全校「朝の読み聞かせ」…毎週木曜日、朝読書の時間に、読書ボランティア「によきによきさん」に来てもらって、各学級で読み聞かせをしてもらった。昼休みに、図書室でお話会をしてもらったりもした。

■ 実施に当たっての工夫

- ・教職員が地域コーディネーターと日常的に連絡を取り合い、学年が必要とする地域人材の情報を共有することに努めている。また、地域の人材を招いたり地域に出向いて学習したりする際に、地域コーディネーターから、多くの有益な情報を得ている。
- ・あいさつ運動には、大人だけでなく、6年生を中心に児童会の子どもたちが参加して、朝のあいさつが気持ちよくできるように活動を盛り上げている。
- ・読書ボランティア「によきによきさん」と教職員や地域コーディネーターが日常的に情報交換しながら、子どもが本に親しむ活動を推進している。



【3年ふるさと体験学習（信長ねぎの収穫）】

■ 事業の成果

- ・地域コーディネーターが教職員と連携を密にし、担任の思いや要望を把握することで、適時、適材の地域ボランティアの方々に講師として招いたり、地域での学習に協力いただいたりすることができた。
- ・地域ボランティアの協力を得ながら、地域ならではの体験学習に取り組むことにより、地域のよさを学ぶことができ、ふるさとを愛する子どもの育成につながることができた。
- ・子どもたちが多くのボランティアの方々とはふれあう機会をもつことにより、コミュニケーションが取れるとともに、地域の大人に見守られているという安心感を持つことができた。ボランティアの方々も、体験を通して子どもたちと関わることで、やりがいや生きがいを感じていただいている。



【読書ボランティアの読み聞かせ】

■ 事業実施上の課題

- ・地域のよさや伝統の技などを伝えていただく方の高齢化に伴い、支援者がだんだん減ってきている。地域の新しい人材を発掘し、いかにボランティアの登録者を増やしていくかが課題である。そのためには、学校の様々な活動を通信やホームページ等で広く発信するとともに、情報収集に努める必要がある。
- ・地域ボランティアの方々の思いを聞いたり、ボランティア同士が交流したりする場を設定することも大切である。
- ・コミュニティセンターやPTAとの連携を深め、広く地域住民を巻き込んだ取組を進めていく必要がある。

■ その他

安土小学校（URL）<http://www.city.omihachiman.shiga.jp/~aduso/>

■ 地域の方々に支えられ「ふるさと学習」を深める老蘇っ子（老蘇小学校）

■ 近江八幡市
■ 活動名 老蘇小学校支援地域本部
■ 関係する学校 老蘇小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	19 人
開始年度	平成23年度

■ 活動の概要

子どもたちは、「豊かな自然」とその自然を活かした農業をはじめ様々な「ものづくり」について地域の様々な方々から学び、地域への愛着やほこりを深めてきた。また、「歴史や伝統文化」、「昔の暮らし」に関しても地域の方々の協力で学習を広げるとともに、読書活動の推進を図るため、年間を通しての「読み聞かせ活動」を継続してきた。

■ 特徴的な活動内容

- 「豊かな自然」から学ぶ
 - ・ たけのこ掘り（2年）
 - ・ 西の湖学習、よし灯りづくり（4年）
 - ・ ニゴロブナ稚魚の放流、水生生物調べ、びわ湖揚水機場見学（5年）
 - ・ ピオトープでの学習活動（全学年）
- 「農業はじめものづくりを学ぶ」
 - ・ 野菜栽培（2年）
 - ・ れんこん栽培、養豚場見学（3年）
 - ・ 蜂蜜採取、いちご狩り（4年）
 - ・ 菜の花栽培、油づくり（3、4年）
 - ・ 米づくり体験（5年）
- 「歴史・伝統文化を学ぶ」
 - ・ むかしのあそび体験（1年）
 - ・ むかしのくらし聞き取り（3年）
 - ・ シーサー作り（5年）
 - ・ 安土考古博物館見学、お茶碗製作、お茶会・戦争体験の聞き取り（6年）
- 「学びをささえていただく」
 - ・ くすくすさん読み聞かせ（全校） ・ ミシンボランティア（5・6年）
 - ・ マラソン大会立哨（全校）



【水生生物調べ（5年生）】



【お茶碗製作（6年生）】

■ 実施に当たっての工夫

- ・ 数年来、継続している活動について、学年担当が、そのねらいや目的を明確にもつことを心がけた。
- ・ 学年の発達段階に応じた学習素材を取り上げ、他教科、領域との関連した学習ができるよう構成した。
- ・ コーディネーターが本校での経験が豊かであることを活かし、先々の見通しをもって取り組むようにした。
- ・ 活動内容や子どもの思いを「地域支援だより」や「校長通信」で地域に発信し、感謝の意を伝えるようにした。

■ 事業の成果

- ・ 地域の「ものづくり」について体験を通してながら学ぶことで、それに携わる方々の考え方や生き方に触れることができ、自分を見つめ直したり、地域の将来を展望したりすることができた。
- ・ 「豊かな自然」や「歴史・伝統文化」について何度も地域の方から話を聞くことで、普段から地域の出来事や様子に興味をもつ子どもが増えてきている。

■ 事業実施上の課題

- ・ 子どもの意識や学習の流れを大切にしながら体験学習を組み入れていかないと学びが深まらない。指導者が単元全体の構想を詳細に練っておかなければならない。
- ・ どれも値打ちのある体験や学習であるが、豊富過ぎると子どもが主体的に動いたり、考えたりする時間の確保ができず、体験のみに陥ってしまう場合がある。
- ・ 担任は、コーディネーターとともに活動を組み立てていくが、担任が自ら教材開発、人材発掘していく姿勢をもち、教員自らが地域に愛着をもつよう心がけなければならない。

「地域の方は学校へ、八中生は地域へ」の相互関係を大切に！！（八幡中学校）

■ 近江八幡市
■ 活動名 八幡中学校支援地域本部
■ 関係する学校 八幡中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	100 人
開始年度	平成25年度

■ 活動の概要

地域の人材を学校支援ボランティアとして活躍していただくことで、地域全体で学校を支援するシステムを地域・家庭・学校が連携して構築している。また、地域の教育力の向上を図ることもねらいとしている。主に授業などへの支援活動と「人生伝承塾」を実施している。

■ 特徴的な活動内容

【授業支援ボランティア】

1年被服実習支援（12月～2月） 2年調理実習支援（6月～7月）
 全学年水泳実習支援（6月～7月） 全学年書道（毛筆）実習支援（10月）
 全学年剣道実習支援（11月～12月） 通級支援（9月～11月）

【総合学習支援ボランティア】

1年八幡フィールドワーク支援（10月） 2年職場体験学習交通安全指導支援（11月）

【学習支援ボランティア】

全学年夏・冬休みの補充教室・質問教室学習支援（7月～8月・12月～1月）

【人生伝承塾】・・・1年生

目的を近江八幡に根づく伝統工芸や物産、現代社会を形成する新技術など、近江八幡での「ものづくり」の見聞、体験を深め、「ものづくり」の楽しさ、難しさ、人間が生み出した技術のすばらしさを知る。加えて、生徒が自分の将来や身近な職業について考える機会とし、以下の場所で1月下旬に午後活動をする。

伝統工芸・・・数珠玉加工（株式会社カワサキ）、瓦細工（瓦ミュージアム）しめ縄作り（西川畳店）、布団制作（愛善ふとん店）、看板製作（美十）
 皮革製品（コトワ）、箸の若狭塗り（五十子仏壇）、葦細工（西六商店）パン作り（お菓子司にしかわ）網づくり（川田商店）、巻きずし（ひょうたんや）、水荃焼陶芸の里（陶芸体験）丁稚羊羹（清寿家）
 竹ぼうきづくり（個人）

現代の新技術・・・工業製品（八幡工業高等学校）、工業製品（ポリテクカレッジ）



【調理実習】



【書道実習】

■ 実施に当たっての工夫

- 各コミュニティセンターと連携を密にとり、地域から広くボランティアを募った。
- 地域担当の職員を各学年1名配置し、時間割上に会議ができる時間を設定する。職員室に地域コーディネーターの座席を設け、常に交流がもてるように配慮した。
- 調理実習・水泳実習・書道実習・剣道実習では、授業中の活動なのでボランティアの方がどこまで生徒に接していいのか事前の確認が必要であったため、特に事前の打ち合わせを重視している。

■ 事業の成果

- 実技教科の実習では、教師一人では目が届きにくい（指導が徹底しない）場面が多々ある。各授業に平均3～4人の支援ボランティアの方が来てくださり、生徒にとって効果的であった。また、昨年度生徒指導上困難を伴うケースがあったが、今年度はT対応も取り、ボランティアの方とも良好な関係を維持していくことができた。
- 例年同じ活動を積み重ねている中、新たなボランティアの方も来てくださるようになった。

■ 事業実施上の課題

- ボランティアの方の専用の部屋を確保できず、休憩時間、車の中で休んでもらっていることもある。また、高齢のボランティアの方の中には階段の上り下りが辛いと感じておられる方もあった。
- 猛暑の中での水泳実習では、くれぐれも無理なないようお伝えしているが、ボランティアの方の熱中症等の心配もしている。

■ その他

- めざす地域連携の形として【学校を支援する地域】⇔【地域に貢献する学校】を目指している。八中太鼓の地域での演奏や生徒個々も各学区のイベントにボランティアとして積極的に参加している。また、職員も一人5回の数値目標を立て地域の行事（懇談会・お祭り等）に進んで参加するなど「地域に貢献する学校づくり」を目指している。

■ 生徒が自主的に図書館を利用できる環境作り。来館者数、昨年度比 20%増。(八幡東中学校)

■ 近江八幡市
■ 活動名
八幡東中学校支援地域本部
■ 関係する学校
八幡東中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	9 人
開始年度	平成28年度

■ 活動の概要

- ・生徒たちが昼休みに利用する図書室を、より利用しやすくなるような環境作り。
- ・学校司書(週2回)との協同により、来館者数を増やし、読書への関心を高める。
- ・近江八幡市教育大綱の目標にある「読書環境の充実」の達成。
- ・授業での図書利用を推進する補助。
- ・生徒会図書委員会の活性化の補助。

■ 特徴的な活動内容

- ・学校司書、地域コーディネーターとの連携した活動。
- ・生徒会図書委員会製作ブックスタンドの製作補助。
- ・行事や学習内容に合わせた、特設コーナーの設置。
- ・ブックカバー整備。
- ・書架の整理。
- ・新刊書の受け入れ手伝い。
- ・季節や時期の応じた図書室内、図書館前掲示板、などのデコレーション。



【ボランティアセレクトコーナー】

■ 実施に当たっての工夫

- ・美しさや整頓されているだけの図書室ではなく、学校行事や授業での学習内容を把握し、それに応じた特設コーナーを設置するなどして、現在の生徒の興味や関心に応じた図書館運営を行っている。
- ・生徒が主体となって図書館運営をするために、生徒会図書委員会や放送委員会などと連携し、ボランティアだけの取組にならないように行う。
- ・授業の情報や行事の内容など、教職員との連携をとるために、コーディネーターや学校司書とのコミュニケーションを増やしている。特に、学校司書の来校日と日程を合わせ、一緒に活動している。

■ 事業の成果

- ・図書館開館日を昨年より1日増やしたり、ボランティアおよび学校司書来校日を放送したりするなど、生徒の関心を引く工夫を行った結果、図書館の利用者、貸出冊数とも、7月末現在で昨年度から18%増加した。
- ・図書館の雰囲気向上により、生徒会図書委員会の活動が活発になり、開館日の当番活動や、ブックスタンドの製作など様々な活動を精力的に行うようになった。

■ 事業実施上の課題

- ・今年度は、ボランティアの中に現PTA役員がいて学校との連絡調整がスムーズなのだが、次年度からは不具合が生じることがあるので、定期的な連絡調査委会議が必要である。
- ・直接的な生徒との交流を含んだ活動に発展してこない。生徒との直接的な交流を前面に出すと、ボランティアが集まらない実態がある。
- ・図書ボランティア以外の学校支援の取組になかなか発展してこない。通学見守り隊や、外部講師としての授業なども行いたいのだが、生徒と直接交流することへはかなりの抵抗感があるように思える。

■ その他

- ・ボランティアと教職員だけの取組ではなく、今年度から学校支援地域本部事業としてコーディネーターを配置していただいたり、市から週2回だが学校司書を配置していただいたりしたことにより、より組織的に図書館運営が行えるようになった。また、その成果を問うことにより、学校とボランティアが連携をとり取り組むことができるようになった。



【特設コーナーの設置】

■ 地域とともに子どもを育てる学校支援地域本部事業（八幡西中学校）

■ 近江八幡市
■ 活動名
八幡西中学校支援地域本部
■ 関係する学校
八幡西中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	28 人
開始年度	21年度

■ 活動の概要

本校は「美しく生きる」を校訓にして、思いやりのある生徒、たくましさのある生徒、きびしさのある生徒の育成をめざした教育活動に取り組んでいる。その実現のために地域の人々に協力を願った結果、部活支援、学習支援、環境整備支援、学校行事の支援、ホームページの更新等様々な分野での学校支援活動の輪が広がっている。

■ 特徴的な活動内容

（1）学習支援

1年生の総合的な学習の時間に行っている郷土学習において、聞き取り学習や体験活動の講師として、また人権学習ではそれぞれの学年で、自らの体験や活動を語っていただく講師としてボランティアにお世話になった。さらに昨年度から、定期テスト前に本校の卒業生で教師を目指している大学生を中心に質問教室の学習支援をしていただいているが、今年度はさらに、3年生の放課後自主学習の支援、1年生の数学科・技術科の授業支援もお願いしている。

（2）部活動支援

部活動については、毎年、大きな支援をいただいている。現在、ソフトボール部、テニス部、バレーボール部・軟式野球部で、ほぼ1年をとおしてお世話になっている。これらの部活動のボランティアは練習試合、公式試合にも時間が許せばベンチに入り、指導をしていただいている。技術指導だけでなく、マナーや試合に臨む心構えなど、学校教育方針に沿って指導していただいている。

（3）環境整備支援

例年一般ボランティアとPTAによる環境整備事業を計画的に取り組んでいる。卒業式の花道に使うパンジーなどの苗をプランターに植える活動であるが、今年度はさらに、一般ボランティアと生徒会役員が協働で、花壇とプランターに花の苗を植える活動を行った。

また本校では、学校を支援していただく一方的な取組だけでなく、技術科の栽培分野の学習に桐原学区協働のまちづくり協議会の事業である「花いっぱい運動」の予算をいただき、プランターで花を育て、校区の幼稚園や小学校、子どもセンターなどの施設へお裾分けを行っている。



【「花いっぱい運動」プランターをまち協へ】

（4）学校行事の支援

今年度も、記録用として、入学式をはじめとした各種行事のビデオ撮影や写真撮影をボランティアをお願いしている。ホームページの更新作業も、定期的をお願いしている。

■ 実施に当たっての工夫

（1）学習支援や部活支援など生徒に直接関わることで支援していただく場合、生徒の学力や性格などを理解し行う必要がある。個人情報の取り扱いについては十分配慮を行い、ボランティアにも十分説明をしたうえで実施をしている。

さらに、必要に応じて担当教員とボランティアが話すようにしている。

（2）地域のボランティアに支援をいただくという一方だけの取組でなく、生徒が地域で活動したり教職員が地域に向かう機会を増やすよう取り組んだ。

■ 事業の成果

（1）学校に入っただけボランティアの人数や機会が徐々に増えた。

（2）学校への関心が高まり、理解と協力が増えてきた。

（3）生徒が地域で活躍する行事や機会を自治会や町づくり協議会で作っていただき、生徒が地域で活動する機会も増えてきた。

■ 事業実施上の課題

（1）ボランティアが学校で活動したり生徒と活動する場合、指導のねらいや指導方法について十分打ち合わせをする必要がある。打ち合わせに要する時間の調整や確保が困難である。また、直接生徒に関わって支援をしていた場合、生徒に関する情報を伝える必要もある。個人情報の取り扱いには十分な配慮が必要である。

（2）地域には子どもの健全育成に対して熱心に取り組んでくれた方もたくさんおられる。学校教育に協力の意思を示してくださっている方もいるが、「学校の考えるニーズと地域の支援者の一致」が事業発足時からうまく進展しないという実態がある。また、支援員さんの高齢化が進み、新たな人材の確保が急務である。



【「ボランティアと生徒会の協働花植え」】

■ 地域の力を学校に！！ 学校支援ボランティア（安土中学校）

■ 近江八幡市
■ 活動名 安土中学校支援地域本部
■ 関係する学校 安土中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	57 人
開始年度	平成23年度

■ 活動の概要

本校は学校教育目標として「志高く未来を拓き、豊かにたくましく生き抜く生徒の育成～賢く、豊かに、たくましく、そしてふるさとに愛着と誇りを～」を掲げ、その実現のための1つとして「家庭・地域と共生し信頼と連携が図れる学校づくり」を進めている。以前から本校では、「安土の子は安土で」をスローガンに、さまざまな教育活動の中で地域の方々の協力をお願いしてきた。本事業でも学校支援地域コーディネーターを核として多くの学校支援ボランティアの方々の協力を得て、地域の特色を生かした教育活動を展開している。茶道体験活動、読書活動、環境整備活動等、地域の方々の協力を得て多くの体験活動を実施する中で、生徒たちはいろいろなことを学んでいる。

このように、この事業を通じて地域の方々の目を学校に向け、地域の人材を学校支援ボランティアとして活用することで、家庭・地域と共生し信頼と連携が図れる学校づくりが更に進むことを期待する。

■ 特徴的な活動内容

① 茶道体験活動

安土町は織田信長ゆかりの地として知られ、その信長が茶道をこよなく愛したと言われている。また、信長が茶を点てるのに使ったといわれる湧き水が現在も残っている。そこで、本校では地域学習を兼ねた特色ある教育活動の一つとして、茶道体験を行っている。今年度も1年生全員を対象とした茶道体験教室や希望する生徒を対象とした茶道体験クラブを実施した。また、文化祭「天正祭」には、保護者や地域の方々向けの茶道教室を実施している。



【茶道体験教室の様子】

② 読書活動

本校では朝に10分間の「こつこつタイム」があり、1、2年生は朝読書に取り組んでいる。校区の2小学校でも読書活動が盛んで、小学校からの積み上げの効果もあり、ほとんどの生徒が10分間の読書活動に静かに取り組んでいる。そのような中、月に一度の読みきかせを読書ボランティアに依頼して全学年で実施している。



【読書活動の様子】

③ 環境整備活動

本校には、植栽豊富な中庭があり、またその中には県下唯一の茶室「天正庵」がある。また、校舎周辺には6月頃に見頃を迎える1300本もの紫陽花が植えられている。これらの植栽の剪定・除草作業の支援をいただいている。さらに、必要に応じて他の学校環境整備に関わる支援活動もお願いしている。

■ 実施に当たっての工夫

- ・事業が長続きするためにも各活動の企画・運営すべてを学校支援地域コーディネーターをお願いするとともに、学校支援ボランティアの手配等もすべて担当していただいている。
- ・各活動で、学校支援ボランティアの方に準備から後始末までお願いできることはすべてお願いし、ボランティアの方のできる範囲内で活動を実施しているため、学校の負担は多くはない。
- ・各活動をしっかりマニュアル化することで、毎年同じことがスムーズに実施できるようにしている。

■ 事業の成果

- ・茶道体験教室等は、地域の特色を生かした活動で、生徒の関心を地域に向けることによって地域の良さ等を再発見する機会となっている。
- ・多くの地域の方と触れ合うことで、人との関わりやコミュニケーションを通して、人と関わる礼節などの社会性を身に付けていく。
- ・多くの貴重な体験を通して、教科等では学べない多くのことを学んでいる。

■ 事業実施上の課題

- ・今後、事業が継続し、各活動が充実するためにも学校支援地域コーディネーター、学校支援ボランティアの更なる発掘が大きな課題である。

■ “にこ、キラ、武佐っ子”を育むあったか支援の力（武佐こども園）

■ 近江八幡市
■ 活動名
武佐こども園支援地域本部
■ 関係する学校
武佐こども園

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	15 人
開始年度	平成27年度

■ 活動の概要

- ・こども園の保育・教育に地域の人材を生かし豊かな経験ができるようにする。
- ・温かい人との関わりや地域の自然・行事に触れ、郷土への愛着心を育てる。

■ 特徴的な活動内容

①絵本の読み聞かせ

毎月2回クラスごとに絵本の読み聞かせをする。いろいろな人に絵本を読んでもらいほっこりした楽しい時間を過ごす。5歳児対象に図書館司書によるお話し会を開催している。絵本修理も夏季の貸し出しのない時に行っている。

②栽培活動

園畑で園児が季節に応じた野菜を栽培している。畑を耕す時に肥料の混ぜ方や畝の作り方を伝えたり、野菜の種まきや苗植えの方法を教えたりしながら一緒に植える。さつまいもの収穫時には園児と一緒に芋掘りをしてたくさん芋が収穫でき、共に収穫の喜びを味わうことが出来た。

③行事支援

やきいもや餅つき、食育活動などの行事の補助をする。それぞれの活動について話をしたり、手本を見せたりしながら活動を楽しめるようにしている。

④保育教材作り（布製おもちゃ）

人形の服やままごとのエプロン、乳児の布製おもちゃ等の修理や作成などをする。今年度はピアノカバーの作成もする。布製のおもちゃは温かみもあり乳児の手にもやさしく扱いやすく各クラスからの要望も多い。人形の服がたくさんできたことで着替えをしたがり、人形に触れる機会も増え、以前よりも大切に扱う姿が見られる。

⑤あいさつ運動

毎月1日、15日にあいさつ運動を行っている。園長と一緒に通園門前に立って挨拶をしながら迎える。5歳児も挨拶運動に参加するようになり、保護者への啓発になっている。

■ 実施に当たっての工夫

- ・複数の活動に協力いただいている人もいるので、できるだけ同じ日に設定して参加しやすくした。
- ・保育教材作りの活動は園児と直接かかわることが少ないので、園児が活動の場を見学したり、出来上がった教材をボランティアが保育室に行き直接園児たちに手渡せるようにしたりして、互いの存在を感じられるようにした。

■ 事業の成果

- ・行事支援や栽培活動など、経験豊かな方から指導を受けることで、職員も学び、専門的な知識を得、より関心をもって活動に取り組むようになった。
- ・おもちゃ作りや栽培活動など、職員だけではなかなかできないことに協力をいただき保育環境がよくなり園児の活動がより充実した。
- ・地域の人、様々な世代の人とかかわることを楽しむ園児の姿が見られ、挨拶をしたりお礼を言ったり社会のマナーも自然と覚え身につけることができた。

■ 事業実施上の課題

- ・ボランティア登録人数が少なく、一部のボランティアが重複していくつもの活動に参加している。無関心な保護者も見受けられるが、支援活動に興味があっても、就労のため参加できない保護者もいる。呼びかけてはいるがなかなか保護者に広がっていかないので、子どもの姿などをボランティアだより「武佐っ子クラブだより」などで知らせ、協力者を増やしたい。
- ・協力ボランティアとの日程調整や参加人数把握が難しい。
- ・空き教室がないためおもちゃ作り等の場所の確保ができず職員室での活動となるので活動がしにくい。



【手作りくまさんをどうぞ】



【耕運機ってすごい！】

■ 子どもは地域の宝！ 地域みんなで育てよう！！（八幡幼稚園）

■ 近江八幡市
■ 活動名 八幡幼稚園支援地域本部
■ 関係する学校 八幡幼稚園

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	219人 (登録制はとっていない)
開始年度	平成27年度

■ 活動の概要

- ・ ボランティアは保護者、地域の方々を始め、専門的な分野で活動しておられる方々など、コーディネーターが核となりネットワークを広げている。
- ・ 園のニーズに応じて地域の方のもっておられる力を保育に取り入れることで、子どもたちの経験の幅を広げ、より楽しい園生活が送れるようにしていく。
- ・ 具体的には、①3歳児保育支援 ②栽培活動支援 ③環境づくり（芝生植栽活動等） ④歌唱指導 ⑤江州音頭指導 ⑥保育教材作り（人形の布団等）の活動に取り組む。

■ 特徴的な活動内容

○芝生植栽活動

PTA事業「にこにこ家族ひろば」の一環として取り組んだことで、幼稚園の親子が多数参加し開催できた。また、地域の少年サッカーチーム、八幡中学校ソフトボール部等も一緒に作業をしてくださった。幼稚園・家庭・地域が一体となり実施でき、実りある活動となった。現在、園庭一面に芝生が広がり、子どもたちがのびのびと活動でき良い環境となった。

○栽培活動

園児の祖父母とさつまいもの苗植え、収穫を一緒にする。子どもたちは、やり方を教えてもらったり、一緒に収穫を喜びあったりすることで、友達のおじいちゃんおばあちゃんに親しみをもち、交流ができた。

○江州音頭指導

ゲストティーチャーを迎え参観日に親子で指導をしていただき、運動会の当日、はちまん江州音童のメンバーもご参加いただき親子で江州音頭を踊った。初めて、江州音頭を踊る方もあり、地域の伝統文化に親しむ機会となった。

■ 実施に当たっての工夫

- ・ コミュニティセンターや園の保護者が集まる機会にチラシを配布したりして、地域から広くボランティアを募った。
- ・ 活動の内容をまとめたお便りを保護者向けに発信し、関心を持ってもらえるようにした。
- ・ 活動の時間を降園時間の1時間前に設定したり、保護者ボランティアが気軽に無理なく参加できるようにした。

■ 事業の成果

- ・ 初めての集団生活を送る3歳児にとって、地域の人たちにかかわってもらうことで安心して幼稚園生活を過ごすことが出来た。
- ・ 地域の行事等に参加することで、子どもたちが地域に関心や親しみを持つことができた。（松明太鼓見学、文化のつどい参加等）
- ・ 地域の方とのかわりのなかで、子どもたちは「ありがとう」「こんにちは」等の言葉を交わしている。感謝の気持ちや社会のマナーが自然に育つ機会となっている。

■ 事業実施上の課題

- ・ 活動に参加してくださるボランティアが固定化しないよう、現在活動して下さっているボランティアの方々を中心にしながら支援ボランティアの参加拡大を図る。また、少しでも多くの方が参加してもらえるよう時間帯の設定等を工夫する。
- ・ 園の行事と支援して頂ける事業をうまくかみあわせ、有効な人材活用ができるようにする。



【芝生植栽活動】



【人形の布団づくり】

■ 地域の子どもは地域みんなで育てる（岡山幼稚園）

■ 近江八幡市
■ 活動名 岡山幼稚園支援地域本部
■ 関係する学校 岡山幼稚園

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	35 人
開始年度	平成25年度

■ 活動の概要

- ・「地域の子どもは地域で育てる」という岡山学区民の思いを大切にしながら、幼稚園・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てていこうという目的で事業を進めている。

■ 特徴的な活動内容

- ・幼児教育の充実のために地域の方々力が発揮できるような活動を中心に計画し取り組んだ。
 - ① 保育支援・・・3歳児の入園当初の生活支援・プール遊び、給食時の見守り支援
 - ② 環境整備・・・プランターの花苗植え、植え方指導・樹木の剪定・野菜栽培指導
 - ③ 託児支援・・・保育参観や保護者が参加する園行事の時の託児
 - ④ 保育参加・・・地域の方をゲストティーチャーとして迎え特技披露と指導

■ 実施に当たっての工夫

- ・地域の会議で活動を周知し、コミュニティーセンターだより、園長だより、クラスだより等で活動の報告をしている。

■ 事業の成果

- ・「地域の子どもは地域で育てる」という岡山学区民の思いがあり、とても協力的で幼稚園事業を進めることができる。
- ・初めての集団生活を送る3歳児にとって地域の人たちにも関わってもらうことで安心して幼稚園生活を過ごすことができた。今年度は特に4月初めの保育支援を延長していただき、ボランティアの方の温かさを子どもたちも職員も十分感じることができた。
- ・地域に人材が豊富で毎年恒例になっているコマ回し教室や折り紙教室に加えて、あやとり教室、わらべうた教室等いろいろな特技を持っておられる方々に丁寧に子どもたちと関わっていただくことができた。各教室とも単発で終わることなく定期的に継続した取組になったことで子どもたちもゲストティーチャーにあこがれたり、活動への意欲をもったりすることができた。
- ・地域の方々に幼稚園に来ていただくことで子どもの姿を知っていただくことができた。また地域の方々の子育てへの思いや地域での子どもの様子を知る機会にもなっている。
- ・毎年恒例になっている事業も多く地域の方が幼稚園に来るのを楽しみにしてくださっており、互いによい関係作りができていと感じている。

■ 事業実施上の課題

- ・継続的に地域の方に幼稚園に来ていただくことができたが今後はさらに人材を発掘しいろいろな方に参加していただきたい。そのことで子どもたちの興味関心が高まり人とかかわり、感謝の気持ちを育んでいきたいと思う。



【 3歳児 保育支援 】



【 4歳児 あやとり教室 】

■ 保護者・地域の豊かな人材を保育活動のなかに・・・(金田幼稚園)

■ 近江八幡市
■ 活動名 金田幼稚園支援地域本部事業
■ 関係する学校 金田幼稚園

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	30 人
開始年度	平成23年度

■ 活動の概要

- ・年度当初にボランティアを募り、支援の内容を登録する。
- ・手作りのおもちゃや絵本の読み聞かせ、栽培活動、地域の人や自然とのかかわりを通して園の教育目標である「キラッと輝く金田っ子」へのお手伝いをする。
- ・前年度より引き続きのところは、コーディネーターが連携をとり、園の活動に合わせてつないでいく。

■ 特徴的な活動内容

○保護者・地域ボランティアの協力

- ① 絵本の読み聞かせ・・・週1回、学年ごとの読み聞かせ。子どもたちも楽しみにしており、保護者や年配の方々の温かさを感じられる。
- ② 畑の活動・・・さつまいも、玉ねぎ、大根、苺などの苗植えや種まき・収穫など、一年を通して畑作りや作物の世話など支援していただいた。子ども達は、やり方を教えてもらったり、一緒に収穫を喜び合ったりする事で、友だちのおじいちゃんに親しみをもち、交流も広がった。
- ③ 木工活動・・・子ども達が気持ちよく安全に過ごせる環境にと、廊下の壁にフックを設置して下さった。また、楽しく遊べるようにと竹ぽっくりや長椅子なども作っていただき、交流を深めている。
- ④ 栗林での栗拾い・・・地域の方のご厚意で、毎年栗拾いをさせていただいている。栗林が園のすぐ近くにあるため、栗の生長を観察することができ、良い経験をさせていただくことができる。このことを「おじいさんのくりばたけ」と題して紙芝居もでき、地域の人との温かいかわりが子ども達を豊かに育てることにつながっている。尚、この方は、今年度、市の「教育功労賞」を受賞された。
- ⑤ 園外保育・・・篠田神社の花火やホタルの話の聞いたり、コスモス畑で遊ばせていただいたりしている。他にも学区内の保育園や、八幡工業高校の生徒さん、独居老人の方々など、様々な方たちとの交流をしている。
- ⑥ その他・・・日本舞踊・お茶・文化琴など、日本文化に触れる。

■ 実施に当たっての工夫

- ・絵本の読み聞かせや手作りのおもちゃなどは、一緒に作業したり遊んだり会話したりする事で、わくわく感や感謝の気持ちが持てるように考えた。

■ 事業の成果

- ・栽培活動では、畑作りから苗植えや種まき、収穫まで指導していただいた。子ども達も頑張って除草や水やりをして収穫の喜びを一緒に味わうことができた。また、様々な方と接する事で、相手に子どもパワーを与えたり、逆にパワーをもらったりして、子ども達の笑顔が増えたと思う。
- ・ひとつの事業をするのに、たくさんの方が関わってくださった。

■ 事業実施上の課題

- ・年度当初にボランティアを募ったが、もう少し細かく分かりやすい内容になるよう心がける事と、一回きりではなく必要に応じて募集していくのもいいのではないかと考えた。



【ひとり暮らし老人の方々との交流】



【地域の方からいただいた竹で竹ぽっくり作り】

■ つながりを深め 育ちを見守る応援隊（桐原幼稚園）

■ 近江八幡市
■ 活動名
桐原幼稚園支援地域本部
■ 関係する学校
桐原幼稚園

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	40 人
開始年度	平成25年度

■ 活動の概要

①子どもたちが野菜を育てる園庭の下準備（土を耕す・畝を作る・マルチをかける）やプランター・花壇などへの花苗植え、低木の葉刈り、夏場のグリーンカーテンの設置・撤去のお手伝いなどの環境整備、②PTA総会・講演会・運動会前日準備の際の託児支援、③絵本の読み聞かせ、④入園直後の子どもたちへの保育支援、⑤お誕生会などで子どもたちに見せるためのパネルシアターの作成や布おもちゃ作りをする手芸、大きく分けると5つの活動からなる。

また、本事業をより多くの方に広め、活動に参加してもらうために、月に一度「ボランティア通信」として、活動内容や成果をのせたお便りを作成・配布している。コミュニティセンターにも掲示し地域の方へも活動を発信している。



【 砂場掘り起し、ふわふわになったよ！ 】

■ 特徴的な活動内容

- 園庭の畑の下準備の作業では、地域ボランティアの方が耕うん機を持ってきて畑を耕して下さる。「耕うん機」を初めて見る子どもたちも多く、耕うん機が通った後の土がふかふかになっているのを不思議そうに興味津々で見ている子どもたちの姿が印象的だった。畑の作業の後には子どもたちが踏み固めてしまっている砂場も耕して下さり、さらさらになった砂で砂遊びをして喜んでいる子どもたちが見られた。



【 絵本の読み聞かせ 】

- 絵本の読み聞かせは、月に一度、4・5歳児は給食が終わって一息ついた時間に、3歳児は午前中に来て下さる。季節や行事にそった絵本や子どもたちの興味をそそる絵本、科学の絵本などをボランティアの方々々が2～4冊選んで読んで下さる。昨年度まではボランティアの方の入っていただくクラスを決め、同じ方が同じクラスに入っていたが、今年度は順番に色々なクラスを回って下さるので、学年ごとの子どもたちの成長を感じられたり、クラスの特徴が分かって楽しく、子どもたちの喜んで一生懸命聞いてくれる姿や、読み聞かせ後の子どもたちとのやりとりや触れ合いを楽しみに毎回来て下さる。絵本だけではなく、子どもたちの聞く力が育つように素話（すばなし）も取り入れた読み聞かせの時間は、子どもたちにとって楽しい時間でもあり、先生や保護者以外の方に絵本を読んでもらうという良い経験ができていくと思う。

- 「地域の子どもは地域で育てる」という趣旨の元、地域の方が学校応援団を立ち上げて活動している。園・コーディネーターと連携し、保護者のボランティアが参加できないPTA総会や講演会の際の未就園児の託児支援など学校応援団に支援をお願いしている。

■ 実施に当たっての工夫

- ボランティアの活動内容や成果をまとめたお便りを月に一度作成・配布し、ボランティアの興味のあることから参加してもらえようとした。
- 手芸などの活動は、「子どもを送った後からご都合の良い時間まで」という形で、保護者ボランティアが気軽に参加しやすいように大まかな時間設定にした。

■ 事業の成果

- ボランティアの固定化は課題ではあるが、ボランティアに来て下さる地域の方々にはスクールガードや小学校のボランティアとして子どもたちと関わって下さる方も多いため、小学校に入学してからも見知った人がいることで、子どもたちの安心感につながっていると思う。保護者や祖父母以外の地域の方とのふれあいはよい経験になっている。
- 園の行事（PTA総会・講演会）の際の未就園児の託児は、普段ゆっくりお話を聴けなかった保護者も集中して聴くことができたと言っていた。
- 園の畑で子どもたちが種を蒔く・苗を植える、水をあげる等お世話したり、園庭で遊ぶ際などに野菜の生長を見たり体験し、それを収穫・食べることの喜びを味わうことができた。
- 畑の畝作りやマルチをかける作業は、農作業の経験のない保護者ボランティアも詳しいやり方を地域ボランティアの方に教えてもらいながら作業することによって異世代交流につながった。

■ 事業実施上の課題

- 活動においてボランティアが固定化してきている。特に保護者ボランティアは参加して下さる方が偏ってしまうので、負担にならないように新しいボランティアの拡大をどのように図っていくかを模索しながら活動している。

■ 地域の人や自然とのふれあいで心豊かに！自分が好き、人が好き、馬淵が好き、馬淵っこ。(馬淵幼稚園)

■ 近江八幡市
■ 活動名 馬淵幼稚園支援地域本部
■ 関係する学校 馬淵幼稚園

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	17 人
開始年度	平成28年度

■ 活動の概要

- ・今年度から学校支援地域本部事業に取り組む。
- ・既存の絵本の読み聞かせ活動・在園児の祖父母ボランティアによる園畑での野菜の栽培活動に加えて、今年度より託児と保育支援活動も実施している。

■ 特徴的な活動内容

○絵本の読み聞かせ

- ・毎月1回クラスごとにボランティア2名が交替で絵本の読み聞かせを行う。
- ・絵本室の絵本修理

○畑の栽培支援

- ・在園児の祖父母からボランティアを募り、園畑での野菜栽培を行う。
(さつまいも苗植え・だいこんの苗植え・さつまいも掘り・玉ねぎ苗植え)

○託児支援

- ・保護者が参加する園行事での未就園児のお子さんの託児。
(親子サッカー教室・親子ふれあい遊び・鉄棒教室・人権学習会・本部役員選挙)

○保育支援

- ・3歳児の視力・聴力検査、水遊び時の着替え、給食の補助
- ・園外活動の付き添い
(ザリガニ釣り・給食センターへの見学・デイサービス訪問・おでんの買い物)

○食育活動支援

- ・園の畑で栽培した野菜などを使ってのクッキング体験
(ごはんが炊けるまで・カレーパーティー・やきいもパーティー・おでんパーティー)

○行事支援

- ・園行事のサポート(七夕のつどい・夕涼み会・運動会)



【さつまいも苗植え】



【絵本の読み聞かせ】

■ 実施にあたっての工夫

- ・地域の方に園のボランティア支援活動を知ってもらうためにボランティア活動を紹介するポスターとボランティア募集のチラシも作成し、馬淵学区の文化祭で掲示する。

■ 事業の成果

- ・新たに託児と保育支援を始め、託児では卒園生の保護者3名も参加して託児支援活動を行う。
- ・託児の際、未就園児に楽しんでもらうためにお面づくりをボランティアのアイデアで行った。託児終了後には反省点や次回アイデアなどボランティアの意見を聞くことができた。

■ 事業実施上の課題

- ・託児や保育支援のボランティア数が少ない。
- ・今年度は園行事支援や保育支援ではボランティアによる活動ができなかった。今後は園とコーディネーターが連携して地域や保護者のボランティア支援活動にしていく。

“心わくわく みんなが輝く ボランティア活動”（北里幼稚園）

■ 近江八幡市
■ 活動名
北里幼稚園支援地域本部
■ 関係する学校
北里幼稚園

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	25 人
開始年度	平成25年度

■ 活動の概要

本園での事業は、今年で4年目を迎える。地域にもこの活動が少しずつ根付いてきて、ボランティアの数も増えてきた。主な活動としては、開始当時より活動の中心となっている①読み聞かせ（紙芝居）事業がある。地域の方や保護者（うさぎさんサークル）が中心となって行っているが、絵本、紙芝居、英語の絵本、時には腹話術とそれぞれに特徴があり、子どもたちの生活の中にも根付いている。その他にも②園の行事と事業をかみ合わせながら進めていくことで、活動が豊かになったり園だけではできないことが実現できたりして、大いに役立っている。また、北里商業協同組合のご協力をいただき、ボランティアしていただいた方に商店街の買い物補助となる③ポイント券を渡している。このことは北里商店街のPRにもつながる取り組みとなっている。

■ 特徴的な活動内容

（1）紙芝居・絵本の読み聞かせ

地域ボランティアや保護者ボランティアによる紙芝居や絵本の読み聞かせを年間、定期的に取り入れている。英語の絵本の読み聞かせを含めた“英語であそぼう”も2ヶ月に1回の割合で行なった。また、今年度より地域の方のパネルシアター劇場も加わり、子ども達にも大好評である。

（2）食育サポート（カレー・焼き芋・大学芋・おでんなど）

園で栽培し収穫した野菜を使ってのクッキングを手伝っていただいたり、焼き芋や大学芋を作っていただいたりして、収穫した物を食すという経験から、その喜びを大いに感じ、感動することができた。また、包丁を使う経験をしたことで自信と関心が持て、その後家庭で料理する姿が増えたようである。

（3）託児

今年度より新たに始めた事業であり、保育参観や講演会での託児サポートを行ったことで、保護者からは「ゆっくり子どもと関わられた」「下の子を気にせずしっかり見ることができた」など、たくさんの喜びの声を聞くことができた。託児サポートには保護者も加わっていただき、お互いに助け合える活動となった。また育児相談の場にもなり好評だった。

（4）手芸

今年度からの新たな事業である。ままごと用のエプロンやスカート、ぼし帯などをつくっていただき、遊びに大いに役立っている。

（5）その他（環境整備・畑・お茶会・むかし遊びなど）

園の行事に合わせて指導に来て頂いたり（お茶会）、子どもと共に作業しながら教えて頂いたり（畑の作業や花植え）した。昔遊びや英語で遊ぼうでは、子どもたちの興味や関心、親しみを広げることにつながり、その中で中学校のALTに数回来て頂いたことは外国の文化に触れる良い経験にもなった。



【託児の様子】



【パネルシアターの様子】

■ 実施に当たっての工夫

- ・幼稚園から発行している便り（地域向け、保護者向け）に記事を掲載し、情報発信に努めた。その結果、記事を見て電話して下さるボランティア希望者もあった。
- ・活動内容がわかるような掲示物（ポスター）を作成し、みんなの目に触れるところへ展示した。関心をもって見てもらえた。

■ 事業の成果

- ・支援事業も少しずつ増えてきて、さまざまな人とのふれあいが広がり、子ども達にとっても良い経験となっている。
- ・園だけではできない行事や活動を支援して頂くことで、行事や活動の幅が広がっている。（おでん、焼き芋など）
- ・今年度からの新しい活動（手芸・託児）も増え、それに伴って新規のボランティアも増えた。手芸では保護者ボランティアも参加し、スカートやエプロンなど家庭でも作ってみるきっかけとなり役立っている。
- ・地域ボランティアと保護者ボランティアが共に活動することで顔見知りが増え、地域の中での交流にもつながっている。

■ 事業実施上の課題

- ・園の行事と支援して頂ける事業をうまく組み合わせながら、有効な人材活用ができるようにする。また、より効果的な教育活動となるよう行事の精選を行う。また、健やかな子どもの育成につながるような事業内容となるよう一層の検討を加えていく。

■ つながる・ひろがる・ボランティアの輪（安土幼稚園）

■ 近江八幡市
■ 活動名 安土幼稚園支援地域本部
■ 関係する学校 安土幼稚園

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	42 人
開始年度	平成24年度

■ 活動の概要

本園でのボランティア活動は5年目となり、園の活動の流れに自然と位置づけられるようになってきた。ボランティアは、保護者、地域の方々を始め、専門的な分野で活動しておられるグループの方々など、コーディネーターが核となりネットワークを広げている。活動としては、「託児」・「図書」・「環境」の3つの柱を中心に園のニーズに応じて地域の方のもっておられる力を園の活動の中に入れて保育をより充実させている。

■ 特徴的な活動内容

①《託児》参観日等保護者が参加する園行事に、就園前の子どもの託児をする活動を行っている。また、入園前健康診断や一日入園など次年度に入園する子どもと保護者が参加する行事に、幼稚園に在籍する幼児の託児も行っている。ボランティアは女性に限らず、男性も一緒に託児をしてくださっている。それぞれの持ち味を生かしながら子どもたちにかかわってくださることで、家庭とは違うかわりがもてる場ともなっている。



【参観日の託児の様子】

②《図書》子どもたちの興味関心に合ったものや季節感のあるものを選び、月1回の読み聞かせを行っている。園の夏まつりでは、読み聞かせコーナーを設け、親子で楽しんでもらい活動をより知ってもらうきっかけの場となった。また、絵本棚の整理をしたり絵本の修繕や新しい絵本にブックカバーを貼ったりして、子どもたちが絵本を選びやすしたり大好きな絵本が長く読めるようにしている。



【フラワーアレンジメントの様子】

③《環境》昨年植えた芝生の管理（芝刈りや肥料まきなど）、園庭の草刈、花壇の花植えなどを行っている。花壇の花植えでは、子どもたちに花の名前や植え方を教えてくださったりしながら一緒に行っている。また、春に植えた花壇の花を使ってフラワーアレンジメントも教えてくださったことで、お花により興味をもち自然物に触れるきっかけづくりになった。

■ 実施に当たっての工夫

コーディネーターと園が常に幼児の姿や保育内容について話し合い、共通理解をしている。

ボランティアの方々活動していることを園側がしっかりと把握し、園のため、子どもたちのために尽力してくださっていることを心に留めながら、可能な限り園側も一緒になって活動したり、子どもたちにもしっかりと伝えて感謝の気持ちをもったりして、コーディネーターを介しながら、つながっていけるように心がけている。

また、誰もができる、できる時にできる人が参加するボランティア活動ということを中心に、かかわっていく中で見えてくる個々の持ち味や特技を生かせる場を模索していくことで、さらにボランティア自身がよりやりがいを感じながら活動できるようにしている。

■ 事業の成果

園、コーディネーター、ボランティア、それぞれがもっている“幼稚園をよくしたい”“子どもたちのために”という思いを出し合って話し合う機会をもちながら進めていくことで、互いに気持ちよく活動でき、よりよい成果に結びついた。

■ 事業実施上の課題

現在位置づけられている活動だけでなく、地域の方の人材を少しずつ保育の中に取り入れていっている。保育にどのように活かしていけるかを探っていきたい。

ボランティアとして活動してくださっている方々のライフスタイルも変化するため、活動できなくなる場合もある。地域にどんな力を持った方がおられるのかを知っていく中で、新たにボランティア登録をしてくださる方を探したい。

■ は・あ・と・が だいじ ～地域の方と心でつながる園教育を～（老蘇幼稚園）

■ 近江八幡市
■ 活動名 老蘇幼稚園支援地域本部
■ 関係する学校 老蘇幼稚園

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	39 人
開始年度	平成25年度

■ 活動の概要

学校支援地域本部事業の取組も4年目となり地域や保護者に浸透してきている。①子どもたちが気持ちよく過ごせる環境づくり（栽培活動・除草作業・木々の剪定作業など）②絵本の読み聞かせ（月2回）③託児支援（保育参観・学級懇談会・PTA研修会など園の行事の間）を中心に教育活動の支援をおこなっている。毎年地域住民の方を中心に新たな支援ボランティアを募集し、前年度からの継続のボランティアの方と共に、できる方ができる時に活動に参加して下さるようコーディネーターが核となり事業を進めている。

■ 特徴的な活動内容

- ・栽培活動…畑作りからサツマイモの苗植え、収穫を一緒に行う。（全園児）
プランターの土作りから花の苗植えを一緒にする。（4・5歳児）
夏野菜の植え方や育て方を一緒に植えながら知らせる。（5歳児）
- ・園庭整備…運動会に向けて、保護者と共に園庭の環境整備をする。
- ・絵本読み聞かせ…給食後に絵本室で子どもたちが選んだ好きな本を一緒に読む。
降園前には、保育室で3・4・5歳児それぞれのクラスでボランティアが選んだ絵本の読み聞かせをする。
- ・託児支援…保育参観、学級懇談会、PTA研修会などの行事の際に託児をする。
- ・園外保育付添い…安土山や観音正寺など一緒に山登りをし、子どもたちに地域のよさを伝えていく。



【 絵本読み聞かせの様子 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・地域の集會や會議、また全保護者が集う場で支援ボランティアについての説明をし募集をすることで、老若男女を問わずボランティアを募り地域の方と保護者が一緒に活動できるように進める。
- ・市の様々な活動グループにもボランティア協力を依頼し、地域住民以外の方にも老蘇地区を知ってもらえるようにする。
- ・年度末には『ありがとうの会』をもち一緒に遊んだり交流したりし、子どもたちがボランティアの方に感謝の気持ちを伝え、園に対する理解をより得られるようにする。

■ 事業の成果

- ・昨年度より保護者が一緒に活動しようとする雰囲気が出てきている。支援ボランティアの方が園のために活動して下さっている事を知らせたり一緒に活動したりすることで、“自分たちも何か手伝うことはないか”と、意欲的に協力する保護者が増えた。また、我が子が卒園してもボランティア登録をし、園とつながっていただける喜びを感じてくださる。
- ・環境ボランティアの方に栽培指導以外にも土づくりの仕方を教わり教師の知識向上にもつながった。
- ・子どもたちが、「〇〇一緒にした△△さんや！」と地域の方を知ったり、親しみをもったりするきっかけになっている。
- ・ボランティアの方も子どもたちとふれ合うことを楽しみにして下さったり、「少し時間があつたから…」と、ボランティア活動以外の日に花や栽培物の手入れに来て下さったりするなど、園にも親しみをもち来園しやすい雰囲気が出てきた。
- ・ボランティアに来られた方が自主的に、得意なことや趣味で作っているもの（鉄道模型や昔の玩具）を園児に紹介したり遊んだりして下さる機会をもってください、園が募ったボランティア活動以外での交流につながった。

■ 事業実施上の課題

- ・ボランティアの方が固定化・高齢化してきている事や、地域でも活躍されているボランティアの方が多く、ボランティアを募った日時に先約があるなどして人材確保の難しさがある。コーディネーターがより園や地域とつながり地域の人材発掘やより幅広い年齢層での人材確保をしていけるよう努めたい。
- ・ボランティアの方の特技を活かしていただけるような活動をどう保育に活かしていけるかをさぐり、互いに負担なく取り組めるよう行事を精選しながら進めたい。
- ・今後も地域とのつながりを大切にし、地域のよさをたくさん感じられるようにしたい。園教育の理解を得ながら園と地域が共に子どもたちを育てていけるように取組を進めていきたい。



【 花苗植え指導 土作りの様子 】

■ 草津市における学校支援地域本部の取組

■ めざす姿

草津市では平成10年度から、「地域協働合校推進事業」に取り組んでおり、学校・家庭・地域のそれぞれがもつ教育機能を生かしながら、子どもと大人が学び合い・かかわり合い・よろこび合い・認め合う協働の積み重ねを通して、輝く人づくり・まちづくりを目指している。

今年度から、市内全14小学校の地域協働合校推進組織に地域コーディネーターを設置し、学校支援地域本部の制度を有効的に取り入れることで、人材や事業のさらなる拡充を図り、「特色ある学校づくり」から「学校を核とした地域づくり」への展開を目指している。

■ 本年度の活動

4月14日（木）第1回運営委員会

地域協働合校推進事業の趣旨説明と学校支援地域本部事業との関連性と方向性について

4月28日（木）第1回地域コーディネーター研修会

地域コーディネーターの機能と業務について

7月5日（火）第2回地域コーディネーター研修会

1学期間の地域コーディネーターの活動報告および課題等の検討

8月18日（木）第2回運営委員会

学校支援地域本部とコミュニティ・スクールについての研修討議

11月18日（金）地域協働合校全体研修会

講演および地域協働合校関係機関の情報交流

講演「学び合い、関わり合い、喜び合う地域づくり～ひと・こと・ものの交流～」

講師 立命館大学 共通教育推進機構 宮下 聖史 氏

1月 第3回地域コーディネーター研修会（予定）

2月 第3回運営委員会（予定）



【 地域コーディネーター研修会 】

○市全体で取り組むという意識を高めるために、地域協働合校推進事業に関する通信を月1回、庁内向けに発行し、事業理念や学校・家庭・地域が連携した学びの姿を周知した。

○地域コーディネーターの機能の有効活用を目指し、地域コーディネーターと事業担当課との通信網を確立し、情報提供や地域コーディネーター間の連携による取組を推進した。

■ 本年度の成果

- ・地域コーディネーターが全小学校の推進組織に設置されたことから、成果や課題を共有しやすくなり足並みを揃えた研修や情報交換が実施できた。その結果、学習環境の課題解決にも結びついている。
- ・学校サポーター制度のシステム構築や新しい人材の発掘により、学びの質的向上や環境整備を推進することができた。

■ 今後の課題

- ・学校支援を通して結びついた地域のつながりを、地域課題の解決へと結びつけるビジョンと取組が必要である。

■ 「地域の人に学び、地域で生きるわたしたち」(志津小学校)

■ 草津市
■ 活動名
志津小学校地域協働合校
■ 関係する学校
志津小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	400 人
開始年度	平成27年度 (地域協働合校事業は平成10年度から実施)

■ 活動の概要

「人に学び、地域で生きるわたしたち」をテーマに「人・もの・地域」との出会いを大切に『志』の教育活動に取り組んでいる。志津小学校区内は、近年住宅の増加に伴い、児童数も右肩上がりに増えているが、地域のお宝とも言うべき自然も多く存在し、地域の方々や保護者の方々も積極的にこの取組に参加・協力いただき、「地域資源」を活かした学習を進めている。

■ 特徴的な活動内容

① さつまいも作り (1年生)

さつまいも作りには、苗植えから収穫まで、地域の老人クラブの方々にお手伝いいただいた。手慣れた様子で畝を短時間で作り上げていただき、実際にさつまいもを育てておられる方から、植え方を絵で描いて分かりやすく説明していただいた。

また、日頃からいもの育ち具合を気にかけていただき、収穫時には予想以上にたくさんのお宝が収穫でき、参加者と児童とで「たくさん採れたね」、「よかったね」と声を掛け合って、笑顔で交流できた。その後のお楽しみパーティでの昔遊びの時間にはこま回し・めんこの技を教えていただいたり、お手玉やカルタ取りなどを一緒に楽しんだりして交流を深めた。それぞれの活動の後には、児童たちからのお礼のお手紙をお渡しして、喜んでいただいた。



【 さつまいもほり 】

② 志津のお宝発見～人・町編～ (3年生)

3年生は「志津のお宝発見」と題して自分たちの住んでいる地域の学習を進めた。この学習では、児童が「通学路にある池は何の池だろう？」と疑問を持ち、川魚を養殖する池と知って、地域にある川魚の加工会社を見学させていただいた。

また、学校の周りの様子を学校の屋上から見た児童たちが、いくつも立ち並ぶ大きなビニールハウスを見つけ、調べたところ、バラを栽培されているハウスだと知り、そのバラ園を見学させていただいた。

児童のつぶやきや発見を、教師がすかさず拾い上げ、地域コーディネーターと連携して見学できたことで、児童は自分たちの疑問が実際に目で見て解決でき、地域をより深く知ることができた。



【 バラ園見学 】

③ 全校にかかわって

- ・ あいさつ運動
- ・ クラブ活動支援
- ・ 3世代ふれあい人権集会
- ・ 環境整備
- ・ 本大好き会活動支援

■ 実施に当たっての工夫

- ・ 学年の要望を聞き、早い時期から計画を始め、スムーズに実施できるよう心掛けている。
- ・ 地域のボランティアの方々には、活動の主旨を理解していただき、事前に直接お出合いして細かく打合せをしている。
- ・ 活動終了後は、ボランティアの方々からも感想や要望を聞き、次年度の活動への参考としている。
- ・ 活動後は、子どもたちが書いたお礼状や感想文をお渡しして、今後も気持ち良く交流を重ねていけるようにしている。
- ・ 活動内容をホームページに掲載して、広く周知してもらえるようにしている。

■ 事業の成果

- ・ 地域の方々との交流を通じて、子どもたちはいろいろな発見をし、自然や人、地域に関心を持つと共に感謝することができた。
- ・ 地域の方々から教えていただいたことで、子どもたちは自分たちができることを見つけ、自信と勇気を持つことができた。
- ・ 地域の方々には、学校での活動を知り、参加していただくことで、長年培ってこられたお力を発揮していただくことができた。

■ 事業実施上の課題

- ・ ボランティアの活動希望日時と、学校側が求める活動日時の調整が難しい。
- ・ 事業活動が学年により偏りがある。

■ その他

志津小学校のホームページに「That's my 地域協働合校 report」のバナーをつくり、地域協働合校事業の取組を写真などで紹介している。 <http://www.shizu-p.sk.ed.jp/report.html>

子どもと大人の『共育ち』をめざして（志津南小学校）

■ 草津市
■ 活動名
志津南小学校地域協働校
■ 関係する学校
志津南小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	129 人
開始年度	平成28年度 (地域協働校事業は平成10年度から実施)

■ 活動の概要

地域の専門家、活動家、高齢者の方などを指導者として学習に迎え入れたり、直接地域に出かけ様々な場所やもの、人とふれ合うことを通して、自分が地域や地域の人々と関わりがあることや、地域のすばらしさに気づき、親しみや愛着を深めることをめざす。

■ 特徴的な活動内容

○「リースづくりを楽しもう」（特別支援学級）

立命館大学の学生ボランティアと共に、さつまいものつるを何重にも巻いて、リースづくりを楽しんだ。

○「昔の遊びを教えてもらおう」（1年生）

地域のお年寄りの方に、こま、お手玉、けん玉、おはじきなどの昔の遊びを教えていただき、共に楽しんだ。

○「さつまいもを育てよう」（2年生）

さつまいもの植え方や世話の仕方を教えていただいた。収穫祭には地域の方を招待し、共に収穫を喜んだ。

○「町たんけんに出かけよう」（2年生）

市民センターで、地域の方の活動に参加させてもらい、事後に見つけた町の『すてきパンフレット』を配布した。

○「伯母川たんけん」（3年生）

伯母川に入ってたくさんの生き物に触れ、伯母川のよさを再発見した。

○「りょうぶの道たんけん」（3年生）

地域にある「りょうぶの道」を、地域の方と共に歩き、道のいわれを聞いたり、草木の名前を教えていただいたりした。

○「立命館大学留学生と共に」（4年生）

国際交流の一環として、立命館大学から留学生に来ていただき外国の文化や生活について学んだ。また、留学生からみた日本を知ることで、自国のよさにも気づくことができた。

○「高齢者とふれあおう」（1・3・5年生）

地域の特別養護老人ホームに出かけ、合唱やよさこいを披露し、一緒に折り紙を折るなど、温かい交流の機会を持った。

○「木瓜原遺跡たんけん」（6年生）

立命館大学敷地内にある木瓜原遺跡を見学し、地域の歴史を学んだ。

○「戦争体験に学ぶ」（6年生）

地域の方に戦争体験について語っていただき、戦争と平和について地域の方と共に考える機会になった。

○「立命館大学 学生サークル連携6DAYS!」（全学年）

学年ごとに、学生ボランティアと紙飛行機やダンス、天文、数学など楽しみ、将来の夢や自分の進路を考えるきっかけとした。



【さつまいもを育てよう（2年生）】



【立命館大学 学生サークル連携6DAYS!】

■ 実施に当たっての工夫

- ・事前に地域コーディネーターとの打ち合わせを実施し、学年の担任がめざす活動について具体的に説明した。その上でボランティアの方の要請を依頼した。また、活動後もできるだけ懇談の時間を持ち、来ていただいた感想を話し合うなどボランティアの方の充実感や達成感、子どもたちとのつながりが深まるようにした。
- ・どの活動も、継続して行っており、資料等を残すように心がけているが、毎年子どもの実態に合わせて活動内容を工夫している。

■ 事業の成果

- ・地域の方と一緒に活動することで、顔なじみになり、登下校や放課後に会ったときに気軽にあいさつをしたり、声をかけたりできるなど地域の方とのつながりが深まった。
- ・地域の自然に触れる機会を持ったことで、自分たちの町について、もっと知りたい、大切にしていきたいという思いを強くした。
- ・地域の方の技や知恵に触れ、尊敬の思いを持つ子が増え、一緒に活動することを楽しみにしている子が多い。
- ・近隣の立命館大学との活動も何年も継続して行われ、学生ボランティアに憧れを持つ子も多くなっている。

■ 事業実施上の課題

- ・事前の打ち合わせの中で、その都度この学習を通して子どもたちにつけたい力は何なのかを、しっかりと共通理解する必要がある。子どもたちをお客さんにせず、共に育ちゆく学びの環境づくりが大切である。
- ・今後も、子どもと地域とのつながりを大切にした学習を進めていくために、地域コーディネーターを中心に地域の人材を確保するとともに、教育資源を活用し、学習教材を深め広げていくことが必要である。

ふれあい、学び合い、心をひびかせる 草津っ子（草津小学校）

■ 草津市
■ 活動名
草津小学校地域協働合校
■ 関係する学校
草津小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	139 人
開始年度	平成27年度 (地域協働合校事業は平成10年度から実施)

■ 活動の概要

歴史と伝統のある草津小学校では、温かい地域の方の支えにより、「ふれあい、学び合い、心をひびかせる草津っ子」を合い言葉に、自分のよさ、学校のよさ、地域のよさを共に高め合う取組を続けてきた。草津市の市街地の中にある本校だが、校地内にある学校田や畑を活用したり、環境ボランティアなどの地域人材を活用したりしている。

■ 特徴的な活動内容

○「はなやさいをそだてよう」

1年生の生活科で、環境ボランティアの方に指導していただきながら、サツマイモを植え、植物のいのちを感じながら水やりをして育てている。秋には収穫したサツマイモを使って、「おイモパーティー」を開き、ボランティアの方を招待して共に収穫の喜びを味わい、交流を深めている。ボランティア同士の交流や親睦が深まり、自主的に参加して下さる方が少しずつ増えてきて、地域との関わりが深まってきている。

○「水のめぐみ、米作り大作戦」

5年生の総合的な学習で、冬の土作り、代掻きから1年間に渡って「米作り」について学び、学校敷地内にある学校田で米を栽培している。特に田植え、稲刈りの時はボランティアの方が一人一人の手を取って丁寧に指導していただき、米作りにかかる思いや願いを感じながら学習することができた。秋には「お米パーティー」にボランティアの方を招いて学んだことを発表し、収穫した米をおにぎりにして共にいただき、交流を深めている。

○「名人に学ぼう」

4年生の総合的な学習で、日本の伝統的な文化（茶道、日本舞踊、謡曲、和太鼓、大津絵）に関して、地域や草津市内におられる名人さんに話を聞いたり、実技を指導していただいたりして、学んだことを互いに発表しあった。子どもたちが日本の伝統文化にふれるよい機会となり、発表会に指導していただいた名人さんを学習に招待して交流を深めている。

○読書ボランティア「にじ」による読み聞かせ

読書ボランティア「にじ」のみなさんが、朝のほげみタイム（月に1回・10分間）に絵本や紙芝居の読み聞かせを各学級の教室で行っている。また、「おひるのお話会」として、昼休みに紙芝居やパネルシアター、絵本の読み聞かせなどを行っている。何度も来ていただいているうちに、ボランティアの方とも顔なじみになり、子どもたちは来てくださることを楽しみにしている。

■ 実施に当たっての工夫

高齢化や体調により、活動を辞退されるボランティアの方がおられたので、ボランティア同士でも声かけをしていただき、新しい参加者が増えた。また、ボランティア同士の交流や親睦が深まるように、活動後に必ずミーティングや懇談の時間をもち、「来てよかった、また来たい」ボランティア活動を目指した。ミーティングの場では意見交流を行い、次の活動に生かすようにしている。また、子どもたちとの交流がそのとき限りにならないよう、学習後も発表会などでふれあいや関わりを深め、次年度へとつながるように心がけている。

■ 事業の成果

何年も継続してボランティア活動に取り組んでいただいている方が多く、活動の流れを把握されているので、担当が交代しても、毎年、スムーズに活動に取り組んでいる。また、継続して取り組んでいることが、ボランティアの方の「私たちが草津小学校の教育活動を支えている」という生き甲斐や誇りにつながっている。学習のまとめである「おイモパーティー」、「お米パーティー」、運動会や歌声集会にも積極的に参加していただき、交流や関わりが深まり、子どもたちの豊かな学びにつながっている。

■ 事業実施上の課題

ボランティアの方の熱心な支援で、子どもたち一人ひとりに丁寧に指導していただいている。おかげで、学習は予定通りスムーズに進んでいくが、「子どもたちが立ち止まって考えたり、試行錯誤をしながら自力解決したりする力が育つ学習にしていかなければならない」と考えている。事前の打ち合わせなどで、学習内容だけでなく、体験を通じてどんな力をつけたいのかという学習のねらいや、役割分担について、学級担任やボランティア同士の連携を密にし、十分に共通理解しておくことが大切である。



【仲良くいもほり】



【学校田で稲刈り】

『人・もの・地域』と出会い、ふれあい、高め合おう！（草津第二小学校）

■ 草津市
■ 活動名
草津第二小学校地域協働合校
■ 関係する学校
草津第二小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	107 人
開始年度	平成27年度 (地域協働合校事業は平成10年度から実施)

■ 活動の概要

草津市では、18年前から、子どもと大人の協働を通して『輝く人づくり』を進めるため、地域に開かれた学校を目指すとともに、子どもの学びを学校と地域で連携して支援することを目的にして『地域協働合校』事業を進めてきた。現在、コミュニティ・スクールくさつと連携し、地域コーディネーターを配置して活動を深めている。本校では、『人・もの・地域』と出会い、ふれあい、高め合おう！～地域と協働し活力のある学校をめざして～をスローガンに、地域や保護者と協働でさまざまな活動に取り組んでいる。

■ 特徴的な活動内容

○商店街との連携（1年生「サツマイモの苗植え」、2年生「ミニトマトの苗買い」、3年生「ふれあいお店体験」）

学区内に草津駅前商店街がある地の利を活かし、商店街の皆様と連携した教育活動を行っている。1年生と2年生では種苗店にご協力いただいて、サツマイモの苗植えを学校の畑でご指導いただいたり、お店にうかがって一人ずつミニトマトの苗買いをしたりしている。3年生では、児童が商店街のさまざまな商店でお店体験をすることにより、地域の方々と積極的に関わり、交流しようとする態度を育てている。また、どのような思いや願いをもって働いておられるかに気づき、働くことの大切さについて体験を通して学んでいる。



【 駅前商店街でのふれあいお店体験 】

○5年生「米作りにチャレンジ！」

昨年度まで学区内に唯一残っていた田んぼを学習田としてお借りしていたが、それが無くなったため、今年度からの「米作りにチャレンジ！」について危ぶまれた。地域コーディネーターが八方手を尽くして田んぼを探し、JＡと草津市環境課の協力を得て、「あおばな館」横の田んぼを学習田として借りることができた。事前・事後学習、そして田植えから稲刈りまでJＡと環境課の方々にお世話になって「米作りにチャレンジ！」を新たな形で存続することができた。11月はお世話になったJＡ・環境課の方々（田んぼのこ応援団）を招待して「収穫感謝の会」を実施し、自分たちで育てたお米でおにぎりを作りみんなで喜びを分かち合った。



【 米作りにチャレンジ！ 】

○6年生「マイドリーム ～生き方学習～」

地域の方や卒業生をゲストティーチャーに招き、今の仕事に就こうと思ったきっかけや努力したこと、困ったことややりがいなどについて話をさせていただく。自分の将来に夢を抱き、その実現に向けて努力していこうとする意欲を高める。

（ゲストティーチャー：海外青年協力隊員、アナウンサー、女性救命救急士、パティシエ、カメラマン他 計7回）

○図書館ボランティア「よもとライブラリー」の皆さんが、読み聞かせや図書室の整理、図書の貸し出し支援、図書の修繕や廃棄等、熱心に活動されている。

○クラブ活動（野球、サッカー、陸上、ニュースポーツ、コンピューター）の指導や準備・後片付けなど、子どもたちの活動を支援してくださっている。

○運動会前に、ボランティアのみなさんが運動場の整備として芝生の雑草を抜いてくださっている。

■ 実施に当たっての工夫

年間計画を年度末に見直し、新年度初めに新たに作成することで、一年間の活動に見通しを持つとともに、地域コーディネーターと連携して、地域の方へ早めに連絡・予約をとり、スムーズに実施できるようにした。

また、保護者や地域へ取組を周知するために、積極的に情報を記者提供した。

■ 事業の成果

地域協働合校からの積み上げがあるうえに、地域コーディネーターが意欲的に動いていただいているので、子どもたちの学習が一層充実した。地域コーディネーターの存在が定着し、役割の大きさを皆が実感している。

■ 事業実施上の課題

ボランティアの方の年齢層や分野が多岐に渡るように、広げていきたい。

■ いいなあ いいなあ とともに学んで ふれ合うまち 渋川（渋川小学校）

■ 草津市
■ 活動名
渋川小学校地域協働合校
■ 関係する学校
渋川小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	80 人
開始年度	平成27年度 <small>(地域協働合校事業は平成10年度から実施)</small>

■ 活動の概要

地域に開かれた学校として開校し14年目を迎えた本校では「いいなあ いいなあ とともに学んで ふれ合うまち 渋川」をスローガンに、地域と共に活動を展開している。子どもたちが地域の様々な人や物と出会い、人と人のつながりを深めていけるような場を作れるように取り組んでいる。

■ 特徴的な活動内容

○地域の伝統文化「渋川の花踊り」継承事業

地域の人々が受け継いできた「渋川の花踊り」を保存継承するための努力を理解し、渋川という自分が住んでいる町に誇りと愛情を持つ気持ちを育てる機会を持つと3年生の子どもたちのために「渋川の花踊り」保存会の方に来ていただき、学び体験する機会を作った。学んだことからポスターを制作し町内会の掲示板に掲示させていただいた。そして「学区ふれあいまつり」では、地域のみなさんと全校児童の前で「渋川の花踊り」を披露し会場を盛りあげた。

○近隣高校生との交流事業

本校の隣に滋賀県立草津東高等学校があり、高校生から運動の楽しさを学ぼうと、体育科の生徒に来てもらい、5年生を対象に自分の課題を持ち、記録を伸ばすために助言をもらいながら交流を深めることができた。

○図書室支援と読書支援

本校では図書ボランティアサークル「アトム文庫」による支援を継続している。主な内容は、図書室支援では図書室昼休み貸し出しの手伝い、新着本配架準備等を行い、読書支援では、絵本読み聞かせ、ペープサート劇（年2回）、「おすすめ本バトル」企画等を実施し、その他には夏休み工作教室や「お話キャラバン隊」を開催し好評だった。

○「滋賀の郷土料理博物館」開館

5年生が総合的な学習の時間に郷土料理についての学びを深めた。児童は、地域の人々と一緒に、「ふなずし」「湖魚のつくだ煮」「アメノイオご飯」「丁稚羊羹」「日野菜漬け」づくりを行った。その学習の成果を「滋賀の郷土料理博物館」にまとめて発信した。

○「渋川・風景の記憶絵」活用支援

6年生が、5年前に地域で制作された「渋川・風景の記憶絵」を見ながら、地域の方に当時の様子や思い出を話してもらい渋川の歴史を学ぶ機会をもつことができた。その後「いきものがたり紙芝居」制作に発展し地域に披露する展開となった。



【滋賀の郷土料理博物館テープカット】



【いきものがたり紙芝居発表会】

■ 実施に当たっての工夫

地域の方々とコミュニケーションをとり、実施にあたって早めにお願ひし、実施内容をしっかり説明するよう準備を進めてきた。

■ 事業の成果

地域の方々に様々な形で支援してもらうことができて、渋川ならではの事業を行うことができた。子どもたちは、今まで知らなかったことを知り、自分たちの住む渋川を今までより愛する気持ちを持つ機会となった。

■ 事業実施上の課題

支援して下さる地域の方々が、学校と関わりやすい環境をつくり、気軽に学校に来てもらえる雰囲気づくりを大切にしたい。

■ ふるさと大好き！矢倉っ子（矢倉小学校）

■ 草津市
■ 活動名
矢倉小学校地域協働合校
■ 関係する学校
矢倉小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	90 人
開始年度	平成28年度 (地域協働合校事業は平成10年度から実施)

■ 活動の概要

矢倉小学校では、いろいろな面でたくさんの地域の方に支えられ、住んでいる「矢倉」の地域よさに目を向け、子どもたちが「矢倉」を誇りに思っ小学を巣立っていき、大きくなった時に今度は地域よさを広げていく側になってくれるよう「ふるさと大好き！矢倉っ子」を合い言葉に取組を進めている。

■ 特徴的な活動内容

○「矢倉博士になろう」

3年生の総合的な学習では、町探検に出かける前に記憶絵プロジェクトの方にオリエンテーションとして、「矢倉の魅力」（歴史・みち・建造物・仏像など）や「古いもの」（民話や伝説・伝統行事・サンヤレ・ソウモク）、地域の文化を継承し語り継ぐためにできることは何かをお話いただいている。そして、「まち探検」では「伝統・伝説コース」と「街道コース」に分かれ、記憶絵プロジェクトの方に説明していただきながらともに地域をめぐる、矢倉について知るよい機会となっている。



【まち探検 伝統コース】

○「人に優しい米作り」

5年生の総合的な学習で、地域の方に田んぼをお借りして、「田植え」から「稲刈り」までさせてもらい、人に優しい米作りを学んでいる。冬には学習発表会を行い、ボランティアの方をお招きして一緒にお米を料理していただく。

○「地域の方に学ぶ戦争体験～すいとんの会～」

6年生の総合的な学習で、広島への修学旅行へ向け、被爆された広島の方に来ていただき、話を聞いたり、平和祈念館の職員の方の出前授業を受けたりして学習を進めている。そして修学旅行では、実際に平和公園でボランティアの方から説明を聞くことで学習をさらに深めている。そして草津に帰り、自分たちの住んでいる「矢倉」では当時どんなことがあったのか、地域の方から話を聞き、女性部の方が作って下さる「すいとん」を食べながら、地域の方との交流を深めている。



【5年生 田植え】

○図書ボランティアによる読み聞かせ

保護者や地域の方で構成されている図書ボランティアのみなさんが、朝のマイタイム（毎週木曜日15分間）に絵本や紙芝居の読み聞かせを各学級で行っている。また、毎週火曜日の昼休みには、音楽室で手遊び歌を交えたお話会を行っている。紙芝居やパネルシアター、絵本の読み聞かせなど効果音を用いた手法に子どもたちは目を輝かせ、毎週火曜日を楽しみにしている。また、日本の四季を目で感じることができるよう季節ごとに図書室内の装飾にも力を入れてくださっている。特に卒業式から入学式にかけ、図書室から正面玄関までの、桜の花びらの装飾は圧巻である。

■ 実施に当たっての工夫

普段の学習の中で、地域の方の思いが無理なく子どもたちにしっかり伝わるように事前の打ち合わせをしっかりと行い、学校側の願いと地域の方の思いをうまく折り合いがつけられるように工夫してきた。また、その場限りで終わるのではなく、学習後の感想を届けたり発表会等に来ていただき、学習の成果を見ていただく機会も用意した。

■ 事業の成果

ボランティアの多くの方は、長年矢倉小学校に関わってくださっているため、毎年担任が交代しても学習の流れを把握してスムーズに協力していただき、助かっている。また、毎朝登校時に立ってくださっている地域の方との会話の中で、「あいさつがしっかりできるようになってきた」という意見も聞かせてもらえるようになった。

■ 事業実施上の課題

ボランティアの方の高齢化が進み、少人数での関わりをもっている活動が継続できなくなるなどの不安要素があり、無理のないよう慎重に進める必要がある。また、毎年のごとくとはいえ、子どもたちにとっては初めてでも、ボランティアさんにとっては去年より良いものにしたい、という思いが強くなりすぎて、通常の学習時間を超過したり、学年相応でない学習活動になったりしないよう事前の打ち合わせをしっかりと行うよう心がけている。

■ 手をつなぎ、心通わす ^{ゆう}誘・^{ゆう}融（とけ合う）老上（老上小学校）

■ 草津市
■ 活動名
老上小学校地域協働合校
■ 関係する学校
老上小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	173 人
開始年度	平成28年度 (地域協働合校事業は平成10年度から実施)

■ 活動の概要

長い歴史のある本校は、様々な場面で多くの地域の方から支えられ、子どもたちもその場面に出会うことが多く、地域の方に親しみを感じている。しかし、ある程度長い時間をかけて話をしたり、何かと一緒に取り組んだりといったことは、意外と少ないのが現状である。地域協働合校の取組の中で、身近な地域の方の考え方や人柄などにたくさん触れ、より豊かな人間性を身につけてほしいと考えている。

■ 特徴的な活動内容

○図書ボランティア

老上小学校の子どもたちは、本が大好きで、休み時間になると図書室は大盛況となり貸出・返却の手続きを待つ長い列ができる。「図書ボランティア」のみなさんに貸出・返却や、図書室の整理・飾りつけなど、読書環境を整えていただき、たくさんの子どもたちがお世話になっている。

今年度は、「絵本の部屋」が新設され、少しゆったりと本を読めるようになった。

○絵本読み聞かせボランティア「ぼけっと」

毎週火曜日の朝学習は「読書タイム」。低学年の教室には絵本読み聞かせボランティア「ぼけっと」のみなさんに来ていただいている。今年は児童集会で全校児童にも読み聞かせを実施した。

老上西小学校との分離後も両校にわたって取組を続け、多くの子どもたちに本に親しむきっかけを作っていただいている。

※いずれも、多くの方の支援によって長く続いている取組で、老上小学校の子どもたちの読書環境が整えられている。



【昼休みの図書室・貸出カウンター】

○ふれあい老上まつり

老上・老上西両小学校の学習発表会は、地域の行事である「ふれあい老上まつり」の第1日目に位置づけられている。学習発表の会場である体育館の準備は、前日から地域のみなさんによって進められ、壁は地域内の各団体による掲示で埋め尽くされる。子どもたちの発表には、保護者以外にもたくさんの地域の方が来校される。

2日目は両校区を挙げての盛大な「まつり」となり、両校の子どもたちや地域の方の交流の場となる。

※今年度初めて分離となった両校区だが、「ふたつにわかれても 思いはひとつ」のテーマのもとに計画が進められ、子どもたちを中心に置いた、地域全体の貴重な「ふれあい」の場となった。



【ふれあい老上まつり・学習発表会場】

■ 実施に当たっての工夫

- ・綿密に連携をとりつつも、学校・地域ともに過剰な負担とならないよう、打ち合わせや実行委員会を効率的に行うとともに、交流の場を兼ねるなどして、内容の充実も図るようにしている。
- ・長く支援いただく方からは、「子どもたちの笑顔がご褒美だから」「この笑顔を見たら、やらないといられない」といった声を聞かせてもらっている。長く続けていただくには、やはり子どもとふれあっていただくことに重点を置き、時間もしっかりとれるようにすることを大切にしている。

■ 事業の成果

- ・今年度、地域の方主導により「園芸ボランティア」が新たに立ち上げられた。学校のニーズを積極的にとらえ、必要な支援をと考えて有志を募っていただいた。
- ・昇降口前のプランターの花の植え替えや花壇づくり、正門前の水仙の球根植えなど、精力的に活動してくださっている。
- ・学校に関心を持ち、自分にできる支援をしようと考えてくださる方が増え、ボランティアの輪は広がりがつあり、子どもたちの学習・生活環境が整い、過ごしやすい学校・地域になっている。

■ 事業実施上の課題

- ・学校分離に伴い、これまで学校支援の中心的な役割を担ってくださっていた地域の方の多くが学区外となった。これまでのネットワークを大切にしつつ、市民センターとも協力し合って、新たに地域のリーダーとなってくださる方と学校との連携・信頼関係を構築していくことが必要である。

ふれあい・語り合い・学び合い ～地域とともに共同（協働）する学校～（老上西小学校）

■ 草津市
■ 活動名
老上西小学校地域協働分校
■ 関係する学校
老上西小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	53 人
開始年度	平成28年度

活動の概要

本年度開校した老上西小学校では、分離前の老上小学校の歴史と伝統を継承しながら、「ふれあい・語り合い・学び合い～地域とともに共同（協働）する学校～」を合言葉に、地域協働分校の推進に取り組んでいる。本年度から、「老上西小学校コミュニティ・スクール」を立ち上げ、「家庭や地域等のさまざまな力や資源が活かされる学校づくり」および「教育や子育てにかかわる課題にとともに取り組む学校・家庭・地域づくり」を目指しているところである。

特徴的な活動内容

○「おいしいさつまいもを育てよう」

1年生の生活科の体験学習として、ふれあい農業合校の方々にご指導いただきながら、さつまいもを育てている。子どもたちはさつまいもの成長を楽しみにしながら苗を一人一本ずつ植えることができた。10月に収穫の時期を迎え、大きなさつまいもを収穫できたときは大喜びであった。収穫したさつまいもを農業合校の方の計らいにより、焼き芋にして食べることができた。さつまいもを育てることを通して、「植え、収穫し、食する」という学習を行っている。

○「冬野菜の大根を育てよう」

2年生では、生活科の学習として、冬野菜の中でなじみのある大根を栽培している。農業合校の方々にご指導いただき、9月に大根の種まきを行った。大根は種をまいてから60日間で収穫できることや、種をまくときは複数個を1か所にまくと発芽しやすいことなどを教えていただいた。12月に収穫の時期を迎え、収穫した大根を調理して食べる予定である。

○「わたしたちの主食『米』を作ろう！！」

5年生の総合的な学習の時間「はぐくみ」の中で、社会科の「わたしたちの生活と食料生産」とも関連させながら、わたしたちの主食である「米」づくりを体験している。5月に実際に田んぼに入って、腰をかがめ、足元を取られながら、自らの手で苗を植えたことは、日頃当たり前食している「米」のありがたさについて考えるきっかけとなっている。9月に収穫の時期を迎え、農業合校の方々にご指導いただきながら稲刈りを行った。稲刈りのあとには、足踏み脱穀機を体験させていただいた。11月には、収穫の喜びとお世話になった農業合校の方々に感謝の気持ちをこめて収穫祭を行う予定である。

○読み聞かせ・図書館支援

読書活動の推進を図るため、毎週火曜日の朝の時間に低学年を中心に読み聞かせサークル「ぼけっと」さんによる読み聞かせを行っている。また、図書ボランティアさんに昼休みの図書貸出や図書館整備を行っていただき、図書館利用の推進を図っている。

○夏休み環境整備

本年度4月に開校し、新しく植えられた木々の管理が夏の課題となっていた。植栽面積が広いため、サポーターを募り、職員とともに、夏休みの朝夕、水やりと雑草抜きを行った。地域の老人クラブの方々の力もお借りして、無事夏を乗り切ることができた。地域の方々が「新しい学校」に関心を持ち、「子どもたちのためなら」という思いをもってくださっていることを実感できた。

実施に当たっての工夫

地域コーディネーターを中心に、サポーターを募集し、サポーターバンクを作成している。保護者をはじめ、町内会の回覧等を活用し、地域の様々な方に知っていただくため、幅広くサポーター募集を行っている。その都度募集をかけていくことで少しずつサポーターの数が増え、現在50名を超える人数となっている。本年度の実践をもとに、年間計画を作成し、見直しをもって取り組めるようにしたい。

事業の成果

本年度開校の新設校であったが、これまでの地域協働分校の基盤があり、農業合校に関しては開校前から田んぼの準備をしていただくなど、地域の大きな支えがあった。

初めての取り組みで、サポーターの募集の仕方など、試行錯誤しながらのスタートであったが、地域コーディネーターの方がアイデアを出して、積極的に進めていただいたおかげで、徐々に老上西小学校コミュニティ・スクールの形が見えてきた。

事業実施上の課題

サポーターに登録をしていただいたが、その方全てにサポーターとして活動していただく場が提供できていない。また、保護者・地域等に幅広く呼びかけてはいるが、まだまだ浸透していない現状がある。今後地域コーディネーターの方とさらに連携を密にし、本校の課題や目標を明確にしながら、地域へ発信していけるようにしていきたい。



【大きなさつまいもがとれたよ】



【稲刈りのあと、脱穀体験】

好きです玉川 わたしも参加 つくるよろこび（玉川小学校）

■ 草津市
■ 活動名
玉川小学校地域協働合校
■ 関係する学校
玉川小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	129 人
開始年度	平成28年度 (地域協働合校事業は平成10年度から実施)

■ 活動の概要

本校は本年度創立40周年を迎えた。ここ数年に渡り、駅前開発でマンション群が建ち並び新興地区と旧地区が混在した学区である。その中でも、本学区の方々はそれぞれが連携をとりながら、小学校の活動に対して非常に協力的であり、環境を整えていただいたり、子どもたちの学習を助けていただいたりしている。地域の特性を生かした活動は、地域の方にとっても、子どもたちにとっても有意義な取組となるように仕組んでいる。

■ 特徴的な活動内容

○5年生 米作り～もちつき

5月の苗植えや9月には稲刈りを体験している。5年生が育てたもち米は、萩まつりで地域のみなさんにふるまわれている。また、米だけでなく、わらについても、昔の生活の中で生かされていたことを知るために、「わらない」などの体験をしている。



【 5年 稲刈り体験 】

○3年生 そろばん教室

そろばんの学習を地域のそろばん教室の先生に教えていただいて今年で17年目になる。3年生になると、そろばんの先生と一緒に学習することを知っていて、楽しみにしている子どもがいる。

○1年生 けん玉教室・昔遊び

1年生は、人との関わりを大切にしながら、けん玉や昔遊びなどに取り組んでいる。地域のみなさんとの交流を楽しむことができるように仕組んでいる。昔遊びでは、メンコ、はねつき、あやとりなど十種類ほどの遊びを一緒に体験している。けん玉は、教えてもらった後、休み時間の人気の遊びになり、夢中で遊んでいる姿が見られる。さらなる上達のため、昼休みにも3回来ていただき、教えていただいている。

○玉川萩まつり

地域の方々、学校、企業など玉川学区の力を結集して行われている地域のお祭りである。本校を会場の中心として、午前中は幼稚園、小学校、中学校、高校の発表が行われている。午後からは、模擬店やふれあいコーナーなど子どもたちがとても楽しみにしている取組がある。子どもたちだけでなく地域の方も笑顔になるような内容になっており、子どもたちと大人が楽しくコミュニケーションが取れる場となっている。



【 全校 玉川萩まつり 】

■ 実施に当たっての工夫

玉川小学校の地域協働合校の伝統として行われている活動に加え、新しい取組を毎年少しずつ取り入れるように考えている。そのためには、行事が終わった後に地域のみなさんと反省会をもち、来ていただいた方とその日のうちに話し合っって次年度に生かすようにしてきた。毎年、必ず行事を見直しより良い取組だけを残すようにしている。

■ 事業の成果

子どもたちは地域の中で生活している。地域の中にはいろいろな技能を持った人がたくさんいるということ、子どもたちは地域協働合校の行事を通して学んできた。地域の方とのつながりを持つよききっかけになっており、登下校時には、挨拶を交わす姿も見られるようになった。中には、地域に帰った時に、地域で関わっていただいているみなさんに感謝の気持ちを直接伝えている子どもたちもいた。

■ 事業実施上の課題

地域の方々は、小学生と地域がつながって一緒に活動することで、玉川学区のよさや特徴を知り、玉川を愛する子どもたちが増えてほしいと願っておられる。玉川のことが大好きといえる子どもになるように今まで続いてきた伝統的な活動を継承しながら、新たな取組を取り入れていきたいと考えている。ただ、現在教えていただいている方たちの高齢化を懸念している。併せて、事業についても活動場所の見直しなども再考する時期に来ている。今後も学校と地域を結ぶ力をもっと高められるようにコーディネートをしていきたい。

■ 出会い・ふれあい・学び合い ～みんなで育てる山田の子～（山田小学校）

■ 草津市
■ 活動名
山田小学校地域協働合校
■ 関係する学校
山田小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	91 人
開始年度	平成28年度 (地域協働合校事業は平成10年度から実施)

■ 活動の概要

本市では、平成10年度から学社融合の考えに立って『地域協働合校』が進められてきた。本校においては、「出会い・ふれあい・学び合い～みんなで育てる山田の子～」を合言葉に、子どもと大人が学び合い・かかわり合い・よろこび合い・認め合う協働の積み重ねを通して、子どもの学びを学校と地域で連携し『地域協働合校』事業を進めている。

■ 特徴的な活動内容

各学年での特徴的な学習支援

○1年生「昔あそびにチャレンジ」

地域の高齢者の方々から、お手玉、あやとり、けん玉などの遊びを教えていただき、伝承遊びに興味を持たせたい。

○2年生「玉ねぎ植えにチャレンジ」

教育後援会の方から玉ねぎの栽培についてのお話を聞いたあと、校内の畑に玉ねぎの苗を植える。半年後、3年生になった子どもたちに収穫した喜びを感じさせたい。

○3年生「人にやさしいまちづくり」

点字つばさの会の方々より、点字の意義や点字の打ち方などを学ぶ。自分たちのまわりにある点字について考える機会としたい。過ごしやすいまちづくりのひとつとしたい。

○4年生「ニゴロブナ稚魚の放流」

(財)滋賀県水産振興協会が育てていただいた稚魚を、山田漁業共同組合の皆さんの協力のもと、びわ湖に放流する活動を通して、水環境を考えるきっかけとしたい。

○5年生「米作りにチャレンジ」

学区内（五条地区）の田んぼを学習田として、田植えから稲刈りを体験し、農業について学ばせたい。

○6年生「薬物乱用防止教室」

大学教授をお招きし、「喫煙と飲酒の害について考えよう」「医薬品と薬物乱用防止について考えよう」をテーマに、実験を通して摂取の仕方を正しくする話や乱用の恐ろしさについて学ばせたい。

○全校

本校で、室戸台風の被害に遭われた方の話を直接聞き、亡くなられた方々を追悼するとともに、自然の偉大さについて考えるきっかけとさせたい。

○全校

読書サークル「トトロ」のみなさんに読み聞かせを全学年の児童対象に実施している。拡大図書や効果音などを交えて、クオリティの高い読み聞かせを行っていただくことで、読書意欲を高めたい。

■ 実施に当たっての工夫

今まで、学級担任とゲストティーチャーが、日程や内容などの調整を行っていた。しかし、年度ごとに担任が交代することや人事異動で状況を十分把握できないこともあり、少しずつコーディネーターを窓口に、ゲストティーチャーと交渉していけるよう取り組んでいる。地域の顔なじみであるコーディネーターを中心に、調整することでより活性化した教育実践を進めていきたい。

■ 事業の成果

掲示板にボランティア紹介コーナーが設置され、いろいろな場面でお世話になっている方のお名前と顔が一致するように試みた。子どもたちから「この人、知っている〇〇さんや!」といった歓声をあげる姿も見られた。

■ 事業実施上の課題

地域の高齢化が進み、恒例の学習も毎年のように実施することが困難なケースも発生してきた。今後、数年先を見越して、コーディネーターを中心により豊かな人材発掘を進めていきたい。



【 琵琶湖へニゴロブナを放流 】



【 玉ねぎの収穫 】

■ 協力して育つ 共に育つ 響いて育つ 子どもの夢育て（笠縫小学校）

■ 草津市
■ 活動名 笠縫小学校地域協働合校
■ 関係する学校 笠縫小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	85 人
開始年度	平成27年度 <small>(地域協働合校事業は平成10年度から実施)</small>

■ 活動の概要

開校140年を過ぎ、歴史と伝統のある笠縫小学校では、「自育」「和協」「勤儉」を校訓に、また、「夢と笑顔いっぱい 生き生き学ぶ笠縫の子」をめざす子ども像として、温かく協力的な地域の方々の支えを得ながら教育活動を進めている。本校では、地域の方との活動を進めていくにあたり、「栽培体験合校」、「地域の人と学ぶ合校」、「読書推進合校」、「地域安全・学校安全合校」の4つを柱に据え、それぞれの活動において地域の方々の指導や支援をいただいている。

■ 特徴的な活動内容

○ 栽培体験合校

3年生の総合的な学習の時間では、学区にお住いの「アオバナの先生」を招き、苗の植え方や世話の仕方を、実演を交えながら教えていただいた。子どもたちは先生の教えをしっかりと守って熱心に世話を続けた。その甲斐があって7月には多くの花が咲き、摘んだ花でハンカチを染める活動を行うことができた。

○ 地域の人と学ぶ合校

6年生の総合的な学習の時間では、学区の伝統である「サンヤレ踊り」、「講踊り」、地域で生まれた日本画家の野添平米さんについて学ぶ機会を設けている。子どもたちを3つのグループに分け、実際に地域に出向いて地域の方より話を聞いたり実演を通したりして学んでいる。その後、学んだことをタブレットパソコンや画用紙などにまとめ、下の学年の子どもたちに自分たちの学びを伝えている。

たんぼぼ学級（特別支援学級）の子どもたちは、年に2回、学区の民生委員児童委員さんと製作や調理などの交流を行っている。民生委員児童委員さんの方から交流の企画を出していただいたり、必要な物を準備いただいたり、積極的に関わってもらっている。

○ 読書推進合校

読書ボランティア「お話の森」のみなさんによる読み聞かせを2～3週間に一度、朝学びの時間（15分間）に各学級の教室で行っている。また、不定期ではあるが、昼休みに「お話会」を行っている。お話会では、紙芝居やパネルシアターなども行っている。お話会は低学年の子どもたちを中心に、毎回50人～60人が集まる人気の活動である。

○ 地域安全・学校安全合校

子ども見守り隊の方々による登下校の見守りを行っている。長年続けていただいている方も多く、見守るだけでなく指導もしていただいている。1年間の感謝とお礼を伝える場として、修了式に見守り隊の方をお招きしている。また、学校安全ボランティアを募り、長休みや昼休みに校内や運動場の巡視を行っていただいている。

■ 実施に当たっての工夫

地域のよさを感じたり学校や校区のことを詳しく調べたり、校区の人たちの生き方や温かさに触れたりするような活動を大切にしていきたいと考え、教科等との関連をふまえ、活動を仕組んでいる。

■ 事業の成果

コーディネーターの方をはじめ、継続してボランティア活動に取り組んでいただいている方が多く、教員以上に活動を把握されており、主だった活動にスムーズに取り組むことができています。民生委員児童委員さんのように、進んでアイデアを出していただくこともあり、地域の子どもの育ちに自分たちも積極的に関わっていこうとされる姿は、学校にとっても本当にありがたいことである。

■ 事業実施上の課題

継続してボランティア活動に取り組んでいただく方が多いものの、一方で新たな人材を見出していくことが課題である。その上で、コーディネーターとの連携は大変重要であるが、コーディネーターに任せきりになっている状況である。今後は、連携を密にして人材の発掘に努めていきたい。



【アオバナの世話の仕方を学ぶ】



【地域の方からサンヤレ踊りを学ぶ】

■ ふるさとの「いのち」とふれあう東っ子（笠縫東小学校）

■ 草津市
■ 活動名
笠縫東小学校地域協働合校
■ 関係する学校
笠縫東小学校

コーディネーター数	1人
ボランティア登録数	80人
開始年度	平成27年度 (地域協働合校事業は平成10年度から実施)

■ 活動の概要

本校は、「葉山川」をはじめとする豊かな自然環境と、学校教育に協力的な地域住民が多いという人的環境に恵まれた学校であり、これまでから、たくさんの地域の方々の力を借りて教育活動の充実に努めてきた。特に、11月に開催される「地域ふれあい東まつり」においては、子どもたちが環境学習のまとめとして行う「ふるさと葉山川博物館」の取組がある。これは、学校の取組であるが地域のイベントとして定着しつつあり、学習を仲立ちにして地域と学校が手を取り合って子どもたちをよりよく育み、併せて地域のみんなが地域の環境保護に思いを馳せる場としての役割を担っている。

■ 特徴的な活動内容

○学校と地域をつなぐ「ふるさと葉山川博物館」

地域の葉山川を素材として、1年生から6年生までの体系的なカリキュラムのもと、地域の学習ボランティアとともに環境の学習を行い、その成果を地域ふれあいまつりの日に「ふるさと葉山川博物館」として、子どもが「子ども学芸員」となって地域住民や保護者に向けて発表する。

- ・1年生・・・育てたアサガオのつるで作ったリースを展示したり、葉山川の土手や学校周辺で見つけた「秋」を感じるものを紹介したりした。
- ・2年生・・・葉山川周辺と天神社で見つけた秋の草花や木の実で遊んだことをまとめて発表した。（葉っぱの写し絵、オナモミダーツ、草花パズルやクイズなど）
- ・3年生・・・葉山川沿いを3つの観察スポットに分け、それぞれの場所の草花・虫・その他の生き物について調べることで、豊かな自然に親しみ、葉山川を大切にしていこうという思いを発信した。
- ・4年生・・・天井川であった頃の昔の葉山川の歴史を学び、川と人々の生活とのつながりについて考えた。さらに、今の葉山川の魚には固有種と外来種がいることや、付近の休耕田で日本最長のミズズ「ハッタミズズ」を見つけ飼育して分かった生態などについて発表した。
- ・5年生・・・身近な葉山川とつながる琵琶湖の環境を守るための様々な取組（米作り、市のごみ分別・県の施策、ヨシ保全）を学習し考えたことをまとめこれから自分たちにできることを考えた。
- ・6年生・・・「今後、どのような葉山川にしたいか」というテーマのもと、学習ボランティアや地域住民、行政「ごみ減量推進課」の協力の下「ごみのない川」「みんなが楽しめる川」「生き物がたくさん住める川」にするために自分たちができることを考え発信した。

【参観した地域の方の声】

- ★1年生から6年生まで一貫して葉山川について様々な角度から学ぶことで、ふるさとの川としての愛着もわいて大事にしようという気持ちになる良い企画です。子どもたちも一生懸命発表していました。
- ★小学生の時から自然に関心を持って、色々よく調べられたと思います。身近な場所のことをよく教えていただきました。
- ★身近な葉山川を調べることで、生き物や植物、ゴミなどに関心を持ってよく観察されていると感じました。いつまでも美しい川であるようみんなで守っていききたいです。

○その他の取組

朝の読み聞かせ（全学年）、米作り体験（5年）、茶道体験（6年）、「昔の遊びを楽しもう」（1年生）、東っ子句会（全学年）など多数ある。

■ 実施に当たっての工夫

各学年の環境の学習には、学習ボランティアとともに地域コーディネーターが参加し、活動の様子を写真等でこまめに記録してきた。また、「ふるさと葉山川博物館」当日は、子どもが受付に立ち、参観者名簿の記名と参観後のアンケート記入を呼びかけた。



【 ハッタミズズを見る様子 】

■ 事業の成果

学んだことを説明するだけでなく、ゲーム・カルタ・パズル・紙芝居・模型展示・体験などの工夫を加えて発表したのも、参観者には分かりやすく、子どもたちの思いを受けて大人も地域の環境を守ろうという意識を持ち、子どもたちと思いを一つにした。

■ 事業実施上の課題

「葉山川学習」は本校独自の環境学習であり、校外でのフィールドワークが多く地域の学習ボランティアと地域コーディネーターの力を借りて実施している。しかし、住宅開発による葉山川周辺の環境の変化に伴い、今後の学習の継続が懸念される。

■ ふるさと だいすき 常盤っ子（常盤小学校）

■ 草津市
■ 活動名 常盤小学校地域協働分校
■ 関係する学校 常盤小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	300 人
開始年度	平成27年度 (地域協働分校事業は平成10年度から実施)

■ 活動の概要

学校と家庭、地域が、一体となり、子どもたちを見守り、支えていくことを目標に活動を展開している。子どもたちが、地域の方との交流を通して、自分の生まれ育った場所（ふるさと）に愛着や誇りが持てるように取り組んだ。

■ 特徴的な活動内容

○「ときわ探検」

3年生の総合的な学習で、学区内の名所や歴史的建造物を訪れたり、産業の現場を見学したりすることで、地域の良さをあらためて感じることができた。特に、志那町で行われている淡水真珠の養殖の見学時には、養殖されている方の全面的な協力のもと、見るだけではなく、実際に貝にさわったり、真珠を取り出す作業まで体験することができた。地域の方とのふれあいを通して、子どもたちの記憶に深く残る活動となった。

○「魚ゆりかご水田体験学習と環境学習」

4年生の総合的な学習で、水田とつながっている水路にどのような生き物が生息しているかを調べるために、実際に捕まえ、仕分けした後、観察した。また、「やまのこ」の学習の一環として、樹木や鳥などの生態系について樹木医などから話を聞いた。子どもたちにとっては、自然が身近に感じられ、生態を守っていくことの大切さを学ぶことができた。また、5年生のフローティングスクールに向けてのつながりを持つことができ有意義な活動となった。

○「米作りと環境学習」

5年生の総合学習で、米作りを通して食べ物のありがたさや環境の大切さについて学んだ。地域の農家の方の協力を得ることで、学校の近くの場所で稲を見守り、成長の喜びを感じながら米作りをすることができた。また、田んぼにニゴロブナを放流し、田んぼとつながる水路の生態系を考えることを通して、食と環境のつながりについて学ぶことができた。また、ふなずし作りを通して、滋賀の食文化を知り、その文化を守っていくことの大切さを学んだ。常盤学区には、伝統的なふなずし神事や家庭でふなずしを作る文化が、受け継がれている。子どもたちは、実際に伝統を受け継いできた方に思いを聞いたり、一緒にふなずしを作ったりする中で、地域に一層愛着を持ち、ふなずしなどの伝統的な食文化をより身近に感じることができた。



【ときわ探検】



【ふなずし作り】

■ 実施に当たっての工夫

学校のコーディネーター担当者と地域コーディネーターとの打ち合わせの時間をとり、担任とのパイプ役になるように心がけた。また、担任から出てきた要望を地域コーディネーターに伝え、地域との連絡調整にあたっていただいた。

■ 事業の成果

たくさんの活動に地域の多くのみなさんに協力をしていただいた。そのおかげで子どもたちにとって心に残る体験的な活動をたくさん取り入れることができた。また、活動の中で子どもたちと地域の方が交流することで、子どもたちには地域に対する愛着や地域のみなさんに支えられていることを実感することができた。また、地域の方には子どもたちとの交流を楽しんでいただいた。そして、地元の学校として自分たちが学校を支えていくのだという意識を持っていただくことができた。

■ 事業実施上の課題

地域コーディネーターのおかげで、教師の負担が軽減されてきたが、子どもの実態にあわせた対応について細かく打ち合わせる十分な時間を確保することが難しい。地域の方に多く関わってもらえらうほど、綿密な打ち合わせや連絡が必要になる。また、地域や学校のコーディネーターの担当が変わる時期に更に細かい点まで打ち合わせをおかないとうまくいかないことがある。

栗東市における学校支援地域本部の取組

■めざす姿

地域の方々の理解、協力を得ながら、とりわけ学校での活動における健全な青少年育成を進めたいと考えている。本市は9小学校、3中学校を有しているが、そのうち1中学校において、学校支援地域本部を設置している。もとより、地域のボランティアの方々によって生徒指導面における学校支援を目的として組織された団体が基幹となって活動を進められており、地域ぐるみで青少年の健全育成に取り組み、学校や家庭での教育活動支援を進めている。

当該校における活動が青少年の育成に良い影響をもたらし、他校へと広まっていくことによって、市全体の青少年育成の推進、地域教育力の向上、学校との連携を深め、広げていくことをめざしている。

■本年度の活動

1校において学校支援地域本部を設置している。サポーター会議において年間の行事予定や、サポーターを増やす試みについての取組について協議を行った。

■本年度の成果

1校のみではあるが、サポーターの協力を得ながら多くの活動を実施した。美化活動や見守りをはじめ、図書室支援や古タオルを利用した雑巾の作成、さらには学校行事の支援なども実施できた。活動は校内だけでなく、生徒と共に地域の清掃を行ったり、育てた作物を地域の方に販売したりして、幅広い教育活動支援が展開できている。

■今後の課題

学校支援地域本部を実施していない学校へどのように広めていくか、スタッフやボランティアの確保等の課題がある。

現在実施している1校の活動内容や実績、学校・家庭・地域連携協力推進事業に関する研修の案内等を他校に広報することによって、学校支援地域本部への理解を深めてもらい、実施の気運を盛り上げていきたい。

スタッフやボランティアを募集した時に、「学校関係の活動に対する協力」となると身構えてしまい、協力してくれる人が少ない。したがって、地域に対する広報により、地域住民の活動に対する理解を深めてもらい、参加しやすい環境を整えることが大事になってくる。さらに、コーディネーターの負担を軽減させる取組が必要となっている。現在はコーディネーターの負担が大きく、今後安定した雇用を確立させるためには、コーディネーターの負担を軽減させる必要がある。

■ 地域と学校を結ぶ栗東中学校支援地域事業本部「栗中サポーターズクラブ」

■ 栗東市
■ 活動名
栗東中学校支援地域本部「栗中サポーターズクラブ」
■ 関係する学校
栗東中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	39 人
開始年度	平成20年度

■ 活動の概要

本校の学校支援地域本部「栗中サポーターズクラブ」は、平成19年度、生徒指導面を支援する地域住民団体が基盤となり「栗中改革サポーター」として発足された。発足当初は、日々の学校教育活動における生徒指導面での支援を中心に、授業や清掃の見守りなど、生徒の学校生活の中に大人の目を増やす取り組みからスタートした。現在、39名の地域住民、保護者から編成されるボランティア「登録栗中サポーター」と41社の学校支援地域本部をサポートする地域事業所「栗中ブースター」が「栗中サポーターズクラブ」として組織し、幅広く学校教育支援活動を実施している。

■ 特徴的な活動内容

- ①学習環境支援・・・美化活動や危険箇所の点検を兼ねながら廊下から授業を見守る支援（月2回程度）
- ②図書室支援・・・新着図書の蔵書作業や、本の整理、環境整備など
- ③環境整備支援・・・破損箇所修理や植栽伐採、PTA環境整備支援、家庭部員との協働雑巾作りなど、校舎内外の学校生活環境向上全般における支援
- ④通学マナーアップ・・・登下校時の危険箇所での立番活動
- ⑤学校行事支援・・・生徒との地域ゴミ拾い活動、校外学習時の立番、チャレンジウィーク起業体験支援
- ⑥栗中コミュニティガーデン・・・生徒とサポーターさんとの協働運営菜園で野菜の栽培、収穫支援

■ 実施に当たっての工夫

- ①人数の確保・・・活動計画を、事前にサポーター通信などで会員さんに周知。申し込み制。申し込み状況を把握しながら、事務局からも働きかけ、人数調整をする。
- ②ユニフォームの着用・・・専用のユニフォームを着ていただき、活動が一目でわかるようにする。
- ③サポーター通信の発行・・・月1回発行。保護者や地域の役員さんにも配布し、活動の様子を伝える。近隣の生徒が通信を届け、地域とのつながりの機会とする。
- ④生徒との協働・・・無理のない範囲で、生徒たちと一緒に活動することを心がける。
- ⑤掲示板の利用・・・活動の様子を校長室前掲示板に掲載。来校されたお客様にも幅広く活動を知っていただく。
- ⑥校内に「栗中サポーター」のスペース設置・・・活動時だけでなく、活動の前後や、活動計画を立てるときに利用していただく。なごやかな雰囲気の中、交流も深まり、いろんな感想や意見を聞くことができる。

■ 事業の成果

規律や安全面での支援

・廊下からの見守りの他、三者懇談会中の放課後に駐輪場やグラウンドの巡回、校外学習時の駅周辺の見守りなど、学校行事で手薄になりがち箇所を支援していただいている。また、樹木の伐採や側溝の溝掃除、校内環境整備など助かっている。

図書室支援による担当教員の負担軽減

・図書室支援・・・図書室の本の整理やカーテンなどの環境整備、新着図書の蔵書作業支援により生徒たちが図書室を利用しやすい環境を作っていただいている。

サポーターさんとの協働による生徒の心の醸成・サポーターさんの活躍の場の提供

・種まきや苗植え、収穫した野菜を起業体験で出荷する作業を通して、野菜を育てる喜びを実感したり、近隣のゴミ清掃を通してゴミの多さに気づき、そのことについて考えるきっかけを提供したり、雑巾作りを通して校内環境整備に協力したり等、授業とは違った学びがある。ミシン掛けが苦手な生徒への支援にもなった。

また、家庭部員との着付け教室や生け花指導、エコロジー委員との畑作業など、サポーターさんの専門知識を生かした活躍の場の提供にもなっている。

全体を通して

・校内での活動と地域に目を向けた校外での活動を、長年にわたり、途切れることなく続けていただいている。今までに関わってこられたたくさんの方々のご努力のたまものである。生徒たちは、ユニフォームを着たサポーターさんを自然な形で受け入れ、和やかな雰囲気であいさつをしたり会話を交わしたりできる。開かれた学校づくりに貢献していただいている。

■ 事業実施上の課題

・サポーターさん自身の高齢化が課題である。徐々に引き継いでもらえるように取り組みたいが、年齢層が偏っており、難しい。保護者に加入の呼びかけも進めている。活動を続けていくうえで、幅広い年齢層の方に参加いただけるよう呼びかけていきたい。



【 野菜の苗植え 】



【美化活動を兼ねた校内の見守り】

■ 湖南省における学校支援地域本部の取組

■ 目指す姿

本市においては、「学校支援地域本部事業」の取組を開始して9年が経過。「全ての学校がコミュニティ・スクールへ」を湖南省ビジョンとして掲げ、地域による学校・家庭・地域連携協力推進活動を推進。岩根小学校は平成19年に、平成27年4月に石部小学校、石部南小学校、菩提寺小学校、菩提寺北小学校が、本年4月に石部中学校がコミュニティ・スクールの指定を受け、地域と一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校」を推進している。

市内他7校も、各々の学校、地域、児童・生徒の強み、弱みをもとに学校支援地域本部実行委員会（運営委員会）や、コミュニティ・スクール導入等促進に向けた「C・S導入推進委員会」で「将来の地域の担い手を育てるために、どのような児童・生徒を育むのか」等について、地域の力を生かした学校支援活動のあり方や学校と地域とがともに創り上げる学校のあり方等について熟議と協働を進めている。

■ 本年度の活動

学校支援地域本部事業運営委員会 7月1日(金)

- 1) 講話「学校支援地域本部からC・Sへの移行に向けて」
「子どもを中心に据えた学校と地域の連携・協働について」

講師 立命館大学 准教授 武井 哲郎 氏

- 2) 中学校区別分散会 3) 全体交流 総括講話 ・教育長講話

学校評議員・学校運営協議会理事・学校支援地域本部委員等合同研修会 2月23日(木)

- 1) 功労者感謝状贈呈3年次 2) 実践発表 石部小学校の取組発表
- 3) 講演「これからの学校と地域の連携・協働の在り方」

講師 兵庫教育大学 教授 日渡 円 氏

市内地域コーディネーター、事業コーディネーター等交流会議 年3～4回

第1回 4月27日(水) ・湖南省教育指針、「地域とともにある湖南省ビジョン」の周知
・地域コーディネーター委嘱状授与 ・学校支援地域本部事業等の進め方について

第2回 6月14日(火)～6月28日(火) 第3回 10月26日(水)～12月8日(木)

- ・C・Sや地域学校協働活動推進の動向について
- ・小中連携、小小連携、中高連携を意識した各校の事業取組の交流や情報交換 ・その他

■ 本年度の成果

- ・地域コーディネーター、事業コーディネーターを中心に中学校区内の情報交換や取組の交流を行い、学校や地域の特性・実情を生かし児童・生徒が将来の地域の担い手となる力を育てる取組への工夫・改善が進展している。
- ・学校支援地域本部の従来からの「環境整備」「登下校安全指導」「学校行事」「クラブ活動支援」「学習支援」に加え、「土曜日の教育支援事業」「放課後子ども教室」により、「学力補充、進路保障のための学習支援」や「体験活動」の取組を積極的に実施し、地域をあげての子どもたちの学力向上への気運を高めつつある。

■ 今後の課題

- ・事業の周知と地域人材の育成を図る中で、各地域学校協働本部の経済的自立に向け、地元自治会や地域まちづくり協議会、企業やNPO法人等との連携や協働を進めていく必要がある。

【避難所開設訓練】



【地域夏祭りへ参画する中学生】



■ 石部の子どもたち『このゆびと～まれ♪』図書ボランティアの取り組み（石部小学校）

■ 湖 南 市
■ 活動名
いしべっこ応援団活動
■ 関係する学校
石部小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	180 人
開 始 年 度	平成20年度

■ 活動の概要

本校は、「思いやり」と「自ら正しく判断し行動できる力」を育成することを目標として、学校と地域が協働し活動を展開している。子どもたちを見守り、支え続けてきている図書ボランティアグループ『このゆびと～まれ♪』の活動は、15年目となる。本好きな子どもそうでない子も、読み聞かせを通していろいろなことに興味を持ち、健やかに育てほしいとの思いをこめて活動して下さっている。

■ 特徴的な活動内容

○朝の読み聞かせ（全校）

毎週2日（火・木）、朝の時間に各クラスに出向き、絵本の読み聞かせをしている。

○図書室の飾り付け

季節に合わせて飾り付けをしている。各クラスの読み聞かせ予定表も、季節に合わせて変えている。

○図書室の本の整理整頓

本の並べかえや、新刊のブックカバー付けをしている。

○昼のお話会

昼休みに図書室でお話会をしている。

○やまのこスペシャル（4年生）

読み聞かせ本『どんぐりころころ』

植物の種のクイズ

本の紹介『どんぐりの食べ方』『チャレンジどんぐりクッキー』『森の工作図鑑』

○フローティングスペシャル（5年生）

読み聞かせ本『民話 神さまのあしあと』『ぎんのなみおどる』

琵琶湖に関する三択クイズ

琵琶湖に関する本のブックトーク

○卒業スペシャル（6年生）

読み聞かせ本『ヨセフのだいじなコート』

エコの話～ふるしきの包み方 「ペットボトルとボールを包んでみよう！」

6年生に送る歌の下敷き



【 お昼のお話会 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・今年度より始めた「お昼のお話会」では、朝の読み聞かせでは行っていなかった『紙芝居』や『大型絵本』を使い、昼の放送と共に集まってくれた子どもたちが、学年を問わず楽しめる内容にした。
- ・やまのこスペシャルやフローティングスペシャルは、子どもたちが行事に参加する前に開催し、それぞれの活動に添った内容をクイズ形式で説明し、事前学習となるようにした。ホワイトボードを使い、絵でも説明して視覚にも訴えた。朝学習の限られた時間内に終わるように、ボランティアさんが何度もリハーサルをし、段取りよくしていただいた。
- ・卒業スペシャルでは、『ヨセフのだいじなコート』の読み聞かせを行い、物を大事にすることの大切さを伝えた。昔のエコバッグである『ふるしき』の使い方を教えるだけでなく、ペットボトルとボールの包み方に挑戦させ、子どもたちが班ごとで考える場となるようにした。
- ・図書室の飾り付け、掲示を定期的に行い、子どもたちに季節感やわかりやすさをもたらすようにした。

■ 事業の成果

- ・クラスごとの朝の読み聞かせが定着し、図書ボランティアによる読み聞かせを楽しみにしている子どもたちがたくさんいる。図書室でのお昼のお話会は、低学年を中心に約50人の子どもが自主的に参加している。

■ 事業実施上の課題

- ・短い時間の中で、子どもたちにいかにわかりやすく伝えていくかの工夫。
- ・読み聞かせを通して、話を聞く姿勢や態度などの社会性も身につけさせていく必要がある。



【フローティングスペシャル クイズ形式で説明】

■ 「サークル活動」への取り組み みなみっこ応援団（石部南小学校）

■ 湖南市
■ 活動名
みなみっこ応援団活動
■ 関係する学校
石部南小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	175 人
開始年度	平成21年度

■ 活動の概要

石部南小学校では、サークル活動を次のように位置づけている。

サークル活動は、子どもの主体的な活動の場であり、地域の方に参加していただき新しい発想を生み出す場としている。

4年～6年児童に対して希望調査を行い、学年の異なる児童の集団が編成できるかどうかを十分検討した上で、今年度は10サークルを設立している。

■ 特徴的な活動内容

「スポーツ」「アドベンチャー」「ラケットスポーツ」「ゲートボール」「おしんぼ」「イラスト 図工」「ホームアート」「科学」「ちゃちゃ茶」「コンピュータ」の10サークルが設立している。

■ 実施に当たっての工夫

- ・地域ボランティアさんは指導者や講師という立場ではなく、子どもと一緒に楽しむスタンスで参加している。
- ・「サークル活動参加者打ち合わせ会」では、担当の教師と顔合わせをして今年度の目標は方針等を話し合っている。
- ・第1回目のサークル活動の時に、地域ボランティアより活動内容の提案をしていただき、子どもたちと一緒に年間活動計画を立てている。一年間の活動の見通しを持つことができ、準備物等も確認することができた。
- ・地域ボランティアさんの名札を職員室入り口に置いているので、学校に来られたことがすぐにわかり、当日の打ち合わせがスムーズにできるようにしている。
- ・「ラケットスポーツサークル」は、学校内にない道具があるため、地域ボランティアさんが、湖南市内の体育施設にて、様々なラケットスポーツの道具を手配し準備して下さったおかげで、子どもたちは様々なラケットスポーツの体験をすることができた。
- ・「おしんぼサークル」は、地域ボランティアさんが、子どもたちだけで作れる簡単なお菓子を教えてくださっている。
- ・「ゲートボールサークル」では、湖南市のゲートボール大会に参加できるよう目標をもって活動している。今年度は2名の子どもが大会に参加した。

■ 事業の成果

- ・地域ボランティアと一緒に活動し、交流することで地域の中での顔見知りとなり、つながりができている。
- ・専門的な知識をもつ方がおられるので、子どもたちに深く教えることができる。
- ・毎月、ボランティア便りを発行することにより、地域の方に理解をしてもらい学校支援ボランティアの増加につながった。

■ 事業実施上の課題

活動時間が限られている(水曜日の14:10～15:10の1時間)ので、その時間に終わらせるための時間配分が難しいこともある。



【おしんぼサークルでは、子どもたちに大人気。子どもたちだけで簡単に作れるお菓子作りを教えていただいている。】



【ラケットスポーツサークルではテニス、卓球やニュースポーツ等さまざまなラケットを使ったスポーツを教えていただいた。】

■ 心豊かに育つ みくもっ子 ～地域の皆さまの温かな 眼差しに包まれて～ (三雲小学校)

■ 湖 南 市
■ 活動名
みくもっこ支援活動
■ 関係する学校
三雲小学校

コーディネーター数	2 人
ボランティア登録数	290 人
開 始 年 度	平成23年度

■ 活動の概要

- ・ スクールガード等 登下校時の危険箇所の見守り 同行 あいさつ
- ・ 教育環境の整備 【環境ボランティア】花壇植栽、草刈、剪定、修繕等
【掃除ボランティア】掃除の仕方を指導する
【図書ボランティア】読み語り、おはなし会、図書室整理等
- ・ 学習の支援 【田んぼの応援団】
【町たんけんボランティア】
【水泳ボランティア】
【家庭科ミシンボランティア】
【持久走大会ボランティア】危険箇所の立番
【ふれあい食育教室】健康推進員との共催
【ゲストティーチャー】6年生「将来の夢」に向けてキャリアエピソード紹介等

■ 特徴的な活動内容

今年度は、地域住民の中から、とりわけ日頃から地域の中で子どもたちを見ていて下さる方の中からの自発的な申し出による見守り活動が増え、これまでの積み重ねに加え更に充実した。具体的には、登下校時に児童と一緒に歩いていただいたり、通学路の各戸口において朝の声かけなどをしていただいたりしている。これら見守り活動や、掃除などで関わって下さる多くの方に、今の子どもたちの育ちや環境を肌で感じていただく機会となった。

■ 実施に当たっての工夫

それぞれ、息の長い活動となるように、環境・掃除・図書ボランティアは定番のスタイルで無理なく続けていく。単純にボランティア人数を増やすのではなく、普段から子どもたちをよく知り関わっている地域の方や、保護者の中からも他学年まで関わる志を持った方、子どもとの関わりを喜びとしてくださる方と繋がっていくことを心掛けている。

■ 事業の成果

図書ボランティア読み語りのメンバーが、中学校でも朝の読み語りを始められた。同じ人が9年間、読み語りを通して子どもたちを見守ることが出来るようにという思いからだ。読み語りを聞いて育った中から、児童図書委員が低学年の教室で読み語りをする企画が生まれた。町たんけんで調べた成果をまとめ、学習参観で発表。町たんけんで児童を支援いただいたボランティアさんにも参観していただくことができた。



【図書ボランティア研修会】

■ 事業実施上の課題

上記概要のとおり、様々な場面で地域の方に支援していただいているが、子どもたちが、言葉づかい・持ち物をそろえること・トイレの使い方など、当たり前のことがしっかりできない状況があるなどの児童課題の解決に向けた取組を検討していく必要がある。

■ その他

校区の中で、目の行き届きにくい所にも児童の安心・安全確保のため、見守りボランティアの方が大勢いてくださる。また、右の写真のように一緒に歩いて下校の見守りをしてくださる見守りボランティアの方もいてくださる。



【登下校の見守り】

■ 支援の広がりや充実をめざした「東っ子応援団」の取り組み（三雲東小学校）

■ 湖 南 市
■ 活動名
東っ子応援団活動
■ 関係する学校
三雲東小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	130 人
開始年度	平成23年度

■ 活動の概要

登下校の安全面への支援、校区内のたんけん、家庭科（裁縫・ミシン・調理）の学習面の支援、図書館教育への支援（朝の読み語り）、野菜作り、なたねの栽培から脱穀までの農園活動での支援など、地域の方々や保護者に多面的に協力をいただいている。地域の方々との様々な場面でふれあいを大切に、よりよい活動となるよう取り組みを続けている。

■ 特徴的な活動内容

○スクールガード活動

週に1回、1年生だけが5校時終了後に下校する日がある。その日は、各地区から児童を小学校まで迎えに来て、最後の一人が家に到着するまで付き添って下校して下さっている。見守りの立ち当番とは別の取り組みで、校区内の二つの区の協力により継続している。各地区から数人の方が担当となり、一年間お世話になっている。

○農園活動

夏野菜やさつまいも、なたねを育て、収穫している。特になたねの栽培は苗の移植、刈り取り、脱穀の全てにおいて一緒に作業を行っている。

○学習支援ボランティア

朝の読み語り（各学年）、校外（校区内）学習の支援（2～3年生）、家庭科・裁縫（5年生）、ミシン（5・6年生）などの学習支援など、保護者や地域の方の協力がある。



【読書ボランティアによる読み語り】

■ 実施に当たっての工夫

○各区の区長、スクールガード担当窓口の自治会役員の方との打ち合わせを年度始めに行っている。

○スクールガード活動の日に児童の様子や気付いたことなどを伺って学校に伝えている。

○スクールガード研修会には、教員とボランティアの意見交流の時間を設けて共通理解、連携につなげるようにしている。

○『東っ子応援団だより』を発行し、学校支援ボランティアさんの活動の様子を地域にも回覧していただいている。

○ボランティア活動の様子は授業参観など学校行事で保護者が来校する日に校内に掲示。併せてボランティア募集も行っている。

■ 事業の成果



【お母さんも汗を流してなたねの刈り取り】

○地域からスクールガードや立ち当番など安全面のサポートで継続的にボランティアに参加して下さる方が多い。数年継続して参加いただくことで、お互いに顔と名前を覚え、挨拶など声をかけやすくなった。

○2年生・3年生のまちたんけんは保護者がボランティアとして積極的に参加して下さっている。初めての参加をきっかけに、自分の子どもがいる学年のボランティアへ参加する方が増えている。大人の付き添いは安全面で大きな支援となっている。次年度以降も継続して参加いただけるようボランティアの輪をつないでいきたい。

○『いつも子どもたちがお世話になっているので、少しでもお役に立てば。』と、なたねの刈り取り作業ボランティアに4年生の保護者が参加し、農園ボランティアと一緒に汗を流して作業して下さった。

今後もボランティアさんの活動を『東っ子応援団だより』でお知らせするなど、広報活動に力を入れ、地域、保護者の関心を高めていきたい。

■ 事業実施上の課題

○新たな参加者も増え、今後の活動に期待していた農園ボランティアだったが、病気や高齢化で継続が危ぶまれる。また、屋外での仕事は、天候に左右される活動のため、ボランティアが集まりにくいのが課題である。

○2学期以降、朝の読み読みの時間に参加して下さる保護者の図書ボランティアが仕事の都合で参加できなくなり、現在は活動休止中。新たなメンバーの募集を急ぐ必要がある。

○保護者は仕事をしておられる方が多く関心があっても、学校がボランティアを必要としている時間に関わっていただくことが難しい。

■ 「しんどい子によりそい」「子どもをお客さんにしない」岩根小教育を地域とともに（岩根小学校）

■ 湖 南 市
■ 活動名
根っこ学校支援活動
■ 関係する学校
岩根小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	220 人
開 始 年 度	平成20年度

■ 活動の概要

岩根小学校は、開校142年目という歴史ある学校であり、今年はコミュニティ・スクール10年目にあたる。記念すべき10年目を次の10年に向けての年とするために、原点に立ち戻ってそこにあった願いや想いを受け取り、今の岩根に適した持続・発展可能なコミュニティ・スクールの取組の実施を重点としている。「しんどい子によりそい」「子どもをお客さんにしない」は、岩根小教育方針の合い言葉として定着している。ボランティアのみなさんもそれぞれの活動のなかでどのようにしんどい子によりそうのか、子どもをお客さんにしないためにはどうすればよいのかを考えて行動してくださっている。地域の教育力を生かしながら子どもたちの今日的課題の解決と豊かな学びの実現をめざしている。昨年度、学校に支援して下さったボランティアはのべ3,500人にのぼる。

■ 特徴的な活動内容

地域の教育力を活かした活動は、土曜教室、放課後教室、クラブ、高齢者ふれあいサロン、運動会、ホタルまつり、店長修業、1年生清掃支援、学習支援、環境支援、図書支援、読み聞かせ、登下校の見守り、稲作体験などがある。特徴的な活動としては、クラブ活動の全てが地域の先生と学校の教職員であることが挙げられる。手話やお茶（茶道）では、日曜日に行われるまちづくりフェアにも参加し、子どもたちは、地域のまちづくりにも貢献。また、「ホタルまつり」では、ホタルが飛び交う様子を愛でる鑑賞会を開催し、地域の方とともに、子どもたちに郷土愛・自然環境保護の思いを育てる活動を展開。「ホタルまつり」当日は地域の方も多数参加され、大賑わいの日となる。6年生が「お店活動」「ホタル学習の成果発表」に活躍し、自分たちで「やりきった」達成感を得る一日でもある。このホタルまつりには、子ども、保護者、教職員、地域の方、まちづくり協議会の方、学校運営協議会理事などがそれぞれの良さを活かして運営しており、その姿は、岩根小学校が災害の避難場所になった場合にそのまま当てはめて活動できるものとして大きな付加価値がある。

■ 実施に当たっての工夫

日頃、子どもとのかかわりで、気になる行動があった時に、ボランティアや教職員としてどう対処していけばよいかについて、意見を交換する場を持った。ワールドカフェ方式で行い、お茶を飲みながら話しやすい雰囲気で行うことができた。「暴言を吐いてしまう子がいたとき」「何でも一番でないとすねてしまうとき」「ボランティアをしているのに目の前の活動を嫌そうにして参加しようとしないうとき」など実際にあった場面例をもとに、子どもとのかかわりのあり方や普段の苦労など自由に話し合った。途中でグループのメンバーを交換し、広げたり深めたりすることもできた。忙しい日々で、ボランティアさんと教職員が話し合う時間がなかなかとれない中、この会は大変有意義で充実した時間となった。

■ 事業の成果

今年度から上記の活動に加えて、「根っこ応援団」を募集し活動をはじめた。これは、固定した活動ではなく、その時に必要なボランティアを集めるというものである。今年度は、運動会の玉入れの玉づくりとマラソン大会のスタッフボランティアを募集した。玉づくりでは、子どもたちと一緒に玄関ホールで笑顔いっぱいふれあいながらつくる姿が見られた。大人と子どものつながりだけでなく高学年の子どもが下学年の子どもに教えながら一緒につくる姿も見られた。運動会では、地域の方も参加していただき楽しい玉入れを行うことができた。様々な支援をいただくことで子どもたちの活動がスムーズになり、子どもたちは自分でやってきたことに対する自信を持ち、新たなことに挑戦してみたいという意欲づけもできてきている。これは大変大きな成果である。

■ 事業実施上の課題

すべての保護者、すべての地域の方に、こうした活動や理念を理解してもらっているとはまだ言えない状況がある。今後、新たな理解者・協力者を作り出していきたい。



【運動会ふれあい玉入れ たまづくり】



【「ホタルまつり」ホタル学習の成果発表】

■ 「菩っこを育てる会」～学校・家庭・地域をつなぐかけはしに～（菩提寺小学校）

■ 湖 南 市
■ 活動名
菩っこを育てる会活動
■ 関係する学校
菩提寺小学校

コーディネーター数	2 人
ボランティア登録数	210 人
開 始 年 度	平成22年度

■ 活動の概要

コミュニティ・スクールと学校支援地域本部（菩っこを育てる会）の両輪がバランスをとりながら、「あいさつ・温もりのある学校づくり」をテーマにして活動を進めている。

■ 特徴的な活動内容

異学年交流活動「きらめき活動」は、縦割りの児童主体の活動として毎年いろいろな事を実施している。その中で、安全の確保や児童のサポートなど支援を「菩っこを育てる会」を中心に地域のボランティアが行っている。

全校児童で行く『きらめき遠足』は、行き帰りの安全に加え、遠足先での児童の安全を見守るということで、一日一緒に活動してもらっている。

今年度の緊急時引渡訓練は、台風の影響で本番さながらの訓練となった。その際も地域からボランティアで参加いただいた多くの方が豪雨の中、訓練のサポートをしてくださった。

各学年の授業へのサポートも必要に応じて対応できるよう地域への発信を行っている。

今年度も行事や学校での子どもたちの様子を児童昇降口近くのパネルに展示し、憩いの場、語らいの場づくりを進めてきた。

■ 実施に当たっての工夫

ボランティアと児童と一緒に活動し、交流の機会を持てるようにした。例えば、運動会入場門に児童の絵を貼りボランティアと児童の合作とした。一緒に育て収穫した野菜と一緒に味わう時間をもった。

「菩っこを育てる会」のメンバーが学校の行事に参加し、子どもたちの活動・様子を記録写真として撮影している。

「菩っこを育てる会」を軸に、地域のボランティアへの発信に努めている。

■ 事業の成果

毎年実施している行事等はボランティア側も把握してくれ、依頼もスムーズにいくことが多くなった。

ボランティアの来校が増えると、児童との交流も増え顔見知りになり、地域に帰ったとき児童の様子を見守ってもらえるようになった。

■ 事業実施上の課題

今までのボランティアさんで高齢を理由に活動が難しくなった、という声を聞くことが増えてきた。若い世代のボランティア開拓を進めていけるようにしたい。

ボランティア同士の交流の場づくりを再検討したい。



【きらめき運動会 入場門制作の様子
準備から片付けまでお世話になっています。】



【1年生に畑の指導をするボランティアさん
大根の種まきから収穫まで】

■ もしもの時に 役に立つ 減災キャンプ～避難所での一日体験～（菩提寺北小学校）

■ 湖 南 市
■ 活動名
あすなる応援団活動
■ 関係する学校
菩提寺北小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	120 人
開 始 年 度	平成21年度

■ 活動の概要

未だ東日本大震災の復興途中のこの時期に、またしても熊本地震が起こった。これは、私たちにとっても対岸の火事ではない。毎年減災キャンプを開催してきたが、一層、重要なものになってきた。それを踏まえてレクリエーションキャンプではなく、実践に即したキャンプを夏休みを利用して7月23日（土）～7月24日（日）に、避難所に指定されている菩提寺北小学校で開催した。

■ 特徴的な活動内容

外部からの（湖南中央消防署・滋賀県砂防課）協力も得て災害についての学習と体験を行った。

- ①煙中体験（消防署）・・閉めきった教室を使い人工的に煙（無害）を発生させ、煙が充満した火災の状態をつくり避難訓練を行った。
- ②砂防についての学習（県の砂防課）・・模型を使って土砂災害の仕組みを説明。実際子どもたちで動かす体験も行った。



【①煙中体験：ほとんど前は見えない姿勢は低く】



【②砂防についての学習：模型を使っているのによくわかる】

■ 実施に当たっての工夫

風呂をドラム缶風呂にした。底は熱くなるので竹を切って組み立てスノコをひいた。そして、ドラム缶風呂に水をはるのを、チームに分かれてバケツリレーで制限時間内にどれくらいの高さまで水を溜められるか競う、水運びリレーを行った。何度もバケツを運んだが、ドラム缶は大きく、思うほど水は溜まらないことを体験できた。また、食事は災害初日を想定して、まだ支援物資も届かないことを考え、手元にあるもので考えた。そこで、夜はサバの味噌煮缶詰とカレールー 1個でサバカレーを作り、ご飯はビールの空き缶を活用し、かまどで炊くと20～30分で炊き上がった。朝ご飯は冷や汁にした。冷ご飯に水（ペットボトルの水）で味噌と出汁を溶いて汁を注ぎ、きゅうりの薄切りをトッピング。サラサラとして口当たり良く美味しかった。

■ 事業の成果

今年は、徹底して災害初日から2～3日を想定して、最低限の物資で行った。それぞれが工夫したり、あるもので楽しんだりできることがわかった。食事も毎年本格的なカレーだったが、今回のようなサバ缶だけの質素なものだが、簡単でなかなか美味しいこともわかった。それと同時に、災害の恐ろしさも学習できた。頭で考えているのと実際体験するのでは、全然異なる。煙中体験では、無害な煙とわかっていても、全く方向が分からなくなって、パニックになる。これが本当の煙なら有毒ガスにまかれて、命を落としていたかもしれないと怖くなるなど、とても有意義な体験だった。

■ 事業実施上の課題

今年は夏休み入ってすぐの土・日曜日に開催したが、各自治会の夏祭りとの兼ね合いが難しい。学区内には3区あるのだが、この中の2区は7月に夏祭りをするので、なるべく外したいと考えるが、8月の第1週の土曜日は湖南市の夏祭りと重なる。それ以降は、盆休みと重なり、やはり7月の3週目が4週目の土・日になる。各自治会との調整を早めに進めていく必要がある。

■ その他

湖南市立菩提寺北小学校ホームページ : <http://www.edu-konan.jp/bodaijikita-el/>

～地域の方々に知ってもらうために～ 下田っ子供援隊 なすびいずの取り組み（下田小学校）

■ 湖 南 市
■ 活動名
下田っ子供援隊 なすびいず活動
■ 関係する学校
下田小学校

コーディネーター数	2 人
ボランティア登録数	70 人
開 始 年 度	平成23年度

■ 活動の概要

下田小学校で、学校支援地域本部が活動を始めたときから、「なすびいずNEWS」という保護者向け広報紙を定期的に発行し、2年前からは、インターネットを活用して広報活動を行ってきた。その甲斐もあり、活動を理解し、参加して下さるボランティアが増えてはきた。今年度に入り、新規のメンバーを獲得することはもちろん、現在所属してくれているボランティア同士の交流を深めることも必要との考えから、まずは、ボランティア活動の核となるメンバーを中心にミーティングを行い、地域の方や保護者に興味を持ってもらい、気軽に参加できる新しい活動を企画し、実施した。

■ 特徴的な活動内容

- ① 広報紙「なすびいずNEWS」による広報活動や学校行事時の校内放送でのアナウンス。
- ② インターネットを活用した広報活動。
 - ・ ブログ「なす日記」による活動報告
 - ・ LINEによるボランティア募集や活動報告（LINEグループ・LINE@）
- ③ ボランティア活動の核となっているメンバーとコーディネーターによるミーティング「なすミーティング」の実施。
- ④ 地域のボランティアメンバーが地域の方々と一緒に活動でき、特技を発揮してもらえる場の企画・実施
 - ・ 第一回「来て♪みて♪なすびいず」～浴衣の着せ方をならいましょう～



【 来て♪みて♪なすびいず 】

■ 実施に当たっての工夫

- ① 「なすびいずNEWS」を各学期に必ず一度以上発行。ボランティア活動やなすびいずの活動、なすびいずルームでの子どもたちの様子などを報告し、学校行事で保護者が校内にいるときには、校内放送でアナウンスを行っている。
- ② 「なす日記」は内容閲覧を公開の状態にはせずパスワードによる保護を行い、LINEによる活動報告等に関しても、登録したメンバーのみが閲覧できるようにした。メンバー登録については、「なすびいずNEWS」による呼びかけや、コーディネーターが直接呼びかけるなどの方法を用いている。
- ③ 「なすびいずミーティング」は各学期に一度以上実施し、メンバーが参加したボランティア活動や、新しいボランティアの募集などをお互いに報告している。
- ④ 「来て♪みて♪なすびいず」では、普段、下田っ子のためにボランティア活動に参加して下さっている方の特技を活かした内容を企画している。

■ 事業の成果

- ① 「なすびいずNEWS」やアナウンスで、下田っ子供援隊 なすびいずの活動や、ボランティアについて興味を持った方が、新メンバーとして活躍して下さっている。
- ② インターネットを活用したことで、コーディネーターとメンバーの連絡がとりやすくなり、メンバー同士の連絡もとりやすくなった。
- ③ 「なすびいずミーティング」によって、コーディネーターだけではわからなかった課題や疑問などが見つかるようになった。
- ④ 「来て♪みて♪なすびいず」を企画、実施したことで、新たな地域の人材を発掘することができ、子どもたちだけでなく、地域の方や保護者を対象にしたボランティア活動という新しい場もできたことで、色々な人と交流することができる機会が広がった。



【なすびいずNEWS】

■ 事業実施上の課題

- ① 「なすびいずNEWS」の年間発行回数が年々減少し、内容も毎年同じことの繰り返しになっているため、新しい活動の報告ができていない。アナウンスについても、限られた時間の中で内容をうまく伝えることが難しい。
- ② インターネットを活用したことで、便利になった反面、個人情報の保護には最新の注意を払う必要がある。
- ③ 現在は、ボランティア活動の核となっているメンバーを中心に「なすびいずミーティング」を行っているが、今後はメンバー全員での交流会、情報交換会も実施していきたい。
- ④ 「来て♪みて♪なすびいず」への参加募集チラシが、普段の「なすびいず」からのお知らせチラシと形態が似ていたため、保護者になかなか見ていただけなかったり、日程が平日昼間ということもあり、参加できなかったという方もいた。次回以降は日程やチラシの形態も見直さなければならない。

■ 心のふるさとづくり～つなげよう地域のおもい、育てよう自分が好き！な「みとっこ」に～（水戸小学校）

■ 湖 南 市
■ 活動名
みとっこ応援団活動
■ 関係する学校
水戸小学校

コーディネーター数	2人
ボランティア登録数	70人
開始年度	平成22年度

■ 活動の概要

創立40周年となる本年は、**地域の中に学校を！子どもたちの心のふるさととなるようなおまつりを！**というこれまでの地域の方々の思いを振り返り、みとっこ応援団を中心に「**自分が好き！地域が好き！**」と言えるみとっこを育むための様々な活動に取り組んだ。

■ 特徴的な活動内容

- ① プール、茶釜川の学習、茶道、書道や地域の方へのインタビュー、など地域の方をゲストティーチャーに。
- ② 図書ボランティアによる本選び、研修への参加。
- ③ 下田小と外国にルーツをもつ子どもたちの交流会～折り紙でクリスマスツリーを作ろう！～
- ④ 交流会の実施（教職員・ボランティア交流会）（子育て・親育ち講演会）（事業報告会）

■ 事業実施上の課題

- ① 地域からのゲストティーチャーは何年も継続して来てくださっている。打ち合わせ・進行などスムーズに実施できているが一定の方に偏ってしまう。新たな人材の発掘や新たな活動など、その時々の子どもたちの学びに応じてボランティアをコーディネートし、学習を深められるようにしたい。
- ② 本校の図書ボランティアは大変熱心で、毎月読んだ本の子どもたちの反応やクラスの様子など話し合っている。ミーティングには学校の教務も参加し、お互いが知りたい子どもの様子を直接聞くことができている参考としている。伝えたいメッセージがそのとき伝わらなくても大きくなって思い出してもらえるように、との願いで実施してもらっている。
11月には、いのち、友だち、人権についての本を選び保護者にも便りて案内をしている。本は子どもの想像力、思考力を育み、疑似体験、特に「こわい、悲しい、つらい」など不快な経験もすることが子どもの成長には必要とボランティアは考えているが、本への親しみ方には各家庭により異なるので、本との出会いをつくる大切な場とした。
- ③ 毎年行われていた下田小と水戸小の外国にルーツを持つ子どもたちの交流会に、みとっこ応援団も初めて参加し折り紙でクリスマスツリーを作った。これまで教職員だけで行っていたが、子どもの人数も増え応援団に協力を求められることになった。折り紙の先生には下田小学校のボランティアをお願いしたため、下田小学校のコーディネーターに任せることが多く今回の反省としたい。子どもたちだけでなく両校のボランティアを知るよい機会となり、継続していくことになれば、準備や進行の順番、ボランティアの人数など工夫が必要である。
- ④ 水戸小学校では、ボランティア、学校、保護者が子どもたちについて一緒に考える場を大切にしている。子どもたちの課題について話し合い、よいところは伸ばしどのような力をつけていきたいかを共有するために交流会、講演会、報告会を開催している。ボランティアへの保護者参加は少ないが、子育て・親育ち講演会には年々参加者が増えているので今後も保護者の関心があるようなテーマを選び保護者が学校へ足を運ぶきっかけを作り、具体的な内容を提示し参加しやすいボランティアを案内していきたい。

■ その他

今年はボランティアからの提案で日本の伝統文化である津軽三味線の演奏を企画、実施することができた。また図書ボランティアが近江八幡図書館での研修に参加したいと学校に提案するなど、ボランティアの自発的な活動があった。活動が6年目となり、子どもたちによいものを、という思いやボランティア自身が学校と一緒につくってくという意識に変化してきているのではないかなと思う。またいつも温かく、ありのままの子どもたちに寄り添ってくださっていることで、子どもたちも自信をつけていけるのではないかなと思う。40周年となる節目の水戸まつりでは、水戸の地域でどのように小学校ができていったかなど、地域住民の苦労や思いを知ることができた。学校支援地域本部事業を導入するずっと以前から「心のふるさとづくり」が地域、学校、保護者の中で取り組まれていたこと、またその思いを繋いでいくことの重要性を再認識し、来年度も取り組んでいきたい。



【ゲストティーチャー☆5年茶釜川の学習】



【ボランティアと教職員の交流会】

■ 生徒会活動との相乗効果を生み出した地域貢献活動「生徒の力を地域へ」（石部中学校）

■ 湖 南 市
■ 活動名
石部中学校支援活動
■ 関係する学校
石部中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	36 人
開 始 年 度	平成26年度

■ 活動の概要

平成26年度から学校支援地域本部の活動が開始され、今年度からはさらに「地域の力を学校へ」「生徒の力を地域へ」を標榜するコミュニティ・スクールとしての活動も動き出した。学校教育目標「自主・自立・進取の気構えを持ち、誠意と思いやりのある生徒を育てる」の実現と、生徒の自尊感情を高めることを目的に、これまでの積み上げをもとにしつつ、「昨年は〇〇したから今年も……」という安易な発想に流されることのないよう、今の学校（生徒）・家庭・地域に必要な活動の推進に努めてきた。

特に重点としたのは、「生徒の力を地域へ」をめざす生徒の地域貢献活動である。学校支援地域本部が地域に呼びかけた「夏まつりへの中学生の参画」は、平成26年度の30名、27年度の42名から今年度の56名へと着実にその数を伸ばし、地域に出向いてのゴミ拾いを活動の一つに盛り込んだ生徒会の活動とあいまって、「石中生」のがんばりを直に見ていただくことができた。

■ 特徴的な活動内容

生徒が地域に出向き、自分たちのできることで地域づくりに貢献した活動（11月まで）をあげると、次のようなものがある。

老人福祉センターまつりボランティア（5月）、地域のゴミ拾い活動（6月、7月、9月、10月）、社会を明るくする運動啓発（7月）、各地域夏まつりスタッフ（7～8月）、石部南小学校夏休み学習教室（7～8月）、チャリティコンサート出演（9月）、赤い羽根共同募金街頭呼びかけ（10月）、石部南学区ふれあいまつりスタッフ（11月）、石部学区ふれあいまつりスタッフ（11月）、ふれあい広場スタッフ（11月）、障害者週間啓発（11月）、湖南省青少年育成大会実行委員（11月）。

こうした活動に参加した生徒は、「楽しくできたから、また今年も行ってみよう」という思いを抱く生徒が多かった。

■ 実施に当たっての工夫

ここでは、特に学校支援地域本部がかかわる「夏まつりスタッフ」実現までの経緯について記す。

〔5月〕石部南学区まちづくり協議会経営会議・石部学区まちづくり協議会定期総会などに出向いて協力を依頼。各区長あてには「地域行事への中学生の参画について」と題する依頼文書を発信。（中学生に何が出来るかを事前調査）

〔6月〕事前調査を集約し、各地域の担当者を招いて「地区別集會」を開催。どのような夏まつりになるかご説明いただく。

〔7月〕生徒の参加希望を集約、各区長に報告。地域によっては、スタッフ参加を申し出た生徒を対象に事前打ち合わせを実施。

保護者・地域に配布する学校だより「全力投球」に、多くの生徒がスタッフとして参加することを紹介。

〔7～8月〕夏まつりの実施。（生徒には感想を書いてもらった）

〔11月〕来年度に向け、中学生の地域貢献をより確かなものにしていくため、各地域担当者にアンケートを実施。（結果はCS理事會において報告）

■ 事業の成果

「いつもはおまつりに参加するだけでしたが、まつりを作っていく側になると、同じ所ですって同じ作業をしていたので大変でした。でも、地域の方たちが、毎年、話し合いから準備、片付けまでやってくださっているから、私たちがまつりを楽しめたんだと気づかされました。そのことに感謝すると同時に、もっとこのような活動に参加していきたいと思いました」（生徒感想 3年）

「吹奏楽に参加していたために、はじめの方は手伝えなかったのですが、途中から参加して町の人とふれあいました。遊びのコーナーで、小さい子たちの笑顔を見ると嬉しかったです。これからもスタッフとして手伝いに行って、役に立ちたいと思います。ありがとうございました」（生徒感想 1年）

「地域の大人や小学生、小さな子ども等、世代を超えて参加する夏まつり行事に、中学生が参加して積極的に交流してくれたことは、行事の活性化のみならず、絆を強めるという意味でも有意義であった」（地域担当者感想）

*滋賀県第19回中学生広場「私の思い2016」において、老人福祉センターまつりにボランティア参加した生徒が書き発表した「3年間のボランティア活動」が優秀賞（滋賀県議會議長賞）に輝いた。

■ 事業実施上の課題

地域によって夏まつりの取組方が様々で、「スタッフとして迎えてやってほしい」という思いを理解していただきにくいところもあった。今年度の成果や他地域の取組紹介などに努めることにより、中学生の活躍の場をさらに広げていきたい。



【 夏まつりを盛り上げる 】



【 生徒会として地域を美しく 】

■ 地域とともに ～地域に根ざす生徒づくり～ (甲西中学校)

■ 湖 南 市
■ 活動名 甲西中学校支援活動
■ 関係する学校 甲西中学校

コーディネーター数	2 人
ボランティア登録数	80 人
開 始 年 度	平成28年度

■ 活動の概要

生徒の持つ力を地域に生かし、地域が持つ力を学校に生かし、ともに伸びゆく関係づくりを築くことを目指して活動を行う。そして、地域に根ざす生徒の育成につなげていきたい。そこで、1年生の「ふるさと再発見」で、地域の良さを見つけ興味関心を喚起させる。その後、地域の大きな取組である「東海道ウオーク：みちくさコンパス」にボランティアとして参加し、生徒の自主性と自発性を尊重しながら生徒の活動を支援していただく。また、本校文化祭では、体験講座を開設し、地域の方に講師としてきていただき、地域の文化伝統にかかることや地域のサークルの活動を地域の皆さんの思いを感じながら体験をする。

■ 特徴的な活動内容

みちくさコンパスの取組：三雲まちづくり協議会が主催で行われる活動にボランティアとして中学生が参加する。

文化祭体験講座の取組：地域のボランティア講師を学校に迎えて、生徒が様々な体験をする。

その他の活動・・・1、2年生への朝読書における読み聞かせ活動（毎日）・図書室開設支援・特別支援学級畑作業支援・書写の授業支援・ホームページ更新作業支援・本の帯コンクール作業支援

■ 実施に当たっての工夫

みちくさコンパス：生徒の自主性を重視し、ボランティア募集という形で生徒に呼びかけた。「ボランティアをしてやる」という気持ちではなく、「自分磨きのためにさせていただく」という気持ちを持たせる呼びかけをした。また、ボランティア募集用紙の形式を定めて、この用紙はボランティア募集のものだという意識付けをした。また、地域の主催者側の人に、直接学校でお話いただいて手伝いではなく、スタッフの一員だという自覚を促した。

文化祭体験講座：講座は20講座を用意。希望制にし、生徒全員が体験する。体験後に成果を披露する場を設けることで体験内容の充実を図った。

11月の取組ではあるが、5月頃からボランティア講師の依頼などの準備をはじめている。

■ 事業の成果

みちくさコンパスでは、のべ140名強の生徒の参加を得て、大勢の大人に囲まれて緊張した中ではあったが、はきはきとした態度でお客さんへの対応や受付をこなすことができた。自分から「こうしていいですか？」と積極的に提案したり聞いたりする生徒もいた。チョークアートに参加した生徒は、道行く人と会話しながら街道にチョークで絵を描いた。

また、体験講座では、指導者も受講者も発表を目指して熱心に取り組めた。完成した作品は、大切に使用したり、教室に飾ったりする生徒が多かった。そして、卒業生が恩返しに講師となって帰ってきてくれた。講師が地域の方なので、色々な場所で出会うことができ、元気に大きな声で挨拶ができていと聞いている。上記以外に、東海道清掃活動やお菓子づくりのボランティアを募集。清掃活動は23名、お菓子作りに11名が希望して参加した。



【 街道にチョークアート 】



【 文化体験活動：友禅染め 】

■ 事業実施上の課題

3年生は高校の体験入学と重なり、参加することが難しかった。また、自主的な参加を呼びかけたが、一人で参加することはまだできない生徒が多かった。体験講座の講座人数が限られているために、自由に希望通りと行かない1年、2年の生徒に集中できない場面が見られた。

■ その他

来年度のみちくさコンパスにおいては企画から参加し、スタッフとしての関わりを目指したい。また、中学生が運営するブースが可能なら挑戦させたいと考えている。

地域の方とともに活動を重ねる中で、地域の良さに触れ、地域の人の温かさを感じ、その中で湖南省の一員であることに誇りをもってくれればと願っている。

■ 地域の力を学校へ 中学生の力を地域へ (甲西北中学校)

■ 湖南市
■ 活動名
甲西北中学校支援活動
■ 関係する学校
甲西北中学校

コーディネーター数	2 人
ボランティア登録数	17 人
開始年度	平成27年度

■ 活動の概要

3年目を迎えた学校支援地域本部事業。2つの小学校区からそれぞれ1名ずつ、計2名のコーディネーターが絶えず連携を図りながら様々な活動に取り組んできた。学校と様々なボランティア活動をつなぐ役割を担うコーディネーターとは、定期的に打合せ会議をもち、活動そのものの進捗状況の確認やボランティアの新規開拓に努めるように心がけた。また、今年度は3年目を迎えたこともあり、今までの成果と課題をさらに明確化し、活動するよう心がけている。今年度は創立30周年を迎え、今後更に学校と地域をつなぐパイプ役としてより効果的な動きを探っているところでもあり、学校としての方針やねらいをより「見える化」させながら継続的な取組につなげていきたい。

■ 特徴的な活動内容

【ファイルカバー制作における生徒への支援】

1年生の家庭科授業において、ファイルカバーを布地で制作する上で、「まつり縫い」と「刺し子」をボランティアさんに支援していただき授業を進めた。具体的な内容としては、長方形の布の製図、刺し子、手縫い、ミシンを使用してファイルカバーを仕上げるための支援活動である。

1回の授業におけるボランティアさんの数が平均4～5名で、1グループに1名の割合でボランティアさんの支援を受けることができ、裁縫を苦手とする生徒にとっても心強い存在となった。10月から12月まででのべ35回裁縫ボランティアさんに来校を願い、多いときには9名のボランティアさんが来校してくださる日もあった。継続的に来校していただくことで子どもたちとの関係も築け、よりスムーズな支援につながった。そのことが最終的には、生徒一人ひとりの興味や関心、そして何よりも作品完成という達成感につながり、次の時間への意欲向上につながっている。

■ 実施に当たっての工夫

家庭科における裁縫授業のボランティア支援では、担当教師とボランティアさんによる事前打合せを可能な限り実施した。具体的な打ち合わせ内容としては、生徒の現状把握と制作工程の確認をした。また、担当教師とボランティアさんの打合せが日程都合上実施できない場合については、地域コーディネーターを通して行うようにした。このように細かな事前の打合せを可能な限り実施することで、スムーズに授業を進めることができた。また、生徒を個別に支援する際、ボランティアさんが仕上げていくのではなく、生徒の力を引き出し、生徒自身が完成させることができる支援をボランティアさんをお願いした。

■ 事業の成果

教師の説明だけでは理解が難しく、実技が上手くできない生徒に対して、教師の補助としてボランティアさんが丁寧に教え、また側で励ましてくださった。このことにより、ファイルカバーの制作を途中であきらめてしまうことなく、最後までやりきろうとする生徒が増え、その結果、生徒の達成感、満足感を高める支援につながった。また、担当教師からは、裁縫という機会そのものが少なくなってきた中で、作業そのものが大変スムーズに進んだという感想があった。

1グループに1名の割合でボランティアさんに支援を受けることができたことは、裁縫を苦手とする生徒にとっても大変心強い存在となっているだけでなく、裁縫そのものに対する苦手意識を少しでも払拭することにつながった。

■ 事業実施上の課題

この取組が始まった当初は、裁縫ボランティアさんを探すのに苦労したが、授業が始まり子どもとの関わり合いや、授業担当者との事前の打合せや確認作業を重ねていく中で、スムーズな支援につなげることができた。

ボランティアさんの中には高齢の方も多く、学校までの移動手段に市の巡回バスを使用されている方もおられ、授業時間の変更が生じた際に、ボランティアさんに的確に伝えられないことがあったことは改善すべき点である。

■ その他

様々な地域から多くのボランティアさんに支援をお願いしたため、ボランティアさん同士のつながりがあまりないままにスタートした。しかし、回を重ねるにつれて互いに打ち解けて会話され、ボランティア間に仲間としての輪が広がってきたことが実感できた。



【家庭科の授業における、裁縫のボランティアさんによる学習支援】

■ 地域と共に子どもを育てる ～地域の方は学校へ子どもは地域へ～ (日枝中学校)

■ 湖 南 市
■ 活動名 日枝中学校支援活動
■ 関係する学校 日枝中学校

コーディネーター数	2 人
ボランティア登録数	22 人
開 始 年 度	平成25年度

■ 活動の概要

生徒の持つ力を地域に活かし、達成感を感じて自己肯定の気持ちを育むことを目指す活動を行う。また、地域の方々には生徒の自主性と自発性を尊重しながら生徒が必要とするサポート活動を行っていただけるよう、呼びかけを行う。

■ 特徴的な活動内容

【オビコン】世界に一つだけのオリジナル帯作りコンテスト

図書委員会の活動で手作りの本の帯作りにチャレンジがある。校内で展示・投票を行いコンテスト形式で優秀作を選定。本を読み、その世界観に触れ、自己表現の手段として本の帯作りをする活動を行った。本年度は市内4中学校での活動へと広がり、連携して各校とも同時期に開催。優秀作を一堂に集めて地域の書店や公立図書館で展示を行った。

活動当日には本校の読み聞かせ隊や応援団の方に帯の紙を選び裁断する作業をサポートしていただき、前年度の図書委員経験者の本校卒業生に参加してもらい、アドバイスが必要な生徒に寄り添って製作のサポートを行ってもらった。また、地域でちぎり絵の教室を開かれています方にも来校いただき、ちぎり絵でイラストを入れるという手法の提案を行った。

完成した本の帯を地域の書店や公立図書館などに展示していただくことで、地域の方々に広く中学生の活動を知っていただく機会を持った。

■ 実施に当たっての工夫

本の帯作りに関しては、事前に生徒たちに好きな作品を読んでキャッチフレーズや概要をまとめておけるように説明を行い、創作活動に際してはじっくりと作成に取り組みめるよう作成日を2日間設けた。また、地域で作品展示をしていただく上でより多くの方々に活動の様子を知って頂けるよう、製作風景を撮影した写真の展示を行った。校内・書店・図書館での展示の際に使用する「オビコン」の看板は、本校美術部の活動の場として3年生部員に依頼をし製作してもらった。

■ 事業の成果

本の帯を作品として作る活動を通して、試行錯誤の過程と完成した時の達成感が得られたと。普段書店などで何気なく目にする本の帯を作ることの難しさや、良いデザインや心に訴えかける言葉とは何か？という気付きにもつながった。地域の書店で作品を展示して頂くことで、生徒たちも自分の作品を地域の方に認めて頂くという貴重な体験が出来た。

本年度から市内4校で行うことで展示回数や場所も増え、中学生が発信する図書情報として地域へ活動の認知度も上がった。

■ 事業実施上の課題

地域の方々にサポート参加をお願いする上で、生徒の活動時間と地域の方の参加可能時間の調整が難しい。また、地域の展示規模が大きくなったことで展示を行う司書教諭への負担が大きくなった。本の帯を作った生徒たちも展示作業に関わる事ができないか等の検討が必要。



【本の帯作りの様子】



【書店での展示の様子】

■東近江市における学校支援地域本部の取組

■目指す姿

心豊かな児童・生徒の育成を目的として、市内小中学校に学校支援地域本部を設置し、円滑に学校と地域及び保護者、関係諸団体等がつながり、連携協働による地域全体での継続的な学校教育支援活動の充実を目指し推進していく。

■本年度の活動

○東近江市学校支援地域本部地域コーディネーター連絡会開催（毎月 / 於：各学校・市役所）

- ・各本部における取組の事例発表、情報交換、質疑応答
- ・少人数でのグループワーク テーマ「ボランティアさんとのつながり」（9月）
テーマ「支援を継続させる仕組み作り」（10月）
- ・県教育委員会主催の研修会、文部科学省主催のフォーラムへの参加、および報告

〈東近江市地域教育協議会の開催〉

【第1回】平成28年5月27日（金）午後7時30分～午後9時

- ・学校支援地域本部事業、東近江市地域教育協議会事業の目的・活動内容についての説明
- ・各地区事業に関する情報・意見交換
- ・意見交流会 テーマ：①体験活動を通して育む力とは ②地域の教育力の育成

【第2回】平成28年11月17日（木）午後7時～午後10時（学校支援地域本部との共催による講演会）

テーマ「子どもたちが求める居場所とは」

NPO法人「ゆめ・まち・ねっと」代表 渡部 達也 氏
〔質疑応答：意見交流会〕

講師を囲んで意見交流会、質疑応答

【第3回】平成28年3月に開催予定

- ・平成28年度東近江市学校支援地域本部事業報告
- ・次年度の学校・家庭・地域の連携による教育について
- ・子ども読書活動推進委員会からの報告



【地域コーディネーターグループワークの様子】

■本年度の成果

- ・毎月の地域コーディネーター連絡会では、各本部における取組の事例報告や情報交換を行い、成功事例や課題等、地域コーディネーターの全員で共有することができた。
- ・今年度、地域コーディネーターの人数が増えたため、連絡会ではグループワークを取り入れて、少人数での意見交流の場を持った。テーマについては、事前に地域コーディネーター対象にアンケートを実施し、今後の本事業を見通したテーマを設定した。
- ・資質向上を目的とし、地域コーディネーターと共に県教育委員会主催の研修会や文部科学省主催のフォーラムに参加し、コーディネーター連絡会で報告の場を設定した。

■今後の課題

本年度は6本部を新たに設置し、地域住民等による学校支援をいただいた。次年度は市内全小中学校に学校支援地域本部を設置する方向であり、これまで各本部で展開された心豊かな児童・生徒を育むための取組をベースとし、市内全小中学校で、それぞれの地域の特徴を生かした継続的な学校教育支援活動を一層充実させ根づかせていくことが課題である。

■ 蒲生の子は蒲生で守り育てよう。地域の教育力を結集し蒲生東小学校を支援しよう。(蒲生東小学校)

■ 東近江市
■ 活動名
蒲生東小学校支援地域本部
■ 関係する学校
蒲生東小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	27 人
開始年度	平成20年度

■ 活動の概要

- ①定例（毎月1回）ボランティア会議の開催
- ②学習支援・ゲストティーチャー ボランティア
- ③学校行事の支援 ボランティア
- ④読書（読み聞かせ）、図書室・図書整備 ボランティア
- ⑤あかね通学合宿 ボランティア
- ⑥登下校安全パトロール見守り ボランティア
- ⑦教職員夏季研修 地域探検の案内



【5年生の総合的な学習「昔の農機具」】

■ 特徴的な活動内容

- ・「生活科」や「社会科」、「総合的な学習の時間」など、教科等の地域学習をはじめ、地域の特性を生かした体験活動において、専門性や地域住民ならではの経験を生かしたゲストティーチャーや学習支援、引率支援等を全学年で実施しています。
- ・今年度の学習活動では、1年生活科「さんぽ」・「昔の遊び」、2年生活科「お店探検」・「生きもの探検」、3年総合的な学習の時間「町探検」・「農場見学」、4年総合的な学習「福祉（車椅子・シニア）体験」、5年「田んぼの学習」、「児童会フェスティバルおもちやさん」、6年社会科「あかね古墳見学」・「平和学習」、理科「地層見学」などへの支援をしています。

■ 実施に当たっての工夫

- ・蒲生東小学校支援地域本部は、平成13年に発足したボランティア「三弓会」を母体に伝統的な支援活動を継続しています。
- ・「できる人が、できるときに、できることを支援する」「人から強制されるのではなく、自発的に行う」「先生や子どもと一緒に活動し、学校をよりよくしていく活動にしよう」「ボランティア自身の経験や専門性を活かそう」という考えを基本に、少しずつ支援の輪を広げながら現在まで活動を続けてきました。
- ・毎月定例のボランティア会議では、実施した活動について反省を出し合います。また、2～3か月先を見通して参加者を募っています。コーディネーターが、担任と相手方との接続を細やかに支援しています。



【3年生の社会科「地域の探検」】

■ 事業の成果

学校にとっては、地域の方々の専門性や技能を生かして支援していただき、豊かな学習活動を展開することができています。また、地域住民が学校の教育活動に関わることで、地域の絆が深まり教育力が向上するとともに郷土愛を培うことにつながっています。

子どもたちにとっては、ボランティアの専門的な知識や技能に触れたり、多様な体験、経験の機会が増えたりすることによって、学習意欲が喚起され、自ら問題を解決しようとする意欲や能力を身に付ける手助けになっていると感じられます。ボランティアの方々とも顔なじみになり、親しみを感じながらともに活動しています。また、安全や規範意識なども高められています。

子どもたちの学びを感じながら、蒲生東小学校の地域の資源や教育力を活かした特色ある教育活動の推進に寄与していることが、ボランティアの誇りでもあり、郷土愛を高めることにもなっています。

■ 事業実施上の課題

活動する子どもたちの様子などから、手応えを感じることはできていますが、学習のねらいに応じた支援ができていないかについて、具体的に担任や子どもたちが作った成果物などから知りたいと思います。また、地域の良さを感じながら創り上げられてきた蒲生東小学校の学習活動を継承するため、新しいボランティアの育成や、ボランティアに求められる新たなニーズへの対応が課題です。

東近江市立蒲生東小学校ホームページURL：<http://www2.higashiomori.ed.jp/gahigashisho/>

■ 蒲生の子は蒲生で守りそだてよう。(蒲生西小学校)

■ 東近江市
■ 活動名
蒲生西小学校支援地域本部
■ 関係する学校
蒲生西小学校

コーディネーター数	1人
ボランティア登録数	83人
開始年度	平成20年度

■活動の概要

- ・読み聞かせと図書ボランティア
- ・登校旗の修理や環境整備
- ・田んぼの学校
- ・栽培活動を中心とした生活科学習
- ・九九聞き取りボランティア
- ・町探検などの地域学習
- ・あかね通学合宿
- ・登下校時の見守り
- ・スキー実習ボランティア



【2年 野菜を植えようボランティア】

■特徴的な活動内容

- ・「蒲生の子は蒲生で守り育てよう」というキャッチフレーズのもと、児童は地域の一員であることを念頭に、学校からの要請を受けて活動している。
- ・「田んぼの学校」や「栽培活動」は地域団体等のボランティアに協力してもらい、個別指導や小グループ毎の指導をおこなっている。
- ・「あかね通学合宿」は、校区の6年生を対象に実施している。自治会公民館等で宿泊し、自治会やボランティアの方々の見守りの中、自立した生活を目指している。地域の特性に応じたゲストティーチャーを招き、地域から学ぶゲストティーチャー授業をおこなうことで、「ふるさと蒲生」を意識していく地域学習の場としており、これによって地域の教育力も高められている。
- ・児童の下校時には、各地区の方々により「下校見守り」を継続的に実施している。
- ・社会科や理科などの領域の内、地域に関わる様々な事項についてゲストティーチャーとして教えていただいている。

■実施に当たっての工夫

- ・支援の内容に適したボランティアをお願いするようにしている。
- ・「あかね通学合宿」は、児童が家庭・学校では体験できないことをこの合宿で経験する場とする。また、地域住民と子どもたち、地域と学校がつながる機会となるように、ゲストティーチャーをはじめ、自治会の中から広くボランティアをお願いしている。
- ・地域の一員である児童が、地域のイベントや行事に参加できる機会がないか情報収集を常に行う。

■事業の成果

- ・「あかね通学合宿」は参加後、児童の家庭から「生活に自主性が見られるようになった。」等の意見が多く聞くことが出来ている。地域の方と児童の年齢を越えた繋がりが見られ、様々な交流が生まれている。
- ・農業団体と学校との継続的なパイプができつつあり、様々な活動に協力してもらえる関係となっている。
- ・地域の学習を通して、地域理解が深まると共に、地域の様々な事象について学んでいこうとする態度が育ってきている。
- ・地域の大きな行事、イベントに児童が参加することは、地域の一員であること意識づけになっている。

■事業実施上の課題

- ・ボランティアの多くが固定化されつつあると共に、高齢化もみられる。
- ・「あかね通学合宿」については、自治会に大きな負担をお願いすることとなり自治会の施設に頼る面が多く、受け入れてもらえる自治体が少なくなっている。
- ・学校やPTA組織内においても、「あかね通学合宿」のあり方については様々な意見がある。

■その他

参考URL 蒲生西小学校HP

<http://www2.higashiomori.ed.jp/ganishisho/>



【田んぼの学習ボランティア】

■ 蒲生の子は蒲生で守り育てよう（蒲生北小学校）

■ 東近江市
■ 活動名
蒲生北小学校支援地域本部
■ 関係する学校
蒲生北小学校

コーディネーター数	1人
ボランティア登録数	55人
開始年度	平成20年度

■ 活動の概要

平成20年度から、蒲生地区（1中学校、3小学校）での学校支援地域本部事業がスタートした。一人のコーディネーターが中心になり、各種社会教育団体やボランティアグループと連携し、様々な実践が繰り広げられた。しかし、学校間での意識の違いや、取組の偏りも存在した。そのこともあり、コーディネーターを各学校に一人ずつ配置することをめざして改革を進めてきた。昨年度は、長年4校を担当していたコーディネーターが2校を担当することになり、今年度は、各校一人のコーディネーターが配置され、学校に来て、教職員と交流する時間が格段に増え、学習の支援や担任の事務負担の軽減、環境整備等に地域の支援を受けることができ、地域とのつながりが感じられるようになってきた。

■ 特徴的な活動内容

・ 田んぼの学習

田植えや稲刈り、収穫祭等に参加していただけるボランティアを募るチラシを作成し、老人会などの組織を通じてお願いした。田植えや稲刈りは、3年と5年が体験することもあり、多くのボランティアに参加していただき、なれない手つきの子どもたちに優しく関わっていただいた。収穫した米は、関係した学年がそれぞれ工夫して、地域の人とともに楽しめるイベントを開催して、おはぎやおにぎりなどにした。



【 5年生の田んぼの学習 】

・ あかね通学合宿

6年生の希望者を対象に実施した。自治会のコミュニティセンターで宿泊し、地域のボランティアの見守りの中、3泊4日の自立した生活を目指して開催した。毎日、夜には地域のなかからゲストティーチャーを招き、これまでの体験と知識を伝えて頂く「世界にひとつの授業」を実施し、児童には「ふるさと蒲生」を意識する機会となった。今年は22名が参加した。

・ 3年生のまち探検

地域コーディネーターが自治会長と交渉するとともに、地域の方で地域が変わったところや自慢できること等を子どもたちに教えてあげられる方を探して、子どもたちが来たときに伝えていただいた。人とのふれあひも加味され、より深く地域を学べた。

・ 環境整備

敷地が広い本校においては、草刈りや木々の世話が大きな問題となっている。草刈機や耕運機があるが、古くて使えない状態であった。そこで、地域の詳しい人に相談して、メンテナンスをしてもらっている。また、草刈ボランティアを募り、学校周辺の気になるところをきれいにしていただいた。今後は、常時活動に発展させていくよう取り組んでいる。

・ ミシンボランティア

ミシンの学習では、それぞれの機械がうまく動いているといいのだが、調子が悪くなることも多い。そうなると教師がミシンの調整に手を取られ指導ができなくなる。そこで地域の方に協力していただき、ミシンの調整をお願いした。とても効率的に授業が進んだ。

・ 図書ボランティア

図書館の飾り付けや整理などをしていただいている。毎月休み時間に読み聞かせをしてもらっている。3学期には、絵本広場を開催する予定です。

■ 実施に当たっての工夫

- ・ 教職員に事業の本質と内容を職員会議でしっかり理解してもらうことを大切にした。
- ・ 教頭や教務主任が地域コーディネーターとつながり、何でも地域コーディネーターに頼める雰囲気作りを大切にした。

■ 事業の成果

- ・ 地域の方との連携により、子どものためにもなり、教師の事務負担の低減につながった取組を経験することにより、教職員の意識が変容し、事業への理解が高まり、浸透しつつある。
- ・ 毎年楽しみにして参加させるボランティアが増えてきた。
- ・ ミシンボランティアなど新しく参加していただける方が増えた。

■ 事業実施上の課題

- ・ 年間を通じてボランティアをしていただく方は固定化しつつある。また、年齢が高くなってきている。新しい方の協力が大切である。先を見据えボランティア組織をしっかりとしたものにしていきたい。

■ その他 参考URL

（蒲生北小学校）<http://www2.higashiomori.ed.jp/gakitasho/>



【 絵本広場 】

■ 「地域の子どもは地域で守る・育てる」～つながる地域と学校～（八日市西小学校）

■ 東近江市
■ 活動名 八日市西小学校支援地域本部
■ 関係する学校 八日市西小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	219 人
開始年度	平成24年度

■ 活動の概要

(1) 地域の子どもは地域で守る

- ・「子ども見守り隊」による児童生徒の安全確保と事件・事故の未然防止

(2) 教育活動への支援

○ 学校行事

- ・ 学校創立 50 周年記念学習への支援（50 年前の遊びを教えてもらう、学校生活や給食を調べるためのインタビュー）
- ・ ふるさと文化祭でのゲストティーチャーやボランティア（昔のあそび、昔のおやつ・おもちゃ作り、餅つき・よもぎ餅作り、縄ない体験、戦争体験談など）
- ・ 校内マラソン大会での交通立番や応援垂れ幕の作成
- ・ スキー教室での技術指導や活動支援

○ 日常の教育活動

- ・ 1、2 年生生活科校外学習での見学地までの引率（安全指導）や活動支援
- ・ 月に一度、学級の子どもたちへの読み語り
- ・ たんぼの学校での、田植えや稲刈り体験の作業指導や活動支援
- ・ クラブ活動の技術指導や活動支援

(3) 教育環境への支援

- ・ 校庭の樹木剪定

(4) 学校図書館の貸出業務

- ・ 朝休みの本の貸し出し



【50 年前の遊びをしよう】

■ 特徴的な活動内容

○ 「子ども見守り隊」の活動

- ・ 下校時の子ども達の安全確保のために、11 地区で「子ども見守り隊」を結成して、子ども達に付き添っていただいたり、交通量の多い危険な交差点などに立っていただいたりしている。
- ・ 登下校時のあいさつ「おはよう」「おかえり」の声かけの場になっている。
- ・ 「子ども見守り隊」の方を招待して交流・感謝の集いを開き、感謝の気持ちを表すとともに地区の取組事例報告や情報交換等をしている。



【ふるさと文化祭】

■ 実施に当たっての工夫

- ・ 学校だより等で取組を地域に発信する。
- ・ 地域の各種団体との連携を深める。
- ・ 人材データをファイリングする。

■ 事業の成果

- ・ 専門的な知識や技能を修得された方の支援により、学習内容や活動がより豊かになり、質が高く、わかりやすいものになった。
- ・ 教員以外にも多くの支援者がいることで、人員的にもゆとりが生まれ、一人ひとりの子どもとより関わる事ができた。
- ・ 地域や保護者の方々が積極的に教育活動に関わる事により、地域に根ざした開かれた学校づくりに繋げることができた。
- ・ 子どもたちは地域の方々と交わることを楽しみにしており、保護者の方にも好評であった。
- ・ 学校図書館の貸出業務をボランティアの方にしていただいている（朝休みの時間帯）ことで、子どもたちの貸出冊数が増加し、本校の読書活動の充実に繋げることができた。

■ 事業実施上の課題

- ・ 子どもたちの学習や生活の充実（現場のニーズ）のため、地域の方々の多方面にわたる知恵や技術、地域の教育力等を有効に活用できるよう、教職員と地域コーディネーターとが連携を密にとり、効果的な支援を図りたい。
- ・ 教職員はもとより、ボランティアの方々の交流により、船岡校区の子どもを育てる保幼小中連携を深めていく手立てを探り工夫したい。
- ・ 「子ども見守り隊」活動のなかで、地区の方々により取組への思いが違うため交流会等を開催しているが、その調整が難しい。

■ 地域につくられた学校・子ども応援団（玉緒小学校）

■ 東近江市	コーディネイター数	1人
■ 活動名 玉緒小学校支援地域本部	ボランティア登録数	52人
■ 関係する学校 玉緒小学校	開始年度	平成24年度

■ 活動の概要

この事業は、子どもと地域の方々、学校と地域のつながりを深める「地域につくられた学校・子ども応援団」と言える。玉緒小学校では、以前から登下校の見守りや、読み語りボランティアの方々の活動が行われてきたが、この事業が始まってから生活科、社会科、家庭科の学習や総合的な学習の時間などの支援を行っている。今年度も学習効果が上がることを目指し、地域のボランティアが子どもの学習活動に積極的にに関わり、応援団の役割を十分果たすことができた。

■ 特徴的な活動内容

- ・ 1年 生活科「むかしのあそび」の支援・「さつまいもを育てよう」のお手伝い
- ・ 2年 生活科「野菜を育てよう」のアドバイザー
「さつまいもを育てよう」のお手伝い
ボランティアさんを招いての「1、2年合同収穫祭」
- ・ 3年 社会科「校区探検」去年に引き続き施設の見学や子どもたちへの質問の応答
大森城址の案内、説明
- ・ 4年 社会科「蛇砂川の歴史や役割・生き物」について長年関わってこられた方に直接話を聞き、生き物の観察に同行していただいた。
総合的な学習「玉緒の宝！里山探検隊」では子どもたち一人ひとりがテーマを決め、そのテーマに向かって自然体験学習を進めることで、学校の中では出来ない貴重な体験学習ができた。
- ・ 5年 家庭科「初めてのソーイング」「ミシンを使って」ミシンの点検などもしていただき、個々の児童にきめ細やかな指導助言ができた。
調理実習支援など初めての学習の支援
総合的な学習「田んぼの学習」「感謝祭の準備」の支援
ボランティアさんを招いての「収穫祭」を開催
- ・ 6年 総合的な学習「キャリア教育」ゲストティーチャーの方の想いや仕事に対する姿勢などの話を実際に聞くことができた。
今年度は、となりの幼稚園の先生に話を聞かせて頂き、その後園児たちと交流もった。
- ・ その他 登下校の見守り・図書室の環境や朝の読み聞かせ・図工に使う木材の切れ端の寄付・駐車場の草刈り。



【3年生 キュウリハウス見学】



【6年生 キャリア教育】

■ 実地にあたっての工夫

- ・ 今年度で5年目となり、ボランティアの方々も増えてきたため、学習活動の支援内容に適した人材が依頼できるようになった。
- ・ ボランティアの方と仲良くなることで、信頼関係も生まれ、新しい人材を紹介していただくことができた。
- ・ ボランティアの方の生きがいになるような活動を依頼するように心がけた。

■ 事業の成果

- ・ 昨年に引き続いて同じ方をお願いすることにより打ち合わせが短時間で終わり、活動の幅も増えた。
- ・ 子どもが地域の方と顔見知りになり、親密になることでお互い気軽に声掛けができるようになった。
- ・ ボランティアの方も何度か経験されてきて、子どもと接することに慣れ、見通しを持ってスムーズに活動ができた。
- ・ 来て頂けるボランティアの方がきまっているので、最初の打ち合わせが短時間でできるようになってきた。
- ・ ボランティアの方同士で、役割分担なども積極的にしていただけるようになってきた。

■ 事業実施上の課題

- ・ 学校の都合とボランティアの方の都合があわなかった。
- ・ 新たなボランティアの発掘
- ・ 学校の要望に応えることができなかった。

■ その他

玉緒小学校ホームページ <http://www2.higashiomori.ed.jp/tamasho/>

■ みなみっこ地域応援団（八日市南小学校）

■ 東近江市
■ 活動名
八日市南小学校支援地域本部
■ 関係する学校
八日市南小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	40 人
開始年度	平成24年度

■ 活動の概要

本校では、平成24年度より本事業をスタートさせ、学校・家庭・地域の連携協力のもと、子どもたちの学習や活動の支援として、たくさんのボランティアのみなさんに協力いただき、事業を進めています。

■ 特徴的な活動内容

- ・ 6年生 滋賀学園陸上部生徒による陸上運動指導
- ・ 5年生・6年生 家庭科調理実習、ミシン学習補助
- ・ 5年生 田植え、稲刈り、脱穀の補助
- ・ 4年生 地域の歴史のお話
- ・ 3年生 まちたんけん補助、南部コミセンの畑で地域の方とジャガイモ掘り、校外学習引率補助、昔のくらし体験
- ・ 2年生 ポップコーン、スイートポテト作り補助
- ・ 1年生 校外学習引率補助、昔あそび体験
- ・ なかよし 畑の先生と野菜作り
- ・ アフタースクール 南部コミセンで地域の方とサツマイモ掘りでの交流
- ・ 保護者、地域の方による毎週火、水曜日の読み語り
- ・ その他 学期ごとに図書室の壁面飾り制作、長期休暇中の南部コミセンでの学習会、はちまき作り

■ 実施に当たっての工夫

南部地区まちづくり協議会、南部コミュニティセンターにご協力いただき、チラシの掲示、配布、南部だよりによるボランティア登録募集の掲載など、地域の窓口になっていただいています。

地域ボランティアの募集方法として、まずは活動する学年の保護者の方に募り、そのあと登録ボランティアさん、地域ボランティアさんに声をかけています。学期ごとにボランティアだよりを発行し、年に1度地域、保護者ボランティア交流会を行い、情報交換や家庭・学校・地域による連携の必要性などを話し合っています。



【図書室の壁面飾りづくり】

■ 事業の成果

- ・ 長期休暇の学習会では、南部地区まちづくり協議会、南部地区地域教育協議会、南部地区社会福祉協議会の方々と連携し、ボランティアとして大学生や教員免許をもった地域の方などにご参加いただき、子どもたちの学習支援、異年齢とのつながりをサポートしていただいています。年々参加人数も増え、保護者の方から続けてほしいとの声もありました。子どもたちからは、「次はいつ?」と聞かれるようになりました。
- ・ 滋賀学園陸上部指導による市陸上記録会の練習では、高校生は事前に練習計画を考え、限られた時間の中でどのように指導すればいいか考えてくれています。子どもたちも年齢の近い先輩からの指導に、もっと教えてほしいとの声がありました。
- ・ ミシン学習などの補助にはたくさんの方の協力が必要ですが、毎回大勢の方が参加してくださいます。何より、子どもたちから「今度の授業も来てくれる?」や「ありがとう」の声があり、子どもたちだけでなく、ボランティアさんにとっても充実した時間となっていることが大きな成果です。

■ 事業実施上の課題

保護者ボランティアさんの定着で、ボランティアの参加人数は増えてきてはいますが、ボランティアは学校で必要とされるものを中心に計画をしていますので、去年は補助の依頼があっても、今年はないということがあります。昨年参加した人の話を聞いて、「参加することを楽しみにしていたのに。」とボランティアさんの思いと少々ずれることがありました。

■ その他

今までは、地域から学校への活動でしたが、今後は、学校から地域へと活動の幅を広げていき、地域と学校の連携をさらに強めていければと思っています。



【なかよしジャガイモ植え】

ふるさとの宝・名人・東押立の文化・豊かな自然に学ぶ「地域の学校」 (湖東第一小学校)

■ 東近江市
■ 活動名
湖東第一小学校支援地域本部
■ 関係する学校
湖東第一小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	30人
開始年度	平成25年度

■ 活動の概要

湖東第一小学校は、「やる気をもち やさしく たくましい子ども」を学校目標に掲げて、『三方よし』の学校経営理念で子どもたちのよりよい成長を願って教育活動に取り組んでいます。『三方よし』の一つの『社会よし(社会貢献)』は、地域の人、自然、文化に学び、ふるさとの教育力を生かす教育活動です。地域の方々は、年配の方も若い方も「地域の学校」という意識を強く持っておられ、子どもたちに粘り強く丁寧に支援をしてくださり、いつも助けられています。本校は、地域と共にある学校・地域コミュニティの核になる学校を目指しています。

■ 特徴的な活動内容

田園地帯の広がる自然豊かな地域ですが、古くから愛知郡東押立村としての文化の中心であった名残が地域にたくさん残っています。そこで、3年生の社会科の「発見!!私たちの町の宝物」では、各町の自慢や名人さんを見つけます。今年度も、北花沢・南花沢町の「ハナノキ」など、また大沢町へ見学に行きました。ほかには、平柳町の「化け灯笼」、読合堂町の「半鐘」「出湯」「経堂」なども地域の文化です。5年生の総合的な学習の時間では、地域の農家さんに学ぶ野菜作りをしました。また、3年・4年・5年生は、毎年、地域の方々の力を借りて、田植えや稲刈りを体験しています。

■ 実施に当たっての工夫

本取組において、子どもたちにとってもボランティアの方々にとっても、どちらも取り組んでよかったと思える活動にすることが重要です。お互いに過度の負担になると続かないので、以前から取り組んでいる活動を丁寧に扱い、ボランティアの方々と連絡を密に取ることで見えやすい計画を立てることが大切だと考えます。

■ 事業の成果

子どもたちが本物に触れること、実際に体験すること、人とつながって体験を積み重ねることを通して味わうことのできる感動は、子どもたちの学習意欲を育てます。いろいろな人から認められ、褒めてもらえる場面が増えることは、自尊感情が高まり豊かな人間性の育成にもつながります。登校しにくい子が体験活動を楽しみに登校すること、顔は知っているけれど話したことのないおじちゃん・おばちゃんに声をかけてもらうことで、学習意欲が高まることもあります。子どもたちは、ボランティアさんに学校に来ていただくこと、地域に出て行ってボランティアさんと一緒に学習することが大好きです。自分の子どもさんやお孫さんが大きくなって、久しく学校に足を運んでおられなかった方が行事や学習活動をきっかけに来てくださり、「先生も毎日大変やね」と声をかけていただくようになりました。多くの方から「また、いつでも声かけてね」と言っていたことがとてもうれしく、子どもたち、ボランティアの方々、そして教師も元気になる貴重な取組となりました。

■ 事業実施上の課題

全学年単級の小規模校ですので、ボランティアの方々とのつながりをできるだけ多くの教職員が持つことが重要です。教職員が学年や学校が変わることにつながりが切れてしまわないように丁寧に引き継ぎを行い、ボランティアの方々との長い期間お付き合いさせていただけるようにすることが大切であると考えます。

■ その他

対象	活動内容
全校	読み聞かせボランティア・絵本の広場「お話ポッケ」・田んぼの学校・環境整備・スクールガード・スキーボランティア・地域学習ボランティア
1年	昔遊び何でもおたずね隊「おじいさん、おばあさんから学ぼう」
2年	ふしぎたんけん「みんなの使う町のしせつ」(J.A.ことう・郵便局・給食センター・湖東図書館)
3年	発見!!私たちの町の宝物(ハナノキ・春日神社・木工店・豆腐店)・お店見学(スーパー)・昔の暮らし(おじいさんおばあさんにインタビュー)・「大豆を育てて豆腐ときな粉を作ろう」・アイマスク体験と地域出身の目の不自由な方の話
4年	愛知消防署見学体験・警察官出前授業・特別養護老人ホーム「菊水園」訪問・車いす体験
5年	地産地消学習「地域の野菜農家さんに学ぶ」・ミシン補助・お米を使った収穫祭
6年	戦争中の話・ミシン補助



【3年 町たんけん「ハナノキ」】



【5年 地産地消野菜作り】

育てよう湖二っ子！（学校・家庭・地域が同じベクトルで）（湖東第二小学校）

■ 東近江市
■ 活動名
湖東第二小学校支援地域本部
■ 関係する学校
湖東第二小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	32 人
開始年度	平成23年度

■ 活動の概要

- ①学習支援ボランティア：読み聞かせ・家庭科指導補助・ピアノ伴奏・スキー指導補助など
- ②ゲストティーチャー：地域見学（お寺・石材店・史跡・料理店・工務店・介護タクシーなど）・茶道・華道・釘打ち指導
- ③環境ボランティア：松などの剪定・校舎周辺の草刈り
- ④その他：サッカーチーム依頼・交通安全教室依頼・自転車大会指導依頼

■ 特徴的な活動内容

①読み聞かせボランティア（ボンぽんの会）

毎月第2・第4火曜日の朝学習の時間に、絵本の読み聞かせに来ていただいている。10年以上継続して来ていただいている方も多く、子どもたちは大変楽しみにしている。また、男性の方にも参加していただいている。

②音楽ボランティア

音楽会に向け、合奏の補助やピアノ伴奏に何度も来ていただいた。パートの練習やリコーダーが苦手な子を支援していただき、楽器の演奏技能を高めることができた。

③茶道・華道

6年の総合的な学習で、日本の伝統文化を学ぶ時間として、茶道・華道の先生を招き、指導していただいた。作法だけでなく、姿勢を正すことやもてなしの心も教えていただけてよかった。この経験をもとに、湖二っ子フェスティバル（生活科・総合的な学習の発表会）でお茶の接待をして、保護者や地域の方に喜んでいただいた。



【読み聞かせボランティア（ボンぽんの会）】

■ 実施に当たっての工夫

- ・学校支援の年間見通しと支援実績記録の活用
- ・保護者からの人材情報および地域コーディネーター交流会での情報活用

■ 事業の成果

①学習支援ボランティア

- ・保護者や地域の方の学校理解が深まり、開かれた学校づくりにつながっている。
- ・子どもの学習を支援していただき、学習意欲の高まりにつながっている。
- ・地域のボランティアの方々は、子どもたちや学校の様子がわかったり、つながりが持てたりすることを喜んでくださっている。

②ゲストティーチャー

- ・学習ニーズに合わせて専門的な知識や技能を持っておられるゲストティーチャーを積極的に招くことで、教育効果が高められた。
- ・地域で学ぶ、地域を学ぶ「ふるさと学習」が推進され、地域との結びつきが強くなり、子どもたちに郷土愛が培われている。
- ・地域の方からは「子どもたちにわかる説明の仕方が難しい」という声も聞くが、自分の知識や経験を活かせる機会として、やりがいを持っていただいている。

③環境ボランティア

- ・昨年度に引き続き、前庭の松等の剪定や校舎周辺の草刈りをしてくださる環境ボランティアの協力で、前庭や校舎周辺が大変きれいになった。このことも長年取り組んできた成果であるといえる。

④地域とともにある学校づくり

- ・地域ボランティアの協力が年々充実する中で、地域の方が主体的に学校支援に向けて取り組もうとする気運も高まっている。

■ 事業実施上の課題

- ・地域の方にも学校支援ボランティアをお願いしているが、人材情報が乏しい。

■ その他

（湖東第二小学校） <http://www2.higashiomi.ed.jp/kot2sho/>



【「地域とともにある学校づくり」に向けた話し合いの様子】

「まち探検」から「地域を知り・学ぶ学習へ」（湖東第三小学校）

■ 東近江市
■ 活動名 湖東第三小学校支援地域本部
■ 関係する学校 湖東第三小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	16 人
開始年度	平成25年度

■ 活動の概要

本校は、地域教材や地域の人材を生かし、学習内容や行事の充実を図っている。本年度は、校内研のテーマが「社会・生活科」となったことで、さらに家庭や地域との連携をより深め、効果的な取組となるように努めてきた。

■ 特徴的な活動内容

- 2年生の生活科「まち探検」3年生の社会科「地域学習」において、より広がりや深みを持たせる意図で、校内研のテーマを「生活科・社会科」とする方針が年度当初に決められた。コーディネーターも積極的にその方針に参画して、地域に貢献した人々や、地域の歴史に関する資料を提供して『愛知井を辿る』と題した総合的な学習に関する提言もしてきた。特に、コーディネーターが「まち探検」で関わった、この2、3年の経緯から「水の学習」に取り組む4年生において、積極的な関わりをした。
- 本年度も読書ボランティアグループ『あめんぼ』が定期的に図書室に集まり、パネルシアターや紙芝居の制作、次の発表の稽古・打合せを実施するなど、熱心な取組状況である。昼休みの「ふれあいタイム」には2か月に一度の割合で定期的に発表活動をしている。さらに本年度は、「朝読書」の時間にも、コーディネーターも巻き込んで毎月「読み語り」も実施した。
- 1年生の生活科では、担任とともに「秋みつけ」の実施箇所や、秋の自然物を使った「あそび」の材料を連携してみつけた。さらに、実施場所も新たなポイントを発掘した。

■ 実施に当たっての工夫

- 子どもたちが地域のよさに気づき愛着を持てる「まち探検」では、新たな訪問地を開拓したり4年生の学習に繋がるよう、『愛知井』や各町ごとの土地の高低差に注意を促したりしながら、この地域が「扇状地」にあることを意識させたりした。
- 従来からの地域学習や総合的な学習の実施において、『湖東地区まちづくり協議会』や『青少年育成市民会議』『湖東地区福祉協議会』など関係機関との連携をより密にして学習内容の質的向上を図った。
- コーディネーター自らが、「4年出前授業」や「2・3年まち探検の引率、ゲストティーチャー」となることで、担任や児童とのつながりを深めた。
- 学校の地域コーディネーター担当教員との連携を密にして、昨年は実施できなかった「教職員フィールドワーク研修」を夏季休業中に実施した。1年と4年生では、担任と下見をともにするなどしてより連携を密にした。
- 6年生の平和学習で、この地域の昔の写真や戦時中の写真などを提供して、出前授業に至るまでの学習に厚みを持たせる資料を提供した。

■ 事業の成果

担任とコーディネーターが連携することで、新たな取組も生まれ、今年度の「生活・社会科の研究」に深まりが生まれる一助となった。

■ 事業実施上の課題

- コーディネーターと各担任の連絡調整には放課後のわずかな時間しかない。限られた時間内で、効果的な学習となるような仕掛けとヒントを共有できるようにするためには、工夫と検討がさらに必要である。
- 学校便りや地域の広報で、ボランティアを募集しているが、「こんな学習をするので、こんなボランティアさんはおられませんか？」という具体的な募集方法を考えたい。



【3年 まち探検 工場体験（金寿堂）】



【1年 水鉄砲あそび】

■ その他

（湖東第三小学校 URL）<http://www2.higashiomori.ed.jp/kot3sho/>

『地域とともに歩む学校』（箕作小学校）

■ 東近江市
■ 活動名
箕作小学校支援地域本部
■ 関係する学校
箕作小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	145 人
開始年度	平成25年度

■ 活動の概要

箕作小学校支援地域本部は、地域の歴史、自然、文化を生かした教育環境の構築とその充実に努めてきた。小学校区全域で、「清水小脇街づくり委員会」「太郎坊応援団」「中野地区まちづくり協議会」が組織され支援活動が行われている。各学年の様々な教育活動や芝生化された運動場の保全、校庭整備に箕作小学校応援隊の支援の継続、充実がみられる。

■ 特徴的な活動内容

- ・テーマ「地域とともに歩む学校」の実践は全学年を通し、箕作山登山、町探検、大風製作などを経験し、地域の自然、文化にふれる機会を大切に取り組んできた。
- ・家庭科において、5年生では「ミシンを使ってエプロンを作る」、6年生は「ナップサックを作る」授業でボランティアの支援を受け、「僕の私のエプロン」、「僕の私のナップサック」を作ることができた。
- ・なかよし、2年生、4年生、5年生は「野菜栽培のゲストティーチャー」、「田んぼのゲストティーチャー」を招いて作物づくりを基礎から学び、野菜や米を収穫することができた。
- ・5年生は箕作山に登り、清水・小脇まちづくり委員会のメンバーから山の歴史、自然の様子、生息する動植物、山の保全について学んだ。
- ・6年生児童が、八日市の伝統文化の大風づくりを東近江大風保存会の協力を得て制作した。大風に判じもんで、子どもたちが考えた文字を入れ、大風保存会の指導を受け、2畳敷大風を運動場で大空高く揚げることができた。
- ・ボランティアによる読み語りを年間通じて全学年対象に実施した。今年度も保護者の有志と共に地域に伝わる民話「盆山のとんち問答」の紙芝居制作に取り組んだ。子どもたちは従来からの名作の絵本と共に地域に伝わる昔話に親しんだ。
- ・全校マラソン大会で保護者とともに地域の人達が、力走する全児童に声援を送り子ども達を励ました。
- ・2年生は、地域の名人探して「ジーンズ工房、皮製品工房、おりづる会、太郎坊宮お田植えおどり地域民芸」を見学した。
- ・3年生は、町探検で「ハートピア」「地域スーパー」「アンスリウム花栽培ビニールハウス」「みたらしだんご工場」を見学し、多くの質問をすることにより地域から様々なことを学ぶ機会を得た。
- ・6年生児童が、地元の工芸の布引焼きを地元陶芸家の方達に指導してもらい、茶碗づくりを体験した。卒業前に保護者を招き、自分で作った茶碗を使って「感謝の会でのお茶会」を開催する予定である。
- ・1月には、ボランティアの協力を得て、5年生6年生を対象にスキー教室が行われる予定である。
- ・1年生は昔の遊び（けん玉、はねつき、竹とんぼ、あやとり、お手玉）を箕作小応援隊の方と一緒に遊び体験する予定である。
- ・3年生は、清水小脇まちづくり委員会に七輪を使って火のおこし方を教えてもらったり、餅を焼いたりする予定である。



【ビニールハウス「アンスリウム栽培」見学】

■ 実施に当たっての工夫

- ・各学年の学習のねらいや学習の取組のテーマ「見て 聞いて やってみる」をモットーにした学習活動について地域コーディネーターが双方との連携を密にし、適切な支援活動が成されるように努めた。
- ・支援内容に適したボランティアを依頼できるよう、各所、各団体他、個々の方と幅広く連携を図るように努めている。
- ・これまでの取組を継続し、学校、地域、ボランティア三者が共に安心感、親近感、信頼感がもてるように、できる限り互いの思い、考えが伝わるように日頃からの連携を積み重ねてきた。

■ 事業の成果

- ・箕作山探検隊、米作り、野菜・花栽培等の体験の積み重ねにより、児童、ボランティアともに成就感や親近感が持ててきた。
- ・広範囲な学区であり、広くボランティアの人材を募ることに難しさもあるが、中野コミュニティセンター、八日市コミュニティセンター、八日市ボランティア協会などと細やかに連携を図ると共に、個々のボランティアからボランティアへと支援の輪の広がりがみられ、適材適所のボランティアを依頼することができてきている。
- ・自分たちの住む町を見て歩き、町の人々に多くのことを教えてもらい地域に対する関心が高まり、子どもたちが地域のひとりとしての自覚を持てるようになった。
- ・活動団体が組織化されてきたことにより支援活動内容が整理されてきている。

■ 事業実施上の課題

- ・「地域とともに歩む学校」として学校と地域の絆が深まり、子ども、学校、地域にとって充実したものにするために、打ち合せや相談、必要により計画立案に参画、実践の際の支援、反省、評価、問題提起、課題解決方法の探求など、発展的に循環した取組みとなるよう考えていくことが必要である。
- ・子ども達が様々な人々と適時適切に関わりを積み重ね、より確かな人格形成が築けるよう学校と地域との連携が不可欠である。



【2年生「名人さん探し」太郎坊宮お田植え踊り】

■ 「地域とともにある学校づくり、魅力がいっぱい、持続可能な教育環境づくり」(市原小学校)

■ 東近江市
■ 活動名
市原小学校支援地域本部
■ 関係する学校
市原小学校

コーディネーター数	1人
ボランティア登録数	90人
開始年度	平成25年度

■ 活動の概要

- 1 「いつも身近に本を置こうプロジェクト」(地区集合場所にあるから、登校時の待ち時間もミニ図書館で読書)
- 2 「花いっぱい地域にしようプロジェクト」(花で地域がますます明るく、輝きますように)
- 3 「おとなの学習時間」(地域の方々と共有する時間、空間を設定し相互理解を目指す。→学校が地域の活動拠点化)
- 4 学校支援ボランティアによる授業補助やボランティア・関係機関・民間等との連携事業

■ 特徴的な活動内容

- 1 ミニ図書館設置(地域の公民館・集会所等に設置)
- 2 ボランティアの皆さんが育てた花の苗で花壇を整備
- 3 eライブラリ体験会(学力向上)・認知症こどもサポーター養成講座 de 学ぶ(福祉教育)・講演会・映画会など
- 4 読み語りボランティアによる魅力ある学校図書館づくり(読書環境・読み語り・創作クラフト等のイベントなど)

■ 実施に当たっての工夫

- 1 ぬくもり(手づくり感)を大事にする。(心が通い合うコミュニケーションで、風通しの良い環境づくりを目指す。)
- 2 児童を中心に据え、教職員と保護者、地域の方々とのつながりを大事にする。(一体感を目指す。)
- 3 持続可能な視点をもって続けることを大事にする。(持続可能な教育環境づくりを目指す。)

■ 事業の成果

- 1 保護者や地域の方々の来校者数が倍増した。(地域の方が行き交う学校づくりの進展)
11月末現在で児童数のおよそ35倍、3,207名(H27年度同時期1,360名)
- 2 地域の人と児童の絆が深まった。学校全体が笑顔と活気に溢れている。挨拶が自然に出てくるようになった。
- 3 教職員、特に若手教員にとって、連携事業等を通して地域の人々との多様な交流体験がよりよいOJTとなっている。

■ 事業実施上の課題

- 1 学校や保護者、地域の方々が互いにもっと理解し合いたい。
(例えば、「おとなの学習時間」の回数増→情報の共有化→学校と地域の目標を共有化)
- 2 もっと保護者や地域の方々に本事業の活動を知ってもらうこと。
(HPや広報誌等うまく組合せて周知の徹底をさらに図っていく)

■ その他

- 特色ある活動(一期一会、邂逅。より多くの人との出会いを大切にしてきた。出会いの機会を積極的に設定した。)
- ・ 大阪市立鷺洲小学校との交流(フローティングスクールの出会い、学校間交流と琵琶湖環境学習で連携授業を鷺洲小学校で実施)
- ・ 関西大学児童文化実践サークル「うぶ」との交流(夏公演でのべ110名の児童と150名の学生の皆さんと交流)
- ・ 6年認知症こどもサポーター養成講座(市役所、社会福祉協議会、高齢者施設、民生委員児童委員、地域ボランティア等多くの皆さんが支えてくださり、本年度初めて近隣のグループホーム訪問が実現した。)
- ・ 3、6年モビリティマネジメント教育(国土交通省、市役所等との連携事業)
- ・ 富田彦一さんによる水墨画、松田文夫さんによる絵手紙授業を実施。
- ・ 全校マラソン大会の安全な運営のために当該地区の安全委員さんによる見守り活動
- ・ 読み語りボランティアによる創作クラフト活動(リースづくり)



【関西大学児童文化実践サークル「うぶ」との交流】

■ 地域とのつながりを大切にしながら、地域の方々に感謝して…（五個荘小学校）

■ 東近江市
■ 活動名
五個荘小学校支援地域本部
■ 関係する学校
五個荘小学校

コーディネーター数	1人
ボランティア登録数	115人
開始年度	平成25年度

■ 活動の概要

本校では平成25年度より本事業に参画し、地域コーディネーターさんを中心に学校教育活動や環境整備に協力していただける地域の方を探していただき、活動を進めている。また本事業に参画して4年目となり、毎年お世話になっているボランティアさんの活動の定着とともに、支えていただいている活動にも広がりが見られる。

継続した取り組みにより、ボランティアさんの子どもへの関わり方や支援の仕方についても、慣れた様子でサポートしていただけている。これにより、ボランティアさんと学校とのつながりも強まり、学校理解へとつながっているようにも感じる。また地域コーディネーターさんの精力的な動きによって、学校からの要望に対して惜しみなく全面的にバックアップしていただき、学校の教育活動がより充実したものとなっている。

■ 特徴的な活動内容

- ・茶道、生け花、太鼓などクラブ活動における学習アシスタント型の支援
- ・家庭科でのミシンを使った学習での学習アシスタント型の支援
- ・学校まわりの植木剪定作業など施設メンテナー型の支援
- ・本の読み聞かせを行う学習アシスタント型の支援
- ・校外学習や全校たてわり遠足の引率補助や交通安全見守りを行う学習アシスタント型の支援
- ・総合的な学習の時間「ふるさと学習」での地域の歴史について専門知識を講義するゲストティーチャー型の支援
- ・スキー教室における学習アシスタント型の支援
- ・マラソン大会にむけての試走・当日の交通安全見守りを行う学習アシスタント型の支援
- ・6年社会科での学習で、戦争の体験談を話していただくゲストティーチャー型の支援

■ 実施に当たっての工夫

- ・多くの方々が、地域の学校を支えてくださっていることを伝えようと、「学校だより」やホームページでのボランティア活動の紹介を行い、また来校者にむけて昇降口玄関に写真を使ってのボランティア協力者の紹介を継続して行っている。
- ・地域コーディネーターさんを通して、ボランティアさんに活動の振り返りをお願いし、よりよいサポートが次につながるように学校とボランティアさんとの架け橋を担っていただいている。

■ 事業の成果

- ・専門的な知識と技能をもったボランティアさんに直接具体的に教えていただけるので、子どもたちにとって満足のいく活動となり、子ども一人ひとりに寄り添いながら、細やかな支援をしていただける。
- ・またボランティアさんの協力により学校行事がより充実し、個別に支援や指導を要する子どもに教師がより丁寧に関わっていくことができた。
- ・今年度も地域コーディネーターさんの積極的な働きかけにより、新規にボランティアさんの協力をいただくなど、年々より充実した事業となってきている。また事業自体が定着しつつあり、ボランティアさん自ら学校へ声をかけていただく方もおられ、ありがたく思っている。
- ・子どもが地域の方々や顔見知りになることができ、地域の方々と親密になることができた。また地域の方が、学校の様子を知ることができるよい機会となり、学校理解につながってきている。

■ 事業実施上の課題

- ・学校が地域に求めるボランティア要望については、学校内で掘り起こしをさらに進めていき、学習の充実やサポート体制の構築を目指していきたい。地域の人材発掘には、地域コーディネーターさんだけでなく、学校もアンテナを高くしてサポートしていただく方を今後も求めていきたい。
- ・打合せも十分ではないが時間をとっていただいているので、ボランティアさんがどのように動けばよいのか戸惑われる場面も少なくなった。多忙な学校現場ではあるが、効率よくボランティアさんと打合せを行ってより充実した学習活動となっていくようにしたい。
- ・ボランティア活動がボランティアさんの「生きがい」とまでにはなっていない。今後はより地域に根ざした活動を展開し、ボランティアさんに張り合いをもって活動いただけるようサポートをしていく必要がある。



【学習アシスタント型の支援】



【施設メンテナー型の支援】

■ 地元地域のよさを生かした「地域と共に歩む学校づくり」をサポートしています（愛東北小学校）

■ 東近江市
■ 活動名
愛東北小学校支援地域本部
■ 関係する学校
愛東北小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	30 人
開始年度	平成26年度

■ 活動の概要

本校は、以前から各方面に渡って長年学校活動に地域の支援をいただいています。したがって、例年行われる課外活動や地域学習などには、地域の方々に参加していただく仕組みが教職員間に継承されています。たとえば、福祉学習のことなら市の社会福祉協議会の〇〇さん、自然科学系のことなら〇〇さん、工場や店舗見学なら株式会社〇〇さんや〇〇ストアさん、といった仕組みです。

またその一方で、年度ごと、あるいはその年の先生の想いに基づいて、例年とは異なる取り組みへの支援が展開されています。小規模校で、地域との距離が比較的近い環境が、このような支援を可能にしているようです。

■ 特徴的な活動内容

①安全教育活動 —「愛東北小学校子ども安全連携会議」—

愛東北小学校には、つらい記憶があります。平成14年4月、愛東北小学校で入学間もない1年生が、交通事故で亡くなるという痛ましい出来事があったのです。これを契機に、二度とこのようなことが起こらないよう、保護者・地域のみなさん・学校の連携と協力のもと、長年交通安全教育が進められてきました。

PTA役員と教職員、そこに地域からスクールガードや子ども安全リーダー、少年補導員さんなどに加わっていただき、定期的に「愛東北小学校子ども安全連携会議」を開催しています。ここでの議論から、実際に子どもたちの安全を守るための取組が実施されていきます。集落ごとに危険箇所を親子で確認したり、長期休暇には安全パトロール巡回をしたり、自転車の安全運転講習会を開催したり、様々な活動を展開しています。

このような継続的な活動が評価され、平成27年には市内で初めて「交通安全優良校知事表彰」を受賞しました。

②新たな活動 —パンづくりに挑戦—

家族の絆を深める事業に、親子がいっしょに同じ事に取り組む「親子活動」があります。くりを体験したいけど、なんとかなりませんか?!」との要望が支援本部に寄せられました。「あいとう和楽」さんが、「田園カフェこむぎ」「パン工房」を運営されていることから、ご支援をお願いしてみました。そうしたところ、快くお引き受けしていただくことができました。

当日は、子どもたちだけでなく保護者のみなさんも粉まみれになりながら、にぎやかに楽しくパンづくりを体験しました。焼き上がりを待つ間は、じょうずに完成するか不安の表情が続きました。そんな不安も、試食の瞬間吹っ飛んでしまいました。形は少々変でも、自分が焼き上げたパンは最高の味だったようです。参加の子どもたちや保護者のみなさんはもちろん、和楽さん側も「日ごろやっている自分たちの仕事を体験し、理解していただき、ほんとうに良かった」と感想を述べられていました。

また一つ、支援していただくメニューが増えました。



【安全点検のようす】



【パンづくりのようす】

■ 実施に当たっての工夫

支援を受ける側、支援を提供していただく側、双方とも気持ちよく取り組める環境が大切だと考えています。支援をしてくださる地域の方々とそれを受け取る子どもたちの間に立って、様々な調整をすることが求められています。円滑な遂行を目指しています。

■ 事業の成果

いつものなじみの先生ではなく、外部の方が来てくださり、いろいろと教えてくださったり、協力してくださったりする取組は、子どもたちにとって非常にインパクトのあるものです。どれも成果のないものではありません。

■ 事業実施上の課題

大きく変化する社会状況から子どもたちを取り巻く環境、そして教育現場へ求められる役割も日々激変すると言っても過言ではありません。したがって、支援本部に求められる支援内容も日々変化して当然です。それをこなせる柔軟性が求められています。

■ その他

・参考URL（愛東北小学校）<http://WWW2.higashiomori.ed.jp/aikitasho/>

■ 愛東のよさを知り、子どもたちの自信につなげる地域学習（愛東南小学校）

■ 東近江市
■ 活動名
愛東南小学校支援地域本部
■ 関係する学校
愛東南小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	25 人
開始年度	平成28年度

■ 活動の概要

本校同窓会は東京に支部があるなど、強い愛校心で母校を見守っていただいています。また、この基盤となっている地域の方々とともに固い絆で結ばれています。各学年とも単級で小規模校であることも、地域との結びつきが強固である一因となっているようです。このような環境のもと、従来から多岐にわたって地域の皆さんから多くのご支援をいただいています。

しかし、学校も地域も大きく変化する昨今の状況から、より効率的な支援をいただくために、平成28年度より学校支援地域本部を設置することになりました。学校支援地域本部設置前からいただいていた地域からのご支援を土台に、新たな展開をはじめます。特に子どもたちの地域学習の目当てに合わせて、より細やかな教材や情報を提供していただく仕組みづくりを目指しています。またそれと同時に、子どもたちにとってよりよい学習環境を整備するために、地域の方々には何ををお願いしたいのか、何をさせていただけるのかという、基本事項についても検討をしております。

本部設置間もない本校にあっては、文字通り活動は緒に就いたばかりです。

■ 特徴的な活動内容

【ブックンさんによる読み聞かせ】

毎週火曜日と木曜日の「本の時間」の15分間、ボランティアグループ「ブックン」の皆さんが読み聞かせをしてくださっています。対象は1～3年生です。すでに10年に及ぶ実績があり、時間が来ると子どもたちが自ら教室内に座ってその開始を楽しみに待ちます。4年生以上の児童は、同じ時間帯は自主的に「本の時間」の活動に取り組んでいます。

毎週の読み聞かせ以外に、年に一度、全校対象の「親子お話し会」も開催していただいています。平成28年6月10日は、体育館で全学年の親子が読み聞かせを行いました。誰もが読書の楽しさを実感するよい機会となっています。

【くだもの名人さんに学ぼう】

あいとうメロンをはじめ、道の駅「あいとうマーガレット・ステーション」で直売されている果物や野菜の大半が、当校区内で栽培されているものです。市内外はおるか、県外からも多くのお客さんが来て買っていく作物の数々。このような状況にある現在にたどり着くまでの地域のみなさんの努力やそれを維持する農家の皆さんの取組を、地元からゲストティーチャーをお迎えして3年生の総合的な学習として学んでいます。

普段身近に見ている人々の活動とゲストティーチャーの説明がつながり、愛東のよさやすばらしさを知り、地域に対する誇りにつながっていきます。このような地域に根ざした学習を各学年で積み上げていくことを大事にしています。



【親子お話し会】



【くだもの名人さん授業風景】

■ 実施に当たっての工夫

学校側が地域にどんな支援を求めているのか。まず、ここから明らかにしなければならないと考えています。また、学校側が求めても、実際、これに地域が応えられるのか定かではありません。この調整は、まさに学校支援地域本部の任務に他なりません。工夫とはいえないかもしれませんが、これを念頭に進めています。

■ 事業の成果

冒頭の「活動概要」でも触れましたが、3年生や6年生の地域学習に地域オリジナルの情報を持っておられるゲストティーチャーをお迎えしています。これを含め、各学年とも授業で深めた学習内容を、「くすの木まつり」で広く地域のみなさんに発表しています。このような活動を通して子どもたちに郷土愛が芽生えるとともに、地域のみなさんにも元気と活力をもらっていただいているのではないかと考えています。

■ 事業実施上の課題

学校支援地域本部設置から日も浅く、暗中模索状態にあります。繰り返しになりますが、子どもたち、あるいは学校はどんな支援を必要としているのか。まずここから出発し、その内容を具体的に抽出することが1番の課題であると考えています。

■ その他（愛東南小学校 URL）<http://www2.higashiomi.ed.jp/aiminamisho/>

■ 人とのかかわりを通して、共に学び・共に育ち合う地域、学校をめざして（能登川東小学校）

■ 東近江市
■ 活動名
能登川東小学校支援地域本部
■ 関係する学校
能登川東小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	34 人
開始年度	平成27年度

■ 活動の概要

一人ひとりの子どもが自分に合った生き方を見つけるための子どもたちへの教育は、学校の中だけで行われるものではなく、学校と家庭、そして地域が一体となつてなし得るものである。地域の人々にふれ、地域の人々から学ぶことが大切であり、重要である。そのためには、子どもたちが地域の人々とかかわることができるよう、いろいろな体験ができるように地域の方々にご協力いただきなくてはならない。そこで、昨年度より、東近江市教育委員会生涯学習課の指定を受け、「学校支援地域本部事業」を実施することになり、「学校支援ボランティア」さんによる学習支援活動を行っている。

人とのかかわりを通して、子どもたちの体験をより豊かなものにし、将来をたくましく生きるための学びが深まることや、何よりも「安心・安全」な居場所づくりのために、直接子どもたちにかかわる学習支援を中心に活動を継続している。

■ 特徴的な活動内容

【校外学習引率補助】

- ◇特別支援学級<苗買い 校外学習>
- ◇1年<校外学習>
- ◇2年<生活科町探検 図書館見学 校外学習>
- ◇3年<社会科地区探検 お店見学 農業体験学習 市内巡り>
- ◇4年<森林環境学習 福祉交流学習 消防署見学 校外学習>
- ◇5年<幼稚園児との交流学習>
- ◇6年<施設見学 校外学習>
- ◇5、6年<市陸上記録会>

【学習補助・その他】

- ◇特別支援学級<苗植え 調理実習 抹茶体験 花飾り作り>
- ◇1年<さつまいも調理 球根植え> ◇2年<苗植え>
- ◇5年<図工電動のこぎり補助 稲刈り ソーイング ミシンで製作 調理実習>
- ◇6年<ミシンで製作 調理実習>
- ◎全校マラソン大会（試走）の立哨補助 ◎ミシン点検 ◎玄関環境整備

■ 実施に当たっての工夫

- ・年度当初に「本部事業のお知らせと学校支援ボランティア登録のお願い」文書を、また学期終了時に「ボランティアだより」を全戸配付し、学区民に理解と協力が得られるようにした。（職員にも朝の打ち合わせで発信を行い、活動が見えるようにした。）
- ・活動計画を作成し、ボランティアさんに見通しをもって来校いただけるようにした。
- ・コーディネーターのネットワークやボランティアさんのつながりを活用しながら、支援者を広げるとともにお互いの交流を大事にするようにした。（ボランティア会議やボランティア交流会の開催）

■ 事業の成果

- ・今年度は、新たに10名の方が登録してくださり、34名のボランティアさんで様々な支援活動をしていただくことができた。
 - ・学校として、事業が位置づくようになり、特別支援学級から6年生まで、全校にかかわっての支援ができるようになった。
 - ・たくさんの大人がいることでの安心感と安全性、たくさんの目で子どもを見ることでの子ども理解、かかわりが増えることでの活動の広がりや深まりに、よりつながった。
 - ・学習支援では、個別支援が多くなり、子どもたちの達成感が増した。また、わからないことや困ったことがあれば、気楽にボランティアさんに聞けるようになり、学習がより進むことが実感できた。
 - ・支援によって、担任がゆとりをもって子どもたちに指導することができた。
 - ・ボランティアさん自身の学ぶ場にもなり、またお互いの交流も深まった。その結果、ボランティアさんから活動の様子を知り合いの方に伝えていただくことで、興味をもって学校の応援団になってくださる方が増えた。
 - ・ボランティアさんから提案していただくこともあり、「相互学習」の場になっている。
- <ボランティアさんの声>ボランティアとは、子ども・学校・地域・自分の「四方よし」だと思う。
- <子どもたちの声>うしろから安全を見ていただき、横からそっとやさしく教えていただき、ぼくたちのことを一生けんめい考えてくれてありがとうございます。

■ 事業実施上の課題

- ・学校がめざす子ども像を明確にし、そのために教育活動にどのように位置づけ、活用、運用していくのかの熟議が必要。
- ・昨年と内容は同じでも、子ども、担任の先生が違うので、昨年の引き継ぎをきちんと行い、より充実した支援を考えたい。
- ・時間的に、学年や先生方との話し合いや相談の場がもちにくいので、日常の連携を密にしたい。
- ・学校をさらにオープンにし、家庭・地域との風通しをよくし、「つながり」を大事にしたい。



【特別支援学級 抹茶体験】



【5年 初めてのミシン学習】

■ 地域に感謝 子ども応援隊（能登川南小学校）

■ 東近江市
■ 活動名 能登川南小学校支援地域本部
■ 関係する学校 能登川南小学校

コーディネーター数	1人
ボランティア登録数	150人
開始年度	平成27年度

■ 活動の概要

本校のめざす子ども像は「よく考える子」「感謝する子」「ねばり強い子」である。中でも「感謝する子」は、相手の気持ちを大切に、進んで人に関わる子どもに育てることをめざしている。そのためには、学校だけでなく、地域の方々の力をお借りしたいと考え、昨年度より学校支援地域本部事業を立ち上げ、地域の皆さんに様々な場面でお世話になっている。まだまだ手探り状態ではあるが、実践をするなかで、地域にあふれる多くの「人・もの・こと」を実感できた。特に、保護者・地域の人と人との繋がりが、地域で活動しておられるボランティアの方などから情報を得ることができた。そして、コーディネーターを中心に、地域ボランティアの皆さんに様々な協力をいただき、子どもたちの学習を支援していただいた。

具体例として

- ・校庭の芝生化に伴う様々なお世話（芝生応援隊）
- ・登下校の見守り
- ・学習ボランティア
 - ① 校外学習の引率や講師
 - ② 環境学習（猪子山活動）の手伝い
 - ③ マラソンの試走及び大会での立哨活動



【5年 環境学習】

■ 特徴的な活動内容

本校は、昨年度グラウンドが芝生化された。手入れについては、芝生応援隊の皆さんを中心に、定期的に、芝生刈りや施肥をしていただいている。子どもたちは芝生のグラウンドでの運動会、また、ボール遊びだけでなく様々な遊びを楽しんでおり、子どもたちの怪我は減少し、運動量が増えた。

また、環境学習にも力を入れ、学校のすぐ近くにある猪子山で、年間を通して環境学習を展開している。その際のお手伝いとして、保護者ボランティアや、地域のボランティアの方々に引率していただいたり、子どもたちへのアドバイスをしていただいたりすることができた。

■ 実施に当たっての工夫

芝生応援隊については、市教委と相談しながら年間の活動計画を立てたが、芝生の生育状態等を観察しながら、本校の芝生担当教師と、芝生応援隊リーダーが連携を図りながら、活動を進めていった。

学習ボランティアでは、コーディネーターを中心に、地域の人材を発掘していただき、学習内容にぴったり合うボランティアをお願いできた。

■ 事業の成果

- ・専門的な知識や技能を持っておられる方に支援していただき、学習内容が豊かになった。
- ・教師が余裕を持って子どもに接することができ、子どもたちの力を引き出すことができた。

■ 事業実施上の課題

- ・学校の教育活動で求めている支援内容や子どもの発達段階、学習の目当て等について、ボランティアの方との共通理解を十分に行う必要がある。



【2年 猪子山活動】

■ 日本語支援ボランティア団体との連携による学習支援活動（御園小学校）

■ 東近江市
■ 活動名
御園小学校支援地域本部
■ 関係する学校
御園小学校

コーディネーター数	1人
ボランティア登録数	7人
開始年度	平成28年度

■ 活動の概要

本校に在籍する外国籍児童・帰国子女等、日本語指導が必要な児童に対し、基本的な会話や読み書きの基礎学習に対して地域のボランティアが学習支援を行い、日常生活や学習活動に日本語で取り組むことができるようにすることを目的とした活動を行っています。

■ 特徴的な活動内容

日本語支援地域ボランティア団体に所属する7名の方が、当番制により週に2日月曜日・木曜日午前中に来校され基礎的な日本語指導が必要な児童への取り出しによる個別学習支援に取り組んでいます。主な活動内容は、絵カードなどを用いた読み書きの学習を基本としながら、文部科学省や文化庁が発行している教材等を使用し学習支援を行っています。特に来日して間もない等、積極的な支援が必要と思われる児童に寄り添い、安心して学校生活や学習に取り組むことができるよう心がけて支援しています。

■ 実施に当たっての工夫

一人一人生活環境や経験、言語環境が大きく異なる中、効果的な日本語指導のあり方について考えてきました。1学期当初は、自作の教材、絵カード等を使って文字の正しい書き方と読み方の定着をはかることを目標に取り組みました。その後、文字に沿った単語を書かせて語彙の習得を目指しました。また、ひらがなからカタカナへの展開も図りました。単純な読み書きの学習が連続するため、いかに集中させて学習を継続させるか、意欲・関心を高めながら進めました。

■ 事業の成果

日本語指導が必要な児童にとって学習支援も大切であるが、日本の文化に慣れ基本的な生活習慣を身につけていくことも大切なポイントだと考えています。そのために日々児童とのコミュニケーションを積極的に行い、信頼関係を築けるよう心がけました。また、できたことをたくさん褒め、自尊感情が育つよう努めました。その結果、外国籍児童に行ったアンケート結果では、在籍学級での学習と日本語指導教室での学習を比較したところ、4ポイント以上日本語指導教室での評価が高かった。今後も、引き続き外国籍児童が安心して過ごせるよう取り組んでいきたいと考えています。



【ボランティアによる学習支援風景1】

■ 事業実施上の課題

地域ボランティアの方々が支援活動を行うにあたって一番大切なことは、地域ボランティアと学校関係者が情報交換を密に行い、互いに話しやすい雰囲気づくりに努めることだと考えます。そのため少なくとも学期に1回程度、情報交換会をもち互いの考えや児童の様子について交流することが必要だと考えています。また、教材づくりを教員と共に行うことでボランティアの方々に楽しく気軽に関わってもらえるようにしていく必要があると考えます。



【ボランティアによる学習支援風景2】

■ その他

お問い合わせ

東近江市立御園小学校 ホームページアドレス

<http://www2.higashiomie.ed.jp/misonosho/>

■ 地域との関わりを深め・広げるコーディネートの可能性を見つめて（八日市北小学校）

■ 東近江市
■ 活動名
八日市北小学校支援地域本部
■ 関係する学校
八日市北小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	30 人
開始年度	平成28年度

■ 活動の概要

本年度から、本校では地域コーディネーターが配置された。そのことによって地域と学校をつなぐ活動を、これまでより組織的に運営すること、また今後どのような可能性があるかを模索することを課題として取り組んできた。これまでの活動を基礎にしながら学習がより効果的・効率的に展開するように考えた。

■ 特徴的な活動内容

○1・2年 生活科

「公園探検」

地域の神社の周りや小川での遊び。

（地域コーディネーター・ボランティア）

○2年 生活科

「みんなで使う町の施設を知ろう」

図書館司書やボランティアの人、利用者などに関わる中で、図書館を支えている人がいることや、図書館には、みんなが気持ちよく利用するためのさまざまな工夫があることに気付く。市立八日市図書館で書庫や移動図書館の見学。司書やボランティアの話聞く。

（市立八日市図書館）

○3年 総合的な学習

「目の不自由な人の工夫した生活を知る」

アイマスク体験・盲導犬とのふれあい。目の不自由な人の話を聞く。

（東近江市社会福祉協議会）

○4年 社会科

「住みよくらしをつくる」

集められたゴミはどのように処理されるのか、清掃工場を見学したり、係の人の話を聞いたりして調べ、清掃工場が工夫していることについて考えることができる。

（日野清掃センター）

○全校 体育科

「マラソン大会」のコース立哨（地域コーディネーター・ボランティア・PTA）

■ 実施に当たっての工夫

これまで、学校が地域と連携しながら、学習を進めてきたが、今年度から地域コーディネーターを軸として活動の幅をどのように広げていくか、計画段階から意識しながら取り組んできた。

教職員の学校支援地域本部事業への周知、意識改革を地道に行ってきた。

■ 事業の成果

地域コーディネーターと相談しながら校外学習の先で、地域の方から話を聞いたり、昔の遊びを教えてもらうことができた。教師の引率だけでは、知り得ない情報を得ることができた。

盲導犬とふれあう学習は、アイマスク体験とともに人権学習の一環であるが、地域のネットワークを活用することで、より充実した学習に出来る可能性が見えてきた。

マラソン大会の安全立哨、家庭科のミシンやアイロン実習などに地域コーディネーターの人脈を活用して多くのお年寄りの協力を得ることができた。

本年度の大きな目標の一つは教職員の意識改革であったが、地域コーディネーターを中心に活動を実施するなかで教職員の意識は大きく変わり、「それなら、こういうこともできるかも」という発想が生まれてくるようになった。

■ 事業実施上の課題

今年度は、本部設置初年度ということで、連携の可能性を模索し続けながらの活動となった。実践事例集などをもっと参考にして、さらに可能性を探っていかなければならない。



【地域の方からのお話】



【盲導犬とのふれあい】

■ 蒲生の子は蒲生で守り育てよう。（朝桜中学校）

■ 東近江市
■ 活動名
朝桜中学校支援地域本部
■ 関係する学校
朝桜中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	8 人
開始年度	平成20年度

■ 活動の概要

平成20年度より、蒲生地区（小学校3校、中学校1校）での学校支援地域本部事業がスタートし、一人のコーディネーターが中心となり、図書室の開館や校舎の環境整備、部活動支援など様々な実践が繰り広げられた。また、「駅舎清掃・地域清掃作業」については、20年以上にわたり、地域と連携して取り組んできた活動である。今年度は、地区内の各学校にそれぞれ一人ずつコーディネーターが配置されることとなったことに加え、コーディネーターの方が変わることもあった。これまでの活動をふまえ、新たな展開を模索した。

■ 特徴的な活動内容

・「駅舎清掃・地域清掃作業」

- ①場 所： 桜川駅・京セラ前駅・朝日大塚駅・朝日野駅・むらさきの公園・あかね古墳公園・市子殿公園・学校周辺
 ②活動内容： 除草作業、ゴミや空き缶拾い、清掃、落書き消しを、参加希望する生徒と連携先の地域の方（蒲生地区青少年育成市民会議）がともに行う。

・部活動支援

外部コーチの方に来ていただき、ハンドボール部やサッカー部の指導をしていただいた。休日や放課後または試合の日にも来て、技術面だけでなく精神面についても指導され、生徒の力量を高めている。

・チャレンジウィーク（職場体験学習）支援

新規に事業所を開拓していただき、生徒の選択の幅が広がり大いに助かった。

・図書室ボランティア

今年度、校舎の大規模改修の中で図書室も大幅にリフォームした。ボランティアの方と図書委員が本の片付けや棚へのもどし作業をともに行い、スムーズに開館することができた。

・花壇づくり

中庭の花壇を地域の方につくっていただき、校舎の環境を整備することができた。

■ 実施に当たっての工夫

- ・教職員に事業の本質と内容を職員会議でしっかり理解することから取り組みを始めた。
- ・コーディネーターの方に年度当初の職員会議で挨拶をしていただき、何でもコーディネーターの方に頼めるような職員の雰囲気作りを大切にした。
- ・担当教師とコーディネーター、ボランティアの方との打合せを綿密に行うようにした。

■ 事業の成果

- ・「駅舎清掃・地域清掃作業」については、活動が学校・地域に浸透していて、今年も生徒、教師、地域の方々が240名以上集まり、熱心に取り組んだ。
- ・ボランティアや外部コーチの方がそれぞれ専門的な内容での支援をしていただき、生徒の活動の質が豊かになっている。

■ 事業実施上の課題

- ・新しいボランティアの方の発掘
- ・活動の前後に打合せの時間を十分にとることが必要である。特に、部活動支援について、外部コーチと休日や夜に時間をとることもあったが、時間確保がむずかしい場合がある。



【駅舎清掃・地域清掃作業】



【図書館ボランティアの活動】

■ 船岡中学校 地域とつながろうプロジェクト（船岡中学校）

■ 東近江市
■ 活動名
船岡中学校支援地域本部
■ 関係する学校
船岡中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	5 人
開始年度	平成24年度

■ 活動の概要

船岡中学校支援地域本部は、コーディネーター1名が八日市西小学校と船岡中学校を兼務し、学校と地域の教育力(資産)をつなぐ取組を推進しています。本年度も、①地域の方による学校支援活動と②中学校生徒による地域づくり貢献活動の二つの活動に重点的に取り組みました。

船岡中学校は以前から「地域とつながろうプロジェクト」を推進しており、生徒会や部活動、希望者によるボランティアなどが地域の様々な行事にスタッフとして多数参加しています。本年度も延べ100名を超える生徒が、地域の様々な行事に出場したりボランティアスタッフとして参加しました。

■ 特徴的な活動内容

①地域の方による学校支援活動

○中学生1年生を対象とした「紙芝居授業」の実施

本年度は防災教育に関連させて、地域の方による紙芝居や「稲むらの火」の読み聞かせを行いました。

○文化祭親子合唱への手話指導の実施

文化祭親子合唱の曲に手話を交えて発表するために、地域の手話サークル「ノアの会」が指導を行いました。

○中学生1年～3年を対象とした「ようこそ先輩授業」の実施

地域の方にご自身の経験をお話していただき、キャリア教育を行いました。

②中学校生徒による地域づくり貢献活動

○中学校陸上競技生徒による校区小学校児童への技術指導の実施

陸上競技に取り組んでいる生徒が、夏休みに八日市西小学校児童へ技術指導を行いました。

○中学生の地域行事への参加

校区にある2つのコミュニティーセンターを通じて、「子ども夏まつり」「地区文化祭」「歴史まつり」「お泊まり会」「万葉フェスタ」などの地域行事に参加したりボランティアスタッフとして活動しました。本年度も、延べ100名を超える中学生が参加しました。



【文化祭親子合唱手話指導】



【地域の文化祭バザー部ボランティア】

■ 実施に当たっての工夫

○地域の方がボランティアとして生徒と関わっていただく際は、事前に学校側の指導者と十分な打ち合わせをしました。

・コーディネーターが校長や受け入れ担当教師との打合せを丁寧に行いました。また地域の指導者も、事前に学校側から示された「ねらい」についての打合せを十分に行いました。

○中学生の地域行事参加を推進するため、年度当初に学校とコミュニティーセンターなどと行事日程の調整を行いました。

・会場借用の都合もあり、中学校の定期テスト期間を避けて設定した地域行事もありました。

・同一日に開催する校区内2つの地区市民運動会の日には部活動を中止し、中学生が参加しやすいようにしました。

■ 事業の成果

○地域の方々や保護者が学校に関わっていただく機会を積極的に設定することで、中学校の教育活動への理解が深まり、地域に根ざした開かれた学校づくりを目指しました。体育大会では150名・文化祭でも200名を超える地域の方や保護者の参観をいただきました。

○様々な経験や専門的な知識をお持ちの方からの指導を直接いただけたことから、授業の内容に広がりとともに深まりも加わり、ねらい通りの質の高い学習の機会となりました。

■ 事業実施上の課題

○学校が設定する「ねらい」を共通理解し適切な連携を推進するためには、十分な打ち合わせの機会が必要です。今後さらに連携を密にとり、効果的な支援を行いたいと考えています。

■ 地域と共につくる特色ある教育活動（五個荘中学校）

■ 東近江市
■ 活動名
五個荘中学校支援地域本部
■ 関係する学校
五個荘中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	16 人
開始年度	平成28年度

■ 活動の概要

本校校区は、県下でもたいへん早くから青少年育成市民会議が設立されるなど非常に教育熱が高く、これまでから、さまざまなかたちで学校に対する支援をいただいている。昨年度には、4年に渡る校舎・体育館・プールの全面改築と駐車場等の周辺施設整備が終わり、今年度からさらに地域の力を学校に取り入れるために、新たに学校支援地域本部事業に取り組み始めた。中でも特に、今回の校舎改築により、学校図書館を兼ねた公立図書館（東近江市立五個荘図書館）が併設されるという全国的にもめずらしい施設整備が行われたことを受け、公立図書館の場を利用して、地域と中学校が共に育ち、学べる教育活動をめざしている。

■ 特徴的な活動内容

①図書館開放支援

現在、原則として週に3日程度、昼休みに図書館を開館している。休館日である月曜日・火曜日以外は、一般の利用者とともに子どもたちが図書館で昼のひと時を過ごすことになる。そこで、図書館の利用マナー、学校生活のルールの中で、生徒と一般利用者が自然なかたちでふれ合い、本に親しめるようにボランティアの方々により見守りをいただいている。



【昼休み図書館開放の様子】

②読み聞かせ

本校では、毎朝10分間の朝読書を年間通して実施している。その時間帯に、1か月に1度のペースでボランティアの方々（1回につき5名程度）に来校いただき、月ごとに学年を変えて読み聞かせを実施していただいている。

③部活動支援

男子バスケットボール部に対して、10月から部活動への支援をいただいている。推進員の方には、放課後や休日の練習や練習試合、時間が許せば早朝練習でもご指導いただき、公式戦ではベンチに入り指導していただいている。学校の部活動指導方針を理解し、顧問と協力して技術指導とともにマナーや精神面での指導にも尽力いただいている。



【特別支援学級における授業支援】

④特別支援学級授業支援

特別支援学級の理科の授業の実験・観察への支援のために、11月から推進員の方に来ていただいている。支援員は、理科の教員経験をお持ちで、安全面にも配慮しながら、子どもたちの興味・関心を高める体験を仕組んでいただいている。

■ 実施に当たっての工夫

図書館の開放支援に関しては、コーディネーターのアレンジにより、市立図書館の職員（館長・司書）、学校図書館司書、中学校管理職、図書館担当教諭、生徒指導担当教諭と図書館ボランティアからなる開放支援のための会議を持ち、日程調整や支援の仕方などについて共通理解を図っている。

■ 事業の成果

今年度から、図書館の休館日以外にも開館するようになり、生徒指導面を含むさまざまな心配があったが、図書館スタッフに加えて多くのボランティアの方々に、適度な距離を保ちながら温かく見守っていただけたおかげで、マナーよく、はじめある態度で図書館が利用できている。また、学校支援地域本部設立以前からお世話になり、この事業で継続していただいている読み聞かせについては、子どもたちが心を落ち着けて一日をスタートさせる「朝読書」のアクセントとして貢献していただいている。こうした取り組みにも支えられ、全国学力学習状況調査では、学校図書館や公立図書館を月に1回以上利用する生徒の割合は、全国平均の2倍近くになっている。

部活動においては、男子バスケットボール部が、秋季総合体育大会でブロック優勝を果たし、その後も顧問と推進員の指導の下、熱心な取り組みを進めている。

特別支援学級においては、子どもたちが体験的な学習に生き生きと取り組んでおり、学習の成果につながるものと期待している。

■ 事業実施上の課題

現時点では、コーディネーターの的確な運営により目立った課題もなく、本校生徒にとってたいへん有意義な事業となっている。今後とも学校、コーディネーター、ボランティアの三者で、しっかりと情報交換し、コミュニケーションをとりつつ、さらに事業を進めていきたい。

■ 地域とともに歩み、育つ永源寺中学生（永源寺中学校）

■ 東近江市
■ 活動名
永源寺中学校支援地域本部
■ 関係する学校
永源寺中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	4 人
開始年度	平成28年度

■ 活動の概要

大学生学習支援ボランティア、部活動外部コーチ（教育活動推進員）

■ 特徴的な活動内容

- 教員をめざしている大学生による学習支援ボランティア活動。
- 教員をめざしている大学生なので、意欲的に生徒支援・学習支援を行ってくれる。
- 椎茸栽培における原木の運搬において、地域のボランティアの協力を受けている。

■ 実施に当たっての工夫

- 学習支援ボランティア
支援の必要な学級・授業を学年主任が計画し、大学生のボランティアと情報交換しながら行っている。
- 部活動外部コーチ（教育活動推進員）
翌月の部活動計画を顧問が外部コーチに連絡し、事前に外部コーチが指導可能日を確認して、部活動指導計画を立てている。

■ 事業の成果

- 生徒の落ち着いた授業規律の確立が図れた。
- 部活動の専門的な技術指導が受けられ、生徒の意欲と技術が向上した。

■ 事業実施上の課題

- 今年度途中より、学校支援地域本部を立ち上げたため、年間の活動計画が確立していない。
- お願いした地域コーディネーターは適任者であり、今後学校と地域コーディネーターがどのような活動にしていくなか話し合いを重ねていく必要がある。

■ その他



【ソフトテニス部の外部コーチ（教育活動推進員）による指導】



【地域のボランティアの協力を受け、椎茸栽培における原木の運搬活動】

■ 米原市における学校支援地域本部の取組

■ めざす姿

本市では、学校・園と家庭・地域が、地域の子どもの中心に置き、願う子ども像を共有しながら、それぞれが子ども支援の当事者として、縦横かつ双方向につながるための仕組みづくりを進めている。

縦のつながりとは、保幼小中連携である。各中学校区において、「連続性・一貫性」のある保幼小中連携を進めることにより、各学区内における特色ある教育活動を展開していく。横のつながりとは、学校・園と地域の連携である。地域の人的・物的資源の活用や社会教育との連携により、豊かな体験活動の実現やコミュニケーション能力の向上を目指していく。学校支援地域本部も、その仕組みの一つとして、保護者や地域の人々の様々な力を学校の教育活動の中に積極的に取り入れていきたいと考えている。

このように、地域の子どもの中心に大人がつながることで、心豊かでたくましい米原っ子を育むことを目指している。

■ 本年度の活動

① 学校支援地域本部事業説明会 ※6月～7月

本事業の概要説明や予算執行における留意点等について、市教委担当が各学校を訪問して説明。

② 教育フォーラム ※10月～11月

中学校区	日時	内容
柏原中学校区	11月16日	○グループ討議「柏原学区の子どもたちを、どんな子どもに育てたいか。」
大東中学校区	11月9日	○講演「地域と学校との連携の意義について」立命館大学 准教授 武井 哲郎 氏
伊吹山中学校区	10月26日	○講演「伊吹地区の良さ、伊吹の子どもたちに期待すること」元未来作り隊 柳生のび氏 ○グループ討議「伊吹地区の子どもたち『どんな子に育てたい、どんな力をつけたい』」
米原中学校区	10月18日	○学校支援地域本部事業の概要説明 ○各校園長・保護者・地域代表によるパネルディスカッション
河南中学校区	11月9日	○学校支援地域本部事業の活動報告 ○各校園からの教育活動の報告
双葉中学校区	11月19日	○「ふたばの日」絆コンサート

③ 運営委員会（全体会） ※2月開催予定

検討事項：今年度の事業の検証、地域と学校の連携の今後の在り方について

■ 本年度の成果

- ・本年度、新たに2本部が立ち上がり、4中学校区（5小学校、4中学校）にて、事業を推進することとなった。次年度は、残り2中学校区においても本部を立ち上げられるよう、準備を進めている。
- ・教育フォーラムの開催は3年目となり、「地域と学校で共に子どもを育てていこう」という機運の向上に資するものとなっている。

■ 今後の課題

- ・市内の地域コーディネーター同士の情報交換の場を設定するとともに、県主催研修会への積極的参加を促すことで、地域コーディネーターの資質向上を目指す。
- ・各学校や各校区の実情に応じた取組の円滑な推進とともに、今後に向けて、学校と地域が互いにパートナーとして双方向に連携・協働する関係づくりの構築を目指すという、市としての方向性をより明確に示していく。

■ 全市的な取組による読書支援 “みんなで本を読もう”

■ 米原市
■ 活動名
米原市読書活動学校支援地域本部
■ 関係する学校
米原市内の全小学校（山東、大原、坂田、息長、柏原、伊吹、春照、米原、河南）、双葉中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	126 人
開始年度	平成20年度

■ 活動の概要

米原市では、平成20年度から学校・家庭・地域が連携、協働しながら全市的に子どもたちの読書活動を支援しており、今では市内の全ての小学校において、ボランティアによる読書支援が行われている。今年度の主な取組は、①巡回文庫の継続実施、②ボランティア交流会の開催、③学校図書館の活性化（学校図書館大改造を含む）である。

■ 特徴的な活動内容

- ・巡回文庫・・・市内の全小学校の全クラス（特別支援学級を含む）に実施。学校間の運搬は各学校担当のボランティアで、本と一緒におはなしを届けていただいている。（1回/月）
- ・ボランティア交流会・・・ボランティアによるおはなし会の実演、情報交換、交流による学習会などを実施。（3回/年）
- ・学校図書館の大改造・・・滋賀県教育委員会生涯学習課の「学校図書館活用支援事業」を受け、大原小学校で、6月25日（土）に教員、児童、保護者、ボランティア、地域が力を合わせて学校図書館のリニューアルを行った。また、市として初めて、中学校の図書館大改造を行った。（双葉中学校で8月3日（水）に実施。）



【大原小学校の検証授業】

■ 実施に当たっての工夫

- ・巡回文庫・・・毎月各学年に応じた40冊の本を入れた箱を巡回させ、子どもたちが常に新しい本に出会える機会を設けている。またこの巡回文庫の継続により子どもたちと地域とのつながりも深まってきている。
- ・学校図書館の大改造・・・改造前の事前準備として、ボランティアと本の分類、整理などを一緒に行うことで気運を高め、当日も多くの方に参加していただいた。



【双葉中学校図書館大改造】

■ 事業の成果

- ・各学校で巡回文庫が順調に活用され、学校図書館の本の整理、壁面製作などの環境整備においても、継続してボランティアが活動して下さっている。中でも柏原小学校図書館整備において、定期的に活動して下さるボランティアグループが新たに立ち上がった。
- ・学校図書館の大改造によって、学校図書館が「読書センター」、「学習・情報センター」としての機能を兼ね備え、子どもたちの読書環境が整った。また、保護者も実際に関わることで達成感とともに今後のボランティア活動への意欲につながった。
- ・大原小学校での成果として、今回の大改造は、前年度の伊吹小学校大改造時に学びに参加した教員やボランティアの希望により本事業実施につながったもので、地域で学校を支援していく活動が広がった。また、検証授業「学校図書館を活用した授業（5年生の国語の授業）」では、学校図書館の使い方・資料の集め方・引用の仕方・まとめ方などの学習ができ、全教員が図書館を利用した授業を参観されたことにより、学校図書館を活用した授業が出来ることを実感していただけた。
- ・双葉中学校図書館の大改造は、以前に坂田小で学校図書館改造を経験したボランティアが、次のステップとして中学校に働きかけて実現したものであり、本事業を継続して行ってきた成果である。
- ・各校の改造当日の様子は、中日新聞にそれぞれ6月26日（日）、8月4日（木）に掲載され、双葉中学校は、「広報まいばら」や「行政放送」でも取り上げられ、広くPRできた。
- ・ボランティア交流会において、読み聞かせの技術向上や情報交換をする中、ボランティア同士のつながりが広がり、親睦を深めることができた。平成29年1月には、ボランティアグループの枠を超えて、協力し合ってひとつの出し物をする計画が進んでいる。

■ 事業実施上の課題

- ・学校を支援するボランティアさんの確保が課題であり、高齢のボランティアさんが活動しやすい環境づくりと新しくボランティア活動を始めようという方々のきっかけづくりが必須である。
- ・学校図書館の環境は整備されてきたが、次の段階として子どもたちの一番身近にある学校図書館に学校司書を配置し、魅力ある蔵書の構築やボランティアとの連携を深めるとともに、読書支援だけでなく、授業で活用できる学校図書館にすることで、先生や子どもたちの学習支援も行いながら、子どもと本を繋いでいく活動、公共図書館や学校間の情報共有・連携等も課題である。
- ・今後、地域とどう連携し、学校を支援していくのが望ましいか、学校や関係各課と更に話し合っていくことが必要である。

■ 柏原学区をもっと楽しく、面白く！「はびろの里コミュニティ」による学校園支援活動

■ 米原市
■ 活動名
柏原学区学校支援地域本部
■ 関係する学校・園
柏原小学校・柏原中学校・柏原保育園

コーディネーター数	4 人
ボランティア登録数	30 人
開始年度	平成27年度

■ 活動の概要

柏原学区は柏原小学校、柏原中学校の1小1中からなる学区である。両校とも各学年1学級ずつの小規模校である。また、学区には地元の社会福祉法人「柏葉会」が運営する柏原保育園がある。

柏原学区学校支援地域本部では柏原小学校・柏原中学校だけでなく柏原保育園も支援対象として考え、校区の保護者と地域が一体となり、学校園を地域ぐるみで支援する「はびろの里コミュニティ（はびコミ）」として平成27年5月に発足した。「はびコミ」は柏原中学校に事務局を置き、毎月定例会として「井戸端会議」を開催。様々な学校支援活動を展開している。

■ 特徴的な活動内容

①「井戸端会議」の開催

「はびコミ」は毎月1回、柏原小学校、柏原中学校、柏原保育園を会場（輪番）にして、夜7時から「井戸端会議」を開き、柏原学区における教育のあり方や学校、園の支援活動について話し合っている。井戸端会議には4人のコーディネーター、柏原小学校、柏原中学校の職員その他、市教委や地域のボランティアの方が参加している。

②小中連携・児童生徒交流の促進

・柏原中学校体育大会に小学生を招待（9月）

柏原小学校の児童に柏原中学校のよいところを知ってもらう目的で5・6年生全員に出場参加を募集。応募した小学生は中学生とともに100m走や生徒会種目に出場した。「はびコミ」は会場のパトロールを担当し協力した。

・柏原小学校運動会に中学生が参加（9月）

柏原小学校の運動会に陸上部の生徒が参加し、ハードルの模範走を披露した。また、吹奏楽部が昼休憩の時間に体育館でミニコンサートを開いた。小学生全員と多くの保護者や地域の人々に演奏を聴いていただくことができた。「はびコミ」は会場のパトロールを担当した。

・柏原中学校文化祭に柏原保育園児、柏原小学校児童が参加（10月）

学校と地域が一体となった「みんなの文化祭」を目指し、柏原保育園や柏原小学校、地域住民にステージ発表や作品展、文化講座体験への参加を呼びかけた。

③ゲストティーチャーの手配

・「文化講座体験」

柏原中学校の文化祭（10月）では、お菓子作りや華道など7つの文化体験講座を開いた。各講座の講師は「はびコミ」のメンバーが手分けして柏原学区に在住する人を中心に依頼。文化祭当日は各講座に「はびコミ」のメンバーが中学校の教員や生徒会役員とともに運営担当者として支援を行った。

・「里山体験」

柏原中学校1年生の里山体験（10月）では、「はびコミ」のコーディネーターが「大野木グランドワーク協会」の人たちといっしょにゲストティーチャーとして竹やりや間伐材の伐採作業などの体験学習の指導を行った。

④環境整備

・「親子環境美化作業」への協力（8月）

8月下旬に実施したPTA親子環境美化作業に「はびコミ」のメンバーも参加。運動場周辺の除草作業を支援。



【文化講座体験（お菓子づくり）】

■ 実施に当たっての工夫

①「井戸端会議」での熟議

学校園支援活動の実施にあたっては「井戸端会議」で様々な議論を重ね、合意形成を行うことを大切にしている。

②広報「ぶうめらん」の全戸配布

「はびコミ」事務局は「井戸端会議」の実施と合わせて毎月1回、広報紙「ぶうめらん」（A4表裏刷）を発行し、「井戸端会議」で話し合った内容や学校園支援活動の様子を柏原学区全戸に発信している。

■ 事業の成果

①「井戸端会議」で熟議を重ねることにより、「柏原学区の子どもたちは柏原学区の保護者と地域が一体となって育む、柏原の学校園を柏原学区の住民がひとつのコミュニティとして支援していく」という雰囲気が高まっている。

②これまで躊躇してきた児童生徒の交流活動などが「はびコミ」の後押しや具体的な支援により実施しやすくなってきた。

■ 事業実施上の課題

- ・学校支援ボランティアの人員を拡充していくこと。
- ・学校園支援活動の内容を拡充していくこと。
- ・予算面の拡充を図ること。

「子どもは地域の宝」～ふるさとを愛する子どもを地域で育てる学校支援地域本部事業～

■ 米原市
■ 活動名
河南学区学校支援地域本部
■ 関係する学校・園
河南小学校・河南中学校・かなん認定こども園

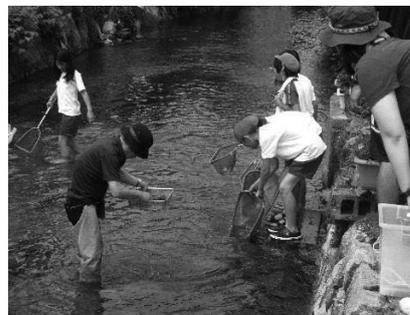
コーディネーター数	2 人
ボランティア登録数	60 人
開始年度	平成27年度

■ 活動の概要

人口が減少している米原市の中でも、特に児童・生徒数が急速に減少している本学区（1認定こども園1小学校1中学校）として指定を受け事業を実施している。

昨年まで河南小中2校それぞれで進めている地域連携の行事の運営方法を見直し、求める人材としての講師、ボランティアの依頼を、学校ではなく学校支援地域本部に移行することで、持続的活動になればと昨年度より取り組んできた。また、教員よりも、地域の人材ネットワークを持っている地域コーディネーターが、学校に対して、ふるさとを愛する子どもの育成に向けて、積極的な事業提案をしていただけるものと期待しているところである。

事業も2年目を迎え、2人のコーディネーターと学校園との連携も深まり、学校の課題から来る要望を聞き取り、そのニーズに合わせた人材探しの役割を果たしながら、少しでも校園の課題解決につながるよう事業を進めている。



【河南小 地蔵川観察会】

■ 特徴的な活動内容

本学区は、中山道の醒井宿と番場宿を含む宿場町であった地域であるため、歴史と文化の史跡が多く、小中学校共に地域学習に取り組んでいる。その学習を、地域の活性化を目的に活動している「番場の歴史を知り明日を考える会」や「松尾寺山登山道保存会」等の方々に支援していただき活動していることが特徴的である。さらにその活動は継続的で、小学6年生は林業体験も交えて、境目の城である「鎌刃城」について学習し、中学1年生は重要文化財のある松尾寺跡から鎌刃城の奥まで学習している。

いずれもボランティアの方々とはトレッキングをしながら説明を受けることで、地域の歴史と文化について、体験を通して学習している。また、トレッキングの終わりには、ボランティアの方々手作りの「石垣だんご」をごちそうになるなど、地域の方との温かみのある交流を通して子どもたちは、頭と心とお腹もいっぱいになって満足した表情を見せていた。

■ 実施に当たっての工夫

- ①講師やボランティアの方は、米原市内でも、できるだけ河南学区の方をお願いするよう努めた。
- ②子どもたちが説明を聞くだけに終わらないよう、体験や交流ができるように工夫した。
- ③「まいばら教育フォーラム in 河南 2016」の場を借りて、広く本事業の進捗状況の報告を行い、地域の方々に校園の教育に関心をもってもらえるよう努め、ボランティアスタッフの拡大につなげた。

■ 事業の成果

- ①昨年度は実施できていなかった「かなん認定こども園」での活動が実施できた。活動の一つは年齢に応じた絵本等の「読み聞かせ」であり、もう一つは「農園の野菜栽培」で、こども園の職員や園児・保護者に喜ばれた。本学区は民間の保育園があるものの、公立では1こども園1小学校1中学校で、一貫教育の観点では恵まれている環境であり、人権の観点で今までから連携は図ってきたものの、この事業で地域人材活用についても広がりにつながりが生まれると同時に、地域住民の願う教育の実現に向けて、体制が整いつつあることが感じられた1年であった。



【かなん認定こども園 読み聞かせの様子】

- ②昨年に続いて、11月9日（水）に河南小学校で開催した「第3回まいばら教育フォーラム in 河南」で、平成27年度と本年度の途中までの本事業の進捗状況の報告を、地域コーディネーターからすることができた。河南小学校が祖父母学級を開催しており、その延長線上での開催であったことと、各校園で二次案内でも周知したため、昨年の1.5倍の参加者（約200人）に本事業を周知することができた。
- ③河南中学校の土曜学習会は、本事業で講師の掘り起こしをしながら継続して実施しているが、生徒に事業が浸透してきたこともあり、昨年より参加生徒が倍増してきた。

■ 事業実施上の課題

- ①地域コーディネーター2名とも本学区の醒井学区に偏っているため、人材探しのネットワークが息郷学区で弱くなっていて、息郷学区の人材の掘り起こしが困難な状況がある。息郷学区のキーになる方の協力を得て活動を広げていきたい。
- ②先進地の視察を実施したいところであるが、日程調整等ができずに実施できていない。
- ③各校園ともコーディネーターとの窓口が校園長に偏りがちであり、組織的に進められていると言えない現状にある。

■ 学校における地域の人的財産の結集と連携

■ 米原市
■ 活動名
伊吹山学区学校支援地域本部
■ 関係する学校
春照小学校・伊吹小学校・伊吹山中学校・いぶき認定こども園

コーディネーター数	4 人
ボランティア登録数	50 人
開始年度	平成 28 年度

■ 活動の概要

本学区は、以前から子どもたちの体験活動や総合的な学習の時間（ふるさと学習）を推進するため、多くの地域の方々の協力をいただいていた。また、昨年度までは、読書活動学校支援地域本部事業として、小学校における読書ボランティアの充実を図ってきた。読書ボランティアの協力で、巡回文庫や読み聞かせなどにより、読書を推進させることができた。今年度は、伊吹山中学校区支援地域本部を立ち上げたので、これまでの読書推進を継続させながら、地域の方々が学校を支援するこれまでの取組をさらに発展させ、学校の願いに合わせて、地域の人的財産（地域力）を子どもへの支援活動として生かし、教育活動を充実させていく。

■ 特徴的な活動内容（春照小学校の取組）

(1) 読書ボランティア

毎週水曜日の朝の読書タイムにおける各学級の読み聞かせを継続する。学年や季節に合った絵本を選定し、本とのすてきな出会いの機会になるようにし、読書への意欲を高める。ボランティアがお話の講習会に参加したことを生かし、読み方を工夫し子どもたちを本の世界に浸らせる。また、毎月、図書室の壁面の掲示やおすすめの本を紹介するなど読書環境を整え、新刊図書のブックカバーの支援も行う。読書ボランティアをきっかけに、言語環境の整備も支援していくようにする。

(2) 環境整備・栽培ボランティア

自然豊かで校地が広い本校は、草木がよく茂り、除草作業が大変である。5月に、PTAの環境部で環境整備作業を行い、8月には、PTAと地域の老人会の協力による環境整備作業を行っている。しかしながら、5月から10月の期間は、運動場やマラソンコースなどを毎月1～2回草刈りをしなければならぬ状況で職員が除草作業しているため、環境整備作業の応援隊をお願いしたいと考えている。

また、「田んぼの学校」でお世話になっている方が菊を栽培され、10月には本校の玄関前に菊の花を飾ってくださった。学校が華やかになり、子どもたちも菊を鑑賞する機会となった。この「春小6」の菊は、「千輪咲きの槍舞」の手法であるようだ。

子どもたちと菊の栽培ができることを期待する。11月には、「ローザンベリー多和田」の経営者（校区在住）に、寄せ植えをしていただくことがあり、これも玄関に飾っている。親子で寄せ植えをする活動につなげていきたい。生活科や理科の学習で栽培したり、環境委員会でサルビアやマリーゴールド、サクラソウなどを栽培したりしている。環境整備と併せて、プランターに季節に合わせた花を咲かせる栽培活動をさらに進めていきたいため、栽培ボランティアの力を借りたいと考えている。

(3) 安全ボランティア・学習支援

毎日、スクールガードの方には、子どもたちの登下校の安全を見守っていただいている。また、総合的な学習の時間（ふるさと学習）におけるゲストティーチャーに、学習支援を行ってもらった。特に、4年生の「湧き水探検」や6年生の福祉体験学習では、多くの地域の方々にかかわっていただき体験学習の支援をしていただいた。また、お出合いした地域のボランティアの方々との温かい心の交流もでき、学習内容の充実だけでなく、人とのふれあいの貴重な機会にもなった。

■ 実施に当たっての工夫

ボランティアの人材確保に当たっては、教師と地域コーディネーターが一体となって、地域の人とつながっていくことを大切にす。また、学区に向けて「地域応援隊」募集のちらしを配布して本事業の周知に努めるとともに、地域人材の情報を得た際には、積極的に学校支援をお願いしていくこととする。

■ 事業の成果

地域コーディネーターを依頼するに当たり、読書ボランティアや環境整備など、これまでからお世話になってきた方をお願いをした。学校や児童の様子を理解してくださっているので、先生方とも話しやすい関係ができており、連携がとりやすい状況になっている。

■ 事業実施上の課題

以前から支援していただいている方々との連携を密にし、さらに「地域応援隊」を募集し「人材バンク」の登録をしていく必要がある。また、これまでお世話になってきたボランティアの方が高齢になり、世代交代のときを迎えている。そのため、各活動のサポートの内容をマニュアル化し、次年度以降も活用できるようにしたい。これまでは学校が主体となっていた、総合的な学習の時間（ふるさと学習）におけるゲストティーチャーの人材確保や連絡などを、地域コーディネーターが調整していけるようにする。



【 読書ボランティアの読み聞かせ 】



【 栽培ボランティア 】

■ 地域人材を生かした特色ある教育活動によって、米原を愛する幼児・児童・生徒を育てよう

■ 米原市
■ 活動名
米原学区学校支援地域本部
■ 関係する学校・園
米原小学校・米原中学校・米原幼稚園・米原中保育園

コーディネーター数	2 人
ボランティア登録数	80 人
開始年度	平成28年度

■ 活動の概要

米原中学校区は、1中・1小・1幼・1保の4校園からなる学区である。本学区では、従来から人権教育の関係で保幼小中の連携を密にしながら、子ども達の成長を見守ってきており、中学校区として取り組む事業への職員の理解度は高い。地域の方の学校教育に対する理解もあり、体験活動等への協力や支援も継続的に行われている。

しかしながら、各校園でそれぞれに依頼していたボランティアについての情報共有は今までできていなかった。そこで、本事業1年目の本年度は、学校職員・地域の方々への事業周知と各校園とのボランティア情報の共有を図りながら、ボランティア組織の充実を図り、地域の教育力を生かした特色ある学校づくりの推進を図っていききたい。



【教育フォーラム・パネルディスカッション】

■ 特徴的な活動内容

○ 「米原中学校区教育フォーラム」

本事業の開始初年度に当たり、所属教職員はもちろん、PTA や自治会長、地域の皆様に本事業の趣旨や具体的な取組内容等を知ってもらうことを目的に、「米原中学校区教育フォーラム」を開催した。当日は62名の参加を得て、事業の概要説明に続き、地域コーディネーター2人の紹介、その後、地域コーディネーター、関係各校園長、ボランティア代表、市教育委員会担当者によるパネルディスカッションを実施した。このフォーラムの実施により事業の周知と今後の方向性を明示することができた。

○ 生徒の活動視察

地域コーディネーターの現状把握を目的に各校園での教育活動の視察をお願いしている。中学校での職場体験活動や小中学校での読み聞かせ活動等の視察をしていただいた。職場体験の視察では、生徒にも声をかけながら激励して下さったり、事業所に受け入れの状況や課題を確認して下さったりした。



【職場体験学習視察で生徒を激励】

■ 実施に当たっての工夫

- ・まずは、現状把握と組織体制の整備・ボランティアの募集活動を行うため、2週間に1度の事務局会議を実施している。中学校に出向き担当者と打合せ後、小学校・幼稚園・保育園を巡回し、職員との顔つなぎや学校側からの支援・ボランティアの要望等についてのニーズを把握できるようにしている。
- ・中学校職員室内に地域コーディネーターの席を確保し、教職員が気軽に声をかけ、相談できるような雰囲気と空間作りをしている。その中で、本事業の効果により、教職員の多忙感の軽減につなげていきたい。
- ・今後、本事業の趣旨を校区内の自治会長に伝えることや、協力を求める会合の開催を予定している。

■ 事業の成果

- ・実質2学期から本事業がスタートしており、十分な成果を上げるまでには至っていない。しかしながら、地域コーディネーター2人は地域の状況をよくご存じで、顔も広いため、今後のボランティアの拡充には心強い存在である。

■ 事業実施上の課題

- ・ボランティアの固定化・高齢化が課題である。新規開拓が必要であるが、文書のみで募集をかけてもなかなか集まらないのが現状である。
- ・従来から有償・無償のボランティアが校内に入っており、該当学年の主任が窓口となって事業を進めているが、今後、本事業による地域コーディネーターが仲介する体制にスムーズに移行していく方法を模索中である。
- ・今後、各教育活動でボランティアに入っていたく当たり、学校の担当者とコーディネーター、ボランティアとの打合せ等をいかに短時間で効果的に行うかが課題と考える。

■ 竜王町における取組（学校支援地域本部事業）

■ 目指す姿

これからの子育てや教育は、学校（園）のみが役割と責任を負うのではなく、従来以上に学校・家庭・地域の連携を図りながら進めていくことが必要です。

そこで、公民館講座の受講生や情報等を活用しつつ、学校支援のために学校（園）と地域人材を結びつけながら、地域総ぐるみで学校支援体制を整えることと併せ、地域や家庭の教育力向上を図ります。

さらに、一人ひとりの人生をより豊かにする公民館での生涯学習活動が、学校支援に関わる中で子どもたちを中心に生まれる仲間づくりへと発展し、これを窓口に、地域へとその対象を広げ、互いに支え合うことを通して、一層のまちづくり活動の推進へと繋げることで、公民館を拠点とした学校・家庭・地域のネットワークはもとより、元気な地域づくり人づくりを目指します。

■ 運営委員会の設置

委員会名称	竜王町学校応援団			
委員名簿	氏名	所属・役職等	氏名	所属・役職等
	武久 雅則	中学校教頭	三寄 住子	コーディネーター
	田鍋 正寿	小学校教頭	杼木 博子	コーディネーター
	新庄 証	西小学校教頭	尾川 源太郎	コーディネーター
	寺嶋 恭子	幼稚園教頭	岡山 厚子	コーディネーター
	福本 綾子	西幼稚園教頭	関川 雅之	公民館長
	長岡 道子	統括マネージャー	松村 知洋	係長
	草崎 明	コーディネーター	後藤 麻理奈	主事

■ 本年度の活動

4月中旬 学校園情報交換会。

毎月 統括マネージャー・コーディネーター会議定例会

H29 3月中旬 運営委員会開催。

年2回（上半期、下半期）学校応援団だよりの発行。

通年 学校応援団（ボランティア）募集。

■ 本年度の成果

ボランティアさんの発掘がかなり進んでいるので、安定した支援が可能となった。

■ 今後の課題

ボランティアさんの高齢化が進んでいるため、あらたな人材の確保に努めたい。

■ 学校・家庭・地域総ぐるみによる学校支援（竜王町学校支援地域本部）

■ 竜王町
■ 活動名
竜王町学校支援地域本部
■ 関係する学校
竜王幼稚園、西幼稚園、竜王小学校、西小学校・竜王中学校

コーディネーター数	5 人
ボランティア登録数 (新規)	29 人
開始年度	平成22年度

■ 活動の概要

核家族化や価値観の多様化等、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化し家庭や地域の教育力の低下が懸念される中、これからの子育てや教育は、学校・家庭・地域が連携を図りながら進めていく必要があります。

そこで、公民館の学びや人材・情報等を活用しつつ、学校支援のために学校（園）と地域人材を結びつけながら、地域総ぐるみでの学校支援体制を整えることと併せ、地域や家庭の教育力の向上を図る。

■ 特徴的な活動内容

【託児支援】

○幼稚園や小学校では、保育参観時や学期末懇談会時に託児支援を行いました。絵本を読んだり、玩具で遊んだり、毎回工夫して託児を行っています。保護者からは感謝の声が多く聞かれました。

【学習支援】

○竜王小学校で『大根の種まき・土づくり』支援を行いました。

体育館裏の畑で大根の種まきができるように、ボランティアさんと一緒に畑作りをしました。

スコップや鍬の使い方や土の盛り方など、大切な基本を教えてくださいました。

○竜王西小学校で『アートクラブ』の支援を行いました。

竜王西小学校のアートクラブは、地域の方に支援いただき、学校では体験できないような芸術や技術を学ぶというクラブ活動で、1学期はフラワーアレンジメント、ビーズアクセサリー、風景画を描く、消しゴムハンコ作りの支援を行いました。

○竜王中学校で『家庭科』の支援を行いました。

竜王中学校では、1年生家庭科授業の支援を行いました。1学期はティッシュケースカバー、トートバッグの製作、2学期は刺し子のランチバッグ、巾着の製作です。



【消しゴムハンコ作り】

【行事支援】

○竜王小学校・竜王西小学校で田植えの支援を行いました。

5月16日に竜王西小学校5年生が田植え体験をしました。苗の植え方を教えてもらって「日本晴」の苗を自分たちで植えていきます。田植え機での田植えも見学させていただきました。

5月18日には、竜王小学校5年生が「秋の詩」の田植えをしました。

稲刈り時では、稲の刈り方や束ね方を熱心に教わっていました。



【田植え体験】

■ 実施に当たっての工夫

○統括マネージャーとコーディネーターとが定期的に会議（定例会）を持つことにより、ボランティアさんの確保、また、支援依頼内容の伝達が正確にできた。

○支援時には、統括マネージャーやコーディネーターが積極的に学校（園）へ出向き、先生はもちろん、支援いただいたボランティアさんと話し合いをしながら、良かった点、改善すべき点等、今後につながる情報交換を行った。

■ 事業の成果

○児童たちからは、支援毎にたくさんの感謝の手紙や言葉をいただきました。また、ボランティアさんからは、「子どもたちから元気をもらった、参加してとても満足している」など、生きがいの場として提供できた。学校（園）、ボランティア（地域）ともにとっても満足できる支援ができました。

■ 事業実施上の課題

○保護者ボランティアさんが子どもの卒園・卒業と同時に活動を終了される場合が多いため、今後継続した活動をしていただくため、何か有効な対策をとってきたい。

○ボランティアさんの高齢化が進んでおり、今後、依頼内容によっては支援できないものが出てくる可能性が懸念される。

多賀町における学校支援地域本部の取組

■めざす姿

地域の大人と子どもたちがふれあうことにより、お互いが顔見知りとなって、町全体が安全で安心な空間になるように努めていく。大人と子どもがともに活動することで、大人は自分の持っている知識や経験を子どもたちへ伝え、子どもたちは大人と接することにより、地域の歴史や伝統を学び、次世代に受け継ぐことを目指す。

■本年度の活動

多賀町地域教育力推進協議会という運営委員会を毎月1回開催し、地域における行事案内や地域の課題などを各自が持ち寄り協議、検討を行っている。特に子どもの体験活動に関する情報交換では、地域と学校が互いに連携できるように取組を進めている。



【会議の様子】

■本年度の成果

学校支援地域ボランティアの参加登録者数が100人と昨年と比べて増えた。また、学生ボランティアの登録も、新たな登録があり学校行事への支援に関わってもらえた。地域のボランティアの方も子どもたちと接することにより、社会の役に立てている喜びや生きがいづくりにもつながっている。

■今後の課題

各校・園からのボランティアの依頼も多種多様なものとなってきた。学校支援ボランティア活動が単なる応援隊にならないように校舎へさらに説明を行い、充実したものとなるように努める必要がある。また、運営委員会である地域教育力推進協議会について、現在は情報交換を中心に行っているが、情報交換から学校等が抱える課題を見つけ出し、学校と地域のさらなる連携協力へつながるよう協議会の充実を図っていく。

■その他

多賀町地域教育力推進協議会 開催数：年11回

委員数：26名

団体	多賀町PTA連絡協議会	企業	多賀町商工会
	多賀町子ども会指導者連絡協議会		JA東びわこ農業協同組合多賀支店
	多賀町青少年育成町民会議		キリンビール株式会社滋賀工場
	近江猿楽多賀座		中日本エクシス株式会社 EXPASA 多賀
	多賀町分館連絡協議会		株式会社ブリヂストン彦根工場
	子育て支援サークル「たんぼぼ」	学校	多賀中学校
	子育てサークル「パオパオ」		多賀小学校
	多賀幼稚園保護者サークル「ぶらんこ」		大滝小学校
	Dドラファミリー	行政	教育委員会学校教育課
	サークル「わかくさ」		多賀町中央公民館
	グループ「SKO」		あけぼのパーク多賀
	多賀クラブ		産業環境課
	特定非営利活動法人「多賀やまびこクラブ」		多賀町子ども・家庭応援センター

「みんなで支える学校」多賀町学校支援地域本部事業の取組

■ 多賀町
■ 活動名
多賀町学校支援地域本部
■ 関係する学校
多賀小学校・大滝小学校・多賀中学校 多賀幼稚園・大滝幼稚園・多賀ささゆり保育園 たきのみや保育園

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	100 人
開始年度	平成20年度

■ 活動の概要

町内の7つの小中学校・園を対象に、読み聞かせをはじめ、環境整備や安全見守りなどを中心に支援している。例年の活動も継続しているが、新たな活動も増えてきている。今年度は、学習支援・部活動補助・家庭科ミシン補助・図書の修繕も行なった。また、年に3回程度ボランティアの方々向けの研修会を実施している。

■ 特徴的な活動内容

- ☆小中学校での夏休み学習支援・部活動補助に大学生ボランティアを中心に、また、家庭科ミシン授業も小中学校で地域の方で行った。その他、今年度はじめて町内4つの保育園・幼稚園において図書の修繕を毎月行っている。どの活動もボランティア側からの意見等により実施となったものである。園からは、「たいへん助かっている」と、今後の継続を期待されている状況である。
- ☆大学生のボランティア登録が今年度だけで7名あり、運動会などの学校行事などにも大いに活躍していただいている。
- ☆小学校低学年児童の集団下校のための児童見守りも近隣にお住いのボランティアを中心に毎週2回定期的に行っている。
- ☆滋賀県教育委員会主催の子ども読書ボランティア研修会にも多賀町から16名が参加し、自己研鑽できた。「他の地域の方の活動も知ることができた」「一緒に参加して顔見知りが出来た」等の感想もいただいている。

■ 実施に当たっての工夫

- ☆実施日までに余裕がある依頼内容の時は、電話連絡でなく登録者へ依頼文を送付のうえ幅広くお願いし、複数の学校・園・日程から選んで参加していただけるように工夫した（例、プール監視、除草、校外学習など）。また、登録しているだけにならないように、未経験の方にも依頼の声掛けをするようにしている。
- ☆学生等にボランティア登録していただくために、募集チラシを見ていない学生が多いことから口コミによる募集を継続して行っている。多賀町育英資金受給者・成人式典等で配付及び町内や近隣大学等で配布のうえ募集を行っている。
- ☆多賀町としてボランティア研修会を実施する際には、必ず町内全域に案内文書を配付し、参加者にはボランティア登録の声かけをしている。

■ 事業の成果

- ☆学校生活の中で日常的に地域の方が関わることで、地域の力が活かされていると感じている。地域の方が学校・園に出向く機会が増え、子どもたちが名前を呼んで話しかけてくれることが増え、学校へ行きやすい環境になりつつある。
- ☆町内の学生ボランティアが町内学校・園の活動に参加したことから、口コミで輪を広げ、翌年度の参加予約に繋げることができた。また、学生ボランティアにとっても、教職希望の学生が実際の実習体験ができ、他府県で下宿の学生も地域に帰って来られるという安心感も生まれ、「次も参加したい」と喜んでいただいている。



【保育園幼稚園で図書の修繕（月1回）】



【小学校低学年児童見守り（毎週木曜金曜）】

活動内容	実施回数	のべ人数
図書関係(読み聞かせなど)	65	254
環境整備	17	60
校内・校外安全見守り	41	98
学習支援(部活動補助含む)	170	190
その他(研修会含む)	11	46

*11月末現在

■ 事業実施上の課題

学校・園と地域の思いが一つになり、さらに充実した支援となるよう、定期的に学校・園とコーディネーターとの支援に関する打合せを実施していく必要がある。学校支援ボランティアの活動が単なる応援隊でなく、相互の関係が深まりボランティア自身の生きがいともなるように今後さらに活動内容を考慮していく必要がある。また、横の繋がりも強固なものになるような工夫が必要であると考えている。

■ 大津市における学校・地域コーディネート本部事業の取組

■ 目指す姿

- 地域、家庭、学校のつながりを強め、お互いをよく知ることで信頼関係をつくる。
- 子ども支援に多くの方に参画していただき、いじめの未然防止、早期発見を図る。
- 地域・家庭・学校…誰にとっても地域が学びの場・自己実現の場。

■ 本年度の活動

- 8本部 12校で実施
- 「学校・地域コーディネート本部運営委員会」および「地域コーディネーター連絡会」を8月と12月に実施
- 各本部での取組

- ・ ボランティアリストの作成、コーディネーター通信の発行
- ・ 定期的に支援活動（登下校の見守り支援、学習支援、体験活動支援、クラブ・部活動支援 等）
- ・ 児童生徒が地域行事（文化祭・運動会・各種フェスティバル等）の役員として参加 等



【クラブ活動支援】

■ 本年度の成果

本事業を通して、今年度の成果を以下の4点に絞って報告する。

○ 地域コーディネーター（地域団体との交渉、学校の会議に参加、通信の発行 等）

- ・ 学校と地域をつなぐだけでなく、子どもに付けたい力を学校と共有し、それを発揮できるように仕組んでいた。また、子どもに関わる大人が自己有用感を感じられるようにも配慮いただいた。
- ・ ボランティアリストの作成、協力団体の拡充（学校のめざす子ども像に即した個人、団体を選定）
→ 地域団体等の意向に対して、学校が言い難いことを地域コーディネーターが代弁・整理

○ 地域ボランティア（学習支援、登下校指導、図書館ボランティア、夏季休業中の花壇の水やり 等）

- ・ 学校支援、子ども支援のあり方に変化
→ 今までは、学校からの依頼に応じて支援してきたが、地域コーディネーターと相談し、自分たち
にできることを積極的に実施

○ 地域での活動は誰にとっても生きがいであり自己実現の場（経験の活用、つながり、やりがい 等）

- ・ 家にいるより地域ボランティアとして学校に行くのが楽しい
→ 学校での活動をきっかけに、地域でのつながりが生まれる
→ 地域が学びの場となり、地域の教育力の向上につながる

○ 中学生は地域人材（文化祭、運動会、防災訓練への参加 等）

- ・ 地域行事への中学生の参加率が上昇
→ 地域行事に参加して、参加者から学び、取組内容から学ぶ
→ 地域住民を好きになり、地域に誇りをもつ
→ 参加から参画に、責任をもって地域行事と向き合う



【地域の子供祭りでは手作りブースを担当】

■ 今後の課題

大津市はコミュニティ・スクールの導入を進めている。「地域は学びの場」と誰もが実感できる仕組みを整えていく必要がある。そのためにも支援から参画に地域住民の意識改革を進めることが求められる。地域住民の心を育て、地域を愛し誇りに思えるように、地域・家庭・学校が、地域の将来を担う子どもたちを地域の力で育てていくという共通の理念を持ち続けることを、どのように進めるかが課題である。

■ 「葛川の宝」を学校とつなぎ、豊かな心と学びの充実を目指す IV（葛川小学校・葛川中学校）

■ 大津市
■ 活動名 「葛川の宝」を学校とつなぎ、豊かな心と学びの充実を目指す IV
葛川小・中学校・地域コーディネート本部
■ 関係する学校 葛川小学校・葛川中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	48 人
開始年度	平成25年度

■ 活動の概要

本校は、山間部に立地するへき地校で、全校児童17名、生徒10名である。小規模学区で育つ子どもたちは、人間関係が固定化されがちであり、互いに切磋琢磨し合うことが少ない。そこで、豊かな心を育み、多様な考え方に目を向けることができるように、自然を生かし、地域の方々と関わりふれあう学習や活動を多く取り入れてきた。

この事業が始まって4年目となり、学校と地域との結びつきはますます強くなってきている。子どもたちが地域の中で活動するときにも地域の方からあたたかい言葉がけをいただき、一人ひとりの子どもの成長に地域ぐるみで関わっていただけた。その結果、子どもたちは、より幅広い人間関係を築き、多様な考え方や生き方を学ぶ機会を持つことができた。また、そのことが学校ぐるみ・地域ぐるみでいじめを許さない学校づくりを進める効果をあげている。

■ 特徴的な活動内容

○学校林活動（年3回）

地域の森林組合の方々との指導のもと、植林、草刈り、木の観察等の活動

○地域のゲストティーチャーに学ぶ

- *話を聞く（自然、歴史、仕事、生き方 など）
- *技を学ぶ（木工ろくろ、間伐体験 など）

○お年寄りの方々とのふれあい

<葛川学区老人クラブ寿会の方々>

- *グラウンドゴルフ大会 *さつまいも苗植え、収穫、やきいもパーティー
- <久多のお年寄りの方々>
- *ふれあい活動（児童による出し物や交流遊び）

○地域清掃

7月：地主神社、明王院 11月：市民センター

○OKTふれあいの輪

地域の方と児童生徒との懇話会で、地域の課題について意見交流

○学校と地域がいっしょに行う行事

- *運動会（体育協会と合同開催） *紅葉祭（地域の方も参加）

■ 実施に当たっての工夫

<学校から地域への発信>

- お礼の手紙を届ける
- コーディネーターだより「かけはし」の発行（年間6回）
- 児童・生徒による各種行事のポスター作成、地域への呼びかけ
- <継続した取り組みのために>

○記録に残す

学校と地域の関わった学習や活動についてデータとして記録に残す。（学年・日時・ねらい・ゲストティーチャーの連絡先・事前事後連絡日・話や活動の内容・当日の子どもたちの様子や記録写真・所感・子どもの変容 など）

○ゲストティーチャー一覧表

ゲストティーチャーでお世話になった方々の連絡先を年度ごとに一覧表にし、素早く検索できる工夫をした。

■ 事業の成果

- 「地域のゲストティーチャーに学ぶ」の学習では、事業の4年間の蓄積もあり、学校のことを知ってくれている方々がおられたので、充実した学習活動を展開することができた。
- 「学校林活動」「老人クラブとの企画」「地域清掃」では、活動に温かさが感じられ、豊かな心の育成に効果があった。
- 地域の方とふれあうなかで、子どもたちが地域の方の思いをくみ取り、人を思いやる心や多様な考え方を受け入れる心が育ってきた。そのことがいじめを許さない学校づくりにつながっている。
- 教職員が企画をコーディネートするために費やしていた時間を地域コーディネーターにゆだねることにより時間が生まれ、教職員と子どもたちとふれあう時間にあてることができた。
- 事業による活動の様子や成果を「かけはし」に掲載し、年間6回発行した。このことで、地域と学校の連携がより緊密なものとなった。

■ 事業実施上の課題

- 少人数学区のため、人材は限られている。現在の地域の方との関係は大切にしていしつつ、新たな人材の発掘を進める。
- 子どもたちが地域に出向き、主体的に活動できるような学校と地域の間取り方も考えていきたい。



【グラウンドゴルフ】



【KTふれあいの輪 懇話会】

■ 平成 28 年度 地域とともにある開かれた学校づくりをめざして（仰木の里小学校）

■ 大津市
■ 活動名
仰木の里小学校・地域コーディネート本部
■ 関係する学校
仰木の里小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	70 人
開始年度	平成 25 年度

■ 活動の概要

多くのボランティアの方々に子どもたちの学習や環境整備に関わる支援をいただく際に、学校内外で見守っていただいている。

学校や子どもたちの様子を見て、地域の方々に知っていただくようにしている。

■ 特徴的な活動内容

本校における学校支援の 3 つの柱は以下のとおりである。

（1）教科等の学習支援

本の読み聞かせ、3 年生の世代間交流・盲導犬・手話等の福祉教育、6 年生の家庭科補助、室町体験学習、キャリア教育、戦争体験談

（2）環境整備や図書室運営への支援

花壇の苗の植え替えや「みのりの森」（学習林）、学校周辺の樹木剪定グラウンドの草刈り、学校図書館の整備・選定・貸し出し支援など

（3）安全面、緊急時にかかわる支援

登下校における安全パトロール、あいさつ運動、児童引渡し訓練における支援、運動会準備の呼びかけなど

■ 実施に当たっての工夫

【PTA・地域・近隣大学の協力を得ながら「にじのはしまつり」を開催】
毎年開催している P T A との共催行事「にじのはしまつり」では、第一部に文化芸術による子どもの育成事業「劇団ひまわり」による児童劇の鑑賞を行い、第二部では、地域のボランティアや近隣の大学など、さまざまな方々に協力をいただき、子どもたちが楽しい体験学習ができるように工夫した。

① 読み聞かせボランティア「お話たまたまぼこ」によるお話会（1 年生）

② 成安造形大学の学生による造形遊び「紙芝居」「クリスマスボード」「ランプの気球」などの 3 つのワークショップ（2～4 年生）

③ びわこ成蹊スポーツ大の先生による古武術についての体験および講習会（5、6 年生）

■ 事業の成果

学習支援をしてくださった方には、後日お礼の手紙をやりとりしたり、学習発表会を参観していただいたりして交流を続けている。来校される地域の方々も学校へ入りやすくなり、地域でも「里っ子育成ネットワーク会議」を開いて子どもたちをよい方向に導こう、見守っていこうとする機運も高まってきた。

また、「子どもたちのために」と地域のボランティア団体が労を惜しまず、環境整備等に多く力添えをしていただいている。その活動を通して子どもたちとの距離も当初に比べずいぶん近づき、あいさつを笑顔でかわせ、信頼関係作りができてきた。地域の大人が学校や子どもたちのことを知り、見守り、優しく声かけをしてきている安心感が子どもの心を落ち着かせ、たがいに思いやり合える温かい集団作りにつながってきた。

■ 事業実施上の課題

（1）【環境整備の支援ボランティアの拡大を図るシステムづくり】

本事業も 4 年目を迎え、広報活動の継続を通して環境整備ボランティアの必要性や意義をより深く理解していただき、組織の拡大を計画的に進めることができた。現在の学生や保護者、地域の支援ボランティアには深く感謝するとともに、さらなる拡大を目指すべく組織・システム作り・意識改革が必要となる。

（2）【教科や体験学習のゲストティーチャーや支援の継続と今後】

教育課程でも本事業を生かしたプログラムが定着してきており、地域ボランティアや教職員も共通理解ができつつある。今後は、地域の方々の意識改革を促し、地域の子どものあるべき姿を共有し、その力を付けるべく支援することが求められる。

（3）【地域コーディネーターの存在と学習の充実】

地域の保護者や人材をよく知っていただいている地域コーディネーターの存在は非常に大きい。地域との連携役にとどまることなく、地域を活性化させる方策を常に探りながら活動していただきたいと思っている。



【老人会の方々と世代間交流】



【PTA 共催 にじのはしまつり】

■ 学校を核として、地域全体で子どもたちを見守り育てられる日吉台を目指して（日吉台小学校）

■ 大津市
■ 活動名
日吉台小学校・地域コーディネート本部
■ 関係する学校
日吉台小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	90 人 (8 団体)
開始年度	平成28年度

■ 活動の概要

本事業の実施は初年度であるが、これまでも地域の方の協力を得て子どもたちの様々な体験活動の支援を受けたり、校内の環境整備に協力を得たりしてきた。今年度よりコーディネーターが配置されたことで、学校の教育活動のねらいと地域が進めたい支援内容との調整が有効に進められるとともに、地域の方と進めた活動について記録を残して地域へ積極的に情報発信ができるようになった。

■ 特徴的な活動内容

【学習への支援】 総合的な学習の時間

3年生の「日吉台ウォッチング」の学習では、自分たちの住む日吉台のよさを知るために、町の様子や人、歴史について学んでいる。調べ活動の1つとして、地域の方をゲストティーチャーとして迎えて「日吉台の歴史」について教えていただいたり、「私の地域福祉活動」「登下校の見守り」等について話をしてもらったりしている。ゲストティーチャーはどの方も、視聴覚教材を活用したり、子どもたちに関わる具体的な話を取り入れたり、福祉活動で使われる具体物を用意されたりと、子どもたちにわかりやすく話をしている。このことは、コーディネーターが日程調整だけでなく内容についても、担任と地域の方とをうまくつないでもらった成果と考えている。

いじめ撲滅のため、地域の方に友達を大切にすることについて自身の体験談を聞かせていただいたり、人の大切な権利について話していただいたりする学習も行った。

【体験的な活動への支援】 各学年で進める栽培活動

校地内の畑を活用して、低学年はサツマイモとダイコン、中学年はタマネギ、高学年はジャガイモと、ふれあい農園の皆さんの指導のもと年間を通して栽培活動を行っている。

各学年とも、苗の植え付けや収穫だけでは、栽培体験としては十分でないとの声があり、今年はコーディネーターとふれあい農園さんとの協議の中で、苗植えのときには「栽培する植物のミニ知識」等の紹介や、子どもたちが自分の手で育てたという実感をより持つようにと、土作りや草引き、芽かきなどの指導もしていただいている。また、栽培活動の様子は、コーディネーター便り『にじいろ』にまとめられ、当該学年だけでなくふれあい農園の方々にも配布されている。このコーディネーター便りについては、地域の広報紙の『日吉台』でも取り上げ紹介したいという要望も出ている。

【教育環境の整備支援】 読書環境づくり他

読み聞かせボランティアによる朝の読み聞かせ活動や図書環境整備ボランティアさんによる本の整備や図書室の飾り付け等、子どもたちが、読書活動を大好きになるような支援を進めてもらっている。また、月に1回昼休みに子どもたちの音読発表会には、読み聞かせボランティアの方が来校され、子どもたち一人ひとりの音読を聞いて上手に読めたところ等の声かけをしていただくことで、子どもたちの音読練習に良い効果が表れている。

■ 実施に当たっての工夫

教育活動や環境整備に係る学校支援ボランティアについては、新規のボランティア募集はそれほど必要でなかったため、これまでには十分できていなかった事前の打ち合わせ等を大切にしてきた。各学級担任からは、いつ・どのような内容で活動を行いたいかを、年間計画に即してコーディネーターと相談して助言をもらうよう進めている。

■ 事業の成果

地域の方の支援を受けての教育活動については、これまでも学校だより等で紹介してきたが、発行回数や紙面の関係もあり、十分に子どもたちの学びの様子が伝えられていなかった。今年度は、前述のように地域の方と打合せを進めたコーディネーターが、活動当日に子どもたちや地域の方を支援するとともに、活動の様子をまとめ通信で紹介するという一連の流れが生まれたことで、本事業の周知が進み、地域ボランティアの方の達成感にもつながったのではないかと考えている。また、活動で子どもたちが生き生きと学ぶ姿から、これまで以上に学校と地域の結びつきは強くなり、子どもたちが地域の様々な人に支援してもらっている、大切にしてもらっているという思いを持つことができている。一人ひとりが大切にされること、また友達と協力しながら体験活動を進めてきたことがよりよい人間関係の構築につながり、笑顔満開を目指したいじめを許さない学校づくりに効果があったと考える。

■ 事業実施上の課題

豊かな教育力を持ち元気な高齢の方が多い地域である。学校の支援者も年々齢を重ねられる中、支援者の新たな確保も必要となってくる。現在の支援者と良好な関係を保ちつつ、そのような課題にも対応を進めていかなければならない。



【活動紹介のための取材活動風景】



【ジャガイモの芽かきの指導】

■ “唐崎の子どもは唐崎の地域で育てる” 学校支援ボランティア（唐崎小学校）

■ 大津市
■ 活動名
唐崎小学校・地域コーディネート本部
■ 関係する学校
唐崎小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	96 人
開始年度	平成28年度

■ 活動の概要

- ・地域コーディネーターが、読み聴かせボランティアによる活動（朝の読み聴かせ・昼休みお話し会・図書整理・交流会）において中心となって運営し、メンバーへの連絡調整や新規メンバーの募集を行った。夏休み中に学校図書館の改造（リニューアル）を実施することになり、当日の作業と下準備を長時間かけて行った。
- ・5年生の総合的な学習の時間で取り組む「安全マップ作り」や1年生の「お年寄りとの交流」等、これまでの学校支援ボランティアの活動に加えて、家庭科の授業支援をボランティアの方にさせていただくなど、地域の人材を積極的に活用した。
- ・地域コーディネーターだよりの発行や学校協力者会議への参加を通して、本事業の周知と学校支援の依頼を行った。



【学校図書館の改造（リニューアル）】

■ 特徴的な活動内容

最初は保護者だけのボランティア活動だった読み聴かせの取組は、メンバーの子ども達が卒業し成人した今でも続けられ、今年で16年になる。現在、発足当初のメンバーに加え、小学生や中学生の保護者も合わせて様々な年代のボランティアの方々が活動されている。活動内容は毎週2回の朝の読み聴かせだけでなく、昼休みの図書室でのお話し会や学期に1度の”読み聴かせスペシャル”など工夫を凝らしたものが実施され、本好きの子どもたちが楽しみにしている。また、月2回放課後に図書館の整理を行っていただいております。学校司書がいな本校にとっては大変ありがたい活動である。ボランティア同士の交流会も実施し、和気あいあいと子ども達に人気の本の紹介や情報交換がされている。

このような幅広い活動が長年にわたって途切れることなく続けられ、本校の子どもたちの読書活動が支えられている。メンバーの一人が、今年度より地域コーディネーターとして活動され、今までの取組がより充実したものになっている。

■ 実施に当たっての工夫



【安全マップの取組】

今年度、本事業のスタートと同時に学校図書館活用支援事業を受け、滋賀県立図書館・大津市立図書館と連携して学校図書館の改造（リニューアル）に取り組んだ。蔵書をすべて搬出して並べ替えるという大掛かりな作業も、読み聴かせボランティアによる日常的な活動のおかげで、スムーズに実施することができた。地域コーディネーターにより読み聴かせボランティアの活動が強化され、さらに学校図書館の環境が充実したものになった。二つの事業のタイアップによって、学校にとって期待以上の効果をもたらしたと言える。

また、地域コーディネーターが、本来の活動や会議への出席以外にも頻りに学校へ足を運んでいただくことで、細かな連絡調整が可能になっている。

■ 事業の成果

- ・地域コーディネーターは昨年度まで本校PTAの本部役員であり、青少年育成学区民会議の事務局長を長年務めておられる。これまでの地域での活動実績が、地域人材の活用や本事業の広報に大きく貢献している。無理なく自然な形で学校と地域を結ぶことができていると感じられる。
- ・学年行事や体験活動の計画において、地域の方の力を借りるという選択肢が増え、活動に幅が出てきた。また、力を貸して下さった地域の方々も生き生きとしておられ、次のボランティアにつながった。
- ・地域コーディネーターが、学校のニーズに合わせた学校支援ボランティアの募集を積極的に行い、その調整を全面的に担ってくださったので、教員の負担軽減につながった。
- ・年間を通して学習支援、読み聴かせ等の地域人材を活用した取組を展開し、地域の子どもは地域で育てるという考えのもと、地域の方の多くの眼で子どもたちの成長を支えていただき、いじめの早期発見の一助となった。

■ 事業実施上の課題

- ・ボランティアの層を厚くするために、保護者世代に働きかけるとともに、小学校の頃に読み聴かせを受けた大学生などの地域住民がボランティアとして戻ってきてくれる仕組みを考えることが必要である。
- ・地域コーディネーターが事務を行う部屋や、教員・地域ボランティアと打合せをする場所の確保が難しい。

やる気いっぱい やさしさいっぱい 夢いっぱいの学校・地域を目指して（青山小学校）

■ 大津市
■ 活動名
青山小学校・地域コーディネート本部
■ 関係する学校
青山小学校・青山中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	87 人
開始年度	平成27年度

■ 活動の概要

青山小・中学校区は青山（1～8丁目）と松が丘（1～7丁目）、そして桐生（1～2丁目）から成っている。本事業は、2年目で、コーディネーターが前々年度まで、青山中学校区青少年育成学区民会議の会長を務めておられた方で、地域の事情に精通しておられる。また、現在は子ども安全リーダーを務めておられ、子どもたちばかりではなく、教師にも馴染みがあり、小学校と深く関わりを持ってくださっている方であるという2点で大変スムーズに本事業が展開できている。

このようなことから、従来よりご協力いただいていた低学年生活科の昔遊び等のボランティア募集をはじめとして、中学年の地域教材に関わるボランティア募集、さらに、4～6年生のクラブ活動に関わるボランティア募集の窓口等々、初年度より多岐に渡る大活躍をしていただいた。

今年度は、昨年度の取組を深める形であるが、児童や教師と地域コーディネーターが前年度以上に人間関係が深まったことで、気軽に相談することができるようになった。

■ 特徴的な活動内容

【学習支援】

4年生の総合的な学習の時間では、地域の環境問題を取り上げている。ここでは、桐生の川へ赴き、そこに生息する水生生物の生態等について学習を展開する。その際、コーディネーターに水生生物について造詣の深いゲストティーチャーを探していただいた。ゲストティーチャーは視聴覚機器を駆使して、子どもたちにわかりやすいスライドで説明くださった。これは前年度も行った取組であるが、この流れが定着しているので、前年度の追試として、今年度は桐生の川に赴く前にゲストティーチャーを招いて事前学習を行った。そのことで、子どもたちは前年度以上に学習を深める事ができた。



【4年生 水生生物の学習】

【体験的な活動支援】

クラブ活動の際に、前年度同様、以下のクラブについて地域ボランティアを募っていただいた。

◎野外活動クラブ

水鉄砲や竹とんぼの製作方法や遊び方についてご指導いただいた。また、この材料についても地域の竹藪から調達いただいた。子どもたちは製作段階から大変楽しんで取り組むことができた。

◎囲碁・将棋クラブ

定期的に青山支所で活動なさっている方々の中から、ボランティアを募っていただいた。特に、囲碁については、そのルール等、校内で知る教員もなかったため、子どもたちは大変興味深く活動に取り組むことができた。今年度は特に、大型のマグネット版を用いて、熱心にご教授いただいた。



【囲碁・将棋クラブ】

【安全支援】

コーディネーターが子ども安全リーダーの幹事をしてくださっていることで、青山小のスクールガードは激増し、地域の子どもは地域で守るという機運が大いに高まっている。また、今年度より、毎月第1水曜日は、スクールガードによる後追い下校指導も実施されている。

■ 実施に当たっての工夫

◎『ボランティア申請書』を作成し、小学校内担当者を介して打ち合わせ会を設定し、学校の思いを知ってもらう。

◎本事業開始についてポスターを作成し、校内と支所に掲示し、学校の取組を地域住民に知ってもらう。

◎学校協力者会議等の地域を巻き込んだ会議の場面で、本事業を紹介し、学校、子ども、教師を知ってもらう。

■ 事業の成果

安全支援面では、子どもの下校時間だけではなく、放課後の子どもが地域で活動する時間帯には、黄色の帽子と腕章を身につけた多くの方々が地域を巡回してくださっている。また、学習支援や体験的な活動支援では、子どもたちの学習やその他の活動に大きな深まりが見られた。これらのことから、学校や子どもたちの様子を大変よく知っていただくことができたと感じている。

2年目の取り組みということで、担任やクラブ担当が入れ替わる職員よりも、地域の方々の方が、段取りがわかってくださっており、スムーズに学習や活動が進むようになった。地域の方も、このことを感じ、主体的に関わってくださっている。

■ 事業実施上の課題

保幼小中連携推進事業等とも関連づけながら、今後は、特に中学校と連携した事業を考えていきたい。また、児童会を通じて、逆に地域に子どもたちが外向いていき、子どもたちが地域のこと、人を知る機会を設けるよう進めていきたい。

■ 地域と共にある学校づくり（仰木中学校）

■ 大津市
■ 活動名
仰木中学校・地域コーディネート本部
■ 関係する学校
仰木中学校・仰木の里東小学校

コーディネーター数	1人
ボランティア登録数	22人
開始年度	平成25年度

■ 活動の概要

校区の大半が造成20年程の新興住宅地のため、地域間のつながりが比較的弱い。そのため子どもたちも、家族以外の大人との関係が希薄になりがちである。そこで、多様な経験を持つ善意の地域ボランティアの方々と学習や作業を通して、様々な価値観や生き方に直接ふれ、自分以外の考え方や価値観への理解や共感ができるきっかけを得ることを目的とし、学習支援、図書室運営支援、園芸、文化祭などの活動を行っている。

■ 特徴的な活動内容

『学習支援：放課後補充教室』

生徒の主体的な学びを支援するため、放課後学習補充教室を開いて学習支援を行うもので、放課後に教室を開放し、地域ボランティアの方々が学習支援を行っている。

1学期は、学力補充が必要な生徒の中から希望した者で実施した。2学期からは、制限をなくして主体的に学びたい生徒が参加する形で行っている。

■ 実施に当たっての工夫

昨年度は、進学のために学習したい3年生が多く参加していたため、1・2年生が少なかった。また、3年生は受験の関係で3学期には参加する生徒が減っていった。これらのことを踏まえ、年度末に学校担当者・コーディネーター・地域ボランティアの方々と反省会を開いた。そこで、基礎的な学習を補充することを目的として、各学年で学力補充が必要な生徒をリストアップして、案内を出して希望者により、週1回程度、放課後補充教室を開いた。これにより、特に1年生が多く参加し、地域ボランティアの方々と一緒に多くの教師も加わり学習支援にあたった。

多くの1年生が参加したのに対して2・3年生の参加は少なかった。また、生徒の中には嫌々参加している者も多く、早く帰りたがり騒いでしまうこともあった。そこで、再度、参加方法を検討して、学力補充のリストアップは行わず、制限をなくして主体的に学びたい生徒が参加する形に変更した。

■ 事業の成果

本事業の開始から4年目を迎え、図書・園芸・学習支援等のために地域ボランティアの方々が学校に来られることが、「当たり前」の姿となっている。地域ボランティアの方々は、様々な事情で昨年度よりもボランティア登録数は減ったが、熱心に取り組んでいた。このことが、学校側にとっても、地域の方々との協働の意識が高まり、つながりが深まっていると感じられる。また、地域からみても、活動中のボランティアを核として、学校に対するハードルが低くなってきていると思われる。

放課後補充教室においても、早々に実現できたものではない。元々、別室登校生徒の学習支援、テスト前の補充教室、授業中の学習補助に取り組んでいたボランティアの方々から「放課後、そこに行けば、ボランティアと一緒に勉強ができる部屋を作ってはどうか」という提案があり、昨年度、コーディネーターと担当教師を中心に時間を十分かけて検討し実施に至った。年度末には反省会を持ち、本年度の取組につなげている。このように、学校・地域・コーディネーターとの連携を取りながら、PDCA体制で取組を進めてきている。

■ 事業実施上の課題

放課後補充教室では、2学期後半から生徒がほとんど来なくなった。ボランティアの方々には来ていただいても生徒がいなくて帰っていただくこともあった。昨年度は受験に向けて参加する3年生が一定数いたが、本年度は1学期から3年生の参加は少なく、年度により生徒の意識の違いが大きく影響していると考えられ、現状のところはニーズがない状態である。担任に呼びかけ、学習支援を必要とする生徒を参加させるなどしているが、本来の趣旨である「生徒の主体的な学びを支援するため」の放課後補充教室でなくなってきている。今後、より良い形を検討する必要がある。

また、教職員担当者が毎年入れ替わっていく中で、地域ボランティアの方々との連携をスムーズに継続できる体制を整える必要がある。そのために、信頼関係の面からも教職員担当者と地域ボランティアの方々との打合せが、コーディネーターを窓口で4月中に必要である。しかし、コーディネーターの活動は毎年、委託契約後になるため、4月早々から活動できず、十分な打合せが行われないまま、事業が開始されることが課題である。



【 放課後補充教室 】

■ 地域とともにある学校をめざして～集めよう里東の底力！～（仰木の里東小学校）

■ 大津市
■ 活動名
仰木中学校・地域コーディネート本部 仰木の里東小学校
■ 関係する学校
仰木の里東小学校・仰木中学校

コーディネーター数	1人
ボランティア登録数	80人
開始年度	平成26年度

■ 活動の概要

地域とともにある学校～集めよう里東の底力！～を合い言葉に、地域コーディネーターを中心に、保護者・地域団体・近隣教育関連施設等、多くの方にボランティア登録いただき、「学習」「学校活動」「登下校」「読書」などにおける支援をお願いしている。教育課程に合わせた「学習支援」は短期の取り組みとして、また、「学校活動支援」「登下校支援」「読書支援」などにおいては年間を通じて長期的・定期的な取り組みとして展開している。

■ 特徴的な活動内容

「学習支援」としては、地域の方をゲストティーチャーとして招き、学習をより充実させたものになるよう支援いただいている。3年生の「町たんけん」では、地域における伝統的な行事や自然についての情報を実際に現地でご指導いただいた。また「名人さんをめざせ」の活動では、地域住民や老人クラブの方々にそれぞれの特技や持ち前の技術を伝授していただいた。技の伝授だけでなく、その際のやりとりを通してコミュニケーションを高めることも目標にして取り組んでいる。また、家庭科や生活科調理実習時には当該学年の保護者を中心に学習時のサポートを依頼している。地域コーディネーター本人にも、理科実験の準備や教材開発などを支援してもらうなど、積極的に地域の力を集結し、サポートしていただいている。

「学校活動支援」では、保健室・水泳学習安全管理・児童の清掃時間などに支援していただいている。毎日、当番制で保護者ボランティアとして午前中保健室に待機していただき、入室する児童の聞き取りや健康観察等養護教諭のサポートを支援していただいている。1学期の水泳学習においては、見学者の安全管理や水泳学習中の児童の健康安全観察を、PTA役員および仰木の里学区自主防災会の方々にサポートしていただいた。水泳に関しては、当日の天候によることも大きく、毎朝連絡を学校から入れさせてもらいながら対応していただくこととなったが、積極的にサポートしていただけたことに感謝している。

「読書支援」としては、昼の10分間の帯タイム「東っ子タイム」において低学年を対象に「読み聞かせ」活動を行い、卒業生の保護者が中心となって、ここ数年継続的に読書活動支援を行っていただいている。12月には、クリスマススペシャルと題して、全校児童に読み聞かせや読み語りを披露してもらうなど、子どもたちが図書に興味を持つよう働きかけていただいている。また、図書室のサポートとして図書ボランティアのみなさんが、毎日昼休みに図書室の運営管理、図書の整理等を中心に主体的に活動いただいている。高学年の図書委員会が貸し出し等の当番活動をしているものの、地域の図書ボランティアの力を借りることで、より一層、図書室が充実するようにしている。

■ 実施に当たっての工夫

地域コーディネーターは、地域とのつながりも強く、大変熱心に学校支援の呼びかけをしてくださっていること、校長の地域連携の意識が高く、連携を密にとっていることで、学校のニーズに対する反応もよく、地域ボランティア数の充実等につながり、学校教育活動が充実したものになっていると考えている。学校のニーズをご理解いただいた地域住民から支援をしてもらっているが、学校支援に関わってくださった地域の方々も楽しみや生きがいづくりができるように特技を生かせることや、地域ボランティア同士のつながりができるように工夫している。

学習支援に対しては、かなり前もって呼びかけていかないと協力を得られない部分もあり、学年のニーズをできるだけ早く把握するためにも、毎週火曜日に地域コーディネーターと担当教員との打ち合わせを行っている。また、ボランティア申請に関する連携が学年担当ととれるよう、校内の申請カードを作成し活用するようにしている。この申請カードをファイルしておくことで来年度の活動の見通しも持て、資料としても活用できることを図っている。

■ 事業の成果

地域の方は本校教育への関心が高く、支援に対しても積極的に考えていただいている。その力を活用していくことが学校・家庭・地域の方々等、学校に関わる者、みんなのメリットにつながると考えている。また、地域住民や保護者の方に学校教育活動に参画していただくことは、学習活動等の充実につながるとともに、学校で行っていることへの理解、職員の奮闘ぶりを目にしていただけること、児童の様子を直接知っていただけることにつながる。このことは地域全体で学校全体を支援するという意識向上に大きな意味があるものと考えている。また、今年度、成安造形大学との連携を行うことができたことは大きな成果である。



【成安造形大学の学生が作った美術館を鑑賞中】

■ 事業実施上の課題

学習支援は、活動時間等の決定が直前になったり展開によって変更したりするため、地域ボランティアの募集等が難しく、連絡にも手間取るため、年間を通じて計画的に学校支援を進める必要がある。また、平日の昼間の支援となると、そのスタッフは限られた年代の方や保護者に偏りがちであり、比較的若い地域人材の発掘や呼びかけ範囲の拡大に努めていきたいと考えている。

■ 自尊感情を高め、他者との関係性を育むボランティア活動の推進（打出中学校）

■ 大津市
■ 打出中学校
■ 活動名 打出中学校・地域コーディネート本部事業
■ 関係する学校 逢坂幼稚園・大津幼稚園・平野幼稚園 逢坂小学校・中央小学校・平野小学校

コーディネーター数	1人
ボランティア登録数	61人
開始年度	平成27年度

■ 活動の概要

本事業の2年目となる今年は、初年度立ち上げた組織の活用と関係する校内外との連携事業を行った。学校支援ボランティアによる新規事業の実施やいじめ防止に向けて打出子どもサミットを立ち上げブロック内の小中学生の交流に取り組んだ。また、学校支援ボランティアだよりを学区自治会に発行・回覧することで取り組みを住民へ周知した。

■ 特徴的な活動内容

地域行事に中学生を派遣する「こづちくんボランティア」では、各学区自治連合会所属団体以外にも大津警察署、平野小学校PTA、公園緑地協会、地域ボランティア団体と連携先を広げた。事業は年16回実施し、のべ112名の生徒がボランティアとして参加した。

学校支援ボランティアでは61名の登録者となった。設立3年目となる図書館ボランティアでは選書会の企画と運営、公立図書館と連携し修学旅行や校外学習の参考図書を表示するコーナーの設置、文化祭で保護者を対象としたブックカフェの開催、県立・市立図書館と連携した図書館リニューアルなどを実施した。また環境美化ボランティアでは、公園緑地協会と連携しゴーヤの苗でグリーンカーテンをつくと共にボランティアさんによる環境教育の研修を実施した。

大津駅や通学路に花を植えているボランティア団体や地域住民とともに、学校内外で花を育てたり植え替える作業に取り組んだ。

校区内の各校のいじめ対策担当教員を中心にいじめ防止に向けて小・中学生が集う打出子どもサミットを立ち上げ、小学生と中学生、地域の方が年3回集う場を企画した。



【図書館ボランティアによる選書会】



【第2回打出子どもサミット】

■ 実施に当たっての工夫

- ①地域と学校の連携が人事異動によらずに安定した取り組みとなるように地域コーディネーターや地域連携担当教員以外に校内担当者として各学年1名を配置した。
- ②学校・地域コーディネート本部会議のメンバーに自治連合会会長に入ってもらうことで、自治会として考える街づくりの方向性を学校が知ったうえでの活動となるようにした。
- ③ボランティアの取り組みが専門的な取り組みとなるように公立図書館や市費の学校図書館司書とも連携した。
- ④中学生の意見をこの取り組みに生かせるように生徒会執行部の生徒と地域住民代表、PTA役員、学区内保幼小中学校園長で話し合える機会を年1回設定している。この会議では相互に自分たちの考えを話し、中学生が街づくりにどのように貢献するのか、学校や生徒は地域住民に何を求めているのかについて直接意見交流している。

■ 事業の成果

- ①導入2年目ということで、ボランティア組織を活用した新規事業（選書会・行事参考図書コーナー・ブックカフェ・テスト前の自習室）の立ち上げや他機関との連携した事業（図書館リニューアル・校内および地域花壇・防犯ボランティア）の実施に取り組むことができた。学校支援の輪を自治連合会の各組織だけでなく、図書館や警察、公園緑地協会などの公的機関、地域で環境美化活動をしているボランティア団体などに広げることも出来た。
- ②いじめ防止に学校が単独で取り組むのではなく、地域住民や小学生とともに考える組織として打出子どもサミットを立ち上げた。今年はいじめ防止の4つのスローガンを掲げることができ、従来から取り組んでいるいじめ防止ポスターに記載することになった。
- ③生徒を地域行事へ派遣するこづちくんボランティアでは、年間計画で決まっていた行事日程を中学校が参加しやすい日へ変更していただけた。地域からは中学生の行事への参加に対して期待が高まってきて、様々な配慮も頂けるようになってきた。

■ 事業実施上の課題

- ①地域と学校が校区内の中学生のあるべき姿を共通理解し、具体的な行動目標の検討や共有が自然に出来るようになることが事業の方針がぶれないで継続するために必要である。
- ②中学生が地域でボランティア活動するときにケガや事故に対応できるように、こづちくんボランティアを部活動の一つとして校内の組織に位置づけることが望まれる。
- ③地域人材は校区内の幼稚園・小学校での活動も可能であるので、保幼小中連携推進事業を活用したこの事業の広がりも模索したい。本年度は地域と小学校がつながることを目的としたが、幼稚園・保育園・高校とのつながりも深めたい。もっと地域と学校がつながるといった目的に沿うためには、ブロックの校長会長の共通理解のもと、打出ブロック人権教育研究会や打出ブロック保幼小中連携推進事業といった組織との連携した取り組みが必要と考える。

■ 自尊感情を高め、他者との関係性を育むボランティア活動の推進（田上中学校区）

■ 大津市
■ 活動名
田上中学校・地域コーディネート本部
■ 関係する学校
田上中学校・田上小学校・上田上小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	11人 17団体
開始年度	平成25年度

■ 活動の概要

平成25年度から本事業の指定となったが、本年度も本校区におけるコンセプトは変わっていない。前年度末に話し合った今後の方向性に基づき、実効性ある「(保幼)小中連携」をさらに推進し、当該事業を切り口に、「田上地域の子どもの9(11)年間」を見据え、学力向上、なめらかな接続、生徒指導上の課題解消、家庭の教育力の向上など山積する課題に、(保幼)小中が協同歩調で取り組むとともに、田上地域一体となった支援体制が得られるよう、揺るぎない地域連携の土台を固めていくことを最大のねらいとしている。そして、テーマの通り自尊感情を高め他者との良好な関係性を築くために、地域の教育力を学校教育に活かしながら学校教育目標の具現化を図ること、地域の方々とのお互いあいや学習を通して豊かな心を育むことをねらいとして、次の3つの取組みを展開している。

- (ア) 中学生の「地域行事へのボランティア参加」の促進（主眼を置いている…子どものことを知ってもらう・地域のことを知る）
- (イ) (この事業を切り口に) 実効性ある小中連携の推進（平成26年度から継続）
- (ウ) 「ボランティアリストの作成・整備」と実際の支援活動の拡大

■ 特徴的な活動内容

- ① 中学生の地域行事へのボランティア参加（参画）の促進
→ 7月から11月の間に、22の地域行事等へのべ282名中学生が参加。田上学区の自主防災避難訓練、上田上学区土砂災害対応型防災訓練では避難所経営にも関わった。校内クリーンボランティアには2回でのべ156名の生徒が参加。
- ② 保幼小中連携の観点から、中学生と児童・園児のふれあい場面を設定する。
→ 2小学校運動会への中学生の参加（リレーに出場）
→ 学区文化祭における中学生ボランティアの幼児・児童へのクラフト制作等の指導
→ 田上小学校ふれあい創作まつりにおける「中学校ブース」の開催
→ 田上児童館の活動にボランティアとして参加し、地域の子どもたちとの交流
- ③ 各校の必要性に応じた支援ボランティアの募集
→ 中学校は純粋に25年度からの取組みであるが、田上・上田上小学校は今までに築いた地域との関係に加え、当事業でさらに支援の幅を拡大しようと取組んでいる。
- ④ 田上中学校ボランティア掲示板の設置と学校だよりでボランティア活動を紹介



【七夕飾り 7月2日】

■ 実施に当たっての工夫

- ① コーディネーターを中心に地域諸団体（2学区）への当事業の説明会を開催
- ② 中学校における「地域コーディネート推進委員会」の開催：中学校の方針や事業の進捗状況及び個々の取組みの成果と課題を検証するため、学期に1回開催。2学期は12月14日に第2回目を開催
→ 校長・教頭・コーディネーター・研究主任・連携グループ教職員8名の12名で組織。
- ③ 小学校を交えた「拡大地域コーディネート推進委員会」の開催
- ④ ボランティア活動の前に地域の方と事前に打ち合わせを行い、参加から参画する活動を取り入れた。

■ 事業の成果

- ① 定期的に来校される支援ボランティアが増え、多くの眼で子どもを見守る体制が一層強化された。
- ② ボランティア参加の促進で、**自尊感情の高まり**が感じられ、いじめ撲滅の基盤となる「**他者を思いやる気持ち**」が校内に醸成されつつある。
- ③ 生徒が自分たちを育てくれる「**地域・人**」に目を向ける契機になるとともに、地域諸団体・担当者から「中学校との距離が縮まった」「中学生の頑張っている姿が見られた」などの声を聞くなど、この取組みが地域に定着してきた。お互いを知る良い機会であった。



【河川を美しくする運動11月12日】

■ 事業実施上の課題

- ① 校内コーディネート推進委員会を中心に教職員の理解を拡大し、さらに**全校体制**で取組む必要がある。そして、**PTA活動及び学校協力者会議と連携した展開**が求められる。
- ② 主体性を育むため、子どもが**参加から参画**する機会を設定することが重要である。
- ③ 毎月1回の小中連携推進会議は定着してきたが、さらに**校区内小学校と連携**して支援ボランティアの拡充や中学生と小学生の交流場面の設定に努め、滑らかな接続や校区内の活性化を図ることが大切である。

■ 愛荘町における学校支援地域本部事業の取組

■ 目指す姿

- 教育のさらなる充実・・・学校との連携により、地域ぐるみで子どもを育てる。
- 生涯学習社会の実現・・・自らの学習成果を子育てに生かす場を拡充する。
- 地域の教育力の向上・・・地域の活性化につなげる。

■ 本年度の活動

- 学校支援地域本部：町内4小学校 2中学校
- 平成28年度の取り組み重点（継続）

学校・家庭・地域が一体となって「地域ぐるみ」で子どもを育てる体制づくり

- 実行委員会の開催（年3回）構成委員：14名（教育長、教育委員長、社会教育委員、各小中校長、老人クラブ代表、町PTA連絡協議会会長、教育委員会主監）
- 学校支援部会の開催（年4回）構成委員：14名（各学校コーディネーター、各小学校区ボランティア代表、交番所長、図書館長、福祉協議会コーディネーター、町商工観光課代表）

○ 特色ある活動内容

- ・各校でのボランティア活用状況の交流（教科・行事・その他に分けて学期ごとに情報交流）
- ・教科、行事に必要なボランティアの要望情報と依頼人数等の派遣調整
- ・教育効果を高めるため学校や子ども会等のニーズに合わせたボランティア人材の募集活動
（老人クラブ、各単PTA、町内前年度登録者の継続確認と新規募集、学生ボランティア、町内企業・公共機関等への協力依頼）
- ・今年度のボランティア登録数（学生を除く）：85名、学生ボランティア登録数：58名
- ・各小中学校だけでなく、幼稚園・小中学生に関わる地域教育活動（公民館事業、通学合宿）、子ども会連合会にも常に連携し幅広くボランティアの活用

■ 本年度の成果

- 年々、多くのボランティアの活用が増え、学校と地域ボランティアさんとの連携も深まり、以前よりも交流しやすい状況である。
- 各校間で互いの人材データバンクを共有し、ボランティア保険の重複を避け、事務局と調整をしながら必要なボランティア確保の募集がしやすくなってきている。



【家庭科：調理組合出前授業】

- 今までボランティアさんは時間的にも余裕のあるお年寄りが多かったが、今年度は特に若い人材の確保にも取り組み、多くのPTAや大学生の協力体制が整いつつある。
- 運動会・身体測定など各学校・園に養護専攻学生ボランティアの配置派遣ができた。
- 学生ボランティアの参画が増え、2学期現在で、延べ115名の協力を得た。（幼小中：55名、公民館2事業：10名、通学合宿：20名、町子ども会連合会3事業：30名）

■ 今後の課題

- 行事や部活動、登下校安全などの参画が多い傾向であり、教科等へや仲間づくりなどの活用も必要。
- 継続した地域学習や体育的行事、校外活動の人材確保が必要。
- 教員によりボランティアの導入や活用に差が見られ、継続して推進体制の整備と教職員の意識の向上を図っていくことも必要。



【身体測定支援:学生ボランティア】

■ 愛荘町における各校園等の学校支援地域本部活動の取組

(各校からの報告より：丸数字は学年、**学ポ**：学生ボランティア)

<p>秦荘東小学校</p> <p>〈教科等〉</p> <p>◇生活：昔遊び① ◇国語：糸車体験① ◇理科：生き物の世話(カブトムシ)③ ◇国語：醤油学習③ ◇社会：ココヨ見学③ ◇国語：戦争の話③④ ◇理科：電気の働き④ ◇総合：水生生物④ ◇社会：警察の仕事④ ◇総合：福祉体験(車いす/手話/点字体験/アイマスク)④ ◇総合：田植え・稲刈り・お米の学習⑤ ◇家庭：調理学習⑤ ◇総合：しめ縄づくり⑤ ◇理科：モーターの仕組み⑤⑥ ◇社会：火起こし体験⑥ ◇総合：福祉作業所⑥ ◇社会：平和学習/郷土歴史学習⑥ ◇総合：トイレ掃除指導⑥</p> <p>〈行事等〉</p> <p>◇委員会：花壇/畑の世話(移植・除草等) ◇スキー教室 ◇運動会：救護学ポ ◇音楽会：アウトリーチ事業 ◇参観：託児 ◇安全教室(交通安全/自転車の乗り方)</p> <p>〈その他〉</p> <p>◇下校パトロール/あいさつ運動 ◇校外行事：自転車大会の練習⑥</p>	<p>秦荘西小学校</p> <p>〈教科等〉</p> <p>◇生活：昔遊び① ◇国語：糸車体験① ◇理科：身近な自然③ ◇福祉体験(車いす/手話/点字体験/アイマスク)④ ◇校外学習：琵琶湖一周学ポ④ ◇総合：田植え・稲刈り・お米の学習⑤ ◇理科：誕生⑤ ◇理科：ヒトの誕生⑤ ◇総合：能楽⑤⑥</p> <p>〈行事等〉</p> <p>◇江州音頭指導(運動会) ◇身体測定・内科検診学ポ ◇参観：託児 ◇運動会救護学ポ ◇スキー教室 ◇マラソン大会安全指導 学ポ</p> <p>〈その他〉</p> <p>◇校外行事：自転車大会の練習⑥ ◇下校指導(子ども安全リーダー) ◇昼休みの遊び交流学ポ</p>
<p>愛知川小学校</p> <p>〈教科等〉</p> <p>◇生活：昔遊び① ◇国語：糸車体験① ◇生活：畑の先生② ◇総合：校区探検(酒造/平和堂/ココヨ)③ ◇施設見学(工場/消防署)④ ◇総合：水生生物④ ◇総合：認知症学習④ ◇総合：田んぼ学習(管理・稲刈り)⑤ ◇施設見学(工場)⑤ ◇総合：餅つき⑤ ◇理科：モーターの仕組み⑤⑥ ◇社会：平和学習⑥</p> <p>〈行事等〉</p> <p>◇身体測定・内科検診学ポ ◇餅つき大会 ◇参観：託児 ◇運動会救護学ポ ◇委員会：花の植え替え ◇スキー教室</p> <p>〈その他〉</p> <p>◇読み聞かせ ◇生け花 ◇青パトロール ◇下校パトロール</p>	<p>愛知川東小学校</p> <p>〈教科等〉</p> <p>◇生活：昔遊び① ◇国語：糸車体験① ◇理科：生き物(カブトムシ)③ ◇総合：校区探検(平和堂/工場/農園/染め物)③ ◇社会：施設見学(水道事務所/消防署/リバーセンター)④ ◇福祉体験(車いす/手話/点字体験/アイマスク)④ ◇総合：防犯教室⑤⑥ ◇総合：餅つき⑤ ◇総合：能楽ワークショップ⑤⑥ ◇授業補助学ポ ◇総合：田植え・稲刈り・お米の学習⑤</p> <p>〈行事等〉</p> <p>◇身体測定・内科検診学ポ ◇運動会救護学ポ ◇交通安全教室 ◇参観：託児 ◇スキー教室学ポ ◇音楽会：アウトリーチ事業</p> <p>〈その他〉</p> <p>◇あいさつ運動 ◇読み聞かせ</p>
<p>秦荘中学校</p> <p>〈教科等〉</p> <p>◇総合：救急救命① ◇総合：職業講話①② ◇総合：交通安全教室① ◇総合：認知症学習 ◇総合：職場体験マナー② ◇総合：職場体験② ◇保健：性教育学習② ◇総合：手話教室② ◇総合：進路学習③ ◇総合：防災・減災教室③ ◇道徳：命の大切さ①②③ ◇保健：性教育学習③</p> <p>〈行事等〉</p> <p>◇総合：熱中症予防 ◇体育大会救護学ポ ◇道徳：全校道徳講話 ◇総合：全校人権の集い</p> <p>〈その他〉</p> <p>◇部活動：柔道/剣道 ◇PTA：花苗移植作業 ◇PTA：パトロール ◇PTA：あいさつ運動 ◇放課後学習会「学び舎」学ポ ◇出前図書・読書案内 ◇補充学習指導</p>	<p>愛知中学校</p> <p>〈教科等〉</p> <p>◇総合：交通安全教室① ◇音楽：雅楽鑑賞① ◇進路：職場訪問① ◇総合：職場体験② ◇保健：性教育学習② ◇総合：進路学習③ ◇道徳：命の大切さ①②③</p> <p>〈行事等〉</p> <p>◇道徳：全校道徳講話 ◇体育大会救護学ポ ◇文化観賞会 ◇性教育講演</p> <p>〈その他〉</p> <p>◇PTA：あいさつ運動 ◇PTA：パトロール ◇部活指導：(卓球/柔道/バレーボール/野球)</p>
<p>愛知川幼稚園</p> <p>〈行事等〉</p> <p>◇校外学習：電車遠足学ポ ◇身体測定・内科検診 学ポ ◇運動会救護 学ポ</p>	<p>地域教育協議会活動等</p> <p>◇秦荘通学合宿(小・中学生対象)生活指導・学習指導学ポ ◇公民館事業(小学生対象) ・人工壁ロッククライミング学ポ ・調理体験学ポ ◇愛荘町子ども会連合会体験事業(小学生対象) ・ジュニア・リーダー研修会学ポ ・信楽陶芸体験学ポ ・遊びの宝島へGO!(滋賀県子ども会連合会共催) 学ポ</p>

平成28年度 放課後子ども教室一覧

5市23教室

市町名	教室数	活動名	実施場所	委託	委託団体名
栗東市	7	葉山東ふれあい子ども広場	葉山東小学校 コミュニティセンター葉山東	○	栗東市地域教育協議会
		はるたっこ広場	治田小学校 コミュニティセンター治田		
		チャレンジはるひがっこ	治田東小学校 コミュニティセンター治田東		
		治西のびのび広場	治田西小学校 コミュニティセンター治田西		
		大宝わくわくタイム	大宝小学校		
		さんさん・キッズ	大宝東小学校		
		大宝西ふれあい子ども広場	大宝西小学校 コミュニティセンター大宝西		
甲賀市	1	岩上公民館子ども教室	岩上公民館		
野洲市	7	野洲学区わくわく子どもクラブ	コミュニティセンターやす	○	野洲市地域教育協議会
		三上楽しいクラブ活動	コミュニティセンターみかみ		
		祇王子どもクラブ	コミュニティセンターぎおう		
		篠原地域子ども教室	コミュニティセンターしのはら		
		北野っ子フレンドリークラブ	コミュニティセンターきたの		
		中主地域子ども教室(中里学区)	コミュニティセンターなかさと		
		野洲市地域子ども教室(兵主学区)	コミュニティセンターひょうず		
湖南市	4	石部中 中3夜の勉強会	青少年の家		
		甲西中道草教室	甲西中学校		
		甲北中基礎学力補充教室	甲西北中学校		
		日枝中夜の学習会	サンヒルズ甲西		
米原市	4	放課後キッズin 310	山東公民館 市民体育館	○	NPO法人 カモンスポーツクラブ
		放課後キッズinジョイ	伊吹薬草の里文化センター 伊吹山麓青少年総合体育館など	○	伊吹山麓スポーツ文化振興事業団
		放課後キッズinおうみ	近江地域内の里山・農園・公民館	○	NPO法人 おうみ地域人権・文化・スポーツ振興会
		放課後キッズinまいはら	旧息郷小学校など	○	NPO法人 MOSスポーツクラブ
計	23				

栗東市における放課後子ども教室の取組

■ 目指す姿

地域の教育力を向上させ、地域で子どもを育てる環境の形成および、子どもたちに様々な体験活動を通じて、地域とのつながりを深め、健全な青少年の育成をめざす。

■ 本年度の活動

7学区にて放課後の見守りや体験活動、軽スポーツ、学習を行う。その他にも七夕やクリスマスといった季節に応じたイベントや、お誕生会など子どもたちが楽しんで参加できるイベントを企画している。

■ 本年度の成果

週に1回程度、放課後の時間に安全な交流の場として、多くの体験活動を実施できた。

■ 今後の課題

スタッフの確保が大きな課題となっている。9小学校区のうち、2小学校区がスタッフ不足のため開催できていない。開催できている学区でも、スタッフの高齢化が問題になっており、若い世代のスタッフ確保に力を入れている。しかし、若い世代の方は、仕事をしておられる方が多く、週1回の活動でも負担に感じ、なかなかスタッフが集まらない。参加者の保護者を中心に声かけを行ない、保護者スタッフとして協力していただき、参加者が放課後子ども教室を卒業した後もスタッフとして残ってもらえるようにしていきたい。



【 宿題の補助 】



【 受付の様子 】

■ 活動を通してみんなとふれあう「葉山東ふれあい子ども広場」

■ 栗東市	
■ 活動名	
葉山東ふれあい子ども広場	
年間開催日数	28日

コーディネーター数	1人（全教室兼務）
子どもの平均参加人数	40人
開始年度	平成19年度

■ 活動の概要

放課後の時間、学校体育館とコミュニティセンターを活用し、地域の方の協力を得ながら、子ども達の見守り活動や軽スポーツ、創作活動、将棋などを行う。

■ 特徴的な活動内容

申込み段階で、「軽スポーツ」「クラフト」「将棋」にわけて申し込んでもらい、参加者は申し込んだグループで1年間活動する。途中でグループを変更したい参加者は、変更希望のグループに空きがあれば可能。長期休暇前に3グループ合同のお楽しみ会を行ない、各グループが集まって交流できる場をつくっている。

■ 実施に当たっての工夫

普段は3グループに分かれて活動しているため、別グループとの交流がないが、お楽しみ会を実施することにより、別グループの参加者とも交流をはかることができる。コミュニティセンターの事業とも連携して、クラフトで作った作品を展示し、地域のたくさんの方に、作品を見てもらうことができる。

■ 事業の成果

地域のコミュニティセンターが積極的に参画していただくため、地域全体で子どもを見守ろうという取り組みになっている。3グループに分けて申込みを行っているため、参加者の好きな活動を1年通して行え、参加率が高い状態で活動している。

■ 事業実施上の課題

スタッフの確保、高齢化が課題となっている。スタッフの高齢化が進み、若い世代のスタッフが少ないため、現在中心となって活動してくださっているスタッフの方が抜けると、活動が困難となる。そうならないためにも、若い世代のスタッフの確保が必要になっている。



【 活動前の宿題 】



【 将棋活動の様子 】

■ いつも楽しいみんなの広場「はるたっこ広場」

■ 栗東市	
■ 活動名	
はるたっこ広場	
年間開催日数	29日

コーディネーター数	1人（全教室兼務）
子どもの平均参加人数	44人
開始年度	平成19年度

■ 活動の概要

放課後の時間、学校体育館やコミュニティセンターを活用し、地域の方の協力を得ながら、子どもたちの見守り活動や軽スポーツ、絵本の読み聞かせ、創作活動などを行う。

■ 特徴的な活動内容

1年生～4年生までが参加しており、学年によって下校時間が違うため、授業が早く終わった学年は、コミュニティセンターにて宿題や、市内ボランティアサークルによる絵本の読み聞かせで高学年の授業が終わるのを待つ。高学年の授業終了後、体育館に移動し、館内で自由遊びを行う。

■ 実施に当たっての工夫

体育館での自由遊びを基本とし、スタッフは参加者と一緒に遊んだり、活動の見守りを行っている。低学年と高学年の授業終了時間が違うため、低学年が待機している時間を有効に使えるように、宿題や読み聞かせを行っている。

クリスマスには、別途参加費を徴収して、お楽しみ会を開催している。お楽しみ会では、コミュニティセンターの調理室を借りて、お菓子作りを行っている。

■ 事業の成果

昨年度より参加人数が減少したため、コミュニティセンターや体育館を広く使うことが出来ている。活動終わりの体育館掃除も、普段の掃除では使わない道具を使うため、参加者が積極的に掃除をするようになった。

■ 事業実施上の課題

スタッフの確保、高齢化が課題となっている。昨年度よりも参加者が減少したため、スタッフ1人当たりの参加者の人数は減少し、負担が多少減ったが、若い世代のスタッフが少ないため、苦しい状況が続いている。まずは、保護者スタッフを確保し、そのままスタッフとなってもらえるように努力したい。



【 コミセンで待機中 】



【 絵本の読み聞かせ 】

■ 新しい体験にどんどんチャレンジ「チャレンジはるひがっこ」

■ 栗東市	
■ 活動名	
チャレンジはるひがっこ	
年間開催日数	32日

コーディネーター数	1人（全教室兼務）
子どもの平均参加人数	37人
開始年度	平成19年度

■ 活動の概要

放課後の時間、学校体育館やコミュニティセンターを活用し、地域の方の協力を得ながら、子ども達の見守り活動や軽スポーツ、創作活動などを行う。

■ 特徴的な活動内容

季節のイベントを積極的に取り入れ、七夕やクリスマスなどのイベントを行っている。英語遊びも行っていて、英語で絵本の読み聞かせや、身近な植物の英語名の紹介などを行っている。

■ 実施に当たっての工夫

普通の活動では、自由遊びを基本としており、参加者がそれぞれ好きな事をして過ごしている。スタッフは参加者の見守りや、大縄跳びの縄回しなどの遊びの補助を行っている。夏休みにお楽しみ会を実施し、参加者の保護者や兄弟にも参加を呼びかけ、家族同士の交流の場としても活用している。

■ 事業の成果

普通の活動に英語遊びを取り入れているため、参加者が英語に触れる機会を作ることができている。英語での絵本の読み聞かせは、低学年の参加者にも好評で、どの参加者も楽しみながら聞いている。また、参加者を縦割りにグループ分けすることにより、上級生は下級生の面倒を見て、下級生は上級生の指示を聞くことによって、自立性や協調性を身につけることができている。

■ 事業実施上の課題

スタッフの確保と高齢化が課題となっている。活動に必要な道具をコミュニティセンターから、活動場所である小学校体育館に運ぶ作業も、高齢のスタッフが多いため苦勞されている。若い年代のスタッフを確保するために、保護者スタッフの募集を今後も続けていきたい。



【 英語で絵本の読みかせ 】



【 夏休みのお楽しみ会 】

■ 放課後の時間をのびのび過ごす「治西のびのび広場」

■ 栗東市	
■ 活動名	
治西のびのび広場	
年間開催日数	27日

コーディネーター数	1人（全教室兼務）
子どもの平均参加人数	31人
開始年度	平成19年度

■ 活動の概要

放課後の時間、コミュニティセンターを活用し、地域の方の協力を得ながら、子ども達の見守り活動や軽スポーツ、創作活動、体験学習などを行う。

■ 特徴的な活動内容

地域の清掃活動への参加や、地域のスポーツクラブの活動に参加させてもらい、地域の方との交流を深めている。また、地域のまつりにもステージ発表という形で参加し、地域全体での見守りに繋がっている。

人権学習の一環として、滋賀朝鮮初級学校にて開催された「ウリハッキョマダン」にも参加し、事前事後学習も合わせて、人権についてのことを楽しく学ぶことが出来た。

■ 実施に当たっての工夫

環境学習の一環で、小学校の畑の一角にジャガイモを育てており、平和学習の一環として、戦時中の食事体験での活用や、クリスマスのお楽しみ会でカレー作りに活用している。

帰宅時には、スタッフが参加者と一緒に帰ることによって、保護者のお迎えがなくても活動に参加できるような工夫がされている。

■ 事業の成果

今年度は活動内容や、参加者の受け入れ人数の見直しを行いきちんと定員を設けることにより、昨年度よりも参加者数が少なくなり、スタッフも余裕を持って見守り活動が出来るようになった。参加者と接する時間も増え、地域住民とのコミュニケーションも促進されている。

■ 事業実施上の課題

スタッフの確保と高齢化が課題となっている。他の学区と違い、参加者が帰宅する際に、自治会ごとにスタッフが子どもと一緒に帰宅しているが、スタッフが足りないと一緒に帰宅することができなくなる。スタッフの人数が減ると、この帰宅方法を見直す必要あり、そうなると参加者の減少につながり、保護者スタッフの確保も難しくなることから、スタッフの人数を確保して、現在の方法を継続していきたい。



【 平和学習 】



【 地域の祭りでの発表会 】

■ いつも楽しいわくわく活動「大宝わくわくタイム」

■ 栗東市	
■ 活動名	
大宝わくわくタイム	
年間開催日数	23日

コーディネーター数	1人（全教室兼務）
子どもの平均参加人数	41人
開始年度	平成19年度

■ 活動の概要

放課後の時間、学校体育館を活用し、地域の方の協力を得ながら、子ども達の見守り活動や軽スポーツ、創作活動などを行う。

■ 特徴的な活動内容

活動内容をスタッフ会議で事前に決定し、毎回違う活動を行っている。活動は個人で行うものからチームで行うものまで様々あり、毎回違う内容に、参加者は楽しそうに活動している。毎回活動の最後にドッジボールを行っており、体力差などに考慮した対戦を行い、参加者が楽しめるようにしている。

■ 実施に当たっての工夫

年度の最初の活動に、避難訓練を取り入れている。災害が起こった時の避難ルートの確認を行うことにより、参加者への安全対策にも気をつけている。

参加者が飽きないように、毎回違う遊びをスタッフが考えている。昨年度からの参加者の中には、昨年度のことを覚えていて、活動に消極的な参加者もいるが、活動が始まると、他の参加者と一緒に楽しそうに活動している。

■ 事業の成果

団体競技を多く取り入れているので、チーム内で協力することにより、協調性やリーダーシップの成長が見られる。活動が毎回異なるので、参加者は様々な活動を体験することができ、体験をきっかけに色々なことに興味を持つ参加者が見受けられる。

■ 事業実施上の課題

スタッフの確保が困難になっている。参加者の保護者や、地元の民生児童委員などにも声をかけているが、なかなか集まらず、今後も継続した声掛けを行いたい。



【 活動場所に集合 】



【 グラスゴルフ 】

■ 明るく元気に太陽のように「さんさん・キッズ」

■ 栗東市	
■ 活動名	
さんさん・キッズ	
年間開催日数	25日

コーディネーター数	1人（全教室兼務）
子どもの平均参加人数	45人
開始年度	平成19年度

■ 活動の概要

放課後の時間、学校体育館を活用し、地域の方の協力を得ながら、子ども達の見守り活動や軽スポーツ、創作活動などを行う。

■ 特徴的な活動内容

宿題、ラジオ体操、自由遊びを活動の基本としている。自由遊びでは、ボール遊びやなわとびなどの軽スポーツや、スタッフが自宅から持参したサランラップやトイレットペーパーの芯を使って工作、お絵かきなどの創作活動などを行っている。

■ 実施に当たっての工夫

基本は参加者の自主性に任せた自由遊びにしているが、昨年度実施したしゃぼん玉と巨大カルタが好評だったため、年に数回はこのようなイベントを行うことにした。

■ 事業の成果

参加者が積極的にスタッフに声をかけ、一緒に遊ぶことが多く、参加者とスタッフのコミュニケーションがとれている。学校以外の場所で出会っても、参加者のほうからあいさつをしてくれており、良好な関係が築かれている。

■ 事業実施上の課題

新規スタッフの確保が課題となっている。参加者の保護者等に声をかけ、新規スタッフの募集を行っている。今年度は若干名のスタッフを確保することができた。今後も引き続きスタッフ確保に向けた取り組みを続けていきたい。



【 自由遊び 】



【 開講式 】

■ 地域の方とのふれあい大事に「大宝西ふれあい子ども広場」

■ 栗東市		コーディネーター数	1人（全教室兼務）
■ 活動名		子どもの平均参加人数	34人
大宝西ふれあい子ども広場		開始年度	平成19年度
年間開催日数	28日		

■ 活動の概要

放課後の時間、学校体育館やコミュニティセンターを活用し、地域の方の協力を得ながら、子ども達の見守り活動や軽スポーツ、創作活動などを行う。

■ 特徴的な活動内容

受付後に宿題の時間を確保し、宿題を済ませた後、ボール遊びやなわとび、紙飛行機、オセロなどの自由遊びを実施している。28年度は年度初めの活動で、交通安全教室、防犯教室を実施して、参加者に日常生活での注意を促した。毎年9月には平和学習も実施しており、戦争のことがわかるDVDを鑑賞後、当時の食生活を再現したものを食べ、戦時中の変遷を学んだ。

■ 実施に当たっての工夫

体育館だけでなく、コミュニティセンターも活用することで、様々な活動を実施できている。軽スポーツでは体育館を活用し、クリスマスなどのお楽しみ会では、コミュニティセンターを活用している。毎月月末には、誕生会を実施し、その月が誕生日だった参加者に、全員で歌を歌い、プレゼントをあげている。

■ 事業の成果

自由遊びを基本としているため、参加者は各自好きな遊びを楽しんでいる。年に数回グループ遊びも行っており、グループ毎に競うことにより、グループ内での連帯感を高めている。グループはたて割りで構成されているため、異学年交流も活発に行われている。

■ 事業実施上の課題

他学区と比べ、スタッフの人数は多いため、見守り活動に少し余裕がある。しかし、いつもスタッフ全員が参加できるわけではないので、今後もスタッフ募集を続け、スタッフを確保し、安全に活動を実施できるようにしていきたい。



【 防犯教室 】



【 DVD鑑賞 】

■ 甲賀市における放課後子ども教室の取組

■ 目指す姿

放課後の安全・安心な子どもたちの活動拠点（居場所）を設け、地域の方々の参画を得て、学習やスポーツ・文化芸術活動、地域住民との交流活動等の機会を提供する。

さらなる地域の教育力の向上及び地域における人々の交流の促進につなげることを目指す。

■ 本年度の活動

水口小学校区内の岩上地域（公民館）において、本年度、試験的に放課後子ども教室を実施。工作やクッキングなどの様々な体験活動を通して、放課後の居場所作り・仲間作りを行った。

■ 本年度の成果

初年度ということで、参加者が集まるか心配したが、たくさん子どもたちが参加してくれ、楽しく協力しあって活動できた。

■ 今後の課題

現在は行政主導で開催しているが、今後は地域の方々の参画を得て実施していきたいと考えている。



【活動前の注意事項を説明】



【活動後アンケートを実施】

■ 甲賀市放課後子ども教室（岩上公民館）

■ 甲賀市	
■ 活動名	
岩上公民館子ども教室	
年間開催日数	6日

コーディネーター数	1人
子どもの平均参加人数	20人
開始年度	平成28年度

■ 活動の概要

放課後や夏休み等に公民館や体育館を活用し、地域の方の協力を得ながら、子どもたちに工作やクッキングなどの様々な体験活動を実施。

- 第1回 7/7 押し花でしおり作り
- 第2回 7/29 夏休み体験講座「スライムづくり」
- 第3回 8/24 夏休み体験講座「プラバンづくり」
- 第4回 11/8 お菓子づくり「かぼちゃのカップケーキ」
- 第5回 12/27 冬休み体験講座「書き初めを練習しよう」
- 第6回 2/4 紙芝居を見よう（予定）

■ 特徴的な活動内容

地域の方を講師に迎え、体験活動を中心に実施。夏休み等には宿題をする時間も設け、見守りを実施。

■ 実施に当たっての工夫

毎回違う活動を企画し、子どもたちが飽きずに楽しめるよう実施している。

■ 事業の成果

グループに分けて活動することによって、学年が上の子が下の子の面倒を見たり、みんなで空き時間に一緒に遊んだり、仲間づくりができた。

■ 事業実施上の課題

活動内容の検討も含めて、地域の方々に関わってもらえるような働きかけが必要と考える。



【押し花でしおり作り】



【かぼちゃのカップケーキ作り】

野洲市における地域子ども教室の取組

■目指す姿

市内のさまざまな分野で活躍する幅広い関係者が連携して、学校・家庭・地域社会全体における子どもの生きる力を育む方策及び休日等の子どもたちの安全で健やかな居場所を確保し、児童の健全育成を支援し、地域の教育力の向上及び地域における人々の交流の促進につなげることを目指す。

■本年度の活動

地域子ども教室の諮問機関である「野洲市地域教育協議会」において、事業内容の情報交換などを年2回行っている。

①運営委員会の協議内容

回	実施日	参加人数	協議内容
1	平成 28 年 5 月 27 日	14 名	(1) 平成 28 年度 野洲市地域子ども教室の予算について (2) 平成 28 年度 野洲市地域子ども教室の事業計画について
2	平成 29 年 3 月 10 日	17 名	(1) 平成 28 年度 野洲市地域子ども教室の実施状況について (2) 平成 29 年度 野洲市地域子ども教室の概要について

②構成委員（所属・役職名）

野洲市社会教育委員、野洲学区青少年育成会議役員、三上地域教育推進委員会地域教育推進サポーター、祇王学区青少年育成会議副会長、篠原学区子ども教室運営協議会会長、北野小学校区青少年育成会会長、兵主学区青少年育成会議会長、野洲学区わくわく子どもクラブ事務局、三上地域教育推進委員会事務局、祇王子どもクラブ事務局、篠原地域子ども教室運営協議会事務局、北野っ子フレンドリークラブ事務局、中主地域子ども教室運営協議会事務局、小学校校長会、小学校教頭会

■本年度の成果

- ・異年齢の交流や集団で学習をすることにより、子どもに社会性や集中力が身に付いた等の感想があった。
- ・地域の方々が、子ども教室の講師やボランティアとして関わってくださることで、地域での交流を深めることができた。

■今後の課題

- ・指導者が高齢化してきており、後継者も育っていないため、指導者を探すことが困難な地域があるので、サポートしてくださる方を探して、支援や協力を求めている。
- ・高学年になると、スポーツ少年団や塾に通いだす子ども達が多くなり、参加者の確保が難しい。
- ・開講しているクラブによって、参加人数に大きく差がある。

野洲市地域子ども教室【野洲小学校区】

■ 野洲市	
■ 活動名	
野洲学区わくわく子どもクラブ	
年間開催日数	74日

コーディネーター数	1人
子どもの平均参加人数	14.3人
開始年度	平成18年度

■ 活動の概要

学校5日制にともない、土曜日の午前中に子ども居場所づくり事業として実施

- ①わくわくいけ花は、小学生1年生から4年生・6年生20名参加8回開催
- ②わくわく絵手紙は、小学生1年生・3年生から6年生9名参加8回開催
- ③わくわく親子クッキングは、小学生1年生とその保護者8組16名参加6回開催
- ④わくわく日本舞踊は、小学生1年生から5年生7名参加8回開催
- ⑤わくわく茶道①は、小学生1年生～2年生・5年生14名参加8回開催
- ⑥わくわく茶道②は、小学生3年生から4年生・6年生15名参加8回開催
- ⑦わくわく将棋①は、小学生1年生から3年生15名参加7回開催
- ⑧わくわく将棋②は、小学生4年生～6年生10名参加7回開催

■ 特徴的な活動内容

・子どもの興味を引き付け、参加意欲を高めることをねらい、ネーミングを以下のように工夫している。

- ①花の命を大切に季節に合わせて楽しくお部屋を飾ろう！をテーマ
- ②絵を描くには、ものの形をしっかりと見なくてはね。自然観察もだいじですね。
絵手紙をとどけようかな！
- ③朝食を食べない子どもが多く食育をテーマに保護者に朝食の大切さを認識
料理を通じて親子のコミュニケーションをはかる
- ④お琴や三味線の邦楽に合わせて手先指先の動き、足の運び方のけいこ！
美しい体の動かし方が、身についたら最高ですね！
- ⑤お友達と一緒にカロムのチャンピオンになろう！
自分専用のストライカづくりの楽しみもある
- ⑥おいしいお菓子とお茶で楽しいひとときを！日本の四季を感じて！
和菓子作りの体験
- ⑦お友達と一緒に将棋を楽しみ、マスターしよう！

■ 実施に当たっての工夫

指導者、サポーターとして、地域の高齢者にお願いし子どもたちとの交流を図る。
安全対策として、保護者に送迎をお願いしている。

■ 事業の成果

同年代のつながりだけでなくクラブ形式のため、異年代との交流ができた

■ 事業実施上の課題

指導者、サポーターの後継者問題

■ その他



【わくわく親子クッキング】



【わくわく将棋①】

野洲市地域子ども教室【三上小学校区】

■ 野洲市	
■ 活動名	
三上楽しいクラブ活動	
年間開催日数	50日

コーディネーター数	1人
子どもの平均参加人数	9人
開始年度	平成14年度

■ 活動の概要

【三上楽しいクラブ活動】

- ◆「生け花」・・・月1回年9回（第1土曜日 9:00～10:00）
- ◆「茶道」・・・月1回年11回（第4土曜日 10:00～12:00）
- ◆「クッキング」・・・月1回年10回（第3土曜日 9:30～12:30）
- ◆「将棋」・・・月2回年20回（第2・4土曜日 9:00～11:00）

■ 特徴的な活動内容

平成14年から「学校5日制」が始まる前年より準備をして現在も継続して毎年開催している。
土曜日・日曜日（上記以外に7クラブあります）に年間単位で、毎年クラブ活動の募集をしています。継続して続ける子ども、興味のあるクラブに挑戦する子どもなど自主的に開催日と時間が重ならない様にして、複数のクラブに参加している。

■ 実施に当たっての工夫

- ・クラブ数が多く地域行事・開催日を年間カレンダーにして、分かりやすくしています。年2回（5月・10月）配布
- ・コミセンみかみの「悠紀まつり」にて発表（茶道）・展示（生け花）ができるようにプログラムを組んでいただいている。
- ・年度末、他館のクラブとの交流戦を続けている。（将棋）
- ・「クッキング」は、サポーター4名のご指導のもと、縦割り班として異学年の班で行っている。

■ 事業の成果

コミセンみかみの「悠紀まつり」では、「生け花」・「茶道」の展示・発表に向けて目標を持って頑張っている姿が見られ、成果として地域のみなさんに喜んでいただいた。「将棋」では、毎年他館のクラブとの交流戦が1年間の目標である。

「クッキング」では、高学年の子どもさんが下の学年の子どもさんを思いやる姿が見られサポーターさん・保護者間同士の交流が活動を通じて感じられた。

■ 事業実施上の課題

- ・サポーターさんの高齢化に伴い、次の方に引き継いでいただける方の体制づくり、依頼方法など。
- ・スポーツ少年団等の参加で4～6年生の加入が少ない。
- ・開催日・時間等が重ならない様にしてはいますが、サポーターさんの都合等の変更で難しい。
- ・居場所づくりになるような活動内容の種類・展開が必要かと思う。

■ その他



【クッキング サポーターが見守っています】



【生け花クラブ サポーターが見守っています】

野洲市地域子ども教室【祇王小学校区】

■ 野洲市	
■ 活動名	
祇王子どもクラブ	
年間開催日数	54日

コーディネーター数	1人
子どもの平均参加人数	9人
開始年度	平成17年度

■ 活動の概要

- ・よさこい妓王は、おどりをとおして、子ども達の健全育成活動と地域に「笑顔と元気」を届けたいと活動している。
- ・クッキング教室では、健康推進員さんの指導で男女を問わず料理ができる力や、主食、副食をバランスよく食べる事ができるように。また「食べ物を選ぶ力」「食べる量」等食育を考え健康な体作りを目的に実施。早寝、早起き、朝ご飯の大切さも指導。

■ 特徴的な活動内容

- ・演舞に出場し、人前で踊る事は子どもの自信にもつながり、子ども同士の結束力も強くなっている。
- ・子どもの時から、食事を通して、肥満や生活習慣病の予防等、健康な体づくりについて学習している。

■ 実施に当たっての工夫

- ・土曜日に子どもの事業が重なる場合があり、できるだけ子どもの事業がない日を選んで実施。
- ・初めての参加者には、基礎から丁寧に指導し、料理の楽しさを感じてもらえるようにしている。

■ 事業の成果

- ・ひとり一人に声かけをすることで、自信をもって行動ができるようになった。
- ・また、参加の子ども同士や親同士も、仲良くなり、全体のまとまりが出てきた。
- ・この教室で学んだ料理を家で作ったり、料理を手伝えるようになってきた子どもも何人かいる。

■ 事業実施上の課題

- ・中学生になると部活動、塾で忙しくほとんどの子どもが退会するので、惜しいと思う。(よさこい妓王)
- ・子ども教室に参加してくれる子は、いつも同じ子どもで、親も熱心である。土、日曜日は、スポーツ少年団や塾等の習いごとで忙しくしている子どもが多く、小学校低学年の子どもの参加が多い。

■ その他



【 クッキング教室 】



【 よさこい妓王 】

野洲市地域子ども教室【篠原小学校区】

■ 野洲市	
■ 活動名	
篠原地域子ども教室	
年間開催日数	9 日

コーディネーター数	1 人
子どもの平均参加人数	15 人
開始年度	平成17年度

■ 活動の概要

さつまいも教室、子ども料理教室、科学実験など。子ども達が興味を持ち、いろんなことに体験させる。

■ 特徴的な活動内容

演奏練習は、毎週1～2回の練習、依頼があれば地域へ出前演奏。さつまいも教室は、畑づくりから草引き・収穫・料理までを一貫して体験する。料理教室は、旬のものを使い楽しく作って美味しくいただくまでを体験。科学実験は、磁石の不思議、ポンポン船作り、水ロケットを飛ばすなど子どもたちに興味を示すことにチャレンジしました。

■ 実施に当たっての工夫

すべての教室に対し、地域の方々の協力を頂いています。

■ 事業の成果

どの教室も人気がよく、楽しい教室となっています。特に料理教室では、次のレシピを希望したり、今度も参加したいとの声があったりで指導者はとてもやりがいを感じています。

■ 事業実施上の課題

指導者が限られてくる。マンネリ化。好きなことには集中できるが、興味がない事には集中力、根気力にかけることがある。難しさが原因かもしれません。

■ その他

今後どこかに新鮮味のある教室を続けていきたい。



【科学クラブ教室】



【しのっ子ジュニアオーケストラ・学区運動会】

野洲市地域子ども教室【北野小学校区】

■ 野洲市	
■ 活動名	
北野っ子フレンドリークラブ	
年間開催日数	23日

コーディネーター数	1人
子どもの平均参加人数	31人
開始年度	平成6年度

■ 活動の概要

北野学区青少年育成会が年間計画を立案し、北野小学校を通して参加者を募集し、主として土曜日の9時30分から11時30分までの約2時間、北野学区青少年育成会役員がコーディネートし、北野学区青少年育成会が委託した。教育活動推進員と北野学区青少年育成会役員が協力して教育及び安全管理を実施している。

平成28年度実施の科目と回数は次のとおりである。

囲碁：2回、将棋：3回、料理：4回、お菓子作り：2回、工作：1回、パソコン：4回

■ 特徴的な活動内容

参加者は固定ではなく、各事業実施日毎の自由参加（但し、要予約）としている。

■ 実施に当たっての工夫

できるだけ参加者一人ひとりに寄り添い語りかけるよう配慮している。

■ 事業の成果

子どもたちの明るく楽しそうな雰囲気をもって、子ども居場所づくりを目的とした地域子ども教室の成果と考えている。

■ 事業実施上の課題

子どもたちに魅力のある活動の掘り起しとその活動を推進するコーディネーターの維持補強が今後の課題である。

■ その他

特徴ある活動事例を動画にして、関係者が閲覧できるようにすれば、推進員のスキルアップに有効と考えます。



【 9月17日 パソコン教室 】



【 10月22日 料理教室 】

野洲市地域子ども教室【中主小学校区（中里）】

■ 野洲市	
■ 活動名 中主地域子ども教室（中里学区）	
年間開催日数	20日

コーディネーター数	1人
子どもの平均参加人数	10人
開始年度	平成18年度)

■ 活動の概要

茶道クラブ：月1回、裏千家の作法を学ぶ

手芸クラブ：月1回、糸の止め方など初歩から学び、刺しゅう等を体験

■ 特徴的な活動内容

特になし

■ 実施に当たっての工夫

茶道クラブ：子ども達に12月だけクリスマスにちなんで、お茶菓子をケーキにしたりして、ちょっとした楽しみがもてるよう工夫している。

手芸クラブ：子どもに合わせて、教材を選び、各々小さくても作品作りの達成感や喜びを味わってもらうようにしている。

■ 事業の成果

クラブ活動を通じて、在籍年数が長い子どもが、まだ初めて日の浅い子どもに教えてあげるなど、学年をこえたふれあいなどが生まれつつあり、技能習得以外にも大事な体験をしていると感じることがある。

■ 事業実施上の課題

子ども達の習熟度にばらつきがあるので、教えるのが難しい事と集中力を持続させる事。

■ その他



【 手芸クラブ 】



【 茶道クラブ 】

■ 野洲市地域子ども教室【中主小学校区（兵主）】

■ 野洲市	
■ 活動名	
野洲市地域子ども教室（兵主学区）	
年間開催日数	35日

コーディネーター数	1人
子どもの平均参加人数	16人
開始年度	平成18年度

■ 活動の概要

小学生を対象に土曜日や日曜日に教室を開催。

地域子ども教室は、華道クラブ・茶道クラブ・おやつ作り教室・陶芸教室・けん玉教室・ビーズアクセサリー教室・クッキング教室などを開催している。

■ 特徴的な活動内容

- ・「春を食べようの会」では毎年4月に野山に出かけ、散策しながら指導者のもと食べられる野草を採取し、館に持ち帰った後、野草を天ぷらや味噌汁などに調理して春を味わっている。
- ・「あやめキッズクラブ」では年間8回、約40名の同じメンバーで毎回違う内容の体験をする教室を開催しているが、兄弟姉妹で参加される方が多く1年生から6年間参加している子どもも多くいる。

■ 実施に当たっての工夫

子どもたちが楽しく安全に遊べるように配慮している。

■ 事業の成果

異学年の子どもたちが遊ぶことで、互いを思いやり助け合う精神が生まれ、年度の終わりには子どもたちの成長がみられる。学校でも家庭でもない環境で、子どもたちはのびのびと活動しているように思う。

■ 事業実施上の課題

スタッフが限られているため、館外に出かける事業は今年度はなくした。

■ その他



【紙ひこうき教室】



【けん玉教室】

■ 湖南省における放課後子ども教室の取組

■ 目指す姿

湖南省の放課後子ども教室事業においては、これまでの取組をベースにしながら、中学校の生徒の進路を実現させるための「学力補充」「進路保障」の取組を行っている。放課後や夜間に学校や地域の施設等で、地域の大人、退職教職員、先輩の高校生や大学生の方々が関わり、学力的に支援が必要な生徒に寄り添ってサポートいただき、一緒に学ぶ仲間とともに学ぶ意欲を高めながら「学力の底上げ」を図っている。

■ 本年度の活動

実施校	開催日数	活動場所	主な内容
石部中学校	25日	校区内「青少年の家」	進路実現の学力補充 （「中3夜の勉強会」）
甲西中学校	夏5日 30日	学校図書室 学校図書室	中1中2年生基礎学力補充 中3年生進路実現の学力補充 （甲西中道草教室）
甲西北中学校	25日	学校または 岩根会館 菩提寺まちづくりセンター	中1～3年生基礎学力補充
日枝中学校	15日	市民学習交流センター	中3年生個別進路実現の 学力補充（「夜の学習会」）

■ 本年度の成果

- ・モデル事業「放課後子ども教室事業」としての開始は昨年度からであるが、このモデル事業を受けていない昨年、2年前、古くは17年前から自主的に行ってきた経緯がある。
- ・生徒が週1回～週3回決まった時間に学校図書室、集まりやすい校区の公共施設や、ボランティア組織の施設で継続的に学習を行うことで、生徒自身の学習に対する習慣づくりにつながっている。生徒にとっては、年齢が近く親しみやすい地域の高校生や大学生に、あるいは地元で支援してくださる方、地元退職教職員の大人の方に、参加生徒の苦手な学習を一つでも減らせるよう、一人一人に寄り添ったサポートを受けている。そのため、生徒自らが学習への意欲を高め、前向きな気持ちで取り組める場面も増えてきている。

■ 今後の課題

- ・サポートをいただく地域の方と、参加する中学生の時間を合わせていくことが難しい。この取組の魅力や成果を伝え、声かけを進めていき、サポートいただく地域の方々、高校生や大学生を確保していく必要がある。



【先輩高校生によるサポート】



【小グループ学習での教え合い】

■ 長期的視野に立ち、生徒の生き方を支援していくために（石部中学校）

■ 湖南省	
■ 活動名	
石部中放課後子ども教室「中3夜の勉強会」	
年間開催日数	25日

コーディネーター数	2人
子どもの平均参加人数	3人
開始年度	平成11年度

■ 活動の概要

石部中学校においては、3年生の抽出生徒を対象とする学力保障の学習会を地域の協力を得ながら長く続けている。現在の形になった平成11年度を「開始年度」としているが、隣保館や児童生徒支援加配教員が対象地区生徒に学力をつけることを願って実施する自主活動学級にならない、いわゆる「荒れ」にある生徒を対象とした「第2自主活」からすれば、30年以上の歴史がある。

自分の思いをうまく伝えられず人間関係づくりに難がある、自尊感情が低く粗野な言動を繰り返す、自暴自棄になる、授業についていけない、家庭環境に恵まれないなどの様々な要因により、授業エスケープや問題行動に走る生徒。しかし、思いをじっくり聞き出せば、社会に出るうえで身につけておくべき学力をしっかりとつけ、高校への進学を果たしたいと思っている者は少なくない。そうした生徒を選び出し、特に地域の「青少年指導支援の会」（趣旨に賛同して集まったボランティア組織。以下「支援の会」と記す）が大きくかかわってくださるようになったのが平成11年度であった。「支援の会」には、高校進学をゴールとするのではなく、地域に住まう若者と長くかかわりあっていこうとするスタンスがあり、勉強会を通じて、言わば生徒の生き方そのものを支援していこうという思いを持ってくださっている。

途中、紆余曲折がありつつも途切れることはなく、毎年10月から卒業時までの半年間、学校（主として児童生徒支援加配教員と3年部所属の教員）と支援の会との協働で、生徒の「荒れ」を食い止めつつ希望の進路を実現する勉強会を実施している。

「勉強」は1対1を基本とし、時に地元大学生などもかかわってくれている。

■ 特徴的な活動内容

学習の場は「青少年の家」という、支援の会が活動拠点としている建物で、生徒は毎週1回（今年度は水曜日）、午後6時過ぎに集まり8時まで学習する。暗くなってからの勉強会なので、安全に配慮し、送迎も行う。教科等の指導は中学校の教員や退職教員の有志、大学生などが担当するが、送迎を受け持ってくださいなのが支援の会の女性メンバーである。交替で生徒を迎え、学習を見守って見送るというあたたかな雰囲気づくりは、この勉強会に欠かすことはできない。

■ 実施に当たっての工夫

対象とする生徒を3年部が抽出し、生徒本人や保護者の意向と決意を確認する。支援の会メンバーにはそのことを伝えて協力をお願いしている。毎回の学習スケジュールは40分間の教科学習、10分の休憩、再び40分間の教科学習という流れを基本とする。ともに、生徒と大人とのコミュニケーションを大切にし、生徒にとって居心地のよい空間となるよう心がけている。

大学生の参加については、教育実習生や卒業生などに「自分自身も成長するよい機会」と声をかけている。

■ 事業の成果

毎年人数こそ少ない（絞り込むことで1対1の勉強が可能となる）ものの、アットホームな場で素の生徒を見ることができる。そして、ふだんはなかなか表さない生徒の良さを知ることできる。支援の会の願いどおり、学力をつけることだけでなく、生徒の自尊感情が高まっていく様子を実感することができる。

中学校時代に地域の人とのかかわりをつくっておくと、それ以降の自立をめざす際にも具体的な支援に結びつけていくことが期待できる。

■ 事業実施上の課題

最も大きなハードルは、学校と支援の会との間でねらいをしっかりと共有しておくことである。長く続けてこられたのは惰性ではなく、その年の一人ひとりの生徒への寄り添い方を検討し、ともに歩調を合わせて実践してきたからである。

これからも継続的に取り組んでいくために大切にしたいポイントである。

■ その他

昨年度から「放課後子ども教室」の活動として申請することになり、改めてコーディネーターを配置した。その役割をお願いしたのは支援の会の2名の女性である。コーディネーターには勉強会の当番（送迎係を含む）を決めること、必要な物品を購入すること、記録を残すことなどを委ね、中核となって活動してもらっている。

また、生徒にかかわる大人の関係づくりにも心を砕いてもらっている。会のメンバーで懇話の機会を持つこともあるが、その企画をすることも大切な役割の一つである。



【勉強会の場「青少年の家」】



【1対1で勉強を進める】

■ 進路保障に向けて ～学校が家庭学習の場に！先生は高校生と地域ボランティア～（甲西中学校）

■ 湖南省		コーディネーター数	2 人
■ 活動名		子どもの平均参加人数	14 人
放課後子ども教室（甲西中道草教室）		開始年度	平成28年度
年間開催日数	35日		

■ 活動の概要

本校生徒の家庭学習の時間は極端に少ないという状況がある。その理由は家庭環境が整っていない家庭が多いことに起因している。そこで、学校で自由に学習できる場所を整えることで、長期休業中や放課後の時間に学習できる場を提供できないかと考えた。また、一人では学習できない生徒や分からないと投げ出してしまおう生徒が多いことから、気軽に聞いて教えてくれる人を確保することが必要である。

そこで、長期休業中は、1・2年生の学力補充のため、部活動の練習前（午前教室）と練習後（午後教室）に学習教室を設定し、開設日にどちらかで参加できるようにした。場所は、図書室の環境整備を整え、地域ボランティア（大学生等）がその生徒たちの指導にあたってもらう。10月からは、3年生の進路保障のため、週2日程度のペースで、放課後に図書室で放課後の学習教室を開設。近隣の県立甲西高校の生徒会を中心に、学校帰りに立ち寄って生徒の学習の相談や指導に力を貸してくれている。また、夏の地域ボランティアや募集したボランティアも指導に入試の終わる3月まで続けて指導や支援にあっている。

■ 特徴的な活動内容

「寄り道ボランティア」と名付けて、近隣高校と連携を図り、生徒会の生徒を中心に、学校帰りの電車待ちの時間に、本校に立ち寄り図書室で生徒の学習の相談や指導に力を貸してくれている。

■ 実施に当たっての工夫

図書室を個別で学習できるブースや小グループでの学習、広いスペースでの学習ができるなど、学習の場を設定している。



【 個人ブースで個別学習 】

■ 事業の成果

地域のボランティアは、生徒と関わる中で、生徒の成長が楽しみになってき、機会があれば学習参観にも自主的に参加されている。家庭環境では家庭学習が難しい生徒については安心して学習ができる場となっている。

生徒が年齢の近い高校生に教わることは、当初恥ずかしさもあったが、互いにためらいをなくすことで素直に対応できるようになった。また、先輩の姿を間近に見ることで進路先へのあこがれや、進路選択の一つの指針になっている。一方、高校生は、教える側の難しさを実感しつつ自らの学習への向上心がさらに高まってきている。



【 小グループ学習で教え合い 】

■ 事業実施上の課題

放課後の時間を生み出すことが難しい。1、2年生にも学力補充を継続したいが、部活動や委員会活動との兼ね合いで実施が難しい。

■ その他

図書室での学習環境を整えたが、もっと違った形でオープンな学習場所の工夫をしたい。夏場は廊下に机を並べて、どこでもだれでもが簡単に学習ができるようなスペースを作りたいと考えている。

Let's Enjoy English (甲西北中学校)

■ 湖南市		コーディネーター数	2人
■ 活動名		子どもの平均参加人数	5人
	放課後子ども教室 [甲北中基礎学力補充教室]		
年間開催日数	25日	開始年度	平成27年度

■ 活動の概要

「英語に親しむ」というねらいで、月曜日の隔週で放課後に約1時間の時間を確保し、英語が苦手な生徒が気軽に英語に慣れ親しむところからスタートさせた。教材についても授業で使っている教科書から離れて、「学習」や「勉強」と言ったスタイルにこだわらない形で「英語に親しむ教室」を、基礎学力補充教室の一つとして展開している。

また、小学校高学年から外国語活動が導入され、中学校入学後の英語の授業内容との差を少しでも埋めることを目的に「学習」という形態に拘りすぎず、「親しむ」ことを大切にしながら取組を進めるよう心がけた。

■ 特徴的な活動内容

発展的な学習よりも英語の初歩的な内容を中心に学習を進めた。1年生の英語の授業では、ボランティアさんに入り込んでいただき、生徒との交流を深めることから始めていただいている。また、「英語で情報を集めよう・まとめよう・伝えよう」ということをテーマに、著名人を三人称で表現したものを教室前の掲示板に貼り出しを行った。

■ 実施に当たっての工夫

参加生徒が一人でも増えるように学級担任や部活動顧問からの呼びかけをこまめにすることを心がけた。併せて、生徒同士の勧誘も実施。また、目にしやすいところにポスターを掲示するなど、校内での生徒の通行が一番多い廊下に面している教室での実施を心がけた。本校には英語科の教員が各学年に3名おり、併せて隔週で来校するALTの協力も得て、事前の打ち合わせを通して、活動内容の検討協議をこまめに行うようにした。

■ 事業の成果

普通の授業と違い、少人数で学習するため、きめ細やかな指導を行ってもらった。友達を連れて教室を訪れる生徒が中にはおり、中学校の英語の入り口となる位置づけとしては定着しつつある。しかし、成果を求めるまでには至っていないところは多々あるが、息の長い継続的な取組をしていくことで、この取組の成果と言える活動となるよう努力し続けていきたい。

■ 事業実施上の課題

月曜日は部活動停止日に設定されていることもあり、放課後になると帰宅を急ぐ生徒が大半なため、それに連れられるかのように生徒の脚はそちらへ向いてしまう。このことが、この教室への参加率低下にも繋がっているように感じる。広く周知を図る目的で全校集会時に呼びかけることは勿論のこと、設定曜日の変更も視野に入れながら検討していきたい。

■ その他



【英語教室の様子と廊下への掲示作品】



■ 地域とつながり、将来に向けての学ぶ力を育てる（日枝中学校）

■ 湖南省	
■ 活動名	
日枝中放課後子ども教室〔夜の学習会〕	
年間開催日数	15日

コーディネーター数	2人
子どもの平均参加人数	6人
開始年度	平成25年度

■ 活動の概要

大学生や一般の方、高校生など地域の方に協力をしていただき、生徒一人一人に個別に関わっていただくことで個々の生徒の学力の向上を図る。

■ 特徴的な活動内容

地域コーディネーターより、地域の方に幅広く声かけを行い、協力を依頼する。サポーターとして、平均4名の方が参加して下さっている。参加生徒は、学習に向かう意欲が低かったり、理解に時間がかかったりするなどの支援を必要としている。

そのため、一人一人の生徒に寄り添いながら丁寧に支援をすることで、学習への苦手意識の払拭や集中力を持続させることに力を注いでいただいた。10月から2月までの期間で15回実施。

■ 実施に当たっての工夫

会場については、校区内にある市民学習交流センター（サンヒルズ甲西）の部屋をお借りし、参加する生徒が集まりやすいように工夫した。また、生徒たちにとって年齢が近く親しみやすく、また近未来の将来像がイメージしやすくモデルとなる存在である高校生や大学生にサポーターとして来てもらうようにした。そして、サポーター自身の経験を踏まえうやうやで接してもらい、参加生徒の学習への意欲と前向きな気持ちを持つことができるよう配慮した。さらに、これからの地域での若い世代のつながりをつくっていくことも視野に入れている。

■ 事業の成果

毎週水曜日の19時から21時の2時間を設定。決まった時間に決まった場所で行うことで、家庭での学習の習慣が身につくようになった生徒も、週1回の取組を継続していくことで家庭学習の習慣づくりにつながった。また、地域の方に力を借りることで、家庭の事情等により学習環境が整いにくい生徒も継続的に学習に取り組むことができるようになった。生徒が集まり一緒に学ぶことで、自宅で一人ではなかなか気持ちが向かない学習にも自ら取り組む態度が身についてきた。さらに、マンツーマンでの指導ができる体制にしていくことにより、サポーターの方との信頼関係も生まれ、わからないことやできない問題を質問したり、説明してもらったりして、安心して学習に取り組むことができるようになっていく。

■ 事業実施上の課題

参加する中学生と、サポーターとの時間調整に難しい面がある。また、多くの地域の方の協力を得ていくためには、活動の魅力や成果をどのように伝えていくのが大切である。さらに、事業の趣旨や内容等を十分に周知しておく必要があるため、参加者の開拓をどのように行っていくのかも検討していく必要がある。



【 地域の方の支援の様子 】



【 学習会の個別対応の様子 】



【 先輩からのアドバイス 】

■ 米原市における放課後子ども教室の取組

■ 目指す姿

放課後や週末に学校施設やその他公共施設等を利用して、地域に応じた子どもたちの安全・安心な場所を設け、地域の方々の参画を得て、子どもたちの学びと遊びの体験、異年齢交流の機会を提供し、地域で子どもを守り育てる環境づくりを目指す。

■ 本年度の活動

- ・米原市子ども・子育て審議会において、放課後子ども教室事業の活動を報告し、今後の活動などについて、議論した。

実施回数 2回

委員：15人

(有識者、福祉・教育に関わる機関や団体の代表者、子どもの保護者、公募市民など)



【米原市子ども・子育て審議会】

■ 本年度の成果

- ・地域の方々にボランティアとしてご協力いただき、異世代間の交流を深めることができた。また、地域の特色を生かした幅広い体験活動や交流の場を子どもたちに提供することができ、活動を通して子どもたちの成長を支援することができた。

■ 今後の課題

- ・放課後児童クラブとの連携を図る。
- ・事務局と実施団体との情報交換の場を設け連携を密にしていく。

■ 下学年と上学年に分かれて、季節にあったいろんな活動を行います。親子での参加可！

■ 米原市	
■ 活動名	
放課後キッズ in 310	
年間開催日数	23日

コーディネーター数	1人
子どもの平均参加人数	7人
開始年度	平成26年度

■ 活動の概要

低学年、高学年別にジュニアの部とサマーの部、ウインターの部に分けて活動をしている。乗馬体験や農園体験、ミニしめ縄づくり、書初めは合同で行い、スポーツ的な活動については、運動能力が違うので分かれて行っている。

■ 特徴的な活動内容

ジュニアの部では、乗馬体験や農園体験の他にニュースポーツを行っている。サマーの部では、乗馬体験や農園体験の他にバドミントンやカヌー、卓球などのスポーツを行っている。ウインターの部では、ミニしめ縄づくりや書初めの他にスキー体験を行っている。

■ 実施に当たっての工夫

年齢能力別に低学年（ジュニアの部）と高学年（サマーの部、ウインターの部）に分かれて活動している。また、希望される保護者にも子どもと一緒に体験をしていただきながら、安全監視係をしていただいている。

■ 事業の成果

乗馬や農園、ミニしめ縄など個人では体験できないような活動を企画して、子どもだけではなく大人も体験を通してふれあいだけでなく学習を深めている。参加者数は少ないが、子どもたちは一生懸命活動に打ち込んでおり、異学年間や他校児童とのつながりができあがりつつある。

■ 事業実施上の課題

地域内3小学校を通じて参加募集チラシを配布したが、申し込みが少なく苦慮している。

■ その他

農園体験では、さつま芋の苗植えから収穫までを親子で体験している。苗植えの前には苗床に黒マルチを敷き、苗は斜めに植えつけている。収穫は、ツルとマルチを手繰り、スコップで芋を傷つけないように掘り起こした。春には農園の近くにある苺の摘み残しを、秋にはイチジクや柿の収穫を楽しむことができた。



【秋の収穫に向けてさつま芋苗を植え】



【スキー体験中】

多様な体験、深める交流 いぶきっ子の心豊かな育成を目指して

■ 米原市	
■ 活動名	
放課後キッズ in ジョイ	
年間開催日数	8日

コーディネーター数	1人
子どもの平均参加人数	34人
開始年度	平成21年度

■ 活動の概要

- 第1回 (5/25) 「ドッチビーや大縄跳びに挑戦しよう」
初めての挑戦にワクワクで大縄はコツを覚えて段々と跳べるようになった。
- 第2回 (6/22) 「科学の不思議！手作りモーターに挑戦」
エナメル線をやすりで磨き電池ボックスの導線に繋ぎ、モーターの作用でエナメル線を回転させた。
- 第3回 (7/13) 「頭の良くなる！？「囲碁」基本を習おう！」
<いごってなあに>のビデオを鑑賞してから囲碁の基本ルールを覚えてもらう。
- 第4回 (9/25) 「大学のキャンパスに遺跡発見！鉄道の歴史と今を知ろう！」
立命館大学内にある木瓜原遺跡見学と京都鉄道博物館へ借り上げバスで出かけた。(日曜日実施)
- 第5回 (10/19) 「あんこたっぷり おはぎをつくらう！」
昔懐かし おばあちゃんの味 秋の彼岸にちなみおはぎ作り
- 第6回 (11/9) 「白谷先生といっしょに少年少女合唱団！」(地域人材の活用)
- 第7回 (1/15) 「かるた・百人一首&餅つき大会」(青少年育成市民会議伊吹支部・伊吹山麓スポーツ文化振興事業団との共催)
- 第8回 (2/22) 「写真家 須藤先生のお話を聞いてイヌワシの生態を知ろう！」(地域人材の活用)

■ 特徴的な活動内容

白谷先生といっしょに少年少女合唱団！

地域人材の活用として、全国的に幅広く活躍されておられる米原市在住の声楽家、白谷先生を講師に迎え、童謡や唱歌をみんなで歌いました。童謡の「ロンドン橋+メリーさんの羊」では2組に分かれてロンドン橋を歌う組とメリーさんの羊を歌う組とで相手の組の歌につられないように同時唱をしました。途中でつられてしまったりもしました。「紅葉」「里の秋」「たきび」の3曲では秋を代表する名曲で、曲の背景や歌詞の意味を教えていただきながら歌いました。姿勢を正して、大きな口を開け(お腹から声を出す)言葉を大事にして、遠くまで声が届くように歌うことを教えて下さいました。そうすることにより自然と声が大きくなっていきました。最後には、本格的にジョイホールの舞台の上で照明を当てていただき、先生のピアノ伴奏で紅葉とたきびを少年少女合唱団のように透き通るような声で歌いることができました。



【童謡唱歌を歌う】

■ 実施に当たっての工夫

- ①内容はスポーツ、科学、芸術等幅広く体験できるように計画し、その都度たよりを出して活動の様子を保護者に知らせる
- ②グループ分けをして(異学年混合、2小学校合同)高学年児童にはリーダー意識がもてるようにし、他校児童との交流が図れるようにした。
- ③安全確保
 - ・サポーターを各グループに配置し、児童の出欠、健康状態をチェックシートに記入してもらう。
 - ・必ず保護者による送迎とする。
 - ・放課後児童クラブ参加児童は、必ずクラブ指導員の引率による。
- ④緊急対応
 - ・センター外での活動には、必ず救急車を遂行する。
 - ・緊急連絡先を児童名札裏面に記載し、緊急連絡に備える。



【おはぎ作り】

■ 事業の成果

スポーツ、科学、歴史文化、芸術、調理等など様々な活動を体験することができ、高学年児童はリーダーとしての自覚が芽生え、学校間の交流も図れた。

■ 事業実施上の課題

児童の対象学年が1年～6年と幅がある上、参加学年が年々低学年の傾向にあり、内容の難易度設定に工夫が必要である。活動内容による児童負担金増の懸念がある。教育活動サポーターの人材不足。

■ 地域の子どもは地域で育てる！

■ 米原市	
■ 活動名	
放課後キッズ in おうみ	
年間開催日数	6日

コーディネーター数	1人
子どもの平均参加人数	40人
開始年度	平成21年度

■ 活動の概要

学校の休日を利用して、子どもたちにとって安全安心で、新たな興味関心を育む体験活動を地域で活動されている任意団体「どろんこの会」との協働により実施。この事業を通じて、地域ボランティアの特技や技術、生活の知恵を活かしていただきながら、地域の子どもたちの健やかな成長を見守り、青少年の健全育成を図る。

■ 特徴的な活動内容

農業・ものづくり・自然体験を主とした普段の学校生活や家庭では体験できない様々な活動のなかで、異なる学校の児童との友達づくりや地域ボランティアの方や保護者とのコミュニケーションづくりの場として成り立つことに重点を置いた多様な活動プログラムを展開。

■ 実施に当たっての工夫

活動を通じて自主性、社会性及び創造性の向上となるよう、参加児童自ら考えて主体的に行動できるような活動プログラムが図れるよう趣向を凝らしている。

■ 事業の成果

単年度で終わらず、継続的な活動により地域に浸透し、近年は事業の募集にあたり、定員を超える応募をいただいております。地域の子供たちのみならず保護者の方々にも好評を頂いている。学年や世代を超えた交流を図るなかで、集団意識を育みながら子どもたちがのびのびと体験している。

■ 事業実施上の課題

今後も継続して活動を実施するうえで、当団体の活動に自主的に関わって頂けるより多くの地域ボランティアとつながりを生み、地域住民の方を巻き込みながら活動していくことでさらなる団体の飛躍に繋げる必要性を感じている。

■ その他



【 どろんこ農園にて田植え体験 】



【 ソーセージづくり 】

■ 体験しながら交流し、安心してゆったりとして、思う存分遊べる居場所

■ 米原市	
■ 活動名	
放課後キッズ in まいはら	
年間開催日数	8日

コーディネーター数	2人
子どもの平均参加人数	26人
開始年度	平成23年度

■ 活動の概要

「放課後安心プラン」の一環として「放課後キッズ in まいはら」に取り組んでおり、放課後や休日に公共施設等を利用し様々な体験や交流活動を図っている。

■ 特徴的な活動内容

主に息郷体育館、すぱーく米原を利用し活動している。

- ・息郷体育館・・・バドミントン、卓球、ビーチボールバレー、ユニホック、スーパーホッケー、リズム体操
- ・すぱーく米原・・・ミニテニス、ホッケー
- ・磯漁港付近・・・カヌー・カヤック

指導には米原市ホッケー協会、スポーツアドバイザー、米原地域の方、すぱーく米原職員、MOSスポーツクラブ会員の方などにご協力頂いている。

■ 実施に当たっての工夫

運営団体が総合型地域スポーツクラブなので、様々な種目のスポーツを体験してもらえる内容にした。

米原市ホッケー協会の協力でホッケーとユニホックを体験し、普段なじみの無いスポーツを経験する機会を設けた。

遠足場所は東山動植物園（愛知県名古屋市）で午前中は子供だけで班ごとに園内を自由に散策しました。午後からは全員で動物の生態や飼育員の仕事について職員の方からお話を伺った。

■ 事業の成果

学校や学年が異なっている参加者が、お互いに協力し楽しく参加してもらえたように思う。

ユニホック・スーパーホッケーでは、自主的に作戦会議をして役割分担を決め試合に挑む姿も確認できた。

活動の中で協力しあうことを楽しみながら学んでくれたと思う。

■ 事業実施上の課題

全学年が飽きずに楽しむスポーツを増やし、体験時間の最後まで集中できるようにしたい。

確保できる会場の都合により屋内スポーツに偏っているため、屋外の体験活動ができる会場を確保したい。

スポーツの他にも工作体験や地域の文化や歴史を知ってもらえる活動を増やしたいと思った。

■ その他



【息郷体育館でバトンリレー】



【すぱーく米原でホッケー体験】

放課後児童クラブの現状

平成28年5月1日現在

1 放課後児童クラブ数実施状況

(1) 小学校の状況

小学校区数	223 か所	児童数	81,631 人
小学校1～3年生の総数	40,857 人	*4～6年	40,774 人

(2) 放課後児童クラブの概況

設置・運営主体別クラブ数	公立公営	公立民営	私立民営	合計
	96	146	46	288

(3) 放課後児童クラブの状況

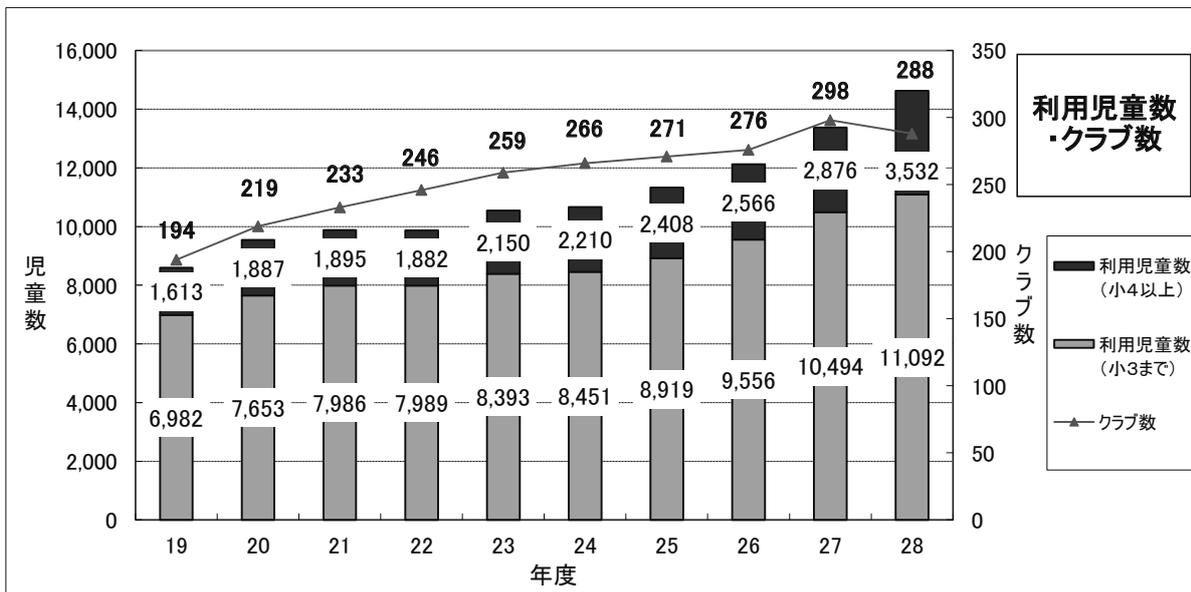
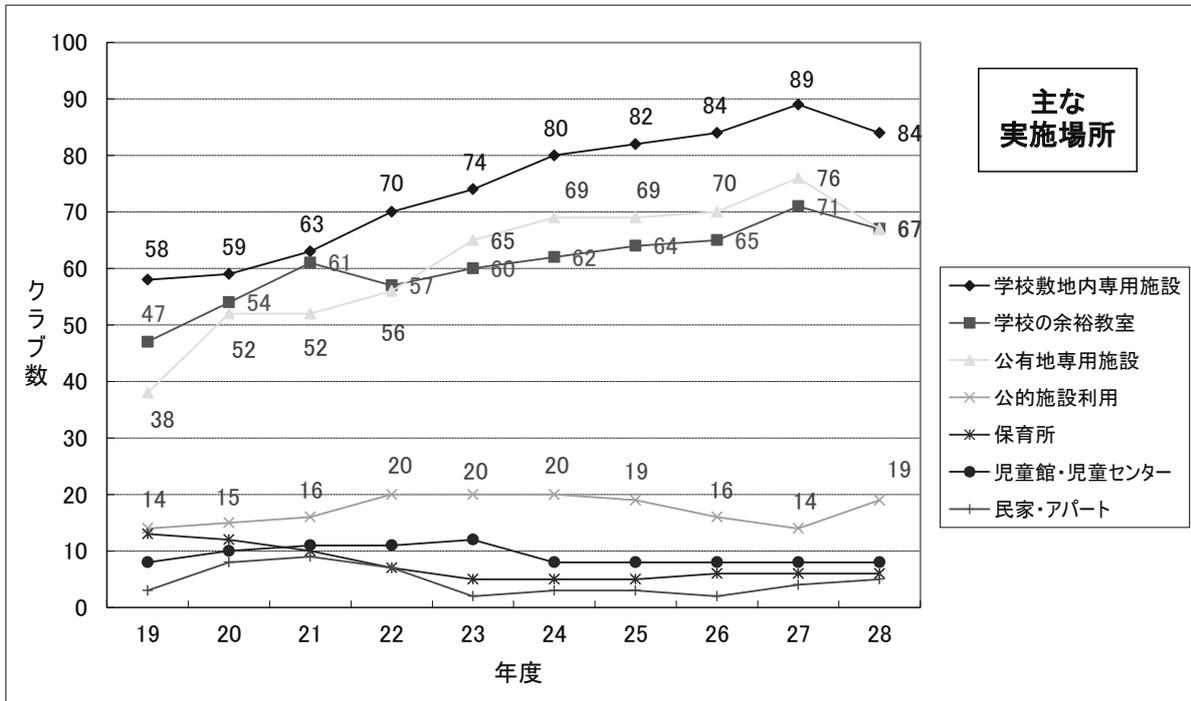
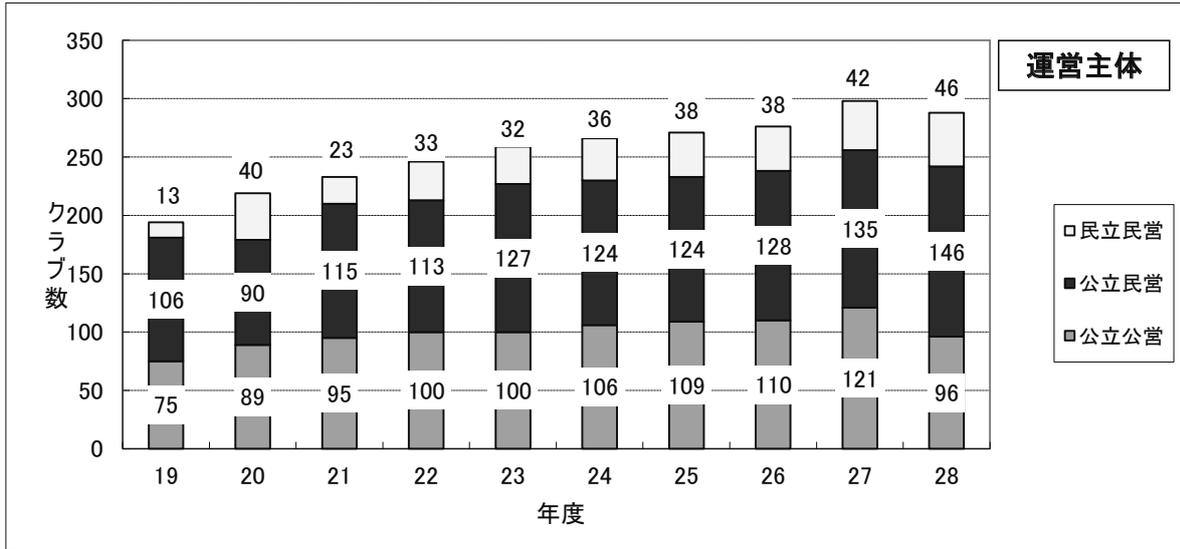
調査項目	公立公営	公立民営	私立民営	合計
実施場所別 放課後児童 クラブ数				
児童館・児童センター	1	2	5	8
学校の余裕教室	49	17	1	67
学校敷地内専用施設	26	58	0	84
公有地専用施設	16	51	0	67
民有地専用施設	0	2	15	17
民家・アパート	0	2	3	5
公的施設利用	1	11	7	19
団地集会室	0	0	0	0
保育所	0	0	6	6
幼稚園	0	2	0	2
認定こども園	0	0	0	0
空き店舗	0	0	8	8
その他	3	1	1	5
合計	96	146	46	288
登録児童数別 放課後児童 クラブ数				
9人以下	0	2	6	8
10人～19人	4	10	4	18
20人～35人	39	42	15	96
36人～70人	26	62	18	106
71人以上	27	30	3	60
合計	96	146	46	288
障害児受入数別 放課後児童 クラブ数				
受入なし	11	21	19	51
1人	10	35	17	62
2人	17	25	8	50
3人	23	22	1	46
4人以上	35	43	1	79
合計	96	146	46	288
平日の終了時刻別 放課後児童 放課後児童 クラブ数				
17:01～17:30	0	2	0	2
17:31～18:00	15	0	4	19
18:01～18:30	41	56	3	100
18:31～19:00	40	86	26	152
19:01～20:00	0	2	9	11
20:01～21:00	0	0	3	3
21:01～22:00	0	0	1	1
合計	96	146	46	288
休日の開館状況別 放課後児童 クラブ数				
土曜日（毎週実施以外）	96 (18)	132 (81)	44 (3)	272 (102)
日曜・祝日	0	6	10	16
長期休暇	96	146	46	288
学年別児童数				
小学校1年生（障害児）	1,615 (109)	2,044 (78)	578 (6)	4,237 (193)
小学校2年生（障害児）	1,442 (77)	1,940 (94)	458 (10)	3,840 (181)
小学校3年生（障害児）	1,183 (47)	1,481 (86)	351 (8)	3,015 (141)
小学校4年生（障害児）	727 (45)	1,003 (71)	247 (5)	1,977 (121)
小学校5年生（障害児）	319 (13)	579 (46)	123 (6)	1,021 (65)
小学校6年生（障害児）	179 (19)	287 (24)	68 (5)	534 (48)
その他（障害児）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
合計（障害児）	5,465 (310)	7,334 (399)	1,825 (40)	14,624 (749)
学年別利用（登録） できなかった児童数				
小学校1年生（障害児）				17 (3)
小学校2年生（障害児）				7 (0)
小学校3年生（障害児）				5 (2)
小学校4年生（障害児）				20 (0)
小学校5年生（障害児）				12 (0)
小学校6年生（障害児）				2 (0)
その他（障害児）				0 (0)
合計（障害児）				63 (5)

注：（ ）内の数は、再掲である。

(4) 市区町村の実施状況

全市区町村数 A	実施率 (B/A)	実施市区町村			合計 B
		市（特別区）	町	村	
19	100 %	13	6	0	19

2 放課後児童クラブ数の推移



平成28年度 家庭教育支援活動一覧

○事業実施市町及び取組教育支援活動 7市町15活動

	市町名	地域人材の養成	家庭教育支援チームの設置・活動	学習講座・行事等の実施
1	近江八幡市	○	○	○
2	草津市			○
3	甲賀市	○	○	○
4	湖南市		○	○
5	高島市	○	○	○
6	日野町	○		○
7	竜王町			○

○教育支援活動の内容

【地域人材の養成】

	市町名	講座数	期待する能力	養成後の活動の場所
1	近江八幡市	3	・より客観性を持った視点で現状を見る ・関係関との連携、人材発掘 ・研修などの企画、提案	・主に学校においての相談活動や研修会 ・関係機関や家庭に赴いての課題解決に向けた取組
2	甲賀市	6	・読み聞かせの基礎知識の習得とスキルアップなど、家庭教育サポーターとしての資質向上	・家庭教育支援チームにおける活動 ・家庭教育に関する学習講座
3	高島市	1	・地域住民との関係づくり	・家庭教育支援チームにおける活動 ・地域の民生委員として活動
4	日野町	1	・子どもの発達や遊びについての知識 ・子育てや家庭での教育について相談に応じる力	・子育てサロン等地域での子育て支援活動

【支援チームの設置・活動】

	市町名	人数	年間活動日数	主な活動内容		
				学習機会のコーディネート	相談対応	家庭訪問による支援
1	近江八幡市	8	240 (延べ)	○	○	○
2	甲賀市	15	4	○		
3	湖南市	7	125 (延べ)	○	○	○
4	高島市	18	24	○	○	

【学習講座・行事等】

	市町名	実施 学校区数	開催回数	活用する行事等の機会 ※1	講座の概要 ※2
1	近江八幡市	8	20	⑤⑥	②
2	草津市	7	12	①④⑤⑥	⑫
3	甲賀市	4	64	④⑥	①③④⑤⑪⑫
4	湖南市	4	30	④⑤⑥	②③⑤⑥⑦⑩⑫
5	高島市	13	28	④⑥	⑪⑫
7	日野町	5	35	②⑤⑥	①⑥③⑩
8	竜王町	2	11	⑤⑥	③⑩⑫

※1 ①乳幼児健診 ②就学時健診、③入学説明会 ④保護者会、参観日 ⑤PTA研修会等 ⑥単独開催

※2 ①発達段階の特徴や親の心得 ②保護者同士の交流や子育てに関する意見交換会 ③生活習慣、食育
④遊び、運動 ⑤道徳心・思いやり、命の大切さなど心の育成 ⑥インターネットや携帯電話等 ⑦お小遣い・消費生活
⑧いじめ、不登校、非行、問題行動の対応 ⑨虐待 ⑩子育て・家庭教育への男女共同参画 ⑪乳幼児とふれあい
⑫その他

「平成28年度事業計画書」より

■ 近江八幡市における家庭教育支援の取組

■ 目指す姿

各小学校で、校長の構想と理念に基づき、家庭における教育力の向上を家庭教育支援チームで展開する。家庭教育支援チームは、校長、教頭、教育相談担当、生活指導担当、家庭教育コーディネーター等で構成する。家庭教育支援チームは、事業計画に基づき必要な指示を家庭教育支援コーディネーターに与える。家庭教育支援コーディネーターは家庭教育支援チームと密に連携しながら、学校関係者や地域の団体、地域住民等のボランティア、保護者等と協力して子育て学習会、講演会等を実施する。また、地域の家庭に関する情報を学校に伝え、学校は保護者対応等に活用する。

■ 本年度の活動

家庭教育推進協議会（年3回）

家庭教育支援基盤形成事業学校担当者会議（年1回）

家庭教育支援コーディネーター会議（年3回）

子育てサポーター養成講座(子ども支援課主催)に参画（年3回）

子育て支援ネットワーク会議(子ども支援課主催)に参画（年3回）

桐原東小・家庭教育研修会

- ・6月22日(水) (講師 岡田さよ子さん(家庭教育推進協議会副会長) 【学校支援メニューフェア】
企業・NPO等との連携

- ・7月27日(水) 桐原小学校で、学校支援メニューフェア in 近江八幡 2016 を開催した。NPO 法人 ママの働き方応援隊、NPO 滋賀次世代文化芸術センター等の家庭教育支援に資する団体が出展した。

家庭教育支援基盤形成事業成果発表会：2月17日(金)



■ 本年度の成果

- ・昨年度、各小学校に家庭教育支援チームを作り、校長や家庭教育支援コーディネーターをチームのメンバーとして位置付けたことで、校長の方針のもとで家庭教育支援コーディネーターを中心に事業を展開できた。
- ・気軽に足を運べて、同じ子育て中の方とおしゃべりをする中で、子育ての不安や悩みを共有することができるサロンや、子どもを取り巻く状況に応じた学習会等を開催し、効果的な事業を展開している。

■ 今後の課題

- ・家庭教育支援コーディネーターの限られた出勤時間の中、事業を展開していくのにも限界がある。
- ・家庭教育支援の方向性を決定し、それに基づき事業を展開していく上で、チーム会議は重要であるが、チーム会議の日程調整が難しい。
- ・子育てにしんどさを抱えている保護者へのアプローチが課題である。



【家庭教育推進協議会】

■ 小学校は家庭教育支援のプラットフォーム

■ 近江八幡市	
■ 活動名 (○) 地域人材の養成 (○) 家庭教育支援チームの設置・活動 (○) 学習講座・行事の実施	
講座数 (年間活動日数)	家庭教育推進協議会 3 回、コーディネーター会議 3 回、研修等実施

コーディネーター数	8 人
家庭教育支援員数	26 人
実施開始年度 (H23)	実施学校区数 (8 小学校区)

■ 活動の概要

市立 12 小学校のうち家庭教育支援事業実施を希望した 8 小学校に家庭教育支援コーディネーターを配属している。事業実施校には、校長、教頭、教育相談担当教員、生活指導担当教員、主任児童委員、家庭教育支援コーディネーター等を構成員とする家庭教育支援チームを設置している。家庭教育支援コーディネーターは、家庭教育支援チームの一員として密に学校と連携しながら学校の指示や助言を得て、各学校や地域の実情に応じた保護者の交流の場や講演会、料理作りや映画会などの事業や学校への家庭・地域の情報提供などを行っている。市は、家庭教育支援コーディネーターのスキルアップのために会議や情報提供、研修会等を行っている。

○家庭教育支援チームの設置・活動

各小学校に、校長、教頭、教育相談担当、生活指導担当、主任児童委員、家庭教育支援コーディネーター等を構成員とする家庭教育支援チームを設置し、コーディネーターが孤立しないようチームを介して学校や管理職の指示や助言、相談を得ながら家庭教育支援活動を行えるよう努めている。家庭教育相談員が学校の要請に応じて小学校に出向き、保護者相談に応じている。

○学習講座・行事の実施

家庭教育支援コーディネーターが、家庭教育支援チームの一員として学校と密に連携しながら、各小学校で保護者の交流の場や教育講演会、各種行事などを行っている。市教委は、コーディネーター等対象の研修会や会議等を開催している。

○地域人材の養成

家庭教育支援コーディネーターの資質向上や情報交換のため、コーディネーター会議を開催している。

市教育委員会は、コーディネーターに家庭教育に資する先進事例等の情報提供を行っている。

コーディネーター同士の連携や情報交換となる機会を持ち、互いにスキルアップや課題解決ができるよう図っている。

■ 特徴的な活動内容

○コーディネーターの各小学校への配属

各小学校にコーディネーターを配属しているので、学校で学校教員とコーディネーターが意思疎通を図れている。コーディネーターは地域の人材なので、学校では知り得ない地域の情報を学校に伝え、学校は保護者対応に活用している。

○家庭教育支援コーディネーターによる学校への情報提供

コーディネーターは、学校では把握できない地域での家庭の評価や各家庭間の関係などを含む児童の家庭や地域の情報を学校に伝え、学校は児童の行動の背景にある家庭の実態の理解や指導等に活用している。

○企業・NPO等との連携

学校支援メニューフェアには、家庭教育支援に資するプログラムを持つ企業・団体も出展している。家庭教育支援コーディネーターや各小学校の教員もメニューフェアに参画し、これらの企業・団体のプログラムを見学・体験している。NPO 滋賀次世代文化芸術センター、(株)NTTドコモ、(株)ワコール、(株)ナリス化粧品、NPO 法人ママの働き方応援隊等の活用実績がある。

■ 実施に当たっての工夫

○学校行事等の後に事業を行うなどして、参加者の負担軽減・参加者の確保に努めている。

○コーディネーター間の横の連携や情報交換、市教委からの情報提供をとおして、コーディネーターの資質向上に努めている。

○家庭教育支援チームを作り、校長の理念に基づいてコーディネーターが学校と一体となって家庭教育支援活動に取り組めるようにしている。

■ 事業の成果

○軽い悩みの保護者が、サロン等の場に来ることで相談したり、交流したりして悩みの軽減と保護者同士のつながりが生まれている。

○少人数で対象とテーマを絞ることで、来ることにためらいを感じておられる保護者に参加しやすくしている。

○コーディネーターを中心とした家庭教育支援チームで、学校・家庭・地域の情報を共有し、連携することができている

■ 事業実施上の課題

○家庭教育支援コーディネーターの勤務時間数が年間 45 時間なので、十分な活動ができない。

○家庭教育支援チーム会議の日程調整が難しい。



【学校支援メニューフェア】



【家庭教育推進協議会】

■ 草津市における家庭教育支援の取組

■ 目指す姿

本市においては、市制施行（昭和 29 年）以降、一貫して人口が増加しており、子育て世帯や核家族も増加している。家庭環境の変化や地域での人間関係の希薄化などから、子育てに悩む保護者も多く、家庭での子どもによりよい生活習慣を形成するため、社会的ニーズにあった家庭教育支援を推進していく必要がある。家庭教育の自主性を尊重しつつ、保護者に家庭教育の重要性を改めて認識してもらうため、情報提供を広く行うとともに、身近な地域において、すべての保護者が安心して家庭教育を行えるよう、学校や関係部局等との連携により、保護者への学習機会の提供を実施することにより家庭教育の推進を図る。

■ 本年度の活動

○ 家庭教育学習事業費補助金

家庭教育力の向上のため、家庭教育に直接関わりのある市立幼稚園・こども園、小学校、中学校の各単位 PTA に対して、子どもたちを取り巻く現状や課題・解決方法、子育ての手法、保護者同士の繋がりの中から生まれる学習等の家庭教育学習事業に対して、補助金を交付することで各単位 PTA における特色のある家庭教育学習事業を支援した。

○ 家庭教育出前講座

家庭で子どもが心豊かに成長し、よりよい生活習慣を確立するため、各単位 PTA や地域住民と一緒に考える場として、市職員が出向いて実施するタブレット PC 体験や青少年の現状などをテーマにした「家庭教育出前講座」を関係部局と連携して実施した。

○ 家庭教育サポート事業

家庭教育に関する保護者向けの学習機会を提供することにより、家庭における教育力の向上を目指す取り組みを実施。これまで実施してきた「家庭読書」を軸にしながら、「情報モラル」といった保護者のニーズにあったテーマなども実施した。

○ 家庭教育に関する情報発信

市広報誌において、家庭教育に関することをテーマに掲載し、家庭教育の大切さを啓発した。また、読書をテーマに家庭教育サポート事業を実施する時には、市で推進している「家庭読書（家読＝うちどく）のすすめ」や県発行の「子ども読書啓発冊子」などを紹介することにより、家庭読書の啓発を行った。

■ 本年度の成果

市広報を活用した啓発や図書館や関係各課等と連携して実施した家庭教育サポート事業などで、家庭教育の大切さおよび家庭でできることを伝えることができた。

■ 今後の課題

家庭教育に関する保護者のニーズを把握し、ニーズにあった家庭教育支援を実施していくことが必要である。また、多くの保護者に参加してもらうための工夫が必要である。



【家庭教育出前講座】

■ 草津市家庭教育サポート事業～家庭で育む子どもの力～

■ 草津市	
■ 活動	
() 地域人材の育成	
() 家庭教育支援チームの設置・活動	
(○) 学習講座・行事の実施	
講座数(年間活動日数)	10講座

コーディネーター数	2人
家庭教育支援員数	0人
実施開始年度(H26)	実施学校区数(7)校区

■ 活動の概要

市内中学校区にある小学校7校および関係各課と連携した乳幼児健診の場を活用して、家庭で子どもたちが基本的な生活習慣や善悪の判断をはじめとした生きる力の基本となる能力を身に付けるため、保護者向けの学習機会を提供することにより、家庭教育力の向上を図る。

■ 特徴的な活動内容

保護者を対象に図書館司書や読書ボランティア等から、子どもが本を好きになるきっかけづくりについてお話しいただき、家庭での読み聞かせのコツや大切さ、読書のおもしろさ、子どもの発達段階に応じたおすすめの本の紹介などを行い、家庭の中で本を通じて子どもとふれあう時間の大切さを感じていただき、家庭教育の充実を図る。また、日頃の子育てに関する悩みについて、保護者のニーズにあった講座を開催することにより、効果的な家庭教育の推進を図る。

■ 実施に当たっての工夫

- ・授業参観の前後や学校行事がある日などの時間に実施するなど、保護者が参加しやすい方法を心がけた。
- ・保護者に図書館司書や読書ボランティアによる読み聞かせの実演をすることにより、保護者が家庭で行う読み聞かせの仕方について、具体的にイメージできるように工夫した。
- ・「家庭読書」をテーマに行う時は、市で推進している「家庭読書(家読=うちどく)のすすめ」に関するチラシの配布や県発行の年代別にに応じたおすすめの本を紹介している子ども読書啓発冊子の紹介を行ったり、「情報モラル」をテーマに行った時は、情報モラルに関するチラシの配布や役立つサイトの紹介などを行ったり、参加いただいた保護者に持ち帰ってもらえるツールの提供や紹介を行うように工夫した。

■ 事業の成果

- ・これまで当該事業では「家庭読書」を軸に実施してきたが、本年度はこれに加えて、日頃の子育てに関する悩みについて、「情報モラル」など保護者のニーズにあった講座を実施することにより、事業内容を展開することができた。
- ・家庭読書をテーマに実施した時の参加者アンケートでは、「子どもと一緒に本を読む時間を作ろうと思います。」や「絵本を読んでもあげたいです。」などの感想が多く、家庭における読書をツールとしたコミュニケーションのきっかけづくりができた。
- ・情報モラルをテーマに実施した時の参加者アンケートでは、「子どもとの時間をもっと大切に。」や「個人情報のこわさなど、子どもと話し合っていきたいと思います。」、「スマホを持たせる時には、私もフィルタリングについて学んで設定したいです。」などの感想をいただき、情報モラルについて家庭で話し合うきっかけになるとともに、保護者自身の学びにもつながった。

■ 事業実施上の課題

- ・保護者のニーズにあったテーマで実施できるように、ニーズの把握を行うとともに、ニーズにあった講座をコーディネートしていくことが課題。
- ・授業参観の前後や学校行事がある日など保護者が参加しやすい時間を利用して実施したが、なかなか人が集まらない時もあったため、時間や場所の工夫や参加者を募集する際の案内チラシも工夫して、多くの方に参加いただけるようにすることが課題。



【家庭教育サポート事業(家庭読書)】



【家庭教育サポート事業(情報モラル)】

■ 甲賀市における家庭教育支援の取組

■ 目指す姿

親子のふれあいを深め、基本的な生活習慣を家庭で身につけるための継続的な啓発と、保護者自身が気づき、考え、行動するための機会を提供する。また、地域のボランティアとして家庭教育サポーターやブックスタートサポーターを養成し、各事業に協力いただくことで地域全体で子育てを見守り、より身近な支援の輪を広げていく。

■ 本年度の活動

① 学習講座・行事の実施

- ・親子ふれあい音楽広場（年1回）
- ・親子ふれあい運動広場（年9回）
- ・親子ふれあい絵本広場（年1回）
- ・親子ふれあい食育講座（年3回）
- ・いきいき孫育て講座（3回連続講座）
- ・子育て親育ち講座（保育園・幼稚園・小学校 年24回 ※予定）
- ・ママも0歳・パパも0歳 おはなし&ミニコンサート（年3回）
- ・子育てスタート講座 ①赤ちゃんとスキンシップ（年5回）
- ・子育てスタート講座 ②赤ちゃんと体ほぐし・心ほぐし（年4回）

② 地域人材の育成

- ・ブックスタートサポーター養成講座（年3回 うち1回は事業見学）

③ 家庭教育支援チームの設置・活動

- ・はじめまして親子広場（年9回）
- ・家庭教育サポーター会議（年3回）



【はじめまして親子広場】



【いきいき孫育て講座】

■ 本年度の成果

- ・子育て親育ち講座（保育園・幼稚園）の開催数は昨年度に引き続き増加し、より多くの保護者に参加してもらえた。
- ・「はじめまして親子広場」では、家庭教育サポーターが赤ちゃんと一緒にできる簡単な遊びや絵本等を紹介している。また、参加者同士の交流の場にもなっており、子育て不安の軽減につながっていることなどが参加者のアンケートからも伺える。

■ 今後の課題

- ・類似事業や参加者が少ない事業もあり、全体的な事業見直しと周知方法の再検討が必要である。
- ・「はじめまして親子広場」では家庭教育サポーターが講師を務めることから、フォローアップを充実させ、多くの家庭教育サポーターが活動に参加できるような下地作りが必要である。

■ その他

- ・甲賀市ホームページ 家庭教育支援事業の案内 <http://www.city.koka.lg.jp/4273.htm>
- ・甲賀市ホームページ 広報 家庭教育啓発記事（隔月15日号）<http://www.city.koka.lg.jp/kouhou/>

■子育て親育ち講座～“親力”アップを目指して～

■ 甲賀市	
■ 活動	
○ 地域人材の育成	
○ 家庭教育支援チームの設置・活動	
○ 学習講座・行事の実施	
講座数（年間活動日数）	9講座（年間活動日数4日）

コーディネーター数	3人
家庭教育支援員数	15人
実施開始年度（H23）	実施学校区数（8）校区

■ 活動の概要

○学習講座・行事の実施（一例）

- ・「子育て親育ち講座（保育園・幼稚園）」

保育園・幼稚園の保護者研修や親子活動等の機会を利用して家庭教育に関する講座を実施している。

■ 特徴的な活動内容

- ・保育園・幼稚園では、保護者または在園児親子を対象に、命の大切さ、親子のふれあい、食育・咀嚼、絵本・読み聞かせ、運動遊び等さまざまなテーマで実施している。

■ 実施に当たっての工夫

- ・実施園や保護者の関心・意向に沿った内容になるように、複数テーマの設定や講師との調整を行っている。
- ・一部のテーマでは講義形式ではなく、実際に参加者に体験してもらえる内容も取り入れている。

■ 事業の成果

家庭で大切にしてほしいことや、子どもと一緒に過ごす大切さなどについて啓発できた。保護者アンケートでは、保護者が自分の子育てを振り返り、保護者自身が子どもとのかわり方について考えるきっかけになったようである。

また、講座で紹介された遊びや絵本の読み聞かせなども、家庭で実践したいという感想も多く見られた。

《以下 保護者アンケートの一部を抜粋》

- ・親子で楽しく活動できて、とても良かった。家でも教えてもらった遊びを実践したい。（親子ふれあい）
- ・絵本の読み方、選び方が参考になった。できるだけ家でもたくさん読み聞かせをして子どもとの時間を大切にしたい。また、テレビやスマートフォンなどメディアの影響についても考える良い機会となった。（絵本）
- ・命の誕生は奇跡の連続であることを改めて実感した。子どもを抱きしめてあげたい。子どもへの言葉かけも「早くしなさい」から「一緒にやろう」に変換していきたい。（命の大切さ）
- ・日ごろ子どもとの時間が限られている中、1対1でたくさん身体を動かして遊ぶ時間が持てて良かった。（運動遊び）
- ・よく噛んでもらうために、家でも食材の大きさ・固さを工夫したい。保護者への実習があって口や舌の動きが良くわかった。子どもの力を信じて見守ることで、子どもの成長する機会を得られることがわかった。（食育・咀嚼）

など

■ 事業実施上の課題

- ・現在は公立保育園・幼稚園の上記内容の他に、一部小学校で「命の授業」を実施している。いずれも希望があった園・学校を中心に実施しているが、今後も幅広く実施していけるよう各園や学校と連携していく必要がある。また、各園・学校に向けて講座内容や事業等のPR方法を工夫していく必要がある。
- ・今後は新規のテーマ・内容も充実させていきたいが、講師を探すのが難しい。



【講座：親子ふれあい遊び】



【講座：親子で楽しむ読み聞かせ】

■ 湖南省における家庭教育支援の取組

■ 目指す姿

子どもたちにとって「家庭」は、安らぎのある楽しい場所であり、創造性や自主性、集団規範などの基本的な力を身につけて社会へ巣立っていく基盤となる大切な場所である。しかし、現代社会の「家庭」は、多忙で孤立した状況の中で保護者が個別の責任において子育てを行っている状況がある。

このことから、子育ての悩みを気軽に相談できる場や人との繋がりを求めている保護者は、数多く存在する。そのため、家庭教育支援活動では、家庭で子育てに「しんどさ」を感じている保護者に対して、それぞれの家庭がおかれている状況を共感しつつ、相談・支援、子育て講演会を行っている。

■ 本年度の活動

(1) 支援チームの設置・活動

① 菩提寺小学校…チーム名「ほっとルーム」…チームによる支援

コーディネーター（支援員）1名 子育てサポーター2名

- ・不登校傾向や教室に入れられないなどの児童の保護者支援（平成12年～児童支援から実施）
- ・保護者対象に毎週水曜日13:00～15:00「苦っこはうす」で「ほっとサロン」を開設

② 三雲小学校…「みくもっ子支援委員会」への位置付け 広義のチームによる支援

コーディネーター（支援員）2名…保護者の信頼を受け、家庭へ「訪問型支援」を実施

- ・不登校傾向児童、支援の必要な児童、孤立傾向にある家庭と学校との繋がりを作る

③ 石部小学校…チーム名「さんぼ」…チームによる支援

コーディネーター（支援員）1名 子育てサポーター2名

- ・保護者の日頃の悩みを少しでも取り除けるような気軽に相談できる支援
- ・保護者対象に毎月10日、20日、30日 子育てサロン「さんぼ」を開設

④ 菩提寺北小学校…チーム名「あすなるカフェ」…チームによる支援

コーディネーター（支援員）1名 子育てサポーター1名

- ・子育てで孤立しないように不安を抱く保護者が気兼ねなく話せる支援の場の設定
- ・保護者対象に各週水曜日10:00～12:00 13:00～15:00

「あすなるハウス」で「あすなるカフェ」を開設

(2) 学習講座・行事等の実施 【子育て講演会の開催】

平成28年9月30日(金) 菩提寺小学校 会場：菩提寺まちづくりセンター

講演：「ライフスキルを親はどう伝えるか」 講師：内藤紀代子氏(びわこ学院大学講師)

平成28年12月20日(火) 石部小学校 会場：石部小学校

講演：「家庭でできる応急措置」 講師：林みさ子氏(湖南省市石部医療センター看護主任)

平成29年1月23日(月) 石部小学校 会場：石部小学校

講演：「家庭の役割をロールプレイングしてみよう」 講師：滝口睦美氏(県SSW)

■ 本年度の成果

- ・支援員やスタッフは保護者と悩みを共有。学校とも情報を共有し子どもへの支援の糸口を見出すようにしている。学校での子どもの様子を保護者に伝え、学校、家庭の連携の有効なコーディネートを進めている。

■ 今後の課題

- ・専門的な知識や豊富な実践経験をもつ講師を招聘する等魅力ある講座を企画し、子ども支援について研修できる機会をより多くの人に提供していく必要がある。



【9/30 子育て講演会】



【「あすなるカフェ」での様子】

■ 保護者と子どもに寄り添い、見守り続ける 湖南省の家庭教育支援

■ 湖南省	
■ 活動名 (一) 地域人材の育成 (○) 家庭教育支援チームの設置・活動 (○) 学習講座・行事の実施	
講座数 (年間活動日数)	4 講座 (年間活動日数 45 日)

* 家庭教育支援チームの設置・活動 *

< 菩提寺小学校 > 毎週水曜日「ほっとサロン」の開設

■ 活動の概要

「ほっとルーム」のメンバーを中心に、子育てや親子間の悩みや心配事を一緒に考える居場所作り、仲間作りの手助け、子どもの寄り添い支援活動を行っている。

■ 特徴的な活動内容

活動拠点の『菩提こはうす』において、学校休業日の毎週水曜日の午後、主に保護者を対象に「ほっとサロン」を開催。

事業開始前から子どもに寄り添う活動を行っていた「ほっとルーム」

のメンバーが、本事業の柱となって活動しているので、学校と家庭をつなぐ役目も担っている。

■ 実施に当たっての工夫

毎週水曜日の午後に「ほっとサロン」を開催していることにより、保護者が行きたい時に行きたい場所になっている。

支援員だけでなく以前から「寄り添い支援」で関わりのあったボランティアさんにサロン運営を手伝ってもらい、寄り添う児童の様子を担任に伝え、家庭へと情報が行くようにしている。

■ 事業の成果

「ほっとサロン」を訪れた保護者は、雑談を交えながら日頃の不安や悩みを話すことにより、気持ちをリフレッシュさせて子育てに向かわれている。開催日に、下校途中の児童が『菩提こはうす』に立ち寄り、東の間のふれあいコーディネーター、支援員と児童との交流も生まれている。

■ 事業実施上の課題

保護者の関心があるようなテーマで子育て講演会を開催したが、その運営が難しい。しかし、参加者の感想を伺うと概ね好評なので、講演会自体の関心を持ってもらえるような工夫が必要である。

< 三雲小学校 > 定期的な「訪問型家庭教育支援」の継続

■ 活動の概要

「みくもっ子支援委員会」の中に位置づけた家庭教育支援。不登校傾向児童や支援の必要な児童や保護者、孤立傾向にある家庭とのつながりを作る個別対応と訪問型による保護者支援を重点を置いて活動している。

■ 特徴的な活動内容

支援員が毎日の登下校の見守りから校外で多くの児童とかわかりを長期に継続させている。不登校傾向の児童、支援の必要な児童には、訪宅を含めた個別の支援を継続している。

コーディネーター数	4 小学校 各 1～2 人
家庭教育支援員数	4 小学校 各 1～2 人
実施開始年度 (24, 26, 27, 28) 年度	実施学校区数 (4) 校区

■ 実施に当たっての工夫

児童の支援にあたっては、学校、学童保育所、主任児童委員、民生児童委員、地域総合センターとの連携を図り、情報を共有することで支援体制を充実させている。

■ 事業の成果

時間をかけて地道な活動を続けてきたことで、確実に児童や保護者との信頼関係を構築している。段階的な支援を行うことで不登校傾向児童を登校につなぐことができた例もある。

■ 事業実施上の課題

いずれのケースも数ヶ月から数年という長い期間をかけた取組が必要である。

< 石部小学校 > 子育てサロン「さんぽ」の開設

■ 活動の概要

地域の協力を得て、保護者の悩みを少しでも取り除けるような交流の場、子育てサロン「さんぽ」を設置（石部小学校コミュニティ・ルーム）。保護者の子育て学習の機会を提供している。

■ 特徴的な活動内容

- ・子育てサロン部屋「さんぽ」の設置
毎月 10 日、20 日、30 日 (休日と重なれば前後の日)。
- ・子育てサロンの案内を毎月作成し、発信。
- ・家庭教育支援アンケートで保護者の思いやニーズの把握。

■ 実施に当たっての工夫

子育てサロン「さんぽ」は、保護者同士が趣味を広げ交流を深められる、誰もができる作業や活動を進めながら行う中で、温かい雰囲気づくりを心がけている。

< 菩提寺北小学校 > 隔週水曜日「あすなるカフェ」の開設

■ 活動の概要

子育てに対する不安や悩みを気兼ねなく話せ、子育てで孤立しないように保護者への支援の場をつくるために、「あすなるカフェ」を開設。（菩提寺北小あすなるハウス）

■ 特徴的な活動内容

- ・「あすなるカフェ」の開設
毎月各週の水曜日の午前 10:00～と午後 13:00～各 2 時間

■ 事業の成果

「あすなるカフェ」が何でも話せる場として、少しずつではあるが、相談に足を運んでくれる保護者が定着し、顔馴染みになったり、仲間作りをしてもらえる場となりつつある。

* 学習講座・行事等の実施 *

■ 活動の概要

参加者が子育てについて研修する機会として学習講座・行事等を開催している。

■ 特徴的な活動内容 (代表的な事例)

- ・開催日 平成 28 年 9 月 30 日 (金) 9:30～11:40
- ・場所 菩提寺まちづくりセンター ・参加者 35 名
- ・講師 内藤 紀代子 氏 (びわこ学院大学 講師)
「～ライフスキルを親はどう伝えるか～」



【 折り紙で ほっとサロン 】

■高島市における家庭教育支援の取組

■目指す姿

近年、少子化や核家族化の進行により、兄弟姉妹の数が減少し、保護者が子育てのスキルトレーニングをする機会が減っている。また、地域における人間関係の希薄化が進み、近所で気軽に子育ての悩みを相談できる相手がいなくなるなど地域で孤立する親も増えてきた。

このような状況を踏まえ、祖父母や高齢者の子育てへのかかわりや地域の家庭教育支援を促進し、教育の原点である家庭が、子どもの「生きる力」を育む場として機能することをめざす。

■本年度の活動

①高島市家庭教育支援チーム「パラソル」

- ・子どもの育ちを地域で見守っていくため、組織化した家庭教育支援チームの支援活動を推進。月2回、子育てひろばを開催し、子育てや家庭教育に関する相談対応や学習機会の提供など、定期的な活動を実施。



【家庭教育支援チームパラソルの活動風景】

②地域教育力向上講座

- ・民生委員を対象として、保護者に寄り添う対応をテーマに研修会を実施した。また、地域の子育て支援団体にも参加を呼び掛けた。

③共育研修会

- ・絵本の読み語り（聞かせ）を通して親と子の関わりの大切さや読書が持つ様々な効果を保護者が学ぶことを目的に市内各地域で研修会を開催した。

④子どもにどうかかわりあうか講座

- ・市内の園、学校と連携し、公民館の出前講座として、保護者を対象にその時期に大切にしたいことなど子どもの発達段階に応じたテーマについて、子育て学習の機会を提供し、家庭での教育力の向上を図る。



【子どもにどうかかわりあうか講座開催中の様子】

■本年度の成果

- ・市内の子育て支援関係団体と相互に関係を持ち、連携をすることができた。
- ・子どもにどうかかわりあうか講座では地域の公民館と学校とが連携を図り、各学校が課題としている内容の講座を実施し、広く保護者に子どもとのかかわりあい方について提供した。

■今後の課題

- ・家庭教育支援チーム員の支援力の向上
- ・家庭教育に関係する団体との協働体制

家庭と地域が、子どもの「生きる力」を育む場に

■ 高島市	
■ 活動	
(○) 地域人材の育成 (○) 家庭教育支援チームの設置・活動 (○) 学習講座・行事の実施	
講座数 (年間活動日数)	27 講座 (年間活動日数 24 日)

コーディネーター数	1 人
家庭教育支援員数	18 人
実施開始年度 (H26)	実施学校区数 (13) 小学校区

【学習講座・行事等の実施】

共育研修会

- 活動の概要
 - ・絵本の大切さを学ぶ研修会を開催
- 特徴的な活動内容
 - ① 日 時：平成 28 年 5 月 20 日 (金)、27 日 (金)、6 月 3 日 (金)
 - ・午前 10 時～11 時 10 分
 - ・午後 2 時～3 時 10 分
 - ② 内 容：「読み語りの持つ力～大切にしたい親子の触れ合い～」
 - 講師 京都橘大学 人間発達学部 児童教育学科助教 吉田 裕子 氏
 - ③ 参加者：1～2才児の保護者
- 実施に当たっての工夫
 - ・図書館と連携し、対象者向けの絵本や持ち運びの貸出機を準備した。
- 事業の成果
 - ・絵本の読み語りを通して、親子のつながりが深まることを認識する機会となった。



【読み語りの様子】

子どもにどうかかわりあうか講座

- 活動の概要
 - ・市内小中学校および幼稚園、保育園の保護者を対象に子育てや家庭教育について学ぶ機会を提供。
- 特徴的な活動内容
 - ① 実施期間：平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月
 - ② 対象：市内小中学校および保育園・幼稚園 (私立を含む。) の保護者
 - ③ 内容：各学校、保育園ごとにその課題に対し協議して実施
- 実施に当たっての工夫
 - ・PTA 事業との共催や、授業参観に引き続いて行うなど、参加しやすい開催方法を心がけた。
- 事業の成果
 - ・普段は講演会等に参加されない方も参加ができ、その年代の子どもにどう関わっていくかの大切さを再確認する機会となった。



【子どもにどうかかわりあうか講座開催中の様子】

【支援チームの設置・活動】

高島市家庭教育支援チーム「パラソル」

- 活動の概要
 - ・家庭教育に関する相談対応や親子で参加する取組や講座などの学習機会の提供や相談会など家庭教育支援の拠点活動を行う。
- 特徴的な活動内容
 - ・毎月第 2 水曜日と第 4 土曜日に、「ひろばパラソル」と称し、子育てひろばを開催。相談対応については、話を聴くことを基本として、チーム員自身の子育て経験等から対応し、困難ケースについては、専門機関に繋ぐこととしている。
- 実施に当たっての工夫
 - ・毎月平日に 1 日、土曜日に 1 日活動を行い、幅広く支援ができるように努めている。
- 事業の成果
 - ・継続的な活動により利用者のリピーターが増え、支援員と信頼関係を築いている保護者も増えている。
- 事業実施上の課題
 - ・今後、子育て支援センターとの違いを出していく必要がある。
 - ・今まで参加したことがない親御さんに来てもらえるような活動をしていく必要がある。

■ 日野町における「地域で子育て」青少年健全育成の取組

■ 目指す姿

子どもは地域の宝であり、地域で優しく見守られながら育っていくことが望まれている。しかし、近年は子どもや地域を取り巻く生活環境の変化等により、個々の関係性が希薄化し、昔のような地域の人・モノ・資源との関わりが少ないまま成長している子どもが少なくない。

そこで当町では「地域で子育て」という誰にでも分かりやすいメッセージを発信し、次代を担う子どもたちに地域全体で関わり育てるという意識を浸透させるとともに、学校・家庭・地域・行政の連携のもと多くの方が関わるなかで、子どもたちが地域の愛情を感じながら心豊かに成長することを目指している。



【子ども食堂の事例発表】

■ 本年度の活動

小・中・高校生らの思いの発表の場である青少年意見発表大会の開催に合わせ、「日野町地域子育てフォーラム 2016」を開催した。フォーラムでは『地域で子育て支援』をテーマに町内で子どもたちを大事にする垣根のない居場所づくり、子ども食堂を開催されている活動団体から先進事例の発表とパネルディスカッションを行い、地域全体で子どもを育てていくことの大切さを確認した。

■ 本年度の成果

「日野町地域子育てフォーラム」は、行政のほかに学校やPTA、地域団体など青少年に関わる諸団体が連携して取り組むことができ、参加した地域の大人に地域でできる関わりや役割について理解を深めてもらうことができた。

■ 今後の課題

大人が子どもと同じ目線に立って、表情や言葉をしっかりと受け止め、子どもたちの意見や考えていることを理解する。そして、子どもの成長を気づかい、それぞれの家庭で親子のふれあいを大切にし、社会のルールやマナーを教え、基本的な生活習慣を身につけさせ、地域全体で子育て環境のあり方を見直すことの重要性について、今後、継続的に議論していく必要がある。



【青少年意見発表大会】

「みんなが助け合う社会」「相手を思いやるやさしい社会」「みんなが笑顔であいさつのできる社会」をつくり、子どもが健やかに成長できる地域社会をみんなで築きあげていくことが望まれる。

■ “日野町のたから”を未来につなぐ 心豊かでたくましい人づくり

■ 日野町	
■ 活動	
(○) 地域人材の育成	
() 家庭教育支援チームの設置・活動	
(○) 学習講座・行事の実施	
講座数(年間活動日数)	19講座

コーディネーター数	1人
家庭教育支援員数	8人
実施開始年度(H 2 2)	実施学校区数(5小校区)

■ 活動の概要

就学前学習講座(5講座)、PTA等子育て学習会(9講座)、子育てサロン学習会(5講座)、マイナス1歳からの子育て講座(3講座)を実施している。

また地域人材の養成として、子育て支援チーム会議(6回)、子育てサポーター会議(5回)を実施し、庁内の関係者と地域の子育て支援関係者が連携して人材発掘の情報交流の機会をもっている。さらに子育て支援の輪を広げるために子育てサポーター養成講座(3回)を平成29年2～3月に予定している。



【就学前学習講座】

■ 特徴的な活動内容

家庭での教育力の向上を目的に、幼稚園や小学校など保護者が集まる機会(授業参観、1日入学など)に、家庭での子どもとの関わり方、子育てで大切にしたいことなど、子育てや家庭教育について学ぶ場を提供している。また、命の宿ったマイナス1歳(胎内)からの子どもの成長、発達について学び「子育ては楽しくかけがえのないもの!」と思えるパパ・ママをめざそうと新たな試みとして子育て講座を開催した。

■ 実施に当たっての工夫

子育て応援通信「ゆっくりおおきなあれ」(毎月1日発行)を庁内の子育て関係課(日野町子育て支援チーム)が連携して発行している。町内の子育てサロン事業や親子でつどえる行事などの情報のほか、保健師や図書館司書、臨床心理士から子育てに役立つ豆知識、時期や季節に合わせた内容になるように工夫したり、行事予定をカレンダー化することによって各種のイベントや学習会に参加しやすい情報提供となるように心がけている。

また、「マイナス1歳からの子育て講座」では、父親にもたくさん参加してもらえるように、開催日を土・日曜日に設定した。

■ 事業の成果

○就学前学習講座

小学校入学という節目を迎える時期にあたり、1日入学などの機会を捉え、この時期に大切にしたい子育てのことやこれからの子どもとの関わり方について学ぶ機会としている。保護者からは「この時期に聞いて良かった」「子どもの気持ちを理解することや子どもへの寄り添い方が勉強になった」など概ね高評価を得ている。

○PTA等子育て学習会

実施単位をPTAにすることで、校園によって違う子育ての課題について理解を深める機会となっている。また、保育所の保護者会も対象とし、より多くの方に学習機会を提供することができた。

○子育てサロン学習会

在宅で子育てをされている保護者が対象であるが、幼稚園(保育所)に通わせている保護者と比べ、保育士などの子育てについて相談できる子育て支援者が少ないことから、日頃の育児不安や悩みの解消に向け貴重な学習機会となっている。

○マイナス1歳からの子育て講座

父親の子育て参加が母親の負担を和らげ、子どもに関心をもてる気持ちの余裕やそれが子どもにとっても健やかな育ちにつながるなど、父親の育児参加促進には大きな効果が望める。

■ 事業実施上の課題

○各種学習会

地域によって参加率に差があり、今後も参加者が増えるよう呼びかけを工夫していきたい。また、保育所や幼稚園に就園せず、在宅で子育てをしている親子へ、どのように学習機会を提供するかが課題となっている。

○子育てサポーターの育成

ここ数年子育てサポーターの増員が進まず、固定化されたメンバーとなっている。養成講座は受講されるもののサポーターとして登録・活動されるに至らない場合もあり、より多くの方に受講してもらうことはもちろん、受講後のサポーター育成にも力を注いでいく必要がある。



【マイナス1歳からの子育て講座】

■竜王町における取組（家庭教育支援事業）

■目指す姿

未来を担う子どもたちを健やかに育むためには、学校・家庭・地域住民等がそれぞれの役割と責任を自覚しつつ、地域全体で子どもたちを育む体制づくりを目指す必要がある。

そのため、学校・家庭・地域が連携協力し、学習や相談機会を提供することを通じて、子育てについての悩みを共感するだけでなく、同じ子育てをする仲間として互いに支えあえるような保護者同士の関係づくりを支援する。

併せて、幼少中の子どもを持つ保護者同士の連携を深め、家庭と地域の教育力を高めるとともに、子どもたちの「生きる力」の向上に努め、子どもの夢と希望を育む。

■運営委員会の設置

委員会名称	竜王町家庭教育支援運営協議会		開催数	2	委員数	10
委員名簿	氏名	所属・役職等	氏名	所属・役職等		
	寺嶋 恭子	幼稚園教頭	柴田 清志	幼稚園PTA会長		
	福本 綾子	西幼稚園教頭	西村 真志	西幼稚園PTA会長		
	田鍋 正寿	小学校教頭	犬井 新吾	小学校PTA会長		
	新庄 証	西小学校教頭	谷口 暁洋	西小学校PTA会長		
	武久 雅則	中学校教頭	若井 清次	中学校PTA会長		

■本年度の活動

講師等との事前打合せ（意見交換）

参加のためのチラシ作成と啓発活動

3月中旬 次年度事業内容の検討会

■本年度の成果

「楽しもう！夢と希望を育む子育てを語り合おう！親育ちのために」をスローガンに開催した町全域を対象とした教育フォーラムでは、子どもたちの夢や希望を育み、親が育つための研修ができた。

また、各学校園単位で講座・行事を開催することにより、同じ悩みを抱えている保護者同士の関係づくりやこれからの子育てに生かしていただくための支援することができた。

■今後の課題

子育て支援講座時の参加者がまだまだ少ないので、周知方法など参加者を増やすための対策を検討していく必要がある。

子どもたちの夢や希望を育もう！

■ 竜王町	
■ 活動名	
() 地域人材の育成	
() 家庭教育支援チームの設置・活動	
(○) 学習講座・行事の実施	
講座数(年間活動日数)	9講座

コーディネーター数	3人
家庭教育支援員数	10人
実施開始年度(H22)	実施学校区数(2)校区

■ 活動の概要

○子どもたちの夢や希望を育て、親子が共に育つための研修会を開催する。

○町内のPTAと一緒に研修会を開催することで互いの情報交換を行い、地域・関係団体との連携を深める中で地域の教育力を醸成させる。

■ 特徴的な活動内容

【竜王幼稚園】

○お弁当作り講習会

9月6日(火)開催。対象は3歳児保護者。3歳児のお弁当開始に伴い、子どもたちへの「食」に対する関心を持ってもらうための「子どもの喜ぶお弁当」「簡単に作れておいしいおかず」「野菜を使ったメニュー」などを習得し、親のお弁当作りへの関心、無理なくお弁当作りに取り組める機会を提供すると共に、子どもへの食を通しての子育てに生かす。



【お弁当作り講習会】

【竜王小学校】

○子育て講演会

11月5日(土)開催。対象は児童、保護者。人間関係が築けない、コミュニケーションがとれない、また、学校に行きたいけれどいけない子ども、悩んでいる子どもたちや家族も多くいる中、今までの体験を公演ライブという形で全児童・保護者に訴えかける形で開催した。

【竜王西小学校】

○子育て教育講演会

10月24日(月)開催。対象は保護者、教職員。「子どもの自主性を育てる時間管理術」と題し、子どもの自主性を育て、自己肯定感を高めることができる時間管理術について学習した。

○竜西フェスティバル

11月12日(土)開催。対象は小学生、保護者。地域を題材にした大型の紙芝居の朗読を通して、地域の文化や歴史を学び、郷土を愛する心情を育てる。また、ダンスや科学実験など親子で参加体験し地域の人との交流を深める。



【竜生フェスティバル】

【竜王町教育フォーラム2016】

11月19日(土)開催。対象は保護者、教職員。平成28年度竜王町PTA連絡協議会がかかげる「楽しもう！夢と希望を育む子育てを語り合おう！親育ちのために。」のスローガンに基づき、子どもたちの夢や希望を育み、親が育つための研修会を実施。

■ 参加者の主な感想

○9月6日(火)竜王幼稚園で開催したお弁当づくり講習会では、上の子どもの時にも参加させていただき、今回もぜひお弁当作り講習会に参加したいと思っていました。みんなに励ましてもらいながら出来上がりました。簡単に作れるものを教えてもらったので小学校の運動会のお弁当にも活用したいと思っています。

一品一品のアイデアに乏しい私にとって、今日教えていただいたレシピは、本当に私にも出来るか不安でいっぱいでした。でも、混ぜる→包む→焼くなど、簡単なものでどれも美味しくできました。初めは緊張しましたが、地域の料理グループの方々と一緒に調理できたのでとても良い経験になりました。などの感想をいただきました。

○11月19日(土)竜王町教育フォーラム2016では、現代において忘れてしまっている人生の基礎となる思考、考え方を教えていただきました。未来を担う子どもたちをどう育てていくか試行錯誤しながらも一緒に成長していきたいと強く思いました。自分がきちんと子どもと毎日向き合って話を聞いてあげられているかなと不安になったと同時に、少しずつそうになりたい。子どもを見守り、必要な時に必要な助けをしてあげたいと思いました。などの感想をいただきました。

■ 事業の成果と今後の課題

○参加されると「良かった」という感想を持ってもらえるが、そこに至るまでのアピールが十分でないため、参加者にも限りが見られる。もっと多くの方に興味関心を持っていただけるような周知の方法を考えていくことが必要である。

平成28年度 土曜日の教育支援活動一覧

「学ぶ力」学習支援型: 4市2町10教室 体制構築型: 3市1町29教室

市町名	教室数	活動名	主な実施場所	「学ぶ力」 学習支援型	体制 構築型	委託	委託団体名
彦根市	1	土曜教室「てみる」	中央中学校	○		○	中央中学校区 支援地域協議会
甲賀市	10	水口中央公民館 地域で創る 土曜日「夢の学習」	水口中央公民館		○		
		水口中央公民館 地域で創る 土曜日「夢の学習」	水口中央公民館		○		
		土山中央公民館 親子ふれあい講座	土山中央公民館		○		
		土山中央公民館 子ども公民館講座	土山中央公民館		○		
		KOKA楽こども公民館「甲賀★忍者隊」	かふか生涯学習館		○		
		KOKA楽こども公民館「こども天体クラブ」	かふか生涯学習館		○		
		甲南公民館 親子・家族のわくわく講座	甲南公民館		○		
		甲南公民館 子ども体験講座	甲南公民館		○		
		信楽中央公民館 親子食育講座「野菜の収穫と料理教室」	信楽中央公民館		○		
信楽中央公民館 遊学舎「野鳥のお家をつくろう」	信楽中央公民館		○				
野洲市	1	篠原地域子ども教室 しのっ子・ジュニアオーケストラ	コミュニティセンターしのほら	○		○	野洲市 地域教育協議会
湖南市	9	いしべっ子学習教室	石部小学校・石部まちづくりセンター	○			
		みなみっ子土曜講座	石部南小学校・石部南小学校区内各施設		○		
		さんさん教室	夏見公民館・柑子袋まちづくりセンター		○		
		ひがしっこ教室	三雲児童館・三雲まちづくりセンター		○		
		菩提寺小土曜日教室	菩提寺小学校・菩提寺まちづくりセンター		○		
		あすなろわくわく教室	菩提寺北小学校・菩提寺まちづくりセンター		○		
		岩根小土曜教室	岩根まちづくりセンター	○			
		しもしょう土曜教室	下田小学校		○		
		水戸小学ぶかアップ！教室	水戸小学校・水戸まちづくりセンター	○			
東近江市	9	蒲生マックスクラブ そろばんクラブ	蒲生コミュニティセンター	○			
		蒲生マックスクラブ あかねジュニアバンド	蒲生コミュニティセンター		○		
		蒲生マックスクラブ ITキッズクラブ	蒲生コミュニティセンター		○		
		蒲生マックスクラブ 陶芸クラブ	蒲生コミュニティセンター		○		
		蒲生マックスクラブ KIDS FLOWER	蒲生コミュニティセンター		○	○	蒲生地区 地域教育協議会
		蒲生マックスクラブ 蒲生野太鼓わらべ組	蒲生コミュニティセンター	○			
		蒲生マックスクラブ マックスダンス(初級)	蒲生コミュニティセンター		○		
		蒲生マックスクラブ マックスダンス(上級)	蒲生コミュニティセンター		○		
		蒲生マックスクラブ 茶道クラブ	蒲生コミュニティセンター		○		
竜王町	8	書道クラブ	竜王町公民館	○			
		学力アップ教室	竜王町公民館	○			
		和太鼓クラブ	竜王町公民館		○		
		チャレンジクラブ	竜王町公民館		○		
		宇宙科学クラブ	竜王町公民館		○		
		絵画クラブ	竜王町公民館		○		
		料理クラブ	竜王町公民館		○		
		吹奏楽教室	竜王町公民館		○		
多賀町	1	土曜講座(サタスタ)	あけぼのパーク多賀	○		○	株式会社ケイ・エム・ ジーコーポレーション
計	39			10	29		

彦根市における土曜日の教育支援の取組（「学ぶ力」学習支援型）

持続発展教育(ESD)持続可能な社会・次代を担う彦根の子どもを地域のみんで守り育てます。

■目指す姿

○地域の多様な経験や技能を持つ人材・NPO、企業等の参画により、土曜日に体系的・継続的なプログラムを計画・実施する取組を支援し、教育支援体制の構築を図ることにより、子どもたちにとってより豊かで有意義な土曜日を実現する。

■本年度の活動

[学ぶ力を育てる土曜学習支援]

土曜学習支援：中央中学校で実施する。学び育ち教室 Learning Links の発展としての位置付け。

○「土曜教室 てみる」— 子どもの「〇〇てみる」を応援する

・彦根市立中央中学校における土曜教室を開講。大学生や地域社会人らによる学習補助やコミュニケーションを通じて、子どもたちの学びへの動機付け（来てみる・やってみる・失敗してみる）や将来のロールモデルを見つけることをねらいとする。

○活動内容

・開講日：第1および第3土曜日の月2回（プログラムを試行しながら内容の充実を図る。）

6月4日(土)よりスタートする。20名1クラスで、子ども2人に推進員等が1名配置。

授業の最初にはプリント学習で気持ちの準備を図る。プリントの後、各自の宿題・課題・ワークブック（学校支給のものが良い）を行う。

・時間割の例：①プリント学習（漢字検定／数学検定）と答え合わせ（20分）②学習時間（40分）③休憩（10分）④学習時間（40分）⑤サポーターとの交流活動（10分）

※クラス終了後、サポーター間の振り返り（30分）

○実行委員会の開催（年2回）

・構成委員：16名（各中学校管理職、地域コーディネーター、土曜学習コーディネーター、彦根PTA連絡協議会会長）

・事務局：生涯学習課長、主幹、学校教育課長、副主幹

・7月12日(火)事業説明・実践交流 ・2月9日(木)研修会・次年度計画

○学校訪問11月 中央中学校訪問 土曜学習支援事業の進捗状況の把握、今後の取組の確認

■本年度の成果

○個別指導をベースとしたきめ細かな指導ができた。それぞれの生徒のニーズ、スピードに応じた学習活動が展開できた。

○学習支援者の真摯な指導姿勢により、充実した学習支援活動が継続できた。

○土曜学習コーディネーターの連絡・調整により計画的な取組みが展開できた。

■今後の課題

○事業を支える支援ボランティアの確保（学習支援に係る学生ボランティア等）、人材バンクの整備

■その他

○彦根市では、ESD（持続発展教育）教育、持続可能な社会を担う人づくりを進めている。さらに「地域とともにある学校」の創造にも力を入れる。



【土曜教室てみる】

土曜学習支援「土曜教室 試みる」

■ 彦根市	
■ 活動名	
土曜教室「試みる」 (「学ぶ力」学習支援型)	
年間開催日数	19 日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	29 人
子どもの平均参加人数	12 人

■ 活動の概要

子どもたちの土曜日の教育環境の充実に取り組む「地域の豊かな社会資源を活用した土曜日の教育支援体制等構築事業」として、彦根市内中学校に先駆けて昨年9月から土曜学習支援「土曜教室 試みる」をスタートした。この教室は、学校の教員ではなく、土曜教室コーディネーターと地域の大学生や社会人による教育推進員が運営している。子どもたちへの学習補助や推進員との対話を通じて、学びへの動機付け（来てみる・やってみる・失敗して学ぶ）や将来になりたい姿を見つけることなどをねらいとしている。

- 目的
- ・学習習慣の定着を図る。
 - ・基礎学力を補充する。
 - ・支援員との対話を通してコミュニケーション能力を身につける。
 - ・将来になりたい自分を見つける。

○場所 中央中学校

○期間 平成28年6月～平成29年3月

- 学習内容
- ・100マス計算など、学習へのウォームアップを行う。
 - ・各自の学習課題に取り組む。
 - ・土曜教室で準備している学習教材に取り組む。

○参加人数（前期）

回	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回
参加人数	13人	12人	8人	11人	12人	11人	10人	15人	12人	12人

■ 特徴的な活動内容

学習補助による基礎学力の定着と対話によるコミュニケーション能力・社会性の向上を目的に、授業教材・ワーク、プリントを使った自主学习をベースにわからない箇所の指導をしている。

■ 実施に当たっての工夫

多くの子どもに参加機会を与えるために、前期10回（6～11月）、後期9回（12～3月）に分けて参加生徒を募集した。

学習面では、教室の最初に100マス計算や漢字検定プリントを行い、学びへのウォームアップをしている。また生徒の個別ファイルをつくり、教室で使ったプリントなどをその場でファイルに綴じ、自身の学習記録として保存している。

一日の学習計画として、プリント⇒宿題・ワーク40分⇒休憩10分⇒宿題・ワーク40分⇒対話としているが、子どものコンディションに合わせて時間配分・学習内容を決定している。

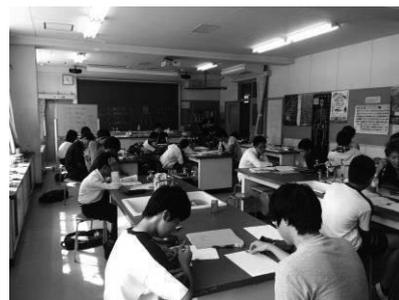
学校での教員と生徒の関係ではなく、ナナメの関係で接することを大切にしている。子どもと推進員との人間関係を築くために双方が名札を着用する。名札には「好きなこと、はまっていること」などを記載し互いを知るツールとして使っている。関係性が浅い時点では、子どものことを質問するのではなく、先に推進員が自己開示するなど安心感を与えることが大切である。学習指導では「～しなさい」という強制はせず、「～してみる？」という声かけで子どもの自主性を促すことに努めている。

■ 事業の成果

定員を20名としているが、16名の参加希望があった。ただ上記のとおり、実際の出席者は平均12名程度であり、10名余りの推進員とほぼマンツーマンでの学習指導となった。場面緘黙など個々に課題を抱える生徒もいて、子どもたちにとっては、大変充実した学習の場となった。また、家庭学習がなかなか定着しない生徒も複数名おり、土曜教室に参加することで、一定時間集中して学習することができた。

■ 事業実施上の課題

地域人材を活用して推進員を集めるのは大変であり、コーディネーターのつながりで集めているが、その人員確保が大変である。子どもへの学習指導を考えると、推進員の人数も大切であるが、あわせて指導力を充実させることも必要である。



【土曜教室の授業風景1】



【土曜教室の授業風景2】

■ 甲賀市における土曜日の教育支援の取組 (体制構築型)

■ 目指す姿

体験活動を通してさまざまな人、もの、知識や技術と出会い、その積み重ねにより子どもの成長を育み、親子の絆を深める。子どもと地域との交流、連携、学習意欲の向上、仲間づくりを図り、学習を生かす機会を提供することによって、社会還元を促す。

■ 本年度の活動

地域の多様な経験や技能を持つ人材・高等学校・企業等の協力を得ながら、土曜日、休日に各地域の公民館において、親子教室や子ども教室を開催した。

担当職員を対象に、企画から事業評価まで、事業実施に向けて研修を行った。

■ 本年度の成果

子どもたちの安全・安心な居場所づくりができた。

地域の方々の参画を得て、地域交流が図れた。

■ 今後の課題

広報紙や学校を通じてチラシを配付しているが、参加者が少ない教室もあり、チラシ作成の工夫、啓発活動の工夫が必要である。

また、子どもたちにとってより豊かな魅力ある事業の展開が必要である。

さらに、地域の人材発掘、人材育成にも力を入れたい。

■ その他

市内公民館合同で、毎年、「夏休み工場見学」を実施している。子どもたちが市内の工場や施設を見学し、企業を知ることによって将来への幅を少しでも広げてもらうことができ、また、地域を学ぶことで郷土愛を育む機会となるよう企画した。

また、11月3日に、企業や高等学校、シルバー人材センター等の協力を得て、いろいろな体験コーナーを設け「まなびの体験広場」を開催した。

甲賀市URL : <http://www.city.koka.lg.jp/>



【まなびの体験広場 2016 (平成 28 年 11 月 3 日開催)】

■ 地域で創る 土曜日「夢の学習」(親子対象)

■ 甲賀市	
■ 活動名 水口中央公民館 地域で創る 土曜日「夢の学習」 (体制構築型)	
年間開催日数	45日

コーディネーター数	2人
土曜教育推進員数	50人
子どもの平均参加人数	100人

■ 活動の概要

体験活動を通してさまざまな人、もの、知識や技術と出会い、その積み重ねにより子どもの成長を育み、親子の絆を深める。

【主な活動内容】

英語でおしゃべり会、韓国語でおしゃべり会、親子囲碁教室、親子将棋教室、絵画教室、ハンドクラフト、ニュースポーツ、親子健康体操、空手、料理教室 等 全部で約30講座

■ 特徴的な活動内容

甲賀市内の小学1年生から6年生の子どもとその保護者(親子)を対象としている。

■ 実施に当たっての工夫

講師は、できるだけ地元の方をお願いするようにしている。
内容によっては子どもが講師となっているものもある。(親子将棋教室)

■ 事業の成果

各講座とも、楽しみながらもしっかりと学び、活動できている。実際にいろいろと体験する中で、よりよい感性が磨かれている。

保護者の方にとっては、普段の生活ではなかなか見られない子どもの様子や、自分が思ったより成長している我が子の姿を実感できる場ともなっているようである。

講師の方も、一度にたくさん子どもたちとふれあえる貴重な体験となっている。

■ 事業実施上の課題

学校を通じて講座のお知らせをして、たくさんの方が参加されているが、まだまだこの講座のことを知っておられない保護者もいらっしゃるようである。

ボランティアスタッフの人数がまだまだ足りない。もっとたくさんの方にかかわってもらう必要がある。



【みんなで楽しく体を動かそう！
(ニュースポーツ)】



【好きなように作れるからいいね！
(ハンドクラフト)】

■ 地域で創る 土曜日「夢の学習」(子ども対象)

■ 甲賀市	
■ 活動名 水口中央公民館 地域で創る 土曜日「夢の学習」 (体制構築型)	
年間開催日数	45 日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	10 人
子どもの平均参加人数	20 人

- 活動の概要
体験活動を通して、さまざまな人、もの、知識や技術と出会い、その積み重ねにより子どもの成長を育み、親子の絆を深める。

【主な活動内容】

算数、国語、空手、読書活動、粘土の貯金箱 等 全部で約40講座

- 特徴的な活動内容
甲賀市内の小学1年生から6年生の子どもを対象としている。
- 実施に当たっての工夫
講師は、できるだけ地元の方をお願いするようにしている。
内容によっては子どもが講師となっているものもある。(けん玉教室)
夏休みの講座では、滋賀県が実施している出前講座も取り入れた。(滋賀県統計課・しが統計キッズクイズ、県立近代美術館・コラージュ)
- 事業の成果
各講座とも、楽しみながらもしっかりと学び、活動できている。
実際にいろいろと体験する中で、よりよい感性が磨かれている。
講師の方も、一度にたくさん子どもたちとふれあえる貴重な体験となっている。
- 事業実施上の課題
ボランティアスタッフの人数がまだまだ足りない。もっとたくさんの方にかかわってもらう必要がある。



【どんな形にしようかな？(粘土の貯金箱)】



【美術館の「博士」も来て楽しかったね！
(コラージュ)】

親子の「知りたい」「学びたい」をお手伝い

■ 甲賀市	
■ 活動名	
土山中央公民館 親子ふれあい講座 (体制構築型)	
年間開催日数	5 日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	8 人
子どもの平均参加人数	14 人

■ 活動の概要

親子で、力を合わせて「ものづくり」通して絆を深める。

■ 特徴的な活動内容

- 調理 (ピザづくり) 6月18日 (10名)
- 自然体験 (カブト虫さがし) 7月23日 (7名)
- 作品制作 (木工クラフト) イスづくり 8月20日 (9名)
- 人権学習 (親子人権講座) 9月29日 (30名)
- 学習 (くすりについて) 11月19日 (中止)
- 学習・調理 (英語でクッキング) 12月17日 (8名)

■ 実施に当たっての工夫

昨年度までは、作品制作を多く開催してきたが、今年度はできるだけ体験を多く取り入れた。また、体験を通した中で、地場産業や英語などの学習要素も多く取り入れた。子どもの数が減少する中、中学生にも対象を広げ、公民館を身近に感じてもらえれば幸いと考える。

■ 事業の成果

参加者はどの事業についても大変楽しんでいった。講座だけではなく、普段から図書室や遊びにも来館され、気軽に立ち寄れる近所の公民館として役割は果たせていると感じる。市内の他の公民館とも連携し、よい講座を展開していきたい。

■ 事業実施上の課題

一度参加されると講座の雰囲気にも慣れ次の講座にも参加しやすくなるが、まずは第一歩を踏み出していただけるように周知の方法を考える必要がある。また近年の少子化やスポーツクラブへの参加等で参加される子どもが減少傾向にある。



【ピザづくり】



【カブト虫さがし】

■ あいの土っこ “きらねっ人” いきいき活動

■ 甲賀市	
■ 活動名	
土山中央公民館 子ども公民館講座 (体制構築型)	
年間開催日数	10 日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	30 人
子どもの平均参加人数	21 人

■ 活動の概要

地域の大人が指導者・スタッフとなり、さまざまな体験活動を行っている。

■ 特徴的な活動内容

特産品や季節に応じたおやつづくり (いばらだんご、いちご大福)

作品制作 (折り紙、紙飛行機、スライム、ペットボトル工作)

ふれあいあそび (おじゃみ、輪投げ、けん玉、カロム、積み木、布製オセロ、かるた)

■ 実施に当たっての工夫

ボランティアバンクに30人の登録があり、事業への参加はその都度登録者に案内し、協力を求めている。

また、保護者に送迎をしていただいている。子どもが参加しやすいように4つの公民館や町内の公共施設を巡回して開催実施している。文化祭や宿場まつりなど地域での事業にも協力して参加者が増えるようにしている。

■ 事業の成果

特に夏休みの「あそびのひろば」では、長期休暇中に友達と出会えて楽しく過ごしておられた。参加児童も多く、休日の受け入れとしてまだまだ必要であると考えます。

■ 事業実施上の課題

年々、参加者が減少傾向にあり、内容のマンネリ化も課題のひとつである。地域のヒト・モノを活かしながら、新しい体験活動(メニュー)を取り入れるなどの工夫が必要である。また、ボランティアが高齢化しており人数も減少傾向にあり、新しいボランティアの育成が必要である。



【折り紙 (区民祭り)】



【スライム (あそびのひろば)】

■ 飛び出せ！ ちびっこ忍者たち（甲賀★忍者隊）

■ 甲賀市	
■ 活動名	
KOKA楽こども公民館「甲賀★忍者隊」(体制構築型)	
年間開催日数	7 日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	3 人
子どもの平均参加人数	6 人

■ 活動の概要
 野外活動やものづくりなどの様々な体験を通して子どもたちの創造性を育むとともに、グループ活動を行うことで自主性や協調性を養う機会とする。

■ 特徴的な活動内容
 デイキャンプ・・・市内キャンプ場で行う野外活動。空き缶を利用した炊飯やネイチャーゲームなどを行う。
 旅研修・・・全員が協力してクイズを解いたり、チェックポイントを探したりしながら、あらかじめ設定された目的地を目指す。旅をする中で目的地の歴史や文化だけでなく、公共交通機関の乗り方や人との関わり方なども併せて学ぶ。

■ 実施に当たっての工夫
 子どもたちに目的意識を持たせるとともに、協力することの重要性に気付かせるようなプログラムとなるよう工夫している。また、事業に関わるスタッフのモチベーションを上げるため、自らも楽しめるような内容を心がけている。

■ 事業の成果
 スタッフや地域住民とも活発な交流が図られている。また、継続して受講している子どもは知識も深まり、リーダーシップも発揮しつつある。活動を通じて他校の子どもたちと積極的に関わろうとする姿も見られ、ほぼ全員が毎回参加していることから、活動を楽しみにしている様子が伺える。保護者からも当事業の活動に期待する声が多く聞かれ、スタッフもやりがいを感じながら事業に参加できている。

■ 事業実施上の課題
 スタッフの就職や結婚、出産などにより、毎回の事業実施に必要な人員を確保することが困難となり、開催直前にプログラム内容の見直しを迫られるケースが増えつつある。事業の安定的な実施や安全確保の観点からも、早期に新たな人材を育成することが求められている。



【空き缶でご飯を炊こう！】



【竹でmy箸、myお椀づくり】

■ めざせ！ 天文はかせ（こども天文クラブ）

■ 甲賀市	
■ 活動名 KOKA楽こども公民館「こども天文クラブ」 (体制構築型)	
年間開催日数	8 日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	4 人
子どもの平均参加人数	23 人

■ 活動の概要

天文知識の向上と仲間づくりを目的とし、子どもたちの交流を図りながら併せて環境問題についても考える機会とする。

■ 特徴的な活動内容

- 天体観望・・・西日本最大級の屈折型天体望遠鏡を使い、太陽系内外の惑星・恒星の観望や季節の星座について学ぶ。
- 流星群観察・・・8月のペルセウス座流星群を親子や友達などと一緒に観察する。
- 市外研修・・・大津市科学館、名古屋市科学館のプラネタリウムや館内展示などを見学する。
- クラフト工作・・・太陽系の惑星や月、人工衛星、星座早見盤などのペーパークラフトを作る。

■ 実施に当たっての工夫

当館で定期的（月1回）に開催している天体観望会にも将来スタッフとして協力いただけるよう、新たな人材育成の場としても位置付けている。また、市外研修など当施設外での活動を実施する場合は、2～3人を一組としたバディを組んだうえでグループ行動をさせるようにし、事故の未然防止を図るよう注意している。さらに、毎回天体に関するミニ知識を記載した出席カードを作成して参加者に配付、すべて参加した受講者にはささやかなプレゼントと表彰状を渡すなど、子どもたちの学習意欲を喚起するような工夫もしている。

■ 事業の成果

毎年多くの受講申込みがあり、定員超過により抽選を行う場合もあるなど、当館において最も人気の高い講座である。当講座は市内では当館のみで開催しており、受講者は学区内にとどまらず市内の広範囲に渡るため、多くの小中学校の児童・生徒の交流が図れる貴重な機会ともなっている。

■ 事業実施上の課題

天文現象は深夜から未明にかけて出現することが多いが、小中学生を対象とした事業であることから、観測に適した時間に開催することは困難であり、プログラムがマンネリ化する傾向がある。また、内容的に比較的高度な専門知識を要することから人材確保は困難を極めるが、今後も安定的に事業を実施していくためにも、早期に新たな指導者・スタッフなどの人材育成を図る必要があるものと考えている。市内や近隣の高校・大学のクラブ（天文同好会）などに呼びかけ、生徒や学生にスタッフとして参画いただくような方法も模索しているが、現実的には難しいのが実情である。



【大型天体望遠鏡での惑星観察】



【大津市科学館見学】

親子・家族のわくわく講座

■ 甲賀市	
■ 活動名	
甲南公民館 親子・家族のわくわく講座 (体制構築型)	
年間開催日数	4 日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	3 人
子どもの平均参加人数	26 人

■ 活動の概要

親子・家族で生活・自然体験を通じ、親子・家族の絆を深め、さらに参加者同士の交流を促し地域の絆を深める。また、公民館が実施する家庭教育支援に位置づける。

■ 特徴的な活動内容

プランターづくり
木の実クラフトワーク (図書館と合同)
米粉ガトーショコラづくり
料理

■ 実施に当たっての工夫

子どもの自主性、自立心を向上させるため、子どもが主体的に活動し、大人はサポート役で参加できるよう事業展開している。危険だから親が全てをやるのではなく、子どもができること、親がしなければならないことを講師と事前に打ち合わせている。また子どもと保護者がいっしょに作業する楽しさを感じられるように、ある程度の自由度を持たせている。

■ 事業の成果

アンケート結果は満足度が高かった。「普段とは違う子どもの姿が見られた」や「親子で参加してよかった」などの声が聞かれ、また、事業継続を希望する意見が多数あった。木の実クラフトワークでは、自らの力だけで完成させたり不慣れな道具を懸命に扱う児童があったことから、体験活動を通じ主体性やチャレンジ精神の醸成につながったと思われる。また他機関との合同事業の可能性を広げたと考えられる。

■ 事業実施上の課題

親子関係がある程度成熟していると思われる親子・家庭の参加が大半であり、参加しづらい親子・家庭に対する家庭教育支援をどのように実施していくべきかが課題である。



【プランターづくり】



【木の実クラフトワーク】

子ども体験講座

■ 甲賀市	
■ 活動名	
甲南公民館 子ども体験講座 (体制構築型)	
年間開催日数	4 日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	3 人
子どもの平均参加人数	24 人

■ 活動の概要

生活・社会体験を通じ、子どもが心身ともに健やかに成長していく上で大切なコミュニケーション能力や協調性を育む。また、公民館が実施する子ども教育支援に位置づける。

■ 特徴的な活動内容

科学
ものづくり
音楽祭

■ 実施に当たっての工夫

町内児童・生徒の手に行き渡るよう、学校と連携しチラシを配布している。講座内容について、夏休みの宿題に参考となるような科学講座での万華鏡づくり等を実施した。また、講師は当公民館の自主活動団体や高校の科学クラブ担任・生徒に依頼し、地域づくりに向けた人材育成の一面も持ち合わせている。

■ 事業の成果

科学講座で万華鏡を作り上げていく中で、個性を生かした作品をそれぞれが作れたと思われるし、創作意欲につながったと感じた。また、中高生対象事業としては、音楽活動（社会体験活動）を通じた社会教育という位置づけで、昨年に引き続き「こうか冬の音楽祭」を実施した。出演だけでなく音響照明のスタッフ補助としての参加もあり、職業体験を通じた「生きる力」を身につける機会となった。

■ 事業実施上の課題

限られた財源の中から講座を企画していく必要があることから、事業に携わっていただける市民を育成するのが急務である。生涯学習を通じたまちづくりという理念のもと、そのための政策として市民大学や講座があるという体系を、行政だけでなく市民に浸透させることが課題である。また、他公民館、他行政部局と効率よく連携できる部分を模索することが必要と感じる。



【科学講座 万華鏡づくり1】



【科学講座 万華鏡づくり2】

遊陶里カレッジ

■ 甲賀市	
■ 活動名 信楽中央公民館 親子食育講座「野菜の収穫と料理教室」 (体制構築型)	
年間開催日数	2 日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	0 人
子どもの平均参加人数	10 人

■ 活動の概要

食に対する適切な判断力を養うことで健全な食生活をおくり心身の健康と豊かな人間性を育む。
食生活が自然の恩恵の上に成り立っており、食に関わる人々の様々な活動に支えられていることに感謝し理解を深める。
保護者に食育のあり方を学んでもらい、食事を通して親子のふれあいを楽しんでもらう。

■ 特徴的な活動内容

- ・ 収穫体験
 - にんじんの収穫
 - にんじんの自動洗浄見学
- ・ 料理教室と試食
 - 地元で収穫された新鮮な野菜を使って親子料理教室
- ・ 食育講座
 - 栄養士さんから「豆」製品についてのお話
 - 地元営農組合から「野菜」についてのお話

■ 実施に当たっての工夫

地元の新鮮な野菜を使った献立とした。

■ 事業の成果

収穫体験では、普段できない収穫をし、出荷するための洗浄作業まで見学でき農業について楽しく学ぶことができた。
料理教室では、保護者が自分の子どもだけ気にかけるのではなく、みんなが気にかける親子のふれあいの時間が持てた。
おいしく出来上がり、好評であった。

■ 事業実施上の課題

日程の設定に苦慮する。



【にんじんを収穫】



【料理教室 5品完成!!】

■ 遊陶里カレッジ

■ 甲賀市	
■ 活動名 信楽中央公民館 遊学舎「野鳥のお家をつくろう」 (体制構築型)	
年間開催日数	1 日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	2 人
子どもの平均参加人数	9 人

- 活動の概要
子どもたちが巣箱をつくり、近くの森などに設置して自然観察をしてもらう。

- 特徴的な活動内容
巣箱づくり
取付けについてのお話

- 実施に当たっての工夫
基本的には子どもだけの講座であるが、親子のふれあいの場として保護者の参加も可とした。
ただ組み立てるだけではなく、自然観察ができるように取付けについてのお話も取り入れた。

- 事業の成果
いつもはやんちゃな子どもたちのようだが、目をキラキラとさせ作業に集中し、いつもと違う新たな一面が見られ物づくりの楽しさを感じてもらえた。

- 事業実施上の課題
対象学年を小学3年生以上と設定したが、保護者同伴であれば1・2年生も対象とすればよかった。
参加費はワンコインで出来るものがないのか検討が必要。



【巣箱づくり】



【取付けについてのお話】

野洲市における土曜日の教育支援の取組（「学ぶ力」学習支援型）

■目指す姿

本市においては、『地域の子どもは地域で育てる』を合言葉に、地域の様々な分野で活躍する大人の教育力を結集して、子どもたちの週末における様々な体験活動や地域住民との交流活動等を推進し、子どもたちの健全な育成を図ることを目的として、事業を展開している。

■本年度の活動

・しのっ子ジュニアオーケストラ

滋賀県野洲市の小学生（3～6年生）で構成されている。楽器演奏で音楽する喜びが感じられればと、毎週土曜日（日曜日）の午前中『コミュニティセンターしのはら』で練習を行っている。

■本年度の成果

- ・継続的な練習や演奏活動を通し、何事にも挑戦する精神や忍耐力を育むことができた。
- ・活動を通して様々な人たちと接する機会が増え、子どもたちと地域住民との活発な交流ができた。
- ・発表会に出演して成功を重ねることで、子どもたちの何事にも挑戦するという意欲を高めることができた。

■今後の課題

- ・子どもたちの参加が少ない年もあり、オーケストラメンバーの確保が難しい。
- ・地域の行事等が重なると練習に参加するメンバーが少なくなり、練習が困難になるときがある。

■その他

諮問機関は「野洲市地域教育協議会」である。委員は17名で、年に2回会議を実施し、運営について協議を行っている。



【収穫祭での発表】



【スプリングコンサート】

■ 音楽をととして、思いを伝える（しのっ子・ジュニアオーケストラ）

■ 野洲市	
■ 活動名 篠原地域子ども教室 しのっ子・ジュニアオーケストラ（「学ぶ力」学習支援型）	
年間開催日数	76 日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	2 人
子どもの平均参加人数	13 人

■ 活動の概要

- ・楽器演奏を通して、音楽のよこびと演奏に思いを伝える。
- ・参加費無料で、吹奏楽器などすべての楽器を無償貸出し。（楽器変更も自由）
- ・練習や演奏会を通して、存在感・達成感や協力・協調性を育む。
- ・演奏会の企画・進行を団員自ら行い、思いが伝わる演奏会の開催と地域の方との交流を大切に活動。

■ 特徴的な活動内容

- ・音楽教室ではないので専門教育はできないが、音楽が楽しくなる活動を実施。
- ・演奏会を開催し、練習成果・児童の成長の姿を確認する目標とする。
- ・地域の各種団体の事業に積極的に参画し、児童自らの手作り音楽会を開催する事で、児童の企画力と共に地域との交流で郷土愛への一歩となる。

■ 実施に当たっての工夫

- ・鍵盤楽器・管楽器・打楽器と自由に選択し、演奏できる楽器で練習することで挫折することなく音楽を楽しむ。
- ・練習日は、毎週土曜日の午前中。演奏会の1か月前より毎週土・日曜日の午前中に実施。
- ・演奏曲は、子どもたちの知っている曲を練習することで自発的に練習し、演奏できるようになる。
- ・季節のコンサートや地域のイベントに積極的に参加し練習成果の発表の場とする。（年間6回）
 - …学区内自治会主催の「花見コンサート・夏祭り・敬老会・運動会・秋まつり」等で演奏。
 - …毎年3月に団員による演奏会実行委員会をつくり、企画書を作成。学校長に説明して演奏会の許可を得て、昼の長休み時間を利用して体育館で演奏会を実施。団員みんなで企画・進行・設営・広報のいずれかを担当して演奏会を実施。
 - …春休みにスプリングコンサートを開催し、1年間の総仕上げと、卒業生の歓迎の演奏会としている。
- ・年に1回、館外研修を実施し、家族を含めた交流を実施。
- ・ホームページを開設し、活動紹介・団員連絡を掲載。毎週更新している。

■ 事業の成果

- ・一か月で簡単な曲が演奏できるようになり、達成感を感じ毎週の練習会に参加するようになった。
- ・演奏会を通じての企画・運営など全員で取り組むことで孤立することなくみんなで協力し、明るくなった。
- ・高学年になると練習姿勢も責任感と満足感がうかがえ、卒業後も中学校で吹奏楽部の中心的存在になっている。
- ・卒業後も、練習会や地域イベントに共に参加し、団員や地域と交流ができています。
- ・毎年学区内の自治会や体育振興会より演奏依頼を頂けるようになり恒例化してきている。
- ・結成以来10年を経過、これまで約200名（延べ人数）を数えている。

■ 事業実施上の課題

- ・今年度13名（過去最大30名）と団員確保に苦慮。市の広報紙や市内の小学校でPRしている。
- ・居場所としての雰囲気強く、練習会・演奏会の参加者が当日まで確定しないところがある。
- ・楽団の性格を理解した上での指導ボランティアの確保に苦慮。



【第9回スプリングコンサート 2016. 3. 23】



【大篠原自治会敬老祝賀会 2016. 9. 11】

■ 湖南省における土曜日の教育支援の取組（体制構築型・「学ぶ力」学習支援型）

■ 目指す姿

子どもが学校での学習をさらに深めたり、もっと知りたい、学びたいという意欲を高めたり、実社会で役立つ力として定着させたりすることは重要である。

そこで、土曜日や長期休業中に、地域の大人や大学生、卒業生（小・中連携）の支援を受け、学習や体験活動ができるプログラムを設定し、学ぶ意欲を高め、学ぶ力を高める機会を提供。子どもの教育活動に複数以上の地域の人に関わることにより、教員とは違った視点から子どもを多面的に見ることができ、その情報を教員と共有することにより、確かな学ぶ力の向上につながる。

■ 本年度の活動 「学ぶ力」学習支援型…小学校3校 「体制構築型」…小学校6校

実施校	開催日数	主な活動場所	主な内容
石部小学校	20日	学校、まちづくりセンター	学力補充、学習の発展
石部南小学校	10日	学校、学区の各施設	学力補充、学習の発展
三雲小学校	10日	公民館、まちづくりセンター	学力補充、学習の発展
三雲東小学校	10日	児童館、まちづくりセンター	学力補充、体験学習
菩提寺小学校	10日	学校、まちづくりセンター	学力補充、学習の発展
菩提寺北小学校	10日	学校、まちづくりセンター	学力補充、学習の発展
岩根小学校	20日	まちづくりセンター	学力補充（基礎・基本定着）
下田小学校	10日	学校	学力補充（課題学習）
水戸小学校	20日	学校、まちづくりセンター	学力補充（課題学習）

■ 本年度の成果

- ・ 子どもの状況や地域の実情に合わせて、人とのつながりを大事にし、学ぶ力を高めるために特化した「学ぶ力」学習支援型3教室と、地域の多様な人材の協力を得た支援体制で行う学力補充や体験学習を行う「体制構築型」6教室をそれぞれのプログラムで実施。
- ・ 「小・中連携」は地域コーディネーター、事業コーディネーター間、中学校区連携の取組等の中で行っており、子どもたちの学習や体験活動を豊かにし、教えることにより学ぶ力を高める場となっている。
- ・ この事業の推進にあたり、地域まちづくり協議会等の協力や支援を得る教室も出てきた。

■ 今後の課題

- ・ 土曜教育推進員の確保、実施日の調整が難しい。プログラムの事前準備に多くの時間がかかる。
- ・ 昨今の交通事情等を勘案した時、参加児童の自宅と会場間の行き来の安全確保は重要であるが、事業実施校の取組内容や運営の仕方が異なっており、全市的な財政の裏付けの確保が難しい。



【小学生の課題解決に中学生が支援】



【小学生の夏休み宿題教室】

■ 学ぶ楽しさ、学ぶ意欲を高め、石部の未来を拓く力を育てる（石部小学校）

■ 湖南省	
■ 活動名	
いしべっ子学習教室（「学ぶ力」学習支援型）	
年間開催日数	20日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	17人
子どもの平均参加人数	14人

■ 活動の概要

- ・長期休業期間や土曜日を利用して、地域の大人と触れ合いながら学習や体験活動をすることにより、学ぶ楽しさを体感させ学ぶ意欲を高め、石部の未来を拓く力を育てる場とする。

■ 特徴的な活動内容

- ①いしべっ子夏休み学習教室 … 7月21日(木) 7月23日(土) 8月1日(月) 8月6日(土) 8月25日(木)
夏季休業中5日間を設定し、夏休みの宿題や自主学習をする場を設け、地域のボランティアが学習の支援をする。
- ②いしべっ子わくわく科学実験教室 … 10月1日(土) 10月15日(土)
土曜日の2日間を設定し、1～3年生対象「ふしぎなスライムを作ろう」、4～6年生対象「クリップモーターを作ろう」をテーマに実験をする。
- ③いしべっ子学習教室 … 9月24日(土) 11月26日(土) 12月22日(木)
2学期に3日間を設定し、宿題（冬休みの宿題を含む）や自主学習をする場を設け、地域のボランティアが学習の支援をする。
- ④ふるさと石部の歴史を知ろう … 11月12日(土) 11月19日(土) 12月3日(土) 12月10日(土) 1月14日(土)
土曜日の5日間を設定。旧東海道を歩き東海道五十三次の51番目の宿場町として栄えてきた石部の歴史や郷土の偉人を知る。

■ 実施に当たっての工夫

- ①昨年度の課題を踏まえた上で、日程や時間配分を考え、校区のまちづくり協議会にも協力をお願いし、会場をまちづくりセンターに設定し、子どもたちが安全に楽しく学習ができるよう配慮した。学習支援ボランティアも地域の方々に協力いただいた。校区のまちづくり協議会には受付や駐輪場の管理などの協力もいただいた。
- ②下学年と上学年に分けて、子どもたちが興味を持つ内容を講師の方と共に話し合い決定した。講師の方と事前に準備を兼ねての実験をして、活動がスムーズに進むようにした。
- ③夏休みだけでなく、土曜日に学習教室をして欲しいとの要望があり、夏休み学習教室に準じる内容で実施した。
- ④見学させていただく施設には「自分たちの住んでいる地域の歴史を知り、我が町に誇りを持たせることにより、地域を愛し地域を大切にしようとする子どもを育てること」をねらいとして取り組むことを事前にお問い合わせに行き、協力を求めた。また、郷土研究家の方に講師になっていただき、説明をしていただいた。支援メンバーで事前に下見をしたのも効果的であった。

■ 事業の成果

- ①校区のまちづくり協議会や地域の学習支援ボランティアの協力で支えられ、のべ297名の子どもたちが参加し、安全に楽しく学習ができた。参加人数が多かったため、部屋を2つに分けて実施した。部屋を分けたことで特に高学年は集中した取り組みが見られた。子どもたちからは「宿題がはかどった」「集中してできた」「楽しかった」「いっぱい勉強できた」などの感想があった。
- ②子どもの発達段階に応じた実験内容であった。身の回りにある身近なものを使って、安全で楽しい科学の不思議を体験できた。
- ③参加人数はそれほど多くはなかったが、その静かに集中して学習に取り組み、宿題ができた後は用意しておいた学習プリントで復習するなど、自主的に学習に取り組む姿が見られた。
- ④「石部の宝物を見つけよう」を合い言葉に旧東海道を歩き、子どもの目線で石部の歴史を学習することができた。昔から伝わる食べ物をいただいたり、歌や話を聞いたりして、大人も今まで知らなかった石部を再発見する良い機会となった。

■ 事業実施上の課題

- ・「いしべっ子夏休み学習教室」は昨年度と比べ参加人数が約2倍に増えたことにより、下学年と上学年に部屋を分けて実施した。人数によっては、今年度のように部屋を分けたり、学年によって時間帯を変更したりする方法を考えなくてはならない。また、今年以上に学習支援ボランティアの確保が必要となる。

■ その他

- ・土曜日事業の取り組みには、地域の関わりが大事であり、校区のまちづくり協議会との連携が必要不可欠である。



【夏休み学習教室】



【ふるさと石部の歴史を知ろう】

■ 「子どもと地域がひびきあう！」みなみっこ土曜講座（石部南小学校）

■ 湖南市	
■ 活動名	
みなみっこ土曜講座（体制構築型）	
年間開催日数	10日

コーディネーター数	2人
土曜教育推進員数	2人
子どもの平均参加人数	45人

■ 活動の概要

- ・ 地域の特徴あふれる社会資源を活用し、豊かな体験をすることで子どもたちが地域への愛着を深めたり、人とのつながりを結んだりすることを目指している。

■ 特徴的な活動内容

- 「福祉施設訪問」
- 「いもち送り（地域の伝統行事）に参加」
- 「長寿寺の歴史学習と写生」
- 「みなみっこ夏休み子ども教室 5回」
- 「しめ縄飾り・もちつきの歴史を勉強しよう」
- 「石部南学区 古墳探訪」

■ 実施に当たっての工夫

- ・ 地域の行事と重ならないようにした。
- ・ 長期休みの平日に土曜講座を実施することで、地域ボランティアさんが参加しやすいようにした。
- ・ 学校外での活動がある時は、あらかじめ推進委員と下見を行い、子どもの安全を確認した。
- ・ 石部南小学校区には多くの施設があり施設の皆さんにご指導いただき陶芸教室や木工教室を行った。
- ・ 東寺の長寿寺は国宝なので、歴史を知ると共にお寺の写生を行った。
- ・ 西寺の伝統行事「いもち送り」に参加した。
- ・ いもち送りに使う松明は、昼休みを利用して地域の方と子どもたちと一緒に作った。
- ・ 夏休み子ども教室では、「1年と6年」「2年と5年」「3年と4年」のペア学年にして各クラスごとに分かれて行った。
- ・ しめ縄飾り・もちつきの歴史を知る講座では、5年生の子どもたちが農業体験にて作った餅米を使い餅つきを体験した。
- ・ 餅米の藁を使い親子でしめ縄飾りを作った。
- ・ 石部南学区古墳探訪では地域の古墳巡りを行った。学区内にある古墳を巡るときに子どもたちに危険がないよう十分に下見を行った。

■ 事業の成果

- ・ 「夏休み子ども教室」の参加者が多かったことから、家庭の教育への関心が高いことがわかり、学習の場の提供ができた。
- ・ 「夏休み子ども教室」では中学生ボランティアが、小学生の学習サポートをしてくれた。
- ・ 夏休みや冬休みに土曜講座が行われたことで、子どもたちの居場所を多く作ることができた。
- ・ 地域の皆さんとの関わりが増えて、顔見知りが増えた。
- ・ 地域の行事と重ならないように開催日を設定したので、両方の行事に参加することができた。

■ 事業実施上の課題

- ・ 学習支援をしてくださるボランティアや推進員を探すことが難しい。
- ・ 講座内容によって、参加児童数に片寄りがあった。



【小学生の学習をサポートする中学生】



【「いもち送り」に向けて松明づくり】

■ 地域の方と子どもたちをつなぐ 学びと体験活動 ～さんさん教室～ （三雲小学校）

■ 湖南省	
■ 活動名	
さんさん教室 （体制構築型）	
年間開催日数	10 日

コーディネーター数	3 人
土曜教育推進員数	5 人
子どもの平均参加人数	56 人

■ 活動の概要

夏休み前半の集中した10日間を使い、3か所の会場で「さんさん教室」を開いた。内容は、学習を1時間、体験活動を1時間の2部構成とし、たくさんの子どもが意欲を持って参加できるよう企画した。

■ 特徴的な活動内容

各日、午前中を使い1時間を学習に、続く1時間を地域の方を迎えて体験活動を行った。学習の内容は夏休みの宿題や自主学習とし、体験活動は、①大型紙芝居 ②和太鼓・箏 ③食育（おにぎらず） ④スライム作り を行った。期間中は推進員のほか、民生児童委員、健康推進委員、卒業生など地域の多くの方に活動を支えていただいた。

■ 実施に当たっての工夫

会場への行き帰りは安全が第一である。保護者の送迎を必須とすると参加が制限される児童もあるので、徒歩、自転車、車での送迎と手段は問わずに保護者の了承をもらった。また、希望する児童が来場しやすいよう学区内の公民館等を使って3会場を設けた。会場を3か所としたため、同じ内容の企画を3回ずつとなり、運営の効率化を図った。

昨年の反省を踏まえ、「子どもをお客さんにしない」ことを心掛け、会場の準備、活動中、後始末まで子どもたちも力を合わせて取り組んだ。事後のアンケートからも「自分たちのさんさん教室」と自覚を持っていたことが分かった。

学習だけでは、集中力が持続しないことが予想されたので、参加型の体験をあわせて企画した。この企画が「さんさん教室に行ってみよう」と参加のきっかけになっている。

■ 事業の成果

会場では、子どもたち同士で教え合う姿が見られた。体験活動中には多くの高学年が低学年の面倒を見るなど、異年齢の関わりを持つことができた。何より、のべ564名もの子どもが、地域の方の支援を受け、安全に楽しく学習・体験ができた上に、また来年も参加したいという声が多かった。保護者からも良い評価を寄せていただいた。また、不登校気味の児童も参加することができて、それぞれのペースで勉強することができた。さんさん教室への参加が2学期からの登校の意欲につながるものと期待している。

さんさん教室が夏休みの催しとして定着し、地域の方と子どもたちをつなぐ場となっている。それは、ご支援いただいた地域の方々の喜びとなっているとの声も寄せられた。

■ 事業実施上の課題

2年目の今年も多く参加申し込みがあった。1回あたりの参加者が多いため、会場の雰囲気は雑然とする日もあった。幸い机等は足りたが、ほぼ満員だったので、来年同じスタイルでさんさん教室を開くならば会場の検討が必要である。支援をする大人の人数不足、送迎車による駐車場の混乱なども来年への検討事項である。学習支援ボランティア、体験活動の講師、体験活動ボランティアと多くの形で支援をいただいたのだが、事前の打ち合わせや、成果のフィードバックが充分にはできていないので、改善していく必要がある。



【夏休み宿題に取り組む】



【食育教室 おにぎらず】

■ 学びの場・体験の場の提供 ～ひがしっこ教室～ （三雲東小学校）

■ 湖南市	
■ 活動名	
ひがしっこ教室 （体制構築型）	
年間開催日数	10 日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	7 人
子どもの平均参加人数	21 人

■ 活動の概要

「ひがしっこ教室」は、地域の児童館・まちづくりセンターの協力で実施している。昨年、児童だけを対象に開催したパン教室がとても好評だったことから、今年度も調理の体験を取り入れた。地域の方と知り合える機会として、グラウンドゴルフでの交流を三雲東青少年学区民会議と連携し、12月23日に実施している。今年度は、校区内の二区の協力で交通安全教室も実施した。

■ 特徴的な活動内容

- ・主に夏休みに行う「ひがしっこ教室」は、児童館、まちづくりセンターで、準備、掃除、片付けも参加児童全員で行っている。今日の学習のめあてを自分で決め、帰る前に全員の前でめあてと反省を発表する。座席も自分たちで決めるので、自主的な学びの場でもあり、異学年の児童の学習する姿がよい刺激になっている。
- ・「親子パン教室」は、昨年好評だったパン作りに地元でパン教室をしておられる先生を講師に招いて、「親子で一緒に楽しむ」をテーマに2回開催した。
- ・「あつまれ！！ひがしっこ」では、スクールガードでお世話になっている地域の方が教えてくださるので、グラウンドゴルフで楽しく交流しながら顔や名前を覚え、仲良くなれる機会になっている。



【親子パン教室 お父さんも大活躍！】

■ 実施に当たっての工夫

- ・ボランティアへのきっかけ作りになればと、「ひがしっこ教室」の開催日程を関連の中学校へも知らせた。「中学生も同じ場所で学習しませんか」と呼びかけた。
- ・学習では、自主的に取り組めるように自分で目標を決め、次回につながるよう反省もする。同じ場所を使用することから、準備、掃除、片付けは一緒に参加した仲間と協力してできるようにした。
- ・学習支援の推進員は、毎年来ていただいている方に加え、新たに参加児童の保護者にも協力をお願いした。
- ・夏休み中、前半、中ごろ、後半に学習・体験の機会を設けるようにした。
- ・地域のたくさんの方につながってほしいという思いで取組の説明をし、パン教室の講師も地元の方をお願いした。初めて関わっていただくため、打ち合わせは時間をかけて念入りにした。
- ・昨年の反省から、パン教室は親子のふれあい時間が増えること、作業中、大人の見守りもあることを念頭に設定した。
- ・協力者の多い団体と連携し、ボランティア協力をしていただいた。（「あつまれ！！ひがしっこ」）

■ 事業の成果

- ・3年目の「ひがしっこ教室」は、予想以上に参加の申し込みがあり、部屋を追加、変更した。毎年参加する児童も多いが、低学年の新たな参加者が増えた。参加者の保護者にも推進員として協力いただくことができた。
- ・参加者が急増したこともあり、ボランティア協力の呼びかけをしたところ、中高生がボランティアとして参加してくれた。
- ・今後も引き続き協力していただける地元の講師（パン教室）が見つかった。「次回も参加したい」「親子で楽しい時間を過ごせた」との感想が多数あり、講師の先生にも喜んでいただいた。
- ・児童と一緒に学習しながら、小学生の学習をサポートしてくれた中高生から「いい経験になった」という感想をもらった。次年度も日程を伝えるなどして参加を呼びかけたい。
- ・開催日を分散したことで、参加人数の片寄りが改善された。



【ひがしっこ教室 中高生も優しい先生】

■ 事業実施上の課題

- ・開催日に合わせて推進員、ボランティアを探すことが難しい。

■ 小中連携・地域でつながる子どもたち ～学校や地域で学ぶ土曜日教室～（菩提寺小学校）

■ 湖南省	
■ 活動名	
菩提寺小土曜日教室（体制構築型）	
年間開催日数	10日

コーディネーター数	2人
土曜教育推進員数	10人
子どもの平均参加人数	25人

■ 活動の概要

菩提寺学区は2つの小学校があり、学校行事や諸活動において情報交換しながら、教育活動を推進している。土曜日教室においては、季節行事や時期に合わせて内容を考え、子どもたちの興味や関心、ニーズのある活動を中心に設定している。夏休みの勉強会では夏休みの課題が取り組める時間となるよう学習ドリルだけでなく、図画工作科の作品づくりもできるように工夫を凝らしてきた。また、地域の散策等の郷土を知る学習においては、2校が合同で行うことで参加人数を増やしたり、学習活動や交流が活性化したりできるように効果的な教室の開催を目指して進めてきた。さらに、まちづくり協議会の協力を得ることで、計画や運営にも携わっていただき、活動がより充実したものとなるように体制を整えてきた。そうした中で、活動場所、支援の人的体制、活動内容等が広がり、子どもたちの学びも広がっている。

■ 特徴的な活動内容

1. 菩提寺散策（郷土を知る）
2. 夏休み勉強会
3. 夏休み勉強会
4. 夏休み勉強会（絵画）
5. 夏休み勉強会
6. ペットボトルロケット制作（理科）
7. 啓発看板作り（図工・道徳）
8. 年賀状を書こう（図工）
9. 書き初め（書写）
10. 菩提寺ハイキング（郷土を知る）

■ 実施に当たっての工夫

2校合同での活動ばかりでは、活動場所が校区外になり参加したくても参加ができない児童が多数いる。前年度の反省から、郷土を知る学習においては、活動場所をまちづくりセンター等で合同開催で行うが、活動の多くはそれぞれの学校の活動内容にあわせて活動する形態を工夫した。

■ 事業の成果

- ・各回、まちづくり協議会と地元中学生のボランティアというサポートがあり、活動の大きな力になっている。
- ・活動は各校で実施することが多かったが、コーディネーター同士で情報の共有に努めた。
- ・合同で活動する回では、子どもたちは他校との交流ができ一緒に郷土を知る時間を持つことができた。
- ・活動内容によっては、2校合同での実施が望ましいこともあるが、児童の参加しやすさを考慮すると各校での実施という選択もよかったように思える。
- ・夏休みの勉強会を4回実施した。普段の授業と違い異学年の子どもたちが同じ教室で一緒に勉強することで、上級生が下級生に勉強を教える様子が見られた。中学生や大学生のボランティアに教えてもらうことも良いが、小学生同士でも教え合うことができ、学校で行う夏休み勉強会ならではの良さもあった。

■ 事業実施上の課題

- ・2小学校から中学生のボランティア依頼をする場合の小学校の連絡窓口を一つにするということを検討する必要がある。
- ・毎年実施している活動がマンネリ化しないように工夫や改善を加えて、次年度の計画を立てていきたい。



【夏休み勉強会 図書室では1年生から4年生】



【親子でペットボトルロケット制作
中学生がボランティアで参加】

■ わくわく学習・活動 ～小・中連携でつながる絆～（菩提寺北小学校）

■ 湖南省	
■ 活動名	
あすなろわくわく教室（体制構築型）	
年間開催日数	10日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	2人
子どもの平均参加人数	45人

■ 活動の概要

菩提寺学区には2校の小学校があり、6回は各学校で開催するが、4回は2校合同で開催している。その中で、夏休みに4回行っているが、「わくわく学習教室」として夏休みの宿題の学習サポートを行った。

また、ボランティアとして甲西北中学校の生徒が参加し、小学生との絆を結んでいる。

■ 特徴的な活動内容

日 程	内 容	実 施 場 所	参加者数
第1回 6月18日	菩提寺歴史散策	まちづくりセンター	1人
第2回 7月27日	わくわく学習教室	菩提寺北小学校	67人
第3回 8月2日	わくわく絵画教室	菩提寺北小学校	81人
第4回 8月10日	わくわく学習教室	菩提寺北小学校	79人
第5回 8月22日	わくわく学習教室	菩提寺北小学校	75人
第6回 9月24日	ペットボトルロケット	菩提寺小学校	8人
第7回 10月8日	啓発看板作成	まちづくりセンター	3人
第8回 12月10日	年賀状作り	菩提寺北小学校	16人
第9回 1月6日	新春書初め	菩提寺北小学校	25人
第10回 2月18日	案内板付ハイキング	まちづくりセンター	5人

■ 実施に当たっての工夫

夏休みは、宿題や夏休みのポスター描きの講座を開催することで、毎年たくさんの参加者がある。

学習教室では夏休みの宿題のドリルや、プリントを視聴覚教室（3・4・5・6年）と図書室（1・2年）に分かれて学習支援のボランティアさんに教えてもらいながら、どんどん宿題を仕上げていく。

また、エアコン設備がある教室を使用することによって、学習効率の向上を図った。中学生のお兄さん、お姉さんに教えてもらうことで学習がはかどったことも大きな点である。



【視聴覚教室 高学年 みんな真剣に取り組む】



【勉強 頑張った後のかき氷 最高！！】

■ 事業の成果

「あすなろ わくわく学習教室」の開催には、実に全校児童の40%強が参加するという高い参加率であった。それは、「一人でするよりも、友達と同じ空間で学習したい」「家よりも学校の方が集中できる」といった理由からである。家にいるとどうしても、何か食べたり、テレビを見たり、ゲームをしたりと学習の妨げになる要素が多いのは確かである。

また、甲西北中学校の生徒によるボランティア学習サポートは、中学生にとっても本校児童にとっても有意義であり大変意味のあることであった。中学生は、「教える」ことで頼られる自分を発見し、「自尊感情」が高まっていく。児童からの視点でいうと、「私もあんなふうな中学生になりたいな」というモデリングになり得る。

■ 事業実施上の課題

講座によっては、参加者が少ない・多いの差が大きい。少ない場合は再度募集するなどしているが、「なぜ、集まらないのか」「子どもたちが、どういうものに興味を持ち、参加しようと思うのか」を来年度の講座を決める時、しっかり考えていかなければならない。

■ その他

湖南省立菩提寺北小学校ホームページ : <http://www.edu-konan.jp/bodaijikita-el/>

■ 学ぶ楽しさを土曜教室から ～1対1の関わりを大切に～ (岩根小学校)

■ 湖南市	
■ 活動名	
岩根小土曜教室 (「学ぶ力」学習支援型)	
年間開催日数	20日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	15人
子どもの平均参加人数	6人

■ 活動の概要

「しんどい子によりそい」「子どもをお客さんにしない」は、岩根小学校の教育方針である。放課後教室、クラブ、高齢者ふれあいサロン、ホテルまつり、店長修業、1年生清掃支援、学習支援、環境支援、図書支援、読み聞かせ、登下校の見守り、稲作体験など、様々な活動や支援を展開しているが、「土曜教室」もその一環である。

「岩根小土曜教室」の目的は授業以外の場で子どもたちの学習を支援することであり、本校の場合、「気になっても、なかなか仕事等の関係で子どもの学習を見てやれない、学校の休日にも家には子どもだけなので、なかなか家庭学習の習慣を身につけることができない」3・4年生を対象に実施している。また、指導にあっているのは、学区内に居住する教員OBや学生ボランティアを中心に、「岩根の子どもたちの力になりたい」という熱い思いを持ってくださっている方々である。

■ 特徴的な活動内容

当該学年の内容だけでなく、子ども一人ひとりのつまずきによっては1～2学年前から学習をスタートし、しだいに積み上げていくよう工夫している。その内容は国語や算数の基礎的な学習が主で、音読練習を課して、期末には音読発表の機会を設けている。

- * 1日の流れ
- 9:20までに、まちづくりセンターに「登校」する。
- 9:30～9:50 はじまりの会 (あいさつ、アイスブレイキング、頭の体操など)
- 9:50～10:30 1時間目 (教科は、子どもと指導者が相談して決める)
- 10:30～10:40 休憩 (「ことわざカルタ」のようなカードゲームを楽しむ)
- 10:40～11:20 2時間目 (1時間目とは異なる教科。国語を学習した子は算数、算数の子は国語)
- 11:20～11:30 あとかたづけ、あいさつ
- 11:20～12:00 指導者による打ち合わせ (今回の学習の様子を報告し、次回の計画を練る)

■ 実施に当たっての工夫

教室の運営を担う指導者 (ボランティア) が、対象となる子ども一人ひとりの学習状況を細かく把握し、1回ごとに「この子の今日の学習は…」と、プログラムを立てている。そのうえで、指導者1名が子ども1名について指導するという体制をとり、わからないところ、困っているところを克服できるように支援している。それだけに、事後の「打ち合わせ」の時間を大切に、単なる情報交換にとどまらず、どのように支援していくことが有効かを、それぞれの視点から意見を述べ合う時間を持っている。

■ 事業の成果

低学年での学習が定着していない子どもにとって、学習以外での楽しみを学校生活の中で求めようとしたとき、仲間づくりや行事などで頑張っていることもあるが、授業に集中できずに遊んでしまうことが多くなってしまう。中学年の時期に学ぶ楽しさやできた喜びをしっかりと持つことは、今後の成長に大きな影響を及ぼす。土曜教室では、1対1の関わりを大切に、その子に応じた学習を行うことにより、学習からの笑顔が見られることを目標にしてきた。自分の苦手な分野になると「なんとかごまかして逃げようとする」子どもも見られることから、わからないことを「わからない」と言えるようにすることも大切にしてきた。「わからない」と口にしても誰一人怒りも冷やかもしない場において、子どもたちは自己肯定感を獲得し、学習に対して前向きな姿勢を持つようになることが土曜教室の大きな成果であると言える。

■ 事業実施上の課題

家庭学習との連携 (学習の定着) をどう図るか。土曜教室に通っていない子どもの学力保障をどうするか。



【一人ひとりの課題を一人ひとりの指導者が】



【「できた」「わかった」喜びを大切に】

『地域ので下田っ子を育てよう!!』しもだっこはしらべっこ（夏休み調べ学習会）（下田小学校）

■ 湖南省	
■ 活動名	
しもしょう土曜教室（体制構築型）	
年間開催日数	10日

コーディネーター数	2人
土曜教育推進員数	3人
子どもの平均参加人数	25人

■ 活動の概要

下田小学校では今年度も夏休みの宿題会「しもしょうサマースクール2016」や地域の行事への参加をすることで体験学習、日枝中学区合同企画の「書道教室」などを実施した。ただ、昨年度実施した調べ学習会スタイルの学習支援を、それも地域のボランティアの協力のもと、子どもたちが自分たちでテーマについて調べるというスタイルで行うことは可能ではないかとの昨年度の総括評価から、今年度は「しもだっこはしらべっこ～調べ学習会～」を企画、実施した。

■ 特徴的な活動内容

《実施日時》平成28年8月24日(水) 午前9時00分～午後3時00分

《活動場所》下田小学校 図書室

《活動内容》本校の図書室を利用し、事前に地域のボランティアとコーディネーターとで考えたテーマについて、子どもたちがグループで協力して調べ、最終的に模造紙1枚にまとめて発表をする。

《テーマ》1班：恐竜について 2班：星について 3班：オニについて

■ 実施に当たっての工夫

- ①サマースクールでは中学生に先生として活躍してもらっているが、「しもだっこはしらべっこ」では地域のボランティアに活躍していただいた。
- ②地域のボランティアには、事前に打ち合わせの機会を持った。テーマを考え、調べ学習のリハーサルを行った。
- ③当日、子どもたちの行き帰りの安全確保のため、学校前で地域のボランティアに見守りをしてもらった。
- ④当日まで、子どもたちにテーマを知らせないようにした。
→事前にインターネット等で調べないようにするため。
- ⑤本で調べる内容は、文章にまとめるだけでなく、絵を描くことや、折り紙を使って作品を作ることも良いとした。
- ⑥まとめたことを発表し、参加者みんなが調べたこと、学習したことを共有できるようにした。
- ⑦子どもたち自身に活動させるため、ボランティアには子どもたちを見守り、困っている時に少し支援するという形で活動していただいた。



【調べ学習に集中】

■ 事業の成果

- ①いつも授業等で利用している図書室を使って調べ学習をしたことで、子どもたちが集中して活動することができていた。
- ②図書室で本を借りるときには、自分の好きなジャンルの本を借りることが多いので、子どもたちが、図書室全体の把握をしていなかったが、今回、与えられたテーマについての本を探すことで、知らない本と出会うことができた。
- ③グループでの活動にしたことで、一人では調べきれないことや、自分とは違う視点で調べることができ、色々なことを知ることができた。
- ④まとめたことを発表したことで、参加者みんなが学習内容を共有でき、他のグループのテーマにも興味を持つことができた。



【発表を終えて】

■ 事業実施上の課題

- ①コーディネーターとボランティアとがテーマを決めたことで、興味を持たず、なかなか調べ始めることができない児童がいた。
- ②1グループ子ども3人にボランティアも3人と、マンツーマンで支援ができたことは良かった点も多い（集中が切れそうになった時にこまめに声掛けができた等）のだが、子どもたちがボランティアを頼りにしすぎるところもあった。
- ③今回、3年生の参加者が多かったこともあり、まとめに時間がかかった。本の内容をそのまま写すことも多く、自分の言葉でまとめることができなかった。
- ④発表するにあたって、どうすればうまく発表することができるか等のコツをボランティアが伝えることができなかった。まとめが終わった後、発表の練習時間をとれなかった。

■ ～地域のひとと学ぶ、「水戸小学ぶ力アップ!教室」の取組～ (水戸小学校)

■ 湖南省	
■ 活動名	
水戸小学ぶ力アップ!教室 (「学ぶ力」学習支援型)	
年間開催日数	20日

コーディネーター数	2人
土曜教育推進員数	15人
子どもの平均参加人数	30人

■ 活動の概要

- ①外国にルーツをもつ子どもたちの勉強会
- ②夏休み中の宿題応援隊
- ③夏の絵画教室&冬の書道教室 (小中連携)

■ 特徴的な活動内容

教職員ではない地域の大人や地域の中学生・高校生に学習の場に参加してもらいながら、子どもたちの学ぼうとする意欲を支えてもらい、学習する楽しさや実社会で役立つ力を育むための取組。



【夏の絵画教室】

■ 実施に当たっての工夫

- ①日本語の理解度により個々の学習のペースが異なるため、丁寧な指導が必要。夏休み、冬休みを利用した学力補充教室を昨年より回数を増やして行った。あらかじめタイムスケジュールや決まりを説明し、集中して取り組むことができるようにした。
- ②夏休み水泳教室の前後の時間を利用したため、たくさんの子どもが参加でき宿題に取り組むことができた。
- ③小学生の参加人数が多く、中学生だけでは指導者を集めるのが難しく中学校のコーディネーターと地域の高校生や水戸小出身の高校生にも声をかけることになった。中学生、高校生ともに交流でき小学生は楽しく絵画や書道の宿題に取り組むことができた。

■ 事業の成果

- ①毎回30名を超える参加者があり、意欲的な姿や「わかった!」と嬉しそうな姿を見ると、指導する側もやりがいを感じることができた。計算や漢字、カタカナなどは一人ががんばろうとする姿があったが、算数、国語の読解はやはり難しそうだった。土曜教育推進員には、保護者の参加や継続して参加して下さった方が多く、子どもたちも安心した様子で、学校や子どもたちの現状を理解してもらえるよい機会だった。
- ②一人で過ごすことが多い休日に学校で友だちと一緒に勉強する前向きで楽しそうな姿が見られた。
- ③昨年の絵画教室は地域の学習支援センターで行ったが、今年は学校で行った。移動や洗い場、トイレなど日頃から使い慣れていた場所で安心して取り組めた。宿題が仕上がるだけでなく中学生・高校生とコミュニケーションをとりながら活動することができた。早く終わった子どもは図書室で読書を勧めた。図書室にも推進員を配置し、子どもを見守っていただいた。書道では中学校で一緒になる同じ学区の小学生とも触れ合えるので毎年楽しい活動である。



【外国にルーツをもつ子の勉強会】

■ 事業実施上の課題

学習では、今日はどこをやるというめあてを子ども自身に決めさせて主体的な学びの場であることを意識づけたい。また、どうしてもつまづきのある子どもへの関わりが多くなってしまうので、学びを深めたい子どもへの教室も展開していきたい。
夏休みの絵画教室は2日間の日程で行ったが、初日で作品が仕上がって2日目のモチベーションが上がらない子もいたので、日程やタイムテーブルなど見直しが必要である。地域には経験豊かなOBがたくさんおられるので、今後も推進員としての登録をお願いしたり、土曜日事業の活動を周知したりすることに力を入れていきたい。

■ その他

学ぶ力に特化した取組は「もっと勉強したい!」「もっとわかりたい!」という強い意欲を持ち参加する子どもが多かった。またこの取組の成果として以下のようにそれぞれの立場で、充実感を得ることができたこともわかった。

- ・ お兄さんお姉さんと勉強できて楽しかった! (小学生)
- ・ 水戸小に来るとやっぱりふるさとやなあって思った。 (中学生)
- ・ 日頃小学生に教える機会がないので面白かった。 (高校生)
- ・ 勉強を教えるというたいそうだけど、寄り添うだけでいいことがわかった。 (推進員)

東近江市における土曜日の教育支援の取組 (体制構築型・「学ぶ力」学習支援型)

■ 目指す姿

蒲生マックスクラブでは、M（みる）A（あじわう）K（きく）K（かぐ）S（さわる）の五感を使って子どもたちが最大限〔MAX=MAKKS〕の力を導き出し、豊かな心や生きる力を育むことを目的とした活動を実施している。

■ 本年度の活動

○蒲生地区地域教育協議会が主体となり、蒲生コミュニティセンターを拠点として活動を展開している。

- ・ そろばんクラブ：そろばんを基礎から学びます。
- ・ あかねジュニアバンド：最終的に各種大会で発表・演奏ができることを目標とし、楽器演奏の基礎から練習します。
- ・ ITキッズクラブ：パソコンをみんなで楽しみながら学びます。
- ・ 陶芸クラブ：粘土で自分の好きな作品を作ったり、絵付けをしたりします。
- ・ KIDS FLOWER：プリザーブドフラワー・押し花等を使って、母の日やクリスマスなどのイベントのアレンジメントをします。
- ・ 蒲生野太鼓わらべ組：楽しく太鼓を学び、地域や市内各地のイベントに参加します。
- ・ マックスダンス（初級）：ダンス経験のない小学生を対象とし、基礎的なステップやダンスの練習をします。
- ・ マックスダンス（上級）：経験者を対象にフリースタイルダンスに取り組みます。
- ・ 茶道クラブ：裏千家茶道の基本からお盆点てまでを学びます。

■ 本年度の成果

- ・ 蒲生マックスクラブは、従来から休日の児童・生徒の教育活動支援を行ってきた。蒲生地区において、長年継続的に活動してきたことで、地域が主体となって取り組む活動として根付き、毎年多くの児童生徒が参加する事業となっている。
- ・ 地域のイベントや、毎年3月に開催している「マックスクラブ発表会」など、子どもたちの学びの成果を発表する場を設け、広く地域の人々に当事業の目的や内容、成果を発信した。これらのことを通じて、子どもの体験活動や居場所づくりの他に、地域教育の活性化にも貢献できた。

■ 今後の課題

- ・ 今後も休日等における子どもの身近な居場所を広げ、学びの場としてコミュニティセンター等を利用して、さらに活動を充実させるとともに、放課後や休日を有意義に過ごせていない子どもたちの新たな視点に立った活動も考えていきたい。

■ 蒲生の子は蒲生で守り育てよう

■ 東近江市	
■ 活動名 蒲生マックスクラブ そろばんクラブ（「学ぶ力」学習支援型）	
年間開催日数	11日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	1人
子どもの平均参加人数	5人

■ 活動の概要

- ・そろばんの基本的な使い方を学習する。
- ・そろばんを使って計算能力の向上を図り、算数の仕組みを理解する。
- ・そろばんの技能と算数の仕組みを理解することを通して、子どもたちの学ぶ意欲を高める。

■ 特徴的な活動内容

- ・コミュニティセンターを利用して、そろばん教室を実施している。
- ・クラブ員の理解度に応じて、個々に対応した学習を行っている。
- ・「できる」「わかる」ことを大切に、子どもたちの学習に対する意欲全般を高めるようにしている。

■ 実施に当たっての工夫

- ・気分転換を図るため、途中でゲームなどを取り入れ、子どもたちの意欲が持続するように工夫している。
- ・お茶休憩の時間等、子どもたちが関わりあう時間を設定してクラブでの仲間づくりにも努めている。
- ・そろばんの学習については、子どもたちが集中して取り組める学習の展開を工夫している。
- ・子どもたちにとって身近なところにあるコミュニティセンターを利用することで、地域の子どもたちが教室に参加しやすくしている。

■ 事業の成果

- ・単年でなく、毎年継続して教室に参加する子どもがいる。
- ・そろばんの技能が高まり、算数の理解が深まるほど、学習に集中して取り組む子どもたちの様子が見られ、学習に対する意欲の高まりが感じられた。
- ・初めてそろばんを学習した子どもも継続して1～2年続けると、掛け算や割り算もできるようになり、よりそろばんに対する興味が高まった。

■ 事業実施上の課題

- ・月1回の活動なので、前回の内容を忘れる子どもがいる。
- ・自宅でおさらいをするように言っているが、徹底させるのは難しい。
- ・集中を切らさないようにするのが難しい。個人によって集中の度合いが様々であり、その対応の手立ての工夫が必要である。

■ その他

- ・蒲生マックスクラブ発表会では、そろばん体験教室を開催し、活動の内容を広く地域の子どもたちにPRした。



【活動の様子①】



【活動の様子②】

■ 蒲生の子は蒲生で守り育てよう

■ 東近江市	
■ 活動名 蒲生マックスクラブ あかねジュニアバンド (体制構築型)	
年間開催日数	11日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	1人
子どもの平均参加人数	13人

■ 活動の概要

- ・今年度から新たに始めたクラブなので、参加者の全員が初心者である。
- ・継続的な練習が必要であるため、毎週練習を行い、可能な限り、県・市・地区の大会に出場して演奏の経験を積み重ねている。
- ・地域の行事やイベントを盛り上げるために、地域の活動に積極的に参加している。

■ 特徴的な活動内容

- ・全員が初心者なので、まずは音を出すことから始めている。
- ・簡単な曲から取り組み、次第にレベルの高い曲に移行している。
- ・子どもの健康を考え、永久歯が生えそろった小学校3年生以上を対象にしている。
- ・地区や市の大会、発表会等への出場や参加に向けて、常に目標を持って練習している。

■ 実施に当たっての工夫

- ・初心者ばかりなので、練習が単調にならないよう、簡単な曲を演奏するようにしている。
- ・少しずつ吹けてくると、個々のレベルを上げるため、パートごとに分かれて練習している。
- ・発表や大会に出場することを通して、子どもたちのステージ発表に対する意欲を高めるとともに、年間の活動についてもメリハリをつけるようにしている。

■ 事業の成果

- ・子どもたちは、毎回の活動をなにより楽しみにしてくれている。
- ・曲が演奏できるようになると、よりよいものへと子どもたちも求めるようになってきた。
- ・保護者の方で楽器心得のある方が補助としてサポートしてくれている。
- ・今までの2～3回の発表会では、「始まったばかりのクラブとしてはよく頑張っている」との講評をいただいた。

■ 事業実施上の課題

- ・楽器演奏の習得には個人差があり、揃えるのが難しい。
- ・通常はコミセンで練習しているため、防音上、練習場所の確保が難しい。



【練習の風景①】



【練習の風景②】

■ 蒲生の子は蒲生で守り育てよう

■ 東近江市	
■ 活動名 蒲生マックスクラブ ITキッズクラブ (体制構築型)	
年間開催日数	10日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	1人
子どもの平均参加人数	3人

■ 活動の概要

- ・パソコンの基礎的な操作の習得を目的にするとともに、仲間と楽しみながら学習している。
- ・パソコンを使用して名刺や年賀状作りに取り組み、具体的な操作の方法を学習する。

■ 特徴的な活動内容

- ・パソコンを上手に活用すると、いろいろな楽しみ方が出来ることが理解できるように活動している。
- ・パソコンについての学習だけでなく、はがきでブーメランやプロペラを作り飛ばす等、身近なものを利用して子どもが興味を持って取り組める体験的な活動も取り入れている。

■ 実施に当たっての工夫

- ・途中でゲームをしたり、ティータイムをとったりして気分転換を図りながら、子どもたちの集中力が持続するように工夫している。
- ・パソコンの操作だけでなく、ものづくり等の体験的な活動を通じて、クラブ員同士の交流を図り、仲間づくりも大切にしている。
- ・具体的に名刺や年賀状を作ることで、できる喜びや製作の楽しさを味わえるようにしている。
- ・マックスクラブ発表会やあかね年賀状展など、地域の行事等で作品を発表し、活動に対する意欲を高めている。

■ 事業の成果

- ・5月から始めた初心者子どもたちがゆとりを持って操作できるようになってきた。
- ・最初はパソコンの操作に戸惑っていた子どもが、回を重ねるごとに操作に慣れ、意欲的にパソコンの操作に取り組む様子が見られるようになった。
- ・名刺や年賀状作りでは、各自熱心に取り組み、それぞれに満足いく作品が完成した。
- ・保護者も参加し、一緒に画面に向かう姿がみられ、親子のふれあいを感じる事ができている。

■ 事業実施上の課題

- ・リラックスタイム等、子どもたちの集中力が途切れないように工夫しているが、集中力を持続させるための他の手立てを考えていく必要がある。
- ・パソコン以外にも子どもたちが興味を持って取り組める簡単なものづくり活動等の構築も必要である。

■ その他

- ・蒲生マックスクラブ発表会の子ども体験コーナーでは、パソコン体験やペーパークラフトを行い、活動内容を紹介しPRした。



【活動の様子】



【平成27年度 マックスクラブ発表会】

■ 蒲生の子は蒲生で守り育てよう

■ 東近江市	
■ 活動名 蒲生マックスクラブ 陶芸クラブ (体制構築型)	
年間開催日数	11日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	7人
子どもの平均参加人数	15人

■ 活動の概要

- ・土からの焼き物作りを実施している。
- ・陶芸を通じて、自分の好きな作品を作ったり、絵付けをしたりして、子どもたちが作品の完成を楽しんでいる。
- ・お互いの作品を鑑賞することを通じて子どもたち同士が交流し、意欲的に取り組む活動を展開している。

■ 特徴的な活動内容

- ・年間で一人が4～5作品を制作する。
- ・マックスクラブ発表会で作品を発表し、自身の学習の成果を披露している。
- ・マックスクラブ発表会では、広く地域の子どもたちに対しても陶芸体験教室を実施している。

■ 実施に当たっての工夫

- ・作品作りでは、子どもの自主性を尊重し、出来るだけ指導者は、直接手を出さないように心がけている。
- ・マックスクラブ発表会等で子どもたちの作品を発表し、次の作品への創作意欲を高められるようにしている。
- ・陶芸体験教室を実施することで、その面白さや楽しさをよりたくさんの子どもたちに体験してもらい、クラブ員を増やす工夫をしている。

■ 事業の成果

- ・陶芸に関心のある子どもが着実に増えてきている。毎年、コンスタントにクラブ員が集まる教室である。
- ・子どもたちは、作陶に積極的に取り組み、作品作りに集中する様子が見られた。
- ・作陶に親しみ、マックスクラブの目指す姿である様々な感覚を高めることができた。
- ・クラブ活動や体験教室を通じて、陶芸に関心を持ってもらうことができた。

■ 事業実施上の課題

- ・制作時間に個人差があり、早く終わった子どもや丁寧にゆっくり作業を進める子どもへの対応が難しい。
- ・活動は作陶作業が中心であるが、その活動に変化をつけることによって、より子どもたちの制作意欲が持続すると考えているが、その手立てについて工夫が必要である。

■ その他

- ・蒲生マックスクラブ発表会では、陶芸教室を開催し活動の内容を広く地域の子どもたちにPRしている。



【土からの作品作り】



【平成27年度 マックスクラブ発表会作品】

■ 蒲生の子は蒲生で守り育てよう

■ 東近江市	
■ 活動名 蒲生マックスクラブ KIDS FLOWER (体制構築型)	
年間開催日数	6 日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	2 人
子どもの平均参加人数	7 人

■ 活動の概要

- ・ フラワーアレンジメントの基礎的な作り方やアレンジの方法を習得することとともに、仲間と共通の趣味を楽しむことを目的に開催している。
- ・ フラワーアレンジメントを作成する活動を通して、子どもたちの創造性を高めることも目的としている。

■ 特徴的な活動内容

- ・ プリザーブドフラワー・押し花等を使って、母の日やクリスマス等のイベントのアレンジメントを中心に作成している。
- ・ じっくりと落ち着いてフラワーアレンジメントに取り組むことで、創造することの楽しさを味わうとともに子どもたちの活動に対する持続性も養っている。

■ 実施に当たっての工夫

- ・ 作品作りには時間がかかるため、時間内に終わるように、下準備には時間と手間をかけている。
- ・ 仲間と和気あいあいとフラワーアレンジを楽しみながら活動することを通じて、仲間づくりもできるように工夫している。
- ・ お互いの作品を鑑賞し合うとともに、その作品を地域の行事などに展示して、多くの方に観てもらうことで創作意欲を高めるようにしている。

■ 事業の成果

- ・ フラワーアレンジに積極的に取り組み、作品作りを楽しむ姿が見られた。
- ・ 地域で周知され、毎年教室が開催される継続的な活動ができています。
- ・ 熱心に作成する子どもたちの様子から集中力や持続力を養えたと考えます。
- ・ フラワーアレンジメントに対するアレンジ力や創造力が身についた。

■ 事業実施上の課題

- ・ 十分に事前の準備には取り組んでいるが、いざ活動となると子どもたちは一生懸命となるので、決められた時間内に活動を終了するのが難しい。
- ・ フラワーアレンジメントは材料費がかかるため、少ない予算の中で充実した活動を行うのは大変である。

■ その他

- ・ 蒲生マックスクラブ発表会等の展示コーナーで作品を発表したり、アレンジフラワー体験教室を実施したりして活動内容を紹介しPRしている。



【作品作りの様子】



【平成 27 年度 マックスクラブ発表会作品】

■ 蒲生の子は蒲生で守り育てよう

■ 東近江市	
■ 活動名 蒲生マックスクラブ 蒲生野太鼓わらべ組 (「学ぶ力」学習支援型)	
年間開催日数	42 日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	8 人
子どもの平均参加人数	14 人

■ 活動の概要

- ・ 基本的な和太鼓の演奏方法を学習する。
- ・ 和太鼓文化に触れながら、演奏技術の向上と集団で演奏する楽しさを学ぶ。
- ・ 地域の行事やイベント等に参加し発表している。

■ 特徴的な活動内容

- ・ 通常の練習は、地域の蒲生コミュニティセンター (H28. 9月～H29. 2月は、蒲生商工会館) において行っている。
- ・ 蒲生マックスクラブ発表会の他に、地域での様々なイベントや行事において、積極的に演奏活動を行っている。

■ 実施に当たっての工夫

- ・ 習熟度別に、初心者向きと中級者向きに分かれて練習し、子どもたちの意欲が途切れないように工夫している。
- ・ 太鼓の数が限られているため、初級者 (低学年者) の練習の後、中級者の練習をしている。
- ・ 先輩が後輩を指導する等、縦のつながりも大切にしながら活動している。
- ・ 積極的に発表の機会を設け、クラブ員として活動に対する意欲が高まるようにしている。

■ 事業の成果

- ・ 年度初め (5月) から始めた子どもたちが3月の発表会では一人で叩けるようになった。
- ・ 当教室和太鼓は継続的に取り組む子どもがたいへん多い。
- ・ マックスクラブを卒業しても、上部団体の「鈴温泉太鼓」に加入し、和太鼓を続けるクラブ員が多い。後輩 (わらべ組) の指導にも積極的に協力してくれるので、小中学生と青少年層とのつながりができている。

■ 事業実施上の課題

- ・ 新規の指導者の育成は必要である。
- ・ 和太鼓は、数年続けないと一人前にならないので、継続的に活動する子どもが多い。そのため、欠員がなく新規の子どもたちの募集が少なくなり、希望者の意向に添えないことがある。



【和太鼓の発表風景①】



【和太鼓の発表風景②】

■ 蒲生の子は蒲生で守り育てよう

■ 東近江市	
■ 活動名 蒲生マックスクラブ マックスダンス（初級）（体制構築型）	
年間開催日数	11日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	1人
子どもの平均参加人数	13人

■ 活動の概要

- ・基礎的なステップを中心にダンスの練習を行っている。
- ・積極的に地区や市の大会に出場し活動している。
- ・地域の行事やイベントに参加し発表している。

■ 特徴的な活動内容

- ・マックスダンスでは、初級・上級のクラスを設けており、子どものレベルに合った教室が選択できるように工夫している。
- ・初めて取り組む子どもも多く、楽しく活動することに重点を置いている。

■ 実施に当たっての工夫

- ・初級クラスにおいては、練習でも発表でも常に楽しい雰囲気大切にしている。楽しい雰囲気をつくることを通じて、初心者の子どもたちの意欲が継続し、高まるように工夫している。
- ・地区や市の大会にも出場することで、子どもたちの発表に対する意欲が高まるとともに、年間の活動についてもメリハリをつけ、子どもたちが活動の見通しが持ちやすいように工夫している。

■ 事業の成果

- ・子どもたちは意欲的に教室に参加している。
- ・今まで継続的に行われてきた教室であるため、翌年はレベルを上げた教室に参加する子どもが多く、段階を経て上達することができている。

■ 事業実施上の課題

- ・練習時間が短いために全体の動きを合せるのが難しいことがある。



【練習の風景】



【マックスクラブ発表会】

■ 蒲生の子は蒲生で守り育てよう

■ 東近江市	
■ 活動名 蒲生マックスクラブ マックスダンス（上級）（体制構築型）	
年間開催日数	11日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	1人
子どもの平均参加人数	17人

■ 活動の概要

- ・初級クラスより難度の高いステップを中心に、フリースタイルダンスの練習を行っている。
- ・ステージでの発表を活動の中心として、積極的に各大会に出場している。
- ・地域の行事やイベントにも参加し、会場を盛り上げている。

■ 特徴的な活動内容

- ・大会に向けて目標を持ちながら練習している。
- ・初級クラスでダンス経験を積んだ子どもたちの加入が多く、より高度な内容で目標を定めて活動を行っている。
- ・地区や市の大会等に出場したり、地域のイベントや行事に参加したりすること等、目標が明確であり、それに向けて子どもたちが意欲的に練習を積んでいることが特徴的である。

■ 実施に当たっての工夫

- ・ダンスの技能も初級クラスよりさらに高度となり、その習得のための練習は大変であるが、その困難に負けないようにお互いに明るく声をかける等、楽しい雰囲気をつくっていくよう努めている。
- ・発表会や大会に出場する中で、みんなで共通の目標を持ちながら活動するようにしている。目標を持たせ、子どもたちもメリハリを持って練習に取り組めるように工夫している。

■ 事業の成果

- ・今までの積み重ねもあり、練習を重ねるごとに子どもたちは、どんどんレベルアップしていき、より練習に集中する様子が感じられた。
- ・大会出場を重ねることで、子どもたちはより難度の高い技能やステージ発表を希望するようになり、意欲的な取り組みの姿勢が見られた。

■ 事業実施上の課題

- ・子どもたちの目標に向かう思いに応えていきたいが、ダンスが高度になるほど、その技能の習得にも個人差が出てくるため、ステージ発表をどのレベルで納得させ、演技するのが指導者として難しい。



【練習の風景】



【平成27年度 マックスクラブ発表会】

■ 蒲生の子は蒲生で守り育てよう

■ 東近江市	
■ 活動名 蒲生マックスクラブ 茶道クラブ (体制構築型)	
年間開催日数	9 日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	1 人
子どもの平均参加人数	4 人

■ 活動の概要

- ・裏千家茶道による所作の基本を学ぶ。
- ・簡単なお盆点てができるようにする。

■ 特徴的な活動内容

- ・茶道経験のない子どもばかりなので基本から学んでいる。
- ・茶道の所作と併せて、基本的な礼儀作法についても話をしている。
- ・マックスクラブ発表会では、子どもたちが茶道体験者をもてなすところまでを行っている。
- ・マックスクラブ発表会では、広く地域の子どもたちに対しても茶道体験教室を実施している。

■ 実施に当たっての工夫

- ・茶道体験教室を実施することで、その面白さや楽しさをよりたくさんの子どもたちに体験してもらい、クラブ員を増やす工夫をしている。

■ 事業の成果

- ・クラブ活動や体験教室を通じて、茶道に関心を持ってもらうことができた。

■ 事業実施上の課題

- ・動きがあまり無く、地味に見られがちなので、なかなか参加者が集まらない。

■ その他

- ・蒲生マックスクラブ発表会では、茶道教室を開催し活動の内容を広く地域の子どもたちにPRしている。



【活動の様子】



【マックスクラブ発表会】

■ 竜王町における土曜日の教育支援の取組 (体制構築型・「学ぶ力」学習支援型)

■ 目指す姿

町内の小学校に通う子どもたちが、様々な遊びや文化芸術の体験活動や異なった年齢の子ども同士および指導者をはじめとした地域の人々との交流を深めることにより、楽しく生きる力と豊かな創造力を培う。さらには、仲間づくりやそれぞれのクラブに応じた技能を伸ばすことを通して、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■ 運営委員会の設置

委員会名称	公民館子ども教室運営委員会		開催数	体制構築型 2 「学ぶ力」学習支援型 5	委員数	11
委員名簿	氏名	所属・役職等	氏名	所属・役職等		
	飯村 悟	元小学校長	西村 淳子	地域住民		
	松田 俊二	地域住民	石崎 邦江	元中学校教師		
	前田 郷司	地域住民	山口 龍三	元小学校長		
	関目 昭彦	地域住民	藏口 きよ江	地域住民		
	加藤 正隆	元小学校長	井堀 多美子	地域住民		
	久保井 美喜子	地域住民				

■ 本年度の活動

- ・ 5月 7日 (土) 今年度の取組について ①活動内容の確認 ②親子で参加できる活動の検討
(体制構築型・「学ぶ力」学習支援型)
- ・ 7月 21日 (火) 夏休み学力アップ教室打ち合わせ会議 (「学ぶ力」学習支援型)
- ・ 12月 26日 (月) 冬休み学力アップ教室打ち合わせ会議 (「学ぶ力」学習支援型)
- ・ 3月 11日 (土) 今年度の反省および次年度に向けての課題と対策の検討
キッズフェスティバル (体制構築型・「学ぶ力」学習支援型)
- ・ 3月 24日 (金) 春休み学力アップ教室打ち合わせ会議 (「学ぶ力」学習支援型)

■ 本年度の成果

- ・ 子どもたちが様々な遊びや文化芸術の体験活動、また、異なった年齢の子ども同士の交流を通して楽しく生きる力と豊かな創造力を培い、仲間づくりや各クラブに応じた技能を身につけることができた。
- ・ 子どもたちの学習の定着化が図れた。

■ 今後の課題

- ・ 開講しているクラブを複数受講される方もおり、開催日程の調整も非常に困難である。
- ・ スポーツ活動に参加される方も多くあり、開催日時も同じになりがちのため、どうしても参加者が限られてくる。

■ 基礎から学ぼう！

■ 竜王町	
■ 活動名	
書道クラブ（「学ぶ力」学習支援型）	
年間開催日数	21日

コーディネーター数	3人
土曜教育推進員数	11人
子どもの平均参加人数	12人

■ 活動の概要

町内の小学校に通う子どもたちが、書道クラブを通し、技能の向上はもちろんのこと、竜王小学校・竜王西小学校両校の異なった年齢の子どもたち同士が地域の人々との交流を深め、さらには、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■ 特徴的な活動内容

- ・硬筆・毛筆両方とも基礎から取り組むことにより、初心者でも参加できるようにしている。
- ・展覧会や町発表会、公民館等で定期的に展示することにより、自信が付き、何事にも挑戦する力を養う。



【硬筆の練習】



【毛筆の練習】

■ 実施に当たっての工夫

- ・硬筆・毛筆両方とも基礎から学習している。
- ・竜王町中から子どもたちが集まることにより、練習を通して学区を超えた子どもたち同士の交流ができる。
- ・冬場には書き初めを中心に練習している。

■ 事業の成果

- ・技術の向上が図れたとともに、異なった年齢同士の交流もできた。
- ・何度も練習し教えてもらうことにより、何事にもあきらめない力を養うことができ、また、展示会等に出席することにより、達成感や自信が付き、次へと飛躍する原動力となった。

■ 事業実施上の課題

- ・学校行事や地域行事、スポーツ行事などと重なる場合には参加者が減ってしまうため、日程調整が難しい。

■ 子どもの声

- ・はじめから教えてもらえてよかった。
- ・長い紙に書くのがおもしろかった。
- ・字がきれいになった。
- ・展覧会で入賞できてうれしかった。

■ 保護者の声

- ・字がとてもきれいに書けるようになって良かった。
- ・公民館での展示や展覧会への出展等を重ね、何事にも真剣に取り組めるようになった。このクラブに参加させてよかったと思った。

■ スタッフの声

- ・基礎から楽しみながら学習してもらえてよかった。
- ・公民館等での定期的な展示が子どもたちの自信につながったのではないかと実感している。

■ 学習習慣を身に付けよう！

■ 竜王町	
■ 活動名 学カアップ教室（「学ぶ力」学習支援型）	
年間開催日数	20 日

コーディネーター数	3 人
土曜教育推進員数	11 人
子どもの平均参加人数	100 人

■ 活動の概要

学校との連携を深める中で、小学校の長期休業期間を利用して、「学カアップ教室」を開講し、児童の学習の定着化を図り、学力向上の一助とする。また、児童個々の興味関心と技術を伸ばすことを目的とする。

■ 特徴的な活動内容

- ・午前中は、各教室に指導員を配置し、主に長期休暇中の課題学習について学習補助を実施する。
- ・午後からは、個々の興味関心に応じて参加できる各種講座を開設している。



【自主学習室】



【英会話教室】

■ 実施に当たっての工夫

- ・町内小中学校の支援員を中心に指導員になっていただくことにより、質問等をしやすい環境を作っている。
- ・竜王町中から子どもたちが集まることにより、練習を通して学区を超えた子どもたち同士の交流ができる。

■ 事業の成果

- ・長期休業中に実施することにより、学習習慣の定着化が図れた。
- ・町内全域から小学生が集まることにより、学区や学年を超えた交流をすることができた。

■ 事業実施上の課題

- ・実施できる部屋数が限られているため、受入れに人数制限をかけている。
- ・学校行事や地域行事等と開催日が重なる場合があり、欠席者が多く出る場合がある。

■ 子どもの声

- ・復習ができて良かった。
- ・友だちがたくさんできたし、楽しく学習できた。
- ・普段学校にいる先生がいたので、質問がしやすかった。

■ 保護者の声

- ・学校が長期の休みになる期間に公民館で学習ができたので、学習習慣が付いてよかった。

■ スタッフの声

- ・学校におられる先生に来ていただいているので、子どもたちも気軽に質問できたと思う。

■ ところに響く演奏を！

■ 竜王町	
■ 活動名	
和太鼓クラブ (体制構築型)	
年間開催日数	23 日

コーディネーター数	3 人
土曜教育推進員数	11 人
子どもの平均参加人数	15 人

■ 活動の概要

町内の小学校に通う子どもたちが、和太鼓を通し、技能の向上はもちろんのこと、竜王小学校・竜王西小学校両校の異なった年齢の子どもたち同士が発表会等により地域の人々との交流を深め、さらには、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■ 特徴的な活動内容

- ・町発表会等に参加し演奏することにより、何事にも挑戦する勇気や自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。



【練習風景】



【文月発表会】

■ 実施に当たっての工夫

- ・初心者・中級者で練習内容を分けることで、それぞれのレベルにあった練習ができ、早く上達できるようになる。
- ・和太鼓指導を生業とした指導者に指導してもらうことにより、技術の向上が図れる。
- ・日々の練習を通して子どもたち同士が教え合うことにより、異なった年齢の子どもたちの交流ができる。

■ 事業の成果

- ・太鼓指導を生業とした指導者に指導いただくことにより、無理なく技術の向上が図れたとともに、異なった年齢や学区同士の交流もできた。
- ・定期的に発表の機会を持つことで、何事にも挑戦していく力を養うことができるとともに、自信がつくようになった。

■ 事業実施上の課題

- ・和太鼓は団体での演奏であるため、出席者が少ない日等は、練習内容を変更しなければならないことがある。

■ 子どもの声

- ・みんなとタイミングを合わせるのが難しかった。
- ・友だちがたくさんできた。
- ・たくさん発表したので自信がついた。

■ 保護者の声

- ・発表会を見るたび、上達していることが実感できてよかった。
- ・家でクラブで教わったことを楽しそうに話してくれるので、受講させてよかったと思っている。

■ スタッフの声

- ・定期的に発表会に出演することにより、子どもたちに自信がつき、何事にも挑戦し、成し遂げる力を身につけることができたと思っている。

■ 生きる力を身につけよう！

■ 竜王町	
■ 活動名	
チャレンジクラブ（体制構築型）	
年間開催日数	9 日

コーディネーター数	3 人
土曜教育推進員数	11 人
子どもの平均参加人数	7 人

■ 活動の概要

チャレンジクラブで様々な体験活動を経験することにより、技能の向上はもちろんのこと、竜王小学校・竜王西小学校両校の異なる年齢の子どもたち同士が地域の人々との交流を深め、さらには、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■ 特徴的な活動内容

- ・ガラス細工体験やぶどう狩り体験、町内宿泊施設での宿泊体験、スキー体験、町内歴史ハイキング等を通して、竜王町の自然とふれあい、自然の厳しさを学び、何事にも挑戦していく力を養った。



【宿泊体験】



【カヌー体験】

■ 実施に当たっての工夫

- ・元教師に指導してもらうことにより、技能の向上が図れる。
- ・日々の練習を通して、学区を超えた子どもたち同士の交流ができる。
- ・町内で宿泊体験や歴史ハイキング等を実施することにより、郷土愛が生まれる。

■ 事業の成果

- ・技術の向上が図れたとともに、異なる年齢同士の交流もできた。
- ・宿泊体験や歴史ハイキング、スキー体験等、様々な体験をすることにより、何事にも興味を持ち挑戦していく力を養うことができた。

■ 事業実施上の課題

- ・宿泊体験など事業内容によっては事前研修が必要であったり、講師以外に指導員をお願いしたりする等、準備がかなり大変である。
- ・学校行事や地域行事等と重ならないように日程調整することが難しい。
- ・チャレンジクラブは野外での活動が中心であり、安全管理を十分にすることが必要であるため、内容によっては活動を制限するときもあった。

■ 子どもの声

- ・新しい友だちができて良かった。色々な体験ができて良かった。
- ・宿泊体験でロープワークや水鉄砲作りなど、いろんな体験ができてよかった。特に、カヌー体験が楽しかった。
- ・ガラス細工体験やスキー体験など、親子で参加できる体験がたくさんあり、とても良かった。

■ 保護者の声

- ・家庭では体験できない事を体験させていただいて、とても感謝している。
- ・家族で参加できる体験教室もあり、楽しく活動できて良かった。
- ・体験したことを笑顔で話してくれる姿に、参加させてよかったと思っている。

■ スタッフの声

- ・宿泊体験やスキー体験など様々な体験を通し、自然の中での生きる知恵や勇気、お互いの意見を尊重することを学んでくれたものと思っている。

■ 家族みんなで取り組もう！

■ 竜王町	
■ 活動名	
宇宙科学クラブ (体制構築型)	
年間開催日数	10 日

コーディネーター数	3 人
土曜教育推進員数	11 人
子どもの平均参加人数	10 人

■ 活動の概要

町内の小学校に通う子どもたちが、宇宙科学クラブを通し、技能の向上はもちろんのこと、竜王小学校・竜王西小学校両校の異なる年齢の子どもたち同士が地域の人々との交流を深め、さらには、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■ 特徴的な活動内容

- ・天体観望や自然観察、岩石採集、親子での野鳥観察会など、毎回色々な活動内容に取り組むことにより、何事にも興味を持ち、挑戦していく力を養う。



【ペットボトルロケット作り】



【化石採集】

■ 実施に当たっての工夫

- ・季節毎に天体観望会を行い、天体の知識を深めてもらう。
- ・元教師に指導してもらうことにより、より分かりやすく教えてもらうことができる。
- ・竜王小学校・竜王西小学校の子どもたちが集まることにより、日々の活動を通して学区を超えた子どもたち同士の交流ができる。
- ・親子で参加できる日を増やすことにより、知識の向上だけでなく、他の家族同士の交流もできる。

■ 事業の成果

- ・技術の向上が図れたとともに、異なる年齢同士の交流もできた。
- ・天体観望や化石採集、自然観察や野鳥観察など様々な体験を通し、何事にも興味を持ち、挑戦していく力を養うことができた。
- ・親子で学習できる日を増やしたことにより、知識の向上はもとより他の家族との交流の場を提供できた。

■ 事業実施上の課題

- ・化石採集や自然観察、天体観望など毎回講座の内容が異なるため、欠席するとその時の講座内容が学習できない。
- ・学校行事や地域行事などが重なる場合は参加者が減ってしまうため、日程調整が難しい。

■ 子どもの声

- ・化石採集をしたとき、葉っぱの化石や貝の化石が見つかったのでとても楽しかったし、勉強になった。
- ・たくさんの友だちと仲良くなった。野鳥観察や天体観望、科学工作など、たくさんの事が体験できてとてもよかった。

■ 保護者の声

- ・天体観望会や自然観察会、野鳥観察会では親子で参加でき、楽しく学習できとても良かった。
- ・子どもが色々なことに興味を持つようになり、とてもうれしく思う。

■ スタッフの声

- ・家族で参加いただける観察会などをたくさん開催し、家族で学習していただけたことは勿論、地域での交流（家族同士の交流）も生まれ、開催して良かったと実感している。

■ いろんな技法を身につけよう！

■ 竜王町	
■ 活動名	
絵画クラブ (体制構築型)	
年間開催日数	11日

コーディネーター数	3人
土曜教育推進員数	11人
子どもの平均参加人数	14人

■ 活動の概要

町内の小学校に通う子どもたちが、絵画を通し、技能の向上はもちろんのこと、竜王小学校・竜王西小学校両校の異なった年齢の子どもたち同士が地域の人々との交流を深め、さらには、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■ 特徴的な活動内容

- ・メッセージボードの作成や秋の風景画、クリスマスリース作りなど、毎回異なった内容に取り組むことにより、美術・絵画に対する様々な技法を習得することができる。



【秋の写生会】



【活動風景】

■ 実施に当たっての工夫

- ・段ボールを利用しメッセージボードを作成したり、秋には秋の風景絵を作成したり、クリスマス前にはリースを作成したりするなど、楽しく学習できるよう工夫をした。
- ・元美術教師に指導してもらうことにより、無理なく自然と技術や可能性を切り拓く生きる力を身につけることができる。
- ・竜王小学校・竜王西小学校の子どもたちが集まることにより、日々の練習を通して、学区を超えた子どもたち同士の交流ができる。

■ 事業の成果

- ・元美術教師に教えていただくことにより、無理なく技術の向上が図れたとともに、異なった年齢同士の交流もできた。
- ・毎回異なった内容・技法を習い、習得することにより、何事にも挑戦していく力を養うことができた。
- ・秋の風景画やクリスマスリース作り等、季節感を取り入れることにより楽しく活動することができた。

■ 事業実施上の課題

- ・毎回異なる内容で実施するため、休んでしまうと、その時の講座内容が学習できない。
- ・学校行事や地域行事などと重なる場合は参加者が減ってしまうため、日程調整が難しい。

■ 子どもの声

- ・絵を描く技法をたくさん学べて良かった。
- ・分かりやすく色々なことが学べて良かったし、楽しかった。
- ・毎回新しいことにチャレンジできてよかった。来年度も参加したい。

■ 保護者の声

- ・クラブに参加してたくさんの絵画の技法を学び、すごく絵が上達したように思う。
- ・分かりやすく教えてもらえるので、楽しんでクラブに通っている。

■ スタッフの声

- ・クラブを通して、絵を描くことのすばらしさを学んでいただけで本当によかった。
- ・秋の写生会に出かけたり、クリスマスリース作りをしたりと、自然との触れ合いや季節感を取り入れながら楽しく学習してもらえてとても良かった。

■ みんなで協力して完成させよう！

■ 竜王町	
■ 活動名	
料理クラブ (体制構築型)	
年間開催日数	9 日

コーディネーター数	3 人
土曜教育推進員数	11 人
子どもの平均参加人数	10 人

■ 活動の概要

町内の小学校に通う子どもたちが、料理クラブを通し、技能の向上はもちろんのこと、竜王小学校・竜王西小学校両校の異なった年齢の子どもたち同士が地域の人々との交流を深め、さらには、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■ 特徴的な活動内容

- ・家族参加が可能で、初心者からでも作れるように簡単なレシピを考えている。
- ・栄養士さんがレシピを作成していただいている。
- ・郷土料理を一品レシピに加えている。



【調理】



【食事】

■ 実施に当たっての工夫

- ・家族で参加できることによって、地域間（家族間）の交流もできる。
- ・班単位で協力して料理を完成させることにより、技術の向上はもとより、班での自分の役割をしっかりと把握し、完成させる責任感を養うことができる。
- ・郷土料理（伝統料理）を1品加えることにより、郷土愛が生まれ、また、おじいさん、おばあさんから料理を教えられる。

■ 事業の成果

- ・役割分担をし、協力して完成させる喜びを実感することができた。
- ・異なった年齢同士や家族間での交流もできた。
- ・伝統料理を覚えることができた。

■ 事業実施上の課題

- ・学校行事や地域行事などと重なる場合には参加者が減ってしまうため、日程調整が難しい。
- ・安価で栄養のバランスが整っており、郷土料理も1品入っているレシピを毎回考えていただくのが大変である。
- ・食材をそろえることがとても大変である。

■ 子どもの声

- ・料理ができるようになった。
- ・たくさんの料理が作れるようになった。

■ 保護者の声

- ・今まで作ったことがなかった郷土料理を作れるようになって良かった。
- ・季節毎に季節の食材を使った料理を親子で教えてもらったのがとても良かった。

■ スタッフの声

- ・郷土料理を1品加えたことにより、郷土愛が生まれ、また、おじいさんやおばあさんから教えてもらいながら一緒に料理ができるようになればと願っている。

■ 何事にも挑戦しよう！

■ 竜王町	
■ 活動名	
吹奏楽教室 (体制構築型)	
年間開催日数	40 日

コーディネーター数	3 人
土曜教育推進員数	11 人
子どもの平均参加人数	15 人

■ 活動の概要

町内の小学校に通う子どもたちが、吹奏楽を通し、技能の向上はもちろんのこと、竜王小学校・竜王西小学校両校の異なった年齢の子どもたち同士が発表会等により地域の人々との交流を深め、さらには、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■ 特徴的な活動内容

- ・ 県の大会や町イベント等に積極的に参加することにより、自信が付き、何事にも挑戦し自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。



【竜王町文化きらめきフェア】



【滋賀県ジュニアミュージックフェスティバル】

■ 実施に当たっての工夫

- ・ 毎週土曜日の夜にすることにより、受講生の地域行事などと比較的重なることなく開講することができる。
- ・ 指導者を3名にすることにより、分からないところはじっくりと教えてもらうことができる。また、元教師に指導してもらうことにより、分かりやすく丁寧に指導してもらうことができる。
- ・ 初心者・経験者と分けて練習することにより、それぞれのレベルにあった練習ができる。

■ 事業の成果

- ・ 団体行動の厳しさや何事にも挑戦する心を学ぶことができた。
- ・ 初心者・経験者を分けて練習を重ねることにより、それぞれが早く上達できた。
- ・ 県の大会や町イベントに出演し、演奏を重ねることによって、自らの可能性を切り拓く力を養うことができた。

■ 事業実施上の課題

- ・ 全員で曲を演奏するため、欠席者があると練習に支障が出ることがある。
- ・ 練習の時間帯が夜間であるため、防犯対策を十分に講じる必要がある。

■ 子どもの声

- ・ 音が出るようになった。
- ・ 友だちがたくさんできた。たくさんの曲が演奏できるようになった。
- ・ 発表する場がたくさんあるので、自信が持てるようになった。

■ 保護者の声

- ・ 家でも練習している姿をみて、とてもうれしく思った。
- ・ 年数回発表の場があり、発表を重ねるたび上達していることが実感できた。

■ スタッフの声

- ・ たくさん練習をし、多くの発表会を経験することで、努力による曲の上達を実感することができたとし、演奏後の子どもたち自身も達成感で満たされているように思う。この経験が、将来壁にぶつかった時に乗り切るための糧となることを願っている。

■ 多賀町における土曜日の教育支援の取組（「学ぶ力」学習支援型）

■ 目指す姿

本町が目指す将来像を実現するために、「まちづくり」は「ひとづくり」であるとの基本認識に立ち、「子育て教育熱心なまち」の具現化を進めている。今日的課題である少子高齢化・人口減少は、本町においては「住み続けたい町」「移り住みたい町」とするため、具体的な方策を早急に講じなければならない課題となっている。現在の住民が安心して住み続けられる地域にするとともに、町外よりの転入や定住化を促進するための重要施策として、教育は本町の活性化へ大きな役割を担うものにとらえている。

そこで「安心して子育てができる多賀町」とするために、保護者にとっては「通わせたい園・学校」、子どもにとっては「通いたい園・学校」づくりを進めることが肝要である。

■ 本年度の活動

中学生を対象とする土曜講座への参加者希望者は年々増加し、講師を増やすなどの対応を行い、可能な限り希望者全員を受け入れるようにしてきた。地域教育力推進協議会でも本町の特筆すべき取組のひとつであり、今後の継続を望むとの意見をいただいている。

中学生を対象とする土曜講座に加えて、本年度は大滝地区活性化の取組のひとつとして、大滝小学校を会場に木・金曜日に「学びっこタイム」を実施している。ここでは小学校の1～3年生の児童29名を対象に、木曜日は学校からの家庭学習の課題や遊びの時間を、金曜日はコンピュータを使った学習と遊びの時間を設定している。遊びの時間には学校支援ボランティア10名の方の力添えをいただいている。この「学びっこタイム」は、「学習の基礎・基本の確かな力を定着させる」「地域の方とのふれあい」「全校集団下校による児童の安全確保」をねらいとしている。



【土曜講座(サタスタ)】

■ 本年度の成果

地域活性化を協議する組織は、教育委員会事務局だけでなく各課を横断した組織となっており、課題に応じた施策を講じていくという取り組み方は、実現化、実効性が大いに期待できる新たな形である。上述の取組も、その方策として検討を行い、町行政全体の共通認識の上に立った取組となっている。



【学びっこタイムでの折り紙】

■ 今後の課題

地域教育力推進協議会は、町内の各種団体とともに町内の企業の代表者も参加する形をとっている。地域の各団体は、子どもたちの健全育成の立場から以前より校園の教育活動に様々な形で協力をいただいている。今後は本協議会の構成員として企業の代表者の方もおられることから、子どもに直接関わるような力添えをいただくと、さらに意義ある活動が展開できるのではないかと考える。

【多賀町地域教育力推進協議会について】

○委員数：26名 ○構成内訳：各種団体13団体、企業等5企業、学校関係3校、行政5機関

■ みなさんのやる気を応援します！ 土曜講座（サタスタ）

■ 多賀町	
■ 活動名	
土曜講座（サタスタ）（「学ぶ力」学習支援型）	
年間開催日数	20 日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	4 人
子どもの平均参加人数	50 人

■ 活動の概要

目的：・「学ぶことの楽しさ」「分かることの喜び」「確かな学力」の向上を図る。
・学習への自信をつけ、目標に向かって頑張る気持ちを育てる。

開講日：平成28年9月3日（土）～平成29年3月の間の土曜日に20回

時間：午前9時～12時

会場：あけぼのパーク多賀

対象：多賀中学校生徒 1～3年

定員：10～30名（会場によって異なる）

費用：4,050円（教材費として）

参加者数：62名



【土曜講座（サタスタ）】

■ 特徴的な活動内容

民間の学習塾と提携し、塾講師の指導で国語・数学・英語の3教科の学習を学年別に復習を中心に50分間ずつ行う。

■ 実施に当たっての工夫

- ・昨年度のアンケートから英語のリスニングを行って欲しいとの声があり、本年度、講座の中で実施するなど、前年度の意見を元に、改善を行うようにしてきた。
- ・多賀中学校の年間指導計画に基づき、講座を実施した。そのため定期テスト前の振り返り学習を充実させるようにした。
- ・計画・調整、実施については、教育委員会が窓口となって行うことで、中学校教職員へ負担をかけないように配慮した。
- ・受講生がより出席しやすいように、講座実施期日については、年度当初に中学校や塾と日程調整を行い決定した。
- ・より効果あるものにするため、講座終了後には家庭学習の課題をFAXにて、受講生の家庭へ送信している。

■ 事業の成果

本年度、多賀中学校の全生徒の1/4を超える62名が土曜講座へ参加した。町内には中学生を対象とする塾がなく、この土曜講座が貴重な学習の機会となっている。また、町予算と県・国の事業補助により、保護者負担は教材費(4,050円)のみとなっていることも参加者が多くなっていることの要因のひとつである。

【生徒の声より抜粋】

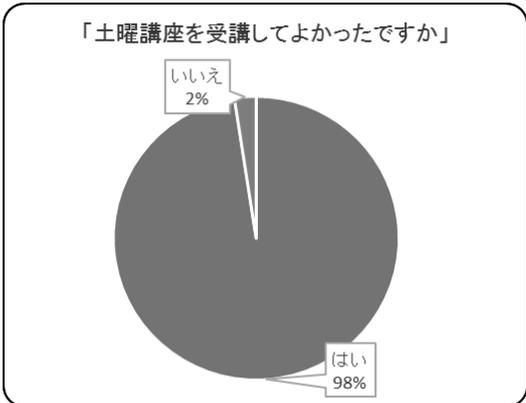
- ・先生はとても優しく授業も分かりやすかったです。学校でも予習ができていたので、前より内容が頭に入るようになりました。
- ・私はサタスタに通ってから苦手だった英語を克服することができました。私は、塾に通っていないので、周りの人たちより勉強が明らかに少ないと思います。でもサタスタで3時間ではありますが、学校以外で勉強ができたことは、自分にとってすごくプラスになりました。授業も質問しやすい雰囲気、分からないところは細かく、分かるまで教えてくださるので、確実に自分の知識とすることができました。約半年の期間でしたが、参加することができて良かったです。

【保護者の声より抜粋】

- ・色々とうございました。多賀町の誇るべき子育て支援政策のひとつだと思います。
- ・兄の時から始まったサタスタはとても良かったので、このように引き続き開講していただけるのはとてもありがたいことだと感じています。我が家では塾に通わせていません。なので、こういう場が町内でしかも格安で受講でき、また、友達と一緒に勉強にも励め、受験情報が得られることは、とても助かりました。家庭の事情で塾に通わせるのが困難な家庭はたくさんあります。このサタスタがこれからも子育て中の家庭にとって応援となり、支えとなり、これからも開講されることを期待しています。

■ 事業実施上の課題

受講希望者が年々増え、会場のスペースの関係から期日前に申込を締め切らざるを得なかった。講師の数を増やす予算措置を執ったが、受講生の多い学年では、学習に遅れがちな生徒に対して個別に指導することが難しい状況も出ている。そのため、町内在住の学生や地域の方にボランティアとして力添えを得るなどの手立ても必要と考える。受講希望者が増える一方、次年度以降、本事業への補助が縮小され、町の負担が増えることは事業継続に支障をきたす懸念が生じている。



V 土曜日の教育支援活動の実践事例

平成28年度

学校・家庭・地域連携協力推進事業 実践事例集

平成29年（2017年）3月

発行：滋賀県教育委員会事務局生涯学習課

〒520-8577 滋賀県大津市京町4丁目1-1

TEL：077-528-4654

FAX：077-528-4962

MAIL：ma06@pref.shiga.lg.jp

ホームページ：「におねっと」<http://www.nionet.jp/>